

議題 2（委員会決裁事項（規則第 3 条第 1 号））

令和 5 年度「府立学校に対する指示事項」及び「市町村教育委員会に対する指導・助言事項」について

標記について、別紙のとおり決定する。

令和 5 年 1 月 23 日

大阪府教育委員会

<参考>

〔趣旨〕

- 1 府立学校の校長及び准校長が令和 5 年度学校経営計画を作成するに当たり、府立学校の運営の指針となるべき事項として、令和 5 年度に取り組むことを定め、周知徹底を図るもの。
- 2 市町村教育委員会に対する指導・助言の基本方針として、令和 5 年度に取り組むことを定め、周知徹底を図るもの。

〔根拠規程〕

大阪府教育委員会事務決裁規則

（委員会決裁事項）

第三条 委員会が会議の議決により決裁する事項は、次のとおりとする。

- 一 教育に関する基本計画の策定に関すること並びに重要な条例案の立案その他の委員会の事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。

大阪府立学校条例

（学校運営に関する指針）

第五条 大阪府教育委員会は、基本計画（大阪府教育行政基本条例第三条に規定する基本計画をいう。）を踏まえ、府立学校に共通してその運営の指針となるべき事項を定め、府立学校に対し、これに基づいて学校の運営を行うよう指示するものとする。

大阪府教育行政基本条例
(市町村教育委員会に対する指導等)

第八条

- 2 委員会は、基本計画を踏まえ、市町村に共通する教育の基本方針を定め、市町村教育委員会に対し、指導、助言又は援助を行うものとする。

令和5年度

府立学校に対する指示事項

～未来を^{ひら}拓く教育をめざして～

大阪府教育委員会

未来を拓く^{ひろ}教育をめざして

現在、学校で学んでいる子どもたちが社会の中心になって活躍する**2040**年以降には、人口減少や高齢化、グローバル化や技術革新等の進展により将来の予測が困難な社会を迎えることになり、望む未来を自分自身で示し、作り上げていくことが求められるようになります。そのような中、子どもたちが社会の変化に対応できるように、知識・技能や、それらを踏まえた思考力・判断力・表現力、学びに向かう力や人間性、それらを総合して新たな価値を創造していく力を身に付けさせていく必要があります。

また、教育や学習の在り方については、幼児教育・義務教育の基礎の上に、高等学校、大学、高等専門学校、専門学校、大学院まで、全体が連続性・一貫性を持ち、社会のニーズに応えるものとなるよう変容が求められています。

大阪府では、これまでの大阪府教育振興基本計画に基づく取組みを振り返り、令和**5**年度から**10**年間の大阪府の教育の方向性を示す、第2次大阪府教育振興基本計画（以下、「第2次計画」という。）を策定しました。子どもたちが急激な時代の変化を乗り越えるとともに、豊かな人生を生き抜く力を身に付けることができるよう、「人生を自ら切り拓いていく人」「認め合い、尊重し、協働していく人」「世界や地域とつながり、社会に貢献していく人」という大阪の教育がはぐくむ3つの人物像を掲げ、7つの基本方針に沿って、大阪の教育力のさらなる向上に取り組むこととしています。

具体的には、教育内容に関する「確かな学力の定着と学びの深化」「豊かな心と健やかな体の育成」「将来をみすえた自主性・自立性の育成」の3つの基本方針と、それらを支える「多様な主体との協働」「力と熱意を備えた教員と学校組織づくり」「学びを支える環境整備」「私立学校の振興」の4つの基本方針を掲げ、小・中・高等学校・支援学校等の校種を超えてとりまとめました。

これまで築き上げてきた大阪の教育の成果を継承するとともに、グローバル化に対応した英語教育やICTを利活用した教育等、「大阪の教育を取り巻く状況の変化に柔軟に対応すべきこと」も踏まえた、大阪の教育について一貫した方向性を示す羅針盤となっています。

この「府立学校に対する指示事項」は、「大阪府教育振興基本計画」を踏まえ、府立学校に共通してその運営の指針となるべき事項を定めたものです。

今回、第2次計画の策定に伴い、令和4年度指示事項で記載していた内容を全面的に見直し、第2次計画の章立てに沿って再構成しました。また、今回の改定を機に、ページのレイアウト、構成等も大きく変更しました。令和4年度まで「取組みの重点」と「本編」の2部に分けて記載していた内容を、1つにまとめ、各項目の冒頭に、重点的に取り組んでいただきたい内容を記載しています。

それぞれの学校においては、「大阪の教育力」の向上に向け、「学校力」をさらに高めるため、ここに示す内容を確認しながら、学校の教育活動の再点検を行ってください。そして、校長・准校長のリーダーシップのもと、教職員が目標を共有し、一丸となって幼児・児童・生徒一人ひとりの個性に応じて、その力を最大限に伸ばす多様な学びを可能にする教育を実現することができるよう、教育の営みを通じて子どもと教職員とが共に力を高め合う学校づくりを推し進めてください。

なお、府立中学校については、本指示事項のほか、「市町村教育委員会に対する指導・助言事項」や府教育委員会が市町村教育委員会に対して発出する、中学校に関する通知等の内容も踏まえて学校運営を行ってください。

令和5年3月

本書では幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領を学習指導要領という。

また、新学習指導要領とは、支援学校幼稚部においては平成30年度から、小学校及び支援学校小学部においては令和2年度から、中学校及び支援学校中学部においては令和3年度から、高等学校及び支援学校高等部においては令和4年度から実施されている学習指導要領のことをいう。

構成について

この度、「府立学校に対する指示事項」の刷新を機に、構成についても大きく見直しを図りました。

具体的なページ構成は以下のとおりです。

令和4年度までは、「取組みの重点」「本編」の2部構成としておりましたが、より読みやすいものとなるよう1つにまとめました。

○ 第2次計画に沿った章立て

○ 重点項目

○ 重点項目の趣旨

○ 取組みの重点

特に重点的に取り組んでいたいただきたいことを枠囲みで示しています。

○ 取組み項目

昨年度までは「本編」として記載していた内容です。「重点項目」において、取り組んでいたいただきたいことを示しています。

第1章 確かな学力の定着と学びの深化

1 新学習指導要領の確実な実施 —「確かな学力」の育成と授業改善—

新学習指導要領や高大接続改革を踏まえて、社会の中で生きて働く「知識及び技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養が重要である。

そのため、学校として育てたい幼児・児童・生徒像や、必要となる資質・能力を明確にするとともに、学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力などを育成していくことができるよう、各教科・科目等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程を編成することが必要である。

また、指導と評価の一体化の視点から、「指導と評価の年間計画（シラバス）」に基づき、PDC Aサイクルによる授業改善に努めることが必要である。

加えて、これらの実現に向けて、「1人1台端末を効果的に活用して、各学校で策定した「1人1台端末活用プラン」に基づく計画的かつ継続的な取組みを進めていく必要がある。

【取組みの重点】

〔ア〕新学習指導要領の内容について、教職員に周知を徹底するとともに、適切な教育課程の編成・実施を行うこと。

〔イ〕「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業を行うこと。

〔ウ〕総合的な探究（学習）の時間をはじめ、各教科・科目においても、探究的な学びの充実を図ること。

〔エ〕「観点別学習状況の評価」や「幼児理解に基づいた評価」を進めるとともに、計画・実践（指導）・評価・改善という一連の活動を繰り返すことにより授業等の改善を行うこと。

〔オ〕各教員が、教科・科目等の特質等を踏まえ、これまでの教育実践に「1人1台端末をはじめとするICT」を効果的に取り入れ、一斉学習、個別学習及び協働学習を組み合わせることにより、児童・生徒の学びの深化を図ること。

〔カ〕高等学校及び支援学校高等部における令和3年度以前の入学生に係る移行措置については、通知に基づき遺漏なく実施すること。特に、新学習指導要領の「道徳教育に関する配慮事項」や同要領解説の「総合的な探究の時間改訂の趣旨及び要点」に留意すること。

【取組み項目】

（1）特色ある教育活動の充実

- ・「大阪府教育振興基本計画」及び学習指導要領を踏まえ、幼児・児童・生徒の学習意欲を高め、確かな学びにつながるような特色ある教育活動の充実を図ること。

（2）教育課程の編成

- ・学校週5日制のもとで、各学校においては、授業日数及び各教科・科目等の授業時数の確保に努めること。
- ・各学校における教育課程の編成は、学習指導要領に則して適正に行うこと。
- ・新学習指導要領を踏まえ、各教科・科目及び

目次

■ 第1章 確かな学力の定着と学びの深化	(2) 高等学校における支援教育の推進……………16
◇ 重点1 新学習指導要領の確実な実施	
－「確かな学力」の育成と授業改善－	
・ 取組みの重点……………8	
・ 取組み項目	
(1) 特色ある教育活動の充実……………8	
(2) 教育課程の編成……………8	
(3) 学習指導要領の確実な実施……………9	
(4) 総合的な探究(学習)の時間の実施……………9	
(5) 学習形態の工夫……………9	
(6) 児童・生徒の学習評価……………9	
(7) 授業の質の向上……………9	
(8) ICTを活用した取組みの推進－1人1台 端末の効果的な活用－……………10	
(9) 情報リテラシーの育成……………10	
(10) 政治的教養を育む教育の推進……………10	
(11) 消費者教育の充実……………10	
(12) 学校図書館の活用……………10	
(13) 学校外の学修……………11	
(14) 国旗・国歌の指導……………11	
◇ 重点2 グローバル社会に対応できる人材育成	
・ 取組みの重点……………14	
・ 取組み項目	
(1) 外国語教育の充実……………14	
(2) 理数教育の充実……………14	
(3) 国際教育……………14	
(4) 環境教育の推進……………14	
(5) 海外修学旅行の実施……………15	
(6) 近隣アジア諸国との交流……………15	
(7) 平和教育の推進……………15	
◇ 重点3 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進	
・ 取組みの重点……………16	
・ 取組み項目	
(1) 交流及び共同学習の推進……………16	
◇ 重点4 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実	
・ 取組みの重点……………17	
・ 取組み項目	
(1) 個々の状況に即した適切な支援の充実……………18	
(2) 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の 作成・活用……………18	
(3) 発達障がいのある幼児・児童・生徒の支援……………18	
(4) 支援学校における地域支援の推進……………18	
(5) 医療的ケアのさらなる充実……………18	
(6) 不登校児童・生徒の社会的自立に向けた学 習保障……………19	
(7) 日本語指導が必要な児童・生徒に対する支援 ……………19	
◇ 重点5 府立高校の魅力づくりと効果的な情報発信	
・ 取組みの重点……………21	
・ 取組み項目	
(1) 魅力ある教育活動の実施……………21	
(2) 学校の教育活動の積極的な情報発信……………21	
(3) 工業系・商業系高校等の地域連携・地域貢献 ……………21	
■ 第2章 豊かな心と健やかな体の育成	
◇ 重点6 子どもたちの生命・身体を守る取組み	
・ 取組みの重点……………22	
・ 取組み項目	
(1) 幼児・児童・生徒支援のための校内体制の充 実及び関係機関との連携……………22	
(2) 「こころの再生」府民運動……………22	
◇ 重点7 人権・多様性を尊重する教育の推進	
・ 取組みの重点……………24	
・ 取組み項目	
(1) 人権教育推進計画の作成……………24	

(2) 人権教育の一環としての同和教育の推進	24	(3) 携帯電話等使用に係る指導の充実	34
(3) ジェンダー平等教育の推進と性的マイノリティの子どもへの対応	25	◇ 重点11 学びに向かう環境づくりの充実	
(4) 障がいのある子どもに対する人権侵害事象等への対応	25	・ 取組みの重点	36
(5) 互いの違いを認め合い、共に生きる教育の推進	25	・ 取組み項目	
(6) 「ともに学び、ともに育つ」教育の推進	25	(1) 日本語指導が必要な児童・生徒に対する支援（再掲）	36
(7) 日本人拉致問題に関する理解	25	(2) 経済的理由により就学困難な生徒への配慮	36
(8) 心の教育の充実	25	(3) がんばっている幼児・児童・生徒に対する取組みの奨励	37
(9) 規範意識の育成	26	◇ 重点12 保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底及び学校の体育活動中の事故防止等の取組み	
(10) 道徳教育の推進	26	・ 取組みの重点	38
(11) 「志（こころざし）学」の充実・改善	26	・ 取組み項目	
(12) 読書活動の推進	26	(1) 学校の体育活動中の事故防止等の徹底	38
(13) 体験活動の充実	26	(2) 学校給食における衛生管理の徹底	39
(14) 大阪人権博物館（リパティおおさか）の活用	26	(3) 食育の推進	39
(15) 法定表簿等の適切な記載	26	(4) 学校保健計画の策定	39
◇ 重点8 いじめの防止		(5) 健康教育の充実・体力づくりの推進	39
・ 取組みの重点	29	(6) 性に関する指導の充実	39
・ 取組み項目		(7) 健康相談体制の充実	39
(1) 多様化する生徒指導上の課題への対応の充実	29	(8) 学校保健委員会の開催	40
(2) いじめの未然防止及び早期発見・早期対応	30	(9) 安全・快適な教育環境の確保	40
(3) 問題行動への対応の充実	30	(10) 国民健康保険法を踏まえた適切な支援	40
(4) 子どもの尊厳を守る取組み	30	(11) 養護教諭複数配置校における取組みの充実	40
(5) 児童・生徒の状況に応じた指導の工夫と改善	30	(12) A E Dを含む心肺蘇生実習の実施	40
◇ 重点9 中途退学・不登校の未然防止		◇ 重点13 薬物乱用防止等の取組み	
・ 取組みの重点	32	・ 取組みの重点	43
・ 取組み項目		・ 取組み項目	
(1) 中途退学防止に向けた指導体制の確立	32	(1) ギャンブル等依存症に関する教育の推進	43
(2) 不登校児童・生徒の状況把握と教育相談体制の充実	33	▽ 第2章の関連事項	
◇ 重点10 情報モラルの育成		(1) 文化財の活用	44
・ 取組みの重点	34		
・ 取組み項目			
(1) 情報通信ネットワークの適切な活用	34		
(2) ネットトラブルの防止・指導・対応について	34		

■ 第3章 将来をみすえた自主性・自立性の育成

◇ 重点14 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進

- ・ 取組みの重点 …………… 45
- ・ 取組み項目
 - (1) 希望進路の実現 …………… 45
 - (2) 学習活動への専門人材の活用や大学等との連携の充実について…………… 45
 - (3) 進路に係る問題事象への対応…………… 45
 - (4) 障がいのある幼児・児童・生徒へのキャリア教育の充実…………… 46
 - (5) 進学に係る奨学金等の指導 …………… 46

◇ 重点15 進学等の際の学校間・学部間の連携によるキャリア教育の推進

- ・ 取組みの重点 …………… 47
- ・ 取組み項目
 - (1) 異なる校種間での連携の推進 …………… 47

◇ 重点16 部活動の取組み

- ・ 取組みの重点 …………… 48
- ・ 取組み項目
 - (1) 部活動の在り方 …………… 48
 - (2) 支援学校における放課後等の諸活動の充実…………… 48

■ 第4章 多様な主体との協働

◇ 重点17 専門人材の活用や、地域・大学・企業等との連携の充実

- ・ 取組みの重点 …………… 49
- ・ 取組み項目
 - (1) 学習活動への専門人材の活用や大学等との連携の充実について(再掲)…………… 49
 - (2) 幼児・児童・生徒支援に向けた専門人材の活用(再掲)…………… 49
 - (3) 異なる校種間での連携の推進(再掲)…………… 49
 - (4) 教育コミュニティづくりへの参画・協力…………… 49
 - (5) PTA活動のあり方…………… 49
 - (6) PTAの人権意識の高揚…………… 50

◇ 重点18 家庭教育支援の充実

- ・ 取組みの重点…………… 51
- ・ 取組み項目
 - (1) 親学習の実施促進…………… 51

■ 第5章 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり

◇ 重点19 働き方改革

- ・ 取組みの重点…………… 52
- ・ 取組み項目
 - (1) 在校等時間管理について…………… 52
 - (2) 休憩時間について…………… 52
 - (3) 労働安全衛生体制の充実…………… 53
 - (4) 週休日の教育活動…………… 53
 - (5) 土曜授業…………… 53
 - (6) 校務におけるICT活用の推進…………… 53

◇ 重点20 校長のリーダーシップによる学校経営の確立

- ・ 取組みの重点…………… 55
- ・ 取組み項目
 - (1) P D C Aサイクルによる学校経営の推進…………… 55
 - (2) 学校評価における学校関係者評価の活用…………… 55
 - (3) 組織的・効率的な学校運営…………… 55
 - (4) 支援チームの活用…………… 56
 - (5) 職員会議の適切な運営…………… 56
 - (6) 加配教員の適切な活用…………… 56
 - (7) 人権教育の校内推進体制の確立と関係研究組織との連携…………… 56
 - (8) 教育相談体制の充実…………… 56
 - (9) 保護者・地域ニーズの学校運営への反映…………… 56
 - (10) 学校運営協議会を通じた学校運営…………… 56
 - (11) 保護者等への授業公開…………… 56
 - (12) 学校Webページの活用…………… 56
 - (13) 入学者選抜の厳正な実施…………… 57
 - (14) 転入学の受入対応…………… 57

◇ 重点21 教職員の資質・能力の向上

- ・ 取組みの重点…………… 59
- ・ 取組み項目
 - (1) 社会の変化やニーズに対応した資質・能力

の向上 …………… 59	(2) 行政文書や個人情報の適切な取扱い …… 68
(2) 教職員相互に高め合う職場環境づくり … 59	(3) 情報機器からの情報漏洩の防止 …… 69
(3) 校内外の研修を効果的に活用した人材育成 … 59	
(4) 評価基準を踏まえた適正な評価と教職員の育成 …………… 60	◇ 重点25 職場におけるハラスメントの防止
(5) その他各種研修成果の還元 …………… 60	・ 取組みの重点 …………… 70
(6) 教職員全体の指導力向上 …………… 60	
(7) 支援学校における教員の専門性の向上 … 60	◇ 重点26 「指導が不適切である」教員への対応
(8) 教職員のカウンセリングスキルの向上 … 60	・ 取組みの重点 …………… 71
(9) 教職員人権研修ハンドブックの活用 …… 60	
(10) 人権侵害事象等に対する対応 …………… 60	▽ 第5章の関連事項
(11) 優秀教職員等表彰について …………… 61	(1) 学校会計事務の適正化 …………… 72
(12) 承認研修について …………… 61	(2) 廃棄物処理等事務の適正化 …………… 72
(13) 次世代育成について …………… 61	(3) 非常勤職員の効果的な配置と活用 …… 72
(14) 女性活躍の推進について …………… 61	(4) 就学支援金制度等の周知と授業料等の未納防止対策 …………… 72
	(5) 行政の福祉化 …………… 72
	(6) 備品の適正管理 …………… 73
◇ 重点22 不祥事の防止	
・ 取組みの重点 …………… 63	
・ 取組み項目	
(1) 飲酒運転について …………… 63	■ 第6章 学びを支える環境整備
(2) 服務監督について …………… 63	◇ 重点27 防災教育をはじめとする災害時に迅速に対応するための備えの充実と安全・安心な教育環境の確保
(3) 自家用自動車等を使用しての通勤認定について …………… 64	・ 取組みの重点 …………… 74
(4) 通勤について …………… 64	・ 取組み項目
(5) 兼職・兼業について …………… 64	(1) 学校安全計画の策定 …………… 74
(6) 教科書等の執筆、編修、意見聴取等の依頼を受ける場合について …………… 64	(2) 緊急事態への対処 …………… 74
(7) 旅費について …………… 64	(3) 安全確保及び学校の安全管理 …… 74
	(4) 安全対策の推進 …………… 75
◇ 重点23 体罰・セクハラ防止の取組み	
・ 取組みの重点 …………… 66	■ 資料 …………… 77
・ 取組み項目	■ 学校組織運営に関する指針 …… 83
(1) 体罰の防止 …………… 66	
(2) セクシュアル・ハラスメントの防止 …… 66	
(3) 相談窓口・被害者救済システムの周知と事象への対応 …………… 66	
◇ 重点24 個人情報の適正な管理	
・ 取組みの重点 …………… 68	
・ 取組み項目	
(1) 情報管理規定の策定 …………… 68	

1

新学習指導要領の確実な実施 — 「確かな学力」の育成と授業改善—

新学習指導要領や高大接続改革を踏まえて、社会の中で生きて働く「知識及び技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養が重要である。

そのため、学校として育てたい幼児・児童・生徒像や、必要となる資質・能力を明確にするとともに、学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力などを育成していくことができるよう、各教科・科目等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程を編成することが必要である。

また、指導と評価の一体化の視点から、「指導と評価の年間計画（シラバス）」に基づき、PDC Aサイクルによる授業改善に努めることが必要である。

加えて、これらの実現に向けて、1人1台端末を効果的に活用して、各学校で策定した「1人1台端末利活用プラン」に基づく計画的かつ組織的な取組みを進めていく必要がある。

【取組みの重点】

- (ア) 新学習指導要領の内容について、教職員に周知を徹底するとともに、適切な教育課程の編成・実施を行うこと。
- (イ) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業を行うこと。
- (ウ) 総合的な探究（学習）の時間をはじめ、各教科・科目においても、探究的な学びの充実を図ること。
- (エ) 「観点別学習状況の評価」や「幼児理解に基づいた評価」を進めるとともに、計画・実践（指導）・評価・改善という一連の活動を繰り返すことにより授業等の改善を行うこと。
- (オ) 各教員が、教科・科目等の特質等を踏まえ、これまでの教育実践に1人1台端末をはじめとするICTを効果的に取り入れ、一斉学習、個別学習及び協働学習を組み合わせることにより、児童・生徒の学びの深化を図ること。
- (カ) 高等学校及び支援学校高等部における令和3年度以前の入学生に係る移行措置については、通知に基づき遺漏なく実施すること。特に、新学習指導要領の「道德教育に関する配慮事項」や同要領解説の「総合的な探究の時間改訂の趣旨及び要点」に留意すること。

【取組み項目】

(1) 特色ある教育活動の充実

- ・ 「大阪府教育振興基本計画」及び学習指導要領を踏まえ、幼児・児童・生徒の学習意欲を高め、確かな学びにつながるような特色ある教育活動の充実を図ること。

(2) 教育課程の編成

- ・ 学校週5日制のもとで、各学校においては、授業日数及び各教科・科目等の授業時数の確保に努めること。
- ・ 各学校における教育課程の編成は、学習指導要領に則して適正に行うこと。
- ・ 新学習指導要領を踏まえ、各教科・科目及び

総合的な探究(学習)の時間等の指導計画、指導方法を十分に研究するとともに、幼児・児童・生徒や学校の実態等に応じた適切な「学校設定科目及び学校設定教科」を開設するなど、各学校が特色ある教育課程の編成に努めること。

- ・ 教育課程の編成に当たっては、府教育センターの高等学校教育推進室・支援教育推進室と十分連携を図ること。

(3) 学習指導要領の確実な実施

- ・ 学習指導要領に基づき、各学校においては、総則、各教科・科目、総合的な探究(学習)の時間、特別活動等の指導を適切に行うとともに、学校や幼児・児童・生徒の状況に応じた教育課程の編成、指導計画等の作成や教員研修の充実を一層進めること。
- ・ 学習指導に当たっては、学習指導要領に基づいた学びの連続性を十分に理解した上で効果的に行うこと。
- ・ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりの推進に努めること。その際、形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型をめざした技術に留まるのではなく、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげたり、対話等を通じ自己の考えを広げ深めたり、問題を見いだして解決策を考え、思いや考えを基に創造したりするような、質の高い学びの実現をめざすこと。
- ・ 指導と評価の年間計画(シラバス)の作成にあたっては、学習指導要領に示された学習内容等について十分に確認を行うこと。また、教員間で指導と評価の年間計画(シラバス)を共有し、各教科・科目等の内容の相互の関連を図るよう努めること。
- ・ 基礎学力の確実な定着を図る取組みとともに教育環境づくりの取組みなど、創意工夫した特色ある教育活動の推進に努めること。
- ・ 言語活動や体験活動などの充実に引き続き努めること。

(4) 総合的な探究(学習)の時間の実施

- ・ 総合的な探究(学習)の時間の実施に当たっては、新学習指導要領で示されているように、教科・科目等の枠を越えて学習の基盤となる資質・能力が育まれるように配慮するとともに、引き続きすべての教員が一体となった指導体制を確立し、学習の評価を含めた全体計画を作成すること。
- ・ 課題を探究する中で、他者と協働して課題を解決しようとする活動や、情報収集、整理・分析、まとめ、表現する活動を行うこと。

(5) 学習形態の工夫

- ・ 学習の形態については、チーム・ティーチング、習熟度別学習、少人数指導、体験学習等、児童・生徒の実態に応じた工夫を行うこと。
- ・ 実施に当たっては、事前、事後の児童・生徒の学習到達度を把握し、その効果の測定に努めること。

(6) 児童・生徒の学習評価

- ・ 児童・生徒の学習評価については、児童・生徒のよい点や進歩の状況等を積極的に評価するとともに、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上に生かすようにするなど、各学校において、評価の在り方について十分検討すること。また、「観点別学習状況の評価」の実施に当たっては、児童・生徒一人ひとりの学習状況を観点ごとに適切に評価できるよう工夫・改善すること。
- ・ 障がいのある児童・生徒に対する評価に当たっては、学習指導要領及び関係通知を踏まえ、評価の在り方や評価の方法を児童・生徒の障がいの状況に即して検討するとともに、指導の目標に照らして児童・生徒の変容を多角的、総合的に評価すること。

(7) 授業の質の向上

- ・ 授業は学校の教育活動の中心をなすものである。児童・生徒にとって「魅力的な授業」「わかる授業」を実現するために、指導と評

価の一体化を通じて学習指導の在り方を見直すことや、授業アンケートの結果を踏まえることにより授業を改善すること。

- 各教員が、主体的に授業を研究し、授業形態の工夫や今後進化し続けるICT機器の積極的な活用等により授業改善を図るとともに、校内で好事例の共有を積極的に行うなど、学校として組織的に授業の質の向上に向けた取組みを進めること。
- 英語の授業においては、各学校が「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定し、生徒が身に付ける能力を明確化することで、生徒の指導と評価の改善につなげる。また、生徒の英語力の向上に向け、4技能を総合的に育成する授業づくりを進めること。
- 校長は授業観察等を通じて現状の把握を行うこと。
- 府立高校においては生徒による授業アンケートを年2回、府立支援学校においては生徒又は保護者による授業アンケートを少なくとも年1回実施し、アンケート結果による授業における課題の洗い出し、課題に対する改善方策の策定、改善状況の把握・検証を行うこと。
- 教員相互の研究授業や保護者等を対象とした公開授業を実施し、多様な観点から授業を評価・検証するなど、授業改善に努めること。
- 府教育センターが実施しているパッケージ研修を活用し、授業改善に向けた取組みを組織的に進めること。

(8) ICTを活用した取組みの推進

－ 1人1台端末の効果的な活用 －

- 校内体制を整備し、ICTを活用した授業実践に向けた教員研修の実施や好事例の共有等、学校として組織的な取組みを推進すること。
- 取組みの推進に当たっては、専門人材等を効果的に活用するとともに、国や府教育委員会が作成する資料や府教育センターが行

う研修等も活用すること。

(9) 情報リテラシーの育成

- 情報社会や技術革新が加速度的に進み、1人1台端末の導入など、日常生活や学校等での学びが変化していく中で、児童・生徒には、より一層情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせること。

(10) 政治的教養を育む教育の推進

- 政治的教養や主体的に判断する力を高めるとともに、積極的に政治参加できる意欲や態度の育成を図るため、「政治的教養を育む教育推進のためのガイドライン」に基づき、計画的・組織的に取り組むこと。
- 政治に参加する意義や選挙の仕組みを学ばせるとともに、違法な選挙運動を行うことがないよう選挙制度の理解を図り、主体的に判断できる力の育成に努めること。
- 実施に当たっては、学校における政治的中立の確保に努めること。

(11) 消費者教育の充実

- 成年年齢の引き下げを踏まえ、家庭科などにおいて、契約の重要性や消費者保護の仕組みに関する内容及び消費者被害の未然防止に関する内容の充実を図ること。
- 消費者庁作成の消費者教育教材等を活用するなど、消費者教育の充実を図ること。

(12) 学校図書館の活用

- 学校図書館を活用した調べ学習や朝の読書活動等により、幼児・児童・生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実を図ること。
- 司書教諭を中心に、すべての教職員による学校図書館の運営体制を確立させること。
- 幼児・児童・生徒が学校図書館を活用できる時間の確保に努めること。特に、昼間の学校においては、昼休みと放課後に学校図書館を開館すること。

(13) 学校外の学修

- ・生徒の多様な興味・関心等を踏まえ、学ぶ意欲を高め、生徒の個性を一層伸ばす観点から、高大連携等により、大学・専修学校等における学習、知識及び技能に関する審査、ボランティア及び就業体験等に係る活動を積極的に取り入れ、その学修の成果の単位認定制度を活用すること。
- ・実施に当たっては、関係指針に基づき、所定の手続きを行うこと。

(14) 国旗・国歌の指導

- ・入学式や卒業式等の儀式的行事については、学校生活に有意義な変化や折りめを付

け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるような活動を行うこと。

- ・入学式や卒業式等においては、学習指導要領に基づき、国旗を掲揚し、国歌を斉唱するよう指導するとともに、「望ましい形」となるよう努めること。
- ・「大阪府の施設における国旗の掲揚及び教職員による国歌の斉唱に関する条例」（平成23年6月13日施行）が制定されたことも踏まえ、入学式及び卒業式等、国旗を掲揚し国歌斉唱が行われる学校行事において、教職員は府民の信頼に応える責務を自覚し、国歌斉唱に当たっては起立し斉唱すること。

<参考>

○「取組みの重点」に関連した資料

- ・『『中学校学習指導要領解説』及び『高等学校学習指導要領解説』の一部改訂について』（令和3年8月26日・文部科学省）
- ・『『観点別学習状況の評価』実施の手引き』（令和3年1月）
- ・「支援学校授業評価ガイドラインⅡ」（令和2年4月）
- ・「平成31年4月1日から新特別支援学校高等部学習指導要領が適用されるまでの間における現行特別支援学校高等部学習指導要領の特例を定める件の一部改正について（通知）」（令和元年9月25日・文部科学省）
- ・「高等学校学習指導要領における家庭科の履修学年に関する改正について」（平成31年3月28日・文部科学省）
- ・「幼児理解に基づいた評価」（平成31年3月・文部科学省）
- ・「特別支援学校高等部学習指導要領の全部を改正する告示及び平成31年4月1日から新特別支援学校高等部学習指導要領が適用されるまでの間における現行特別支援学校高等部学習指導要領の特例を定める告示等の公示について（通知）」（平成31年2月4日・文部科学省）
- ・「高等学校授業評価ガイドライン【Ⅲ】」（平成31年2月）
- ・「高等学校学習指導要領の改訂に伴う移行措置並びに移行期間中の学習指導等について」（平成30年8月31日・文部科学省）
- ・「高等学校学習指導要領の全部を改正する告示等の公示について」（平成30年3月・文部科学省）
- ・「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に関する移行措置並びに移行期間中における学習指導等について」（平成29年12月27日・文部科学省）
- ・「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の制定並びに特別支援学校幼稚部教育要領の全部を改正する告示及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の全部を改正する告示の公示について」（平成29年4月28日・文部科学省）
- ・「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の制定並びに幼稚園教育要領の全部を改正する告示、小学校学習指導要領の全部を改正する告示及び中学校学習指導要領の全部を改正する告示等の公示について」（平成29年3月31日・文部科学省）
- ・「高等学校等の新学習指導要領の実施に当たって」（平成25年4月1日・文部科学省）

○（2）に関連した資料

- ・「大阪府立高等学校 教育課程基準」（令和4年3月）

○（3）に関連した資料

- ・『『中学校学習指導要領解説』及び『高等学校学習指導要領解説』の一部改訂について』（令和3年8月26日・文部科学省）
- ・「平成31年4月1日から新特別支援学校高等部学習指導要領が適用されるまでの間における現行特別支援学校高等部学習指導要領の特例を定める件の一部改正について」（令和元年9月25日・文部科学省）

- 「高等学校学習指導要領における家庭科の履修学年に関する改正について」（平成31年3月28日・文部科学省）
- 「高等学校学習指導要領の改訂に伴う移行措置並びに移行期間中における学習指導等について」（平成30年8月31日・文部科学省）
- 「高等学校学習指導要領の全部を改正する告示等の公示について」（平成30年3月・文部科学省）
- 「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の制定並びに特別支援学校幼稚部教育要領の全部を改正する告示及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の全部を改正する告示の公示について」（平成29年4月28日・文部科学省）
- 「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の制定並びに幼稚園教育要領の全部を改正する告示、小学校学習指導要領の全部を改正する告示及び中学校学習指導要領の全部を改正する告示等の公示について」（平成29年3月31日・文部科学省）
- 「特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領」（平成29年3月公示・文部科学省）
- 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月・中央教育審議会）
- 「特別支援学校高等部学習指導要領解説の一部改正について」（平成27年4月24日・文部科学省）
- 「高等学校等の新学習指導要領の実施に当たって」（平成25年4月1日・文部科学省）
- （6）に関連した資料
 - 『観点別学習状況の評価』実施の手引き」（令和3年1月）
 - 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（平成31年3月29日・文部科学省）
 - 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（平成22年5月11日・文部科学省）
 - 「府立高等学校における障害のある生徒に対する学習指導及び評価について」（平成13年9月12日・教委教務514号）
- （7）に関連した資料
 - 「支援学校授業評価ガイドラインⅡ」（令和2年4月）
 - 「高等学校における校内授業実践研究進め方ガイドブック」（令和2年3月改訂）
 - 『深い学び』をもたらし授業デザインー学びの質の改善に向けてー」（令和2年3月）
 - 「新学習指導要領（平成30年告示）のポイント、各教科等のポイント」（令和元年5月）
 - 「高等学校授業評価ガイドライン【Ⅲ】」（平成31年2月）
 - 「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-D0 リスト』の形での学習到達目標設定のための手引き」（平成25年3月・文部科学省）
 - 「大阪版 英語 CAN-D0 リスト」「CAN-D0 リストの作成と活用に向けて」（大阪府教育センターWebページ「教職員のためのページ（教材・資料等）」）
 - 「動画で見る府立高校英語授業実践事例」（大阪府教育センターWebページ「教職員のためのページ（教材・資料等）」）
- （8）に関連した資料
 - 「府立学校 GIGA スクール運営支援センターヘルプデスクサイトの開設について」（令和4年7月14日・教改第1072-2号）<https://sites.google.com/e.osakamanabi.jp/giga-center01>
 - 「府立高等学校における生徒1人1台端末の活用促進に向けて」（令和3年9月3日・教高第2538号）
 - 「オンライン学習を進めるための実践ガイドブック～G Suite for Education を活用して～」（令和2年9月）
- （10）に関連した資料
 - 「政治的教養を育む教育推進のためのガイドライン」（平成28年2月）
 - 「高等学校等における政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動等について」（平成27年10月29日・文部科学省）
 - 「高校生向け副教材、教師用指導資料」（総務省、文部科学省）及び「高等学校等の生徒向け副教材『私たちが拓く日本の未来』等の公表について」（平成27年9月29日・文部科学省）
 - 「公職選挙法等の一部を改正する法律の公布等について（依頼）」（平成27年7月28日・文部科学省）
- （11）に関連した資料
 - 「社会への扉」（平成29年4月・消費者庁）
 - 「めざそう！消費者市民」（平成29年2月）
- （12）に関連した資料
 - 「学校図書館活性化ガイドライン」（平成23年3月）
- （13）に関連した資料
 - 「学校外における学修単位認定に係る指針」（平成5年3月・文部科学省）

○ (14) に関連した資料

- 「入学式及び卒業式等における国旗掲揚及び国歌斉唱について」(平成24年1月17日・教委高第3869号)

2 グローバル社会に対応できる人材育成

グローバル化や人工知能・IoT等の技術革新等が加速度的に進展する中、各学校においては、SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえた、国際的な視野や問題発見・解決能力、論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力を育成するとともに、英語運用能力の向上を図ることが必要である。とりわけ、英語運用能力はこれまで以上に必要となっており、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」のバランスのとれた資質・能力の育成が重要である。

【取組みの重点】

- (ア) 英語教育の充実を図り、生徒の実践的な英語運用能力の育成に努めること。
 (イ) 理数教育の充実を図り、科学的な見方、考え方、表現力等を育成すること。

【取組み項目】

(1) 外国語教育の充実

- ・ 新学習指導要領を踏まえ、言語活動を一層充実させることにより、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の五つの領域をバランスよく育成するよう努めること。
- ・ 海外研修や海外の高校生とのオンライン交流等により、生の英語に触れる機会を設けるよう努めること。
- ・ 英語以外の外国語についても、他者とのコミュニケーションの基盤を形成する観点から、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」をバランスよく育成するよう努めること。

(2) 理数教育の充実

- ・ 科学技術の発展が、実社会・実生活を豊かにしてきたことについて、身近な事物・現象に関する観察・実験等を通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うよう授業等の工夫・改善に努めること。
- ・ 中学校等での数学・理科の学習成果を踏まえて、基礎的な科学的素養を幅広く養い、科学に対する関心を持ち続ける態度を育てるよう努めること。

(3) 国際教育

- ・ 国際化が進展する中であって、自国の歴史や伝統・文化に誇りを持ち、諸外国の異なる文化や習慣等について理解を深め、互いに違いを認め合い、共に生きていく力や、自分の意思を表現できる力の育成に努めること。
- ・ 国際教育を進めるに当たっては、SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえ、児童・生徒が国際社会において主体的に行動するために必要と考えられる態度・能力の基礎を育成するよう、各教科・科目、総合的な探究（学習）の時間、特別活動及び課外活動との有機的な関連を図りつつ、学校教育活動全体の中で取り組むこと。
- ・ 国際関係機関との連携や海外の学校との友好交流等を推進するとともに、地域社会の人材を積極的に活用するなど、継続的な推進を図ること。

(4) 環境教育の推進

- ・ 児童・生徒が自ら地球規模で生じている環境問題について考え、環境の保全やより良い環境の創造に向けて、身近なところから具体的に実践する態度を身に付けるよう努めるとともに、持続可能な社会の構築に向

けた環境教育を推進すること。

- ・ 環境教育は多くの教科・科目の内容に関わることから、総合的な探究(学習)の時間を活用するなど、教科横断的・総合的に推進すること。
- ・ 環境に関する学校設定教科・科目やコース等の設置について、検討すること。

(5) 海外修学旅行の実施

- ・ 今般の新型コロナウイルス感染症の状況等を踏まえ、海外修学旅行の計画に当たっては、外務省及び厚生労働省のホームページ等により情報収集を行うなど、当該地域における新型コロナウイルス感染症の状況等の十分な把握に努めた上で、慎重に検討すること。
- ・ 海外修学旅行を実施するに当たっては、目的を明確にするとともに、安全確保、健康管理等に配慮すること。
- ・ 生徒の国際理解を深める観点から、現地校

との交流活動を積極的に実施するなど、その内容の充実に努めること。

(6) 近隣アジア諸国との交流

- ・ 韓国や中国等、近隣アジア諸国との継続的な友好・文化交流活動の推進や、韓国・朝鮮語、中国語の学習機会を充実させるなど、相互理解や相互信頼を深めるための取組みを積極的に進めること。

(7) 平和教育の推進

- ・ 府教育委員会が策定した「平和教育基本方針」を踏まえ、関係資料や大阪国際平和センター(ピースおおさか)等の施設を活用し、生命の尊さ、戦争の惨禍、平和の尊さについて適切に指導すること。
- ・ 国際社会に貢献できる資質と態度を身に付けさせるよう努めること。

<参考>

- 「取組みの重点」、(1)に関連した資料
 - ・ 「英語スピーキング力測定ツールの活用について」(令和4年7月15日・教高第2182号)
 - ・ 『『中学校学習指導要領解説』及び『高等学校学習指導要領解説』の一部改訂について』(令和3年8月26日・文部科学省)
 - ・ 「大阪府立高等学校英語スピーキング教材」(平成31年1月)
 - ・ 「大阪府立高等学校英語スピーキングテスト」(平成30年9月)
 - ・ 「府立高等学校における英語スピーキングテストの実施について」(平成30年6月11日・教高第1760号)
 - ・ 『英語を話す力』を伸ばすための教材集(平成30年3月)
- (5)に関連した資料
 - ・ 「大阪府立学校の管理運営に関する規則」(令和4年4月1日)
 - ・ 「海外修学旅行等の安全確保について」(令和元年5月17日・教高第1521号)
 - ・ 「宿泊を伴う教育活動実施上の留意事項等の一部改訂について」(平成30年12月21日・教高第3377号)
- (7)に関連した資料
 - ・ 「平和教育に関する事例集」(平成15年3月)

3

「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進

障がいの有無にかかわらず、すべての幼児・児童・生徒が地域社会で豊かに生きるために、小・中学校や高校、支援学校等での多様な学びの場を保障するとともに、相互理解を深め、いきいきと学校生活を送ることができる「ともに学び、ともに育つ」教育をすべての学校においてさらに推進することが必要である。

【取組みの重点】

- (ア) 学習指導要領を踏まえ「交流及び共同学習」を計画的・組織的に継続して実施し、ともに助け合い、支え合って生きていく大切さを学ぶ相互交流の機会を設けること。
- (イ) 府立高校においては、自立支援推進校・共生推進校等の成果を共有・活用し、障がいのある生徒の実態に即した学習機会の確保や仲間づくりの充実を図ること。

【取組み項目】

(1) 交流及び共同学習の推進

- ・ 障がいのある幼児・児童・生徒と障がいのない幼児・児童・生徒との相互交流の機会を設け、交流及び共同学習を積極的に進めるとともに、互いの理解を促進するよう努めること。
- ・ 府立支援学校にあっては、近隣の学校のみならず、在籍する幼児・児童・生徒の居住する地域の学校との交流及び共同学習が推進されるよう努めること。

(2) 高等学校における支援教育の推進

- ・ すべての府立高校で、障がい理解教育を積

極的に進めるなど、相互理解を深め、「ともに学び、ともに育つ」教育の推進を図ること。その実施に当たっては、教職員の研修の充実はもとより、生徒・保護者の理解啓発にも努めること。

- ・ 自立支援推進校・共生推進校においては、その取組みの成果を、府立高校で共有・活用できるように、発信に努めること。
- ・ 府立高校においては、支援教育サポート校の来校・訪問相談を活用し、支援教育の推進を図ること。また、支援学校のセンター的機能も併せて活用すること。

<参考>

○ (1) に関連した資料

- ・ 『交流及び共同学習ガイド』の改訂について（平成31年3月29日・文部科学省）
- ・ 「高等学校学習指導要領の全部を改訂する告示等の公示について」（平成30年3月30日・文部科学省）
- ・ 「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の制定並びに特別支援学校幼稚部教育要領の全部を改正する告示及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の全部を改正する告示の公示について」（平成29年4月28日・文部科学省）
- ・ 「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の制定並びに幼稚園教育要領の全部を改正する告示、小学校学習指導要領の全部を改正する告示及び中学校学習指導要領の全部を改正する告示等の公示について」（平成29年3月31日・文部科学省）
- ・ 「特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領」（平成29年3月公示・文部科学省）
- ・ 『「ともに学び、ともに育つ」支援教育のさらなる充実のために』（平成25年3月改訂）
- ・ 「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（平成24年7月・中央教育審議会初等中等教育分科会）

○ (2) に関連した資料

- ・ 「大阪府立高等学校における知的障がいのある生徒の教育環境整備方針」（令和3年3月改定）

4 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実

幼児・児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立や社会参加をめざした効果的な指導・支援の充実を図ることが必要である。また、配慮や支援を行うにあたっては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門人材の活用及び医療・福祉等の関係機関との連携に加えて、支援学校のセンター的機能の活用等を進める必要がある。

【取組みの重点】

- (ア) 学校は、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」を踏まえ、合理的配慮の提供に向け、本人・保護者との合意形成に努めること。
- (イ) 障がいのある幼児・児童・生徒一人ひとりの実態を的確に把握し、保護者、関係者等と連携したうえで、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成・活用の充実を図ること。
- (ウ) 医療的ケアの必要な幼児・児童・生徒が、安全・安心に学校生活を送ることができるよう、とりわけ、高度・複雑化する医療的ケアに対応できる校内体制の整備・充実等に努めること。
- (エ) 府立高校においては、支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会はもとより、支援教育サポート校や府立支援学校のセンター的機能を活用し、校内支援体制を充実させること。
- (オ) 通級指導教室を設置する府立高校においては、通級による指導の成果の発信に努めること。府立高校においては、通級指導教室設置校の成果を共有・活用し、障がいのある生徒の状況に応じた指導・支援の充実を図ること。
- (カ) 府立支援学校においては、医療・保健・福祉・労働等の関係機関や専門人材との連携のもと、センター的機能を発揮し、地域における支援教育の充実を図ること。
- (キ) 府立支援学校においては、教育課程の点検・改善に努め、特色ある学校づくりをめざすこと。特に、高等部職業コースの充実や地域・企業と連携した教育課程の編成等により、就労や社会参加につながるキャリア教育を一層推進すること。
- (ク) 府立支援学校においては、部活動等による放課後や長期休暇中の学校教育活動を関係機関との連携により充実させ、障がい者スポーツ・文化芸術活動の促進を図ること。
- (ケ) 新型コロナウイルス感染症対策においては、特に、自身の状況や気持ちを表すことが難しいなど配慮の必要な幼児・児童・生徒や、基礎疾患等があることにより重症化するリスクが高い幼児・児童・生徒に対しては、主治医や学校医、保護者との連携をより一層進め、校内支援体制を整備し、組織的に対応すること。
- (コ) 不登校児童・生徒については、社会的自立をめざす観点から、個々の児童・生徒の実態に応じた学習支援に努めること。
- (サ) 日本語指導が必要な児童・生徒に対し、学習や学校生活における課題を解決し、希望する進路が実現できるよう、個別の日本語の能力に応じた指導・支援の充実を図ること。

【取組み項目】

(1) 個々の状況に即した適切な支援の充実

- ・ 障がいのある幼児・児童・生徒の指導に当たっては、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」を踏まえ、合理的配慮について適切に対応すること。
- ・ 教職員と障がいのある幼児・児童・生徒及び保護者が互いに理解し合うことを心がけながら、丁寧に話し合い、合理的配慮の合意形成に努めること。
- ・ 支援が必要な幼児・児童・生徒や保護者が就学前から学齢期、社会参加まで切れめない支援が受けられるよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをはじめとする医療・保健・福祉等の専門人材及び関係機関との連携に努めること。
- ・ 府立高校においては、入学時に保護者と連携して作成した「高校生活支援カード」等により、障がいのある生徒の個々の状況やニーズを把握すること。また、支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会を活用して、個々の生徒の状況に即した学習指導や評価の在り方の工夫に組織的に取り組み、進級・卒業をめざした適切な指導を行うこと。その際には、支援教育サポート校や府立支援学校のセンター的機能の効果的な活用を図ること。

(2) 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成・活用

- ・ 障がいのある幼児・児童・生徒の指導に当たっては、個々の障がいの状況等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的・組織的に行うこと。
- ・ 「個別の教育支援計画」については、就学前から学校卒業後までを見据えた、一貫した教育的支援を行うため、本人・保護者の参画のもと一人ひとりの教育的ニーズを的確に把握して作成すること。その際、医療・保健・福祉・労働等の関係機関と連携し、ケー

ス会議資料や移行期の引継ぎ資料として、より効果的な活用に努めること。

- ・ 「個別の指導計画」についても、障がいの状態や特性、教育的ニーズ等の実態把握に努め、具体的でわかりやすい内容表記を心掛けるとともに、適切な指導の目標や方法、評価についても本人・保護者に提示するなど、十分説明して理解を得ながら、PDCAサイクルによる指導改善を図ること。

(3) 発達障がいのある幼児・児童・生徒の支援

- ・ 発達障がいのある幼児・児童・生徒の支援については、「発達障害者支援法」の趣旨を理解し、一人ひとりのニーズや状況を踏まえた適切な指導・支援を行うこと。
- ・ 府立高校においては、学習指導要領の趣旨が生かせるよう、府教育センター等で実施する研修の積極的な活用に努めるとともに、関係資料を活用した校内研修の機会の充実を図ること。

(4) 支援学校における地域支援の推進

- ・ 支援学校は、地域支援リーディングスタッフを中心にセンター的機能を発揮し、市町村リーディングチームや、医療・保健・福祉・労働等の関係機関及び専門人材等と連携を図り、幼稚園・小学校・中学校・高等学校等に在籍する障がいのある幼児・児童・生徒の教育的ニーズに応じた助言を行うこと。また、小・中学校等の校内支援体制の構築に向けた取組みへの支援に努めること。
- ・ 地域からの相談事例や有効な教材教具等の収集・整理に努め、府内で共通に活用できるよう、学校のWebページ等を十分に活用した積極的な情報提供を行うこと。

(5) 医療的ケアのさらなる充実

- ・ 看護師を含む教職員間の連携を深めるとともに、保護者や学校医・医療等との連携、緊

急時の対応など、医療的ケアに関する校内体制の充実を図ること。とりわけ、医療的ケアが必要な幼児・児童・生徒が在籍する府立支援学校においては、「大阪府立支援学校における医療的ケアの実施についてのガイドライン」に基づき、学校毎の実施要領を策定すること。さらに校内医療的ケア安全委員会を設置するなど、関係者が連携して対応できる体制を構築すること。

- ・ 医療的ケアが必要な幼児・児童・生徒への理解を深めるために、医療的ケアに関する校内研修等の充実に努めること。
- ・ 高度な医療的ケアが必要な幼児・児童・生徒が在籍する府立学校においては、高度・複雑化する医療的ケアに対応できるよう、校内体制のさらなる充実を図ること。
- ・ 人工呼吸器をはじめとした高度な医療的ケアが必要な幼児・児童・生徒について、その安全性を考慮しながら、保護者付添い等を含め、個別に対応の可能性を検討すること。
- ・ 医療的ケア通学支援事業の活用等により、医療的ケアが必要なために通学が困難な幼児・児童・生徒の学習機会の確保及びその充実を図ること。

(6) 不登校児童・生徒の社会的自立に向けた学習保障

- ・ 不登校児童・生徒の学習状況を踏まえ、ICTを活用するなど指導方法や指導体制を工夫・改善改善し、個々の状況に応じ、学習活動の充実を図ること。
〔関連記載 P33 (2) 不登校児童・生徒の状況把握と教育相談体制の充実〕

(7) 日本語指導が必要な児童・生徒に対する支援

- ・ 日本語指導を必要とする海外から帰国又は渡日した児童・生徒については、教育サポーター及び府教育委員会が作成した資料等を活用し、学習言語能力の習得を踏まえた日本語指導、教科指導を行うこと。
- ・ 府が実施する研修等を通して、担当教員の資質向上を図り、学校における受入・指導体制の一層の充実に努めること。
- ・ 学校生活等のサポート情報を外国語に翻訳したWebページ等を活用し、学校生活や進路の支援に努めること。

<参考>

○「取組みの重点」に関連した資料

- ・ 「府立学校における新型コロナウイルス感染症対策マニュアル～学校での教育活動等を行うにあたって～」(最新版を参照すること)
- ・ 「外国にルーツをもつ生徒のための進路選択リーフレット」(令和4年5月31日・教高第1756号)
- ・ 「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の施行について(通知)」(令和3年9月17日・文部科学省)
- ・ 「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の公布について」(令和3年6月18日・文部科学省)
- ・ 「小学校等における医療的ケア実施支援資料～医療的ケア児を安心・安全に受け入れるために～」(令和3年6月・文部科学省)
- ・ 「『障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律』について～『ともに学び、ともに育つ』学校づくりをめざして～」(令和3年4月改訂)
- ・ 「医療的ケア児に関わる主治医と学校医等との連携等について」(令和2年3月・文部科学省)
- ・ 「外国人児童生徒受入れの手引き」(平成31年3月改訂・文部科学省)
- ・ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」(平成31年2月)
- ・ 「教育と福祉の一層の連携等の推進について」(平成30年5月・文部科学省、厚生労働省)
- ・ 「学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の公布について(通知)」(平成28年12月9日・文部科学省)
- ・ 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(平成28年4月1日施行)
- ・ 「大阪府教育委員会障害を理由とする差別の解消の推進に関する職員対応規程」及び「大阪府教育委員会障がいを理由とする差別の解消の推進に関する職員対応要綱」(平成28年4月施行)
- ・ 「高等学校教科書用語集(8言語対訳)保健体育分野・家庭科分野」(平成23年3月)
- ・ 「日本語支援アイデア集」(平成23年3月)
- ・ 「これからの大阪の教育がめざす方向について」(平成20年7月)
- ・ 「特別支援教育の推進について」(平成19年4月1日・文部科学省)
- ・ 「帰国・渡日児童生徒学校生活サポート」(大阪府Webページ)

- (1) に関連した資料
 - ・『障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律』について～『ともに学び、ともに育つ』学校づくりをめざして～』（令和4年4月改訂）
 - ・「教育と福祉の一層の連携等の推進について」（平成30年5月・文部科学省、厚生労働省）
 - ・「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成28年4月1日施行）
 - ・「大阪府教育委員会障害を理由とする差別の解消の推進に関する職員対応規程及び要綱」（平成28年4月施行）
- (2) に関連した資料
 - ・「個別の教育支援計画の参考様式について」（令和3年6月30日事務連絡・文部科学省）
 - ・「みつめよう一人ひとりを」（平成31年1月改訂）
 - ・「家庭と教育と福祉の連携「トライアングルプロジェクト」報告」（平成30年3月29日 厚生労働・文部科学省）
 - ・「特別支援学校幼稚園部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領」（平成29年3月公示・文部科学省）
 - ・『『ともに学び、ともに育つ』支援教育のさらなる充実のために』（平成25年3月改訂）
- (3) に関連した資料
 - ・「社会参加をみすえた自己理解～「よさ」を活かす指導・支援～」（令和2年9月）
 - ・「高等学校学習指導要領」（平成30年3月公示・文部科学省）
 - ・「発達障害者支援法」（平成28年8月改正）
 - ・「共感からはじまる『わかる』授業づくり」（平成24年8月）
 - ・「明日からの支援に向けて」（平成21年3月）
- (4) に関連した資料
 - ・「高等学校学習指導要領」（平成30年3月公示・文部科学省）
 - ・「特別支援学校幼稚園部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領」（平成29年3月公示・文部科学省）
 - ・「幼稚園教育要領、小学校・中学校学習指導要領」（平成29年3月公示・文部科学省）
- (5) に関連した資料
 - ・「令和4年度診療報酬改定を踏まえた医療的ケア児に関わる主治医と学校医等との連携等について（周知）」（令和4年4月1日事務連絡・文部科学省）
 - ・「大阪府立支援学校における医療的ケアの実施についてのガイドライン」（令和4年1月改訂）
 - ・「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の施行について（通知）」（令和3年9月17日・文部科学省）
 - ・「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の公布について」（令和3年6月18日・文部科学省）
 - ・「小学校等における医療的ケア実施支援資料～医療的ケア児を安心・安全に受け入れるために～」（令和3年6月・文部科学省）
 - ・「医療的ケアの必要な生徒への配慮事項等について」（令和3年4月14日・教高第1245号）
 - ・「医療的ケア児に関わる主治医と学校医等との連携等について（通知）」（令和2年3月16日・文部科学省）
 - ・「医療的ケアが必要な幼児児童生徒のスクールバスなどの専用通学車両による登下校時の安全確保について」（令和元年5月21日・文部科学省事務連絡）
 - ・「学校における医療的ケアの今後の対応について（通知）」（平成31年3月20日・文部科学省）
 - ・「医療的ケア児の支援に関する保健、医療、福祉、教育等の一連の推進について」（平成28年6月3日・厚生労働省、内閣府、文部科学省）
- (7) に関連した資料
 - ・「外国にルーツをもつ生徒のための進路選択リーフレット」（令和4年5月31日・教高第1756号）
 - ・「外国人児童生徒受入れの手引き」（平成31年3月改訂・文部科学省）
 - ・「高等学校教科書用語集（8言語対訳）保健体育分野・家庭科分野」（平成23年3月）
 - ・「日本語支援アイデア集」（平成23年3月）
 - ・「帰国・渡日児童生徒の受入マニュアル」（平成22年3月）
 - ・「帰国・渡日児童生徒学校生活サポート」（大阪府Webページ）

5 府立高校の魅力づくりと効果的な情報発信

府立高校における生徒のニーズや社会の変化に対応した教育内容の充実に向け、地域の資源を活用する等、特色化・魅力化に取り組むとともに、府立高校に対する中学生やその保護者等への理解の促進に向けた効果的な広報活動の充実が求められる。

【取組みの重点】

- (ア) 各校においては、生徒の状況や地域の実態に応じ、適切な教育課程を編成するとともに、特色ある教育活動を展開すること。
- (イ) 各校における魅力的な取組み等について、Webページやリーフレット等の様々な媒体による広報活動を展開するとともに、対象者を明確にしたうえで内容を精査するなど、効果的な情報発信を図ること。

【取組み項目】

(1) 魅力ある教育活動の実施

- 各校においては、生徒や学校、地域の実態等に応じ、各教科・科目等の特質を生かし、教科横断的な視点から特色ある教育課程の編成を図ること。
- 各校の教育活動を進めるに当たっては、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある取組みを展開すること。また、学校行事や学校外における体験活動などについては、生徒や地域の実態を踏まえた魅力あるものとなるよう努めること。

(2) 学校の教育活動の積極的な情報発信

- 府立高校及び知的障がい高等支援学校職業学科においては、中学生（義務教育学校後期課程及び支援学校中学部の生徒を含む。以下同じ。）の興味・関心や適性・進路希望に応じた進路選択が可能となるよう、アドミッションポリシー（求める生徒像）をはじめ各学校の特色ある取組みを積極的に情報発信すること。
- 中学生やその保護者に対して、適切な進路情報を提供できるよう、中学校等への訪問、学校説明会や体験入学等を実施すること。

(3) 工業系・商業系高校等の地域連携・地域貢献

- 工業系高校については、大阪の産業基盤を継承・発展できる人材育成を行う学校づくりをめざし、地域産業との連携強化や、大学、高等専門学校など高等教育機関との接続の拡充を図ること。また、地域の小学校・中学校・支援学校等の児童・生徒に対してものづくりの魅力を伝えるため、出前授業の実施や体験教室を開催するなどの取組みを充実させること。
- 商業系高校については、大阪の産業を支える人材育成を行うための学校づくりを継続するとともに、グローバル化・情報化が進展するビジネス社会で求められる資質・能力の育成に向け、実践的・体験的な学習活動を実施すること。また、地域産業をはじめとする経済社会の持続的発展及び課題解決のため、大学や産業界と連携・協働する取組みを充実させること。
- 定時制（多部制単位制及び昼夜間単位制を含む）・通信制の課程においては、府民の再学習等の支援、地域への貢献及び地域との連携の観点から、定時制通信制オープンスクール（聴講制度）の活用の取組みをさらに推進すること。

<参考>

- 「取組みの重点」に関連した資料
 - ・ 「今後の府立高校のあり方等について」（令和4年1月大阪府学校教育審議会答申）

6

子どもたちの生命・身体を守る取組み

尊い命が絶たれるという重大な事象や、増加する子どもへの虐待の対策として、幼児・児童・生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、子ども家庭センターや市町村関係部局等の各機関と連携しながら、必要な指導・支援を行う必要がある。

【取組みの重点】

- (ア) 幼児・児童・生徒が被害者にも加害者にもならないよう、あらゆる教育活動を通じて幼児・児童・生徒が相互に気持ちを伝え合える環境を整えること。
- (イ) 幼児・児童・生徒の生命・身体を守るために、日頃の状況を把握するとともに、教育相談体制を充実させることにより、小さな変化を見逃さず、事象や課題の早期発見、早期対応に努めること。とりわけ、今般の新型コロナウイルス感染症の影響による家庭環境や日常生活の変化に起因する幼児・児童・生徒の心身への影響にも十分留意すること。
- (ウ) 「児童虐待の防止等に関する法律」に基づき、児童虐待を受けたと思われる幼児・児童・生徒を発見した場合、速やかに関係機関に通告し、連携して継続的に支援すること。

【取組み項目】

(1) 幼児・児童・生徒支援のための校内体制の充実及び関係機関との連携

- ・ 幼児・児童・生徒の観察をきめ細かく行い、いじめや長期欠席、虐待、貧困など幼児・児童・生徒の状況を的確に把握するよう努め、その自立を促し、豊かな人間関係をつくる力を身に付けさせるよう支援するとともに、命の大切さについて考えさせるよう努めること。
- ・ 幼児・児童・生徒一人ひとりが発するサインを的確に受け止められるよう、臨床心理士や精神科医等の活用を図るなど、校内の相談体制や校内研修の充実に努めること。
- ・ ヤングケアラーについては、日頃の児童・生徒との対話や面談等により、早期発見・把握に努めるとともに、当該児童・生徒の状況に応じたきめ細かな学習支援等を実施すること。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と協働することにより、校内の相談支援体制の充実に努めるとともに、児童・生徒の気持ちに丁寧に寄り添い

ながら適切な支援につなげること。

- ・ 必要に応じて地域の保健医療機関や福祉機関等専門の支援機関と連携すること。

(2) 「こころの再生」府民運動

- ・ 日々の生活の中で改めて「こころ」について見つめ直し、できることから実践する「こころの再生」府民運動の趣旨を踏まえ、学校教育活動全体で「生命(いのち)を大切にする」「思いやる」「感謝する」「努力する」「ルールやマナーを守る」など、子どもたち一人ひとりの豊かな心を育む取組みを実践すること。
- また、学校や地域の実情に応じたあいさつ運動や交流活動等に積極的に取り組むこと。その際には、本府民運動推進支援物品(のぼり、ビブス)の活用や、「こころBOOK」に掲載の取組みを参考にし、各学校の取組みの充実に努めること。



「ココロの再生」府民運動のロゴマーク



愛さつ O S A K A のロゴマーク

<参考>

○「取組みの重点」に関連した資料

- ・「学校・教育委員会等向け 虐待対応の手引き」（令和2年6月改正・文部科学省）
- ・「子どもたちの輝く未来のために～児童虐待防止のてびき～【要点編】」（令和元年12月）
- ・「子どもたちの輝く未来のために ～児童虐待防止のてびき～」（平成23年3月改訂）
- ・「大阪府子どもを虐待から守る条例」（平成23年2月1日施行）
- ・「児童虐待の防止等に関する法律」（平成19年6月改正）

○（1）に関連した資料

- ・「スクールソーシャルワーカー活動事例集」（令和4年12月23日・教高第3469号）
- ・「ヤングケアラー支援のために」（令和4年7月19日・教高第2374号）
- ・「スクールソーシャルワークとは」（令和4年7月19日・教高第2375号）
- ・「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告」（令和3年5月・文部科学省、厚生労働省）
- ・「学校・教育委員会等向け 虐待対応の手引き」（令和2年6月改正・文部科学省）
- ・「子どもたちの輝く未来のために～児童虐待防止のてびき～【要点編】」（令和元年12月）
- ・「子どもたちの輝く未来のために ～児童虐待防止のてびき～」（平成23年3月改訂）
- ・「大阪府子どもを虐待から守る条例」（平成23年2月1日施行）
- ・「児童虐待の防止等に関する法律」（平成19年6月改正）

7

人権・多様性を尊重する教育の推進

様々な人権問題を解決し、人権尊重の社会づくりを進めるために、人権3法〔※1〕や府人権関係3条例〔※2〕をはじめ、人権教育に係る国及び府の関係法令等に基づき、「生きる力」を育む教育活動の基盤として、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な探究（学習）の時間、特別活動等、あらゆる教育活動において人権教育を一層計画的・総合的に推進することが必要である。

その際、SNS等インターネット上の差別やいじめ等が生起していることにも留意する必要がある。

【取組みの重点】

- (ア) 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、女性、子ども、障がい者、同和問題（部落差別）、在日外国人、性的マイノリティ、感染症等に係る人権問題をはじめ、様々な人権問題の解決をめざした教育を人権教育として総合的に推進すること。
- (イ) 幼児・児童・生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという基本的姿勢の形成をめざすこと。とりわけ、いじめは重大な人権侵害であり、いじめを許さない意識やいじめをなくす実践力を育むよう指導すること。
- (ウ) 支援を要する幼児・児童・生徒に対する指導等に当たっては、人権尊重の視点に立って関係機関や専門家とも連携し、組織的に対応するよう校内指導体制を整備すること。
- (エ) すべての教職員が研修等を通じて自らの人権感覚を高めるとともに、あらゆる場面で人権意識を絶えず見つけ直しつつ教育活動を行うよう指導すること。その際、教職経験年数の少ない教職員が人権教育の成果を継承できるよう努めること。

【取組み項目】

(1) 人権教育推進計画の作成

- ・ 人権教育推進計画の作成に当たっては、幼児・児童・生徒の実態を踏まえ、発達段階に即した体系的なものとなるよう留意すること。
- ・ 幼少期から生命の尊さに気付かせ、お互いを大切にする態度の育成等をめざす人権基礎教育に取り組むこと。
- ・ 人権教育を進めるに当たっては、関係資料等を活用し、指導の工夫・改善に努めること。
- ・ 必要に応じて地域の保健医療機関や福祉機関等専門の支援機関と連携すること。

(2) 人権教育の一環としての同和教育の推進

- ・ 関係法令及び答申等の趣旨を踏まえ、課題のある子どもたちに対する人権尊重の視点に立った取組みを進めるとともに、同和問題（部落差別）の早期解決に向けて、人権教育の一環としての同和教育の推進に努めること。
- ・ これまでの同和教育の実践や成果を生かし、同和問題（部落差別）をはじめとする様々な人権問題の解決に向けて、人権教育を推進すること。

(3) ジェンダー平等教育の推進と性的マイノリティの子どもへの対応

- ・ 「大阪府男女共同参画推進条例」の趣旨を踏まえ、すべての教育活動において、固定的な性別役割分担意識が影響を及ぼすことのないよう配慮すること。
- ・ 男女共同参画を推進する視点から学校環境を点検するとともに、名簿の扱いなどについては、男女平等を基礎としたものになるよう努めること。
- ・ 各種調査においては、その調査の意義や目的を踏まえ、必要でない男女別統計については行わないよう努めること。
- ・ 性的マイノリティについて、関係資料を活用した研修を実施するなど、教職員自身が理解を進めること。
- ・ 性的マイノリティの子どもへの支援に向けては、幼児・児童・生徒が相談しやすい環境を整えるとともに、医療機関とも連携しながら幼児・児童・生徒の状況等に応じた対応を行うこと。

(4) 障がいのある子どもに対する人権侵害事象等への対応

- ・ 府立学校において、障がいのある幼児・児童・生徒に対する人権侵害事象やいじめなどの事例が生起している現状がある。関係法令の趣旨を踏まえ、各学校において教職員研修等により、教職員の人権感覚を一層磨き、人権意識の高揚を図るとともに、校内組織体制を整備して、障がい理解教育や集団づくりの一層の充実等、人権が尊重された教育の推進に努めること。その際、関係資料等を活用すること。
- ・ いじめの防止については「大阪府いじめ防止基本方針」（令和4年4月改訂）を踏まえ各学校で策定した「学校いじめ防止基本方針」に基づき適切に指導するとともに、PDCAサイクルにより点検し、必要に応じて見直すこと。

(5) 互いの違いを認め合い、共に生きる教育の推進

- ・ 関係法令及び指針の趣旨を踏まえ、互いの違いを認め合い、共に生きる教育を推進すること。
- ・ 関係手引きを活用して、課外の自主活動等も含め、在日韓国・朝鮮人をはじめとする在日外国人幼児・児童・生徒が、自らの誇りと自覚を高め、本名を使用できる環境の醸成に努めること。

(6) 「ともに学び、ともに育つ」教育の推進

- ・ 関係法令等を踏まえ、共生社会の実現をめざし、障がい者に対する無理解や偏見等を取り除き、障がい者の人権が尊重される教育を推進するため、各学校においては、障がい理解教育を計画的に推進すること。
- ・ 障がいのある幼児・児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を育み、自らを取り巻く人間関係を豊かに構築していける指導に努めること。

(7) 日本人拉致問題に関する理解

- ・ 児童・生徒の発達段階等に応じて、日本人拉致問題に対する理解を深めるための取組みを推進すること。その際には、アニメ「めぐみ」等の積極的な活用を図ること。

(8) 心の教育の充実

- ・ 子どもたちに、人間尊重の精神や生命及び自然を尊重する精神、規範意識、自らを律し他人を思いやる心、公共の精神、伝統や文化を尊重し我が国と郷土を愛する心など、豊かな人間性を育むことが必要であることを再度確認すること。
- ・ 大阪「こころの再生」宣言を踏まえ、家庭・地域と十分連携を図りながら、すべての教育活動を通じて子どもたちの豊かな心を育てるよう、実践的な取組みを進めること。

(9) 規範意識の育成

- ・ あいさつ、服装、遅刻についての指導や集団活動に関する指導等を通じて、幼児・児童・生徒が公共のルールやマナーの重要性を自覚するとともに、実際にルールやマナーを守ることによって規範意識が育まれるよう、教職員の共通理解のもと組織的に指導すること。
- ・ 規範意識は家庭教育を基盤に、学校におけるあらゆる教育活動の中で育まれるものであることから、各学校においては幼児・児童・生徒はもとより保護者との信頼関係を築くとともに、共通の理解が形成されるよう取り組むこと。

(10) 道徳教育の推進

- ・ 道徳教育は、校長の方針のもと、道徳教育推進教師を中心に全教員が協力し、全体計画を作成して学校の教育活動全体で行うこと。その際、公民科の「公共」、「現代社会」及び「倫理」並びに特別活動が、人間としての在り方生き方に関する中核的な指導の場面であることに配慮すること。
- ・ 道徳教育を進めるに当たっては、様々な体験や思索の機会等を通して、人間としての在り方生き方についての考えを深めるよう指導すること。

(11) 「志（こころざし）学」の充実・改善

- ・ 社会の形成者としての自覚や忍耐力・責任感を養い、社会人への第一歩としての規範意識を身に付けさせるとともに、豊かな情操や人間性、夢や理想の実現に向かって生きる力、志を持って自立していくために必要な能力、社会に主体的に参画しより良い社会を創っていく態度の育成に努めること。
- ・ 平成 23 年度から府立高校において実施している「志（こころざし）学」については、学習計画を作成し、生徒の志や夢を育む取り組みの一層の充実・改善を図ること。

(12) 読書活動の推進

- ・ 「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」の趣旨を踏まえ、発達段階に応じて、全ての子どもが読書への興味・関心を高め、必要な知識を得るとともに、自ら楽しみながら読書活動を行うことができるよう、環境の整備を図ること。また、ビブリオバトルやオーサービジットをはじめとした読書イベントを活用し、読書活動ができていない子どもが少しでも本に興味・関心を持つよう、読書活動の普及啓発・推進を図ること。
- ・ 取組みを進めるに当たっては、府立中央図書館をはじめとする公立図書館やボランティアと連携する等、学校での読書環境づくりを進めること。

(13) 体験活動の充実

- ・ 各学校においては、児童・生徒の発達段階や地域の実情に配慮し、ボランティア活動など社会奉仕体験、自然体験、勤労生産体験、文化芸術体験、交流体験等に取り組むとともに、発表等を積極的に取り入れ、体験活動の充実に努めること。

(14) 大阪人権博物館（リバティおおさか）の活用

- ・ 生命の尊さに気付き、思いやりの心や将来への志・夢を育み、自他の人権を守ろうとする意識・態度と豊かな人間性や社会性を身に付けるため、大阪人権博物館（リバティおおさか）の移動人権展・企画展等の行事等や、資料の活用に努めること。

(15) 法定表簿等の適切な記載

- ・ 法定表簿及び学校が交付する証明書等において、幼児・児童・生徒の名前及び生年月日等は原則として指導要録に基づき適正に記載すること。
- ・ 法定表簿に関する事務及び証明書交付事務の管理を適切に行うこと。
- ・ 作業の際には、本名使用の意義を踏まえること。

<参考>

[※1] 人権3法

- ・「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成28年4月施行、令和3年6月一部改正、公布）
- ・「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」（平成28年6月施行）
- ・「部落差別の解消の推進に関する法律」（平成28年12月施行）

[※2] 府人権関係3条例

- ・「大阪府人権尊重の社会づくり条例」（平成10年10月・令和元年10月一部改正）
- ・「大阪府性的指向及び性自認の多様性に関する府民の理解の増進に関する条例」（令和元年10月施行）
- ・「大阪府人種又は民族を理由とする不当な差別的言動の解消の推進に関する条例」（令和元年11月施行）

○「取組みの重点」に関連した資料

- ・「こども基本法」（令和5年4月施行）
- ・「大阪府在日外国人施策に関する指針」（令和5年3月改正予定）
- ・「大阪府人権白書『ゆまにてなになわ（解説編）ver.37』」（令和5年3月発行予定）
- ・「大阪府人権教育推進計画」（令和4年9月改定）
- ・「大阪府インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例」（令和4年4月施行）
- ・「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕補足資料」（令和4年3月改訂・文部科学省）
- ・「大阪府人権施策推進基本方針」（令和3年12月改訂）
- ・「人権教育基本方針」「人権教育推進プラン」（平成30年3月改訂）
- ・「学校における人権教育の推進のために－『人権教育推進の方向性』具体化のポイント集－」（平成26年7月）
- ・「人権教育・啓発に関する基本計画」（平成23年4月・閣議決定）
- ・「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」（平成20年3月・文部科学省）
- ・「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」（平成12年12月施行）
- ・「在日韓国・朝鮮人問題に関する指導の指針」（平成10年3月一部改訂）

○（1）に関連した資料

- ・「生命の安全教育教材」（令和3年4月・文部科学省）
- ・「人権教育リーフレット」シリーズ（平成26年3月～）
- ・「人権教育COMPASSシリーズ」（平成22年8月～）
- ・「OSAKA人権教育ABC Part1～5」（平成19年3月～）
- ・「人権基礎教育指導事例集」（平成16年3月）

○（2）に関連した資料

- ・「部落差別の解消の推進に関する法律」（平成28年12月施行）
- ・「同和問題の早期解決に向けた基本的考え方について」（平成15年2月・教委人第113号）
- ・「大阪府同和对策審議会答申」（平成13年9月）

○（3）に関連した資料

- ・「性の多様性の理解を進めるために」（令和2年4月）
- ・「大阪府性的指向及び性自認の多様性に関する府民の理解の増進に関する条例」（令和元年10月）
- ・「性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について」（平成28年4月・文部科学省）
- ・「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」（平成27年4月・文部科学省）
- ・「児童生徒が抱える問題に対しての教育相談の徹底について」（平成22年4月・文部科学省）
- ・「小・中学校及び府立学校における男女平等教育指導事例集」（平成15年7月）
- ・「大阪府男女共同参画推進条例」（平成14年4月）

○（4）に関連した資料

- ・「大阪府いじめ防止基本方針」（令和4年4月改訂）
- ・「学校における人権教育推進のための資料集」（平成29年4月）
- ・「いじめ対応マニュアル（いじめ対応プログラム補助資料）」（平成24年12月）
- ・「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」（平成24年10月施行）
- ・「いじめ対応プログラムⅡ」（平成19年8月）
- ・「いじめ対応プログラムⅠ」（平成19年6月）

○（5）に関連した資料

- ・「大阪府在日外国人施策に関する指針」（令和5年3月改正予定）
- ・「外国にルーツのある生徒のための進路選択リーフレット」（令和4年5月31日・教高第1756号）
- ・「ハイトスピーチの問題を考えるために－研修用参考資料－」（令和2年4月改訂）
- ・「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」（平成28年6月施行）
- ・「互いに違いを認め合い、共に学ぶ学校を築いていくために－本名指導の手引（資料編）－」（平成25年4月一部修正）
- ・「人権教育COMPASSシリーズ」（平成22年8月～）
- ・「在日韓国・朝鮮人問題に関する指導の指針」（平成10年3月一部改訂）

○（6）に関連した資料

- ・『障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律』について～『ともに学び、ともに育つ』学校づくりをめざして

～」(令和4年4月改訂)

- 「第5次大阪府障がい者計画」(令和3年3月)
 - 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(平成28年4月1日施行)
 - 「障害者基本法」(平成25年6月改正)
 - 「『ともに学び、ともに育つ』支援教育のさらなる充実のために」(平成25年3月改訂)
 - 「精神障がいについての理解を深めるために」(平成20年5月改訂)
- (7) に関連した資料
- 「拉致問題に関する理解のために」(平成30年2月発行)
 - 「アニメ『めぐみ』」(平成20年3月・政府 拉致問題対策本部)
- (11) に関連した資料
- 「『志(こころざし)学』実践事例集について」(平成30年3月30日・教高第4024号)
 - 「府立高等学校『志(こころざし)学』研究開発事業 教師用指導書(完成版)」(平成23年3月)
- (12) に関連した資料
- 「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」(令和3年3月)
- (14) に関連した資料
- 「リパティおおさかを活用する人権学習プラン」(平成27年6月)
- (15) に関連した資料
- 「生徒指導要録、卒業証書台帳等における外国籍生徒の本名の記載について」(令和4年6月1日・教高第1418号)
 - 「大阪府立高等学校生徒指導要録解説(令和3年9月)について」(令和3年9月30日・教高第2728号)
 - 「出入国管理及び難民認定法等の改正に伴う外国籍生徒の氏名の記載について」(平成24年12月12日・教委高第3167号)
 - 「府立学校における表簿及び証明書等の氏名及び生年月日の記載について」(平成21年10月28日・教委高第2333号)
 - 「府立学校における表簿に関する事務及び証明書交付事務について」(平成15年10月28日・教委学事第1613号)

8

いじめの防止

いじめは、重大な人権侵害事象として根絶すべき最重要課題であり、幼児・児童・生徒の生命又は身体に重大な危険を生じさせる恐れがあることから、「いじめ防止対策推進法」、国の「いじめの防止等のための基本的な方針」及び「大阪府いじめ防止基本方針」を踏まえ、各学校の「学校いじめ防止基本方針」に基づき設置する、いじめに関する校内組織（「学校いじめ対策組織」等）を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に組織的に取り組む必要がある。

【取組みの重点】

- (ア) いじめは、どの学校でも、どの幼児・児童・生徒にも起こり得るものであることを十分認識した上で組織的に取り組むこと。そのために、「いじめ対応セルフチェックシート」等を活用し、日頃より、いじめの早期発見や対処の在り方等について、管理職及び教職員の理解を深めておくとともに、「学校いじめ防止基本方針」についても常に点検し見直すこと。
- (イ) いじめの早期発見については、日常より幼児・児童・生徒の理解に努めるとともに、幼児・児童・生徒の不安や多様な悩みをしっかりと受け止めること。その際、定期的ないじめに関するアンケート調査や教育相談の実施等により、いじめの実態把握に取り組むこと。
- (ウ) 相談窓口の設置等、幼児・児童・生徒が相談しやすい体制を構築し、その周知を図ること。また、府が設置する「LINE相談」、「すこやか教育相談 24」等の相談窓口の周知を図ること。
- (エ) いじめが疑われる事象を発見し、又は相談を受けた場合には、一人で抱え込まず、速やかに「学校いじめ対策組織」に当該事象に係る情報を報告するよう指導すること。その際、被害幼児・児童・生徒の心情に寄り添った対応に努めること。また、「学校いじめ対策組織」等を中心に関係機関・専門機関と連携しながら、保護者の協力を得るなど、事象が深刻化することがないように迅速かつ適切に対応すること。
- (オ) いじめにより重大な被害が生じた疑いがあると認めるときは、「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」等を参考に、法に則った対応をすること。なお、深刻な事態に至る恐れがあるいじめ等については府教育庁へ速やかに報告すること。
- (カ) 新型コロナウイルス感染症の感染者や濃厚接触者等となった幼児・児童・生徒、障がいのある幼児・児童・生徒、外国にルーツのある幼児・児童・生徒、性的マイノリティ等に係る幼児・児童・生徒等に対して、いじめが行われることがないように、適切な支援を行うとともに、保護者との連携、周囲の幼児・児童・生徒に対する必要な指導を組織的に行うこと。

【取組み項目】

(1) 多様化する生徒指導上の課題への対応の充実

- ・ 府立学校におけるいじめの認知件数は増加

傾向にあるものの、依然として全国平均を大きく下回っていることから、いじめ事案が潜在化している可能性がある。また、SNS等の利用を通じて幼児・児童・生徒がいじめ

や性犯罪等に巻き込まれる事象が生起している。加えて、府立学校における暴力行為の発生件数は高い水準で推移しており、予断を許さない状況である。このような状況を踏まえ、これらの事象がどの学校でも、どの幼児・児童・生徒にも起こり得ると認識した上で、未然防止、早期発見に組織的に取り組むこと。

- 各学校においては、あらゆる教育活動を通じて、いじめや暴力を否定する気風を醸成するとともに、幼児・児童・生徒一人ひとりに生命の大切さや善悪の判断など人間としての社会生活のルールや基本的な生活習慣を確実に身に付けさせるよう、生徒指導体制の確立を図ること。
- 学校が一体となって取り組むよう努めるとともに、問題行動の兆候を早期に発見し未然に防止するため、教育相談体制の充実を図り、家庭・前籍校・地域・警察等の関係機関との連携を一層進めること。

(2) いじめの未然防止及び早期発見・早期対応

- 校内生徒指導体制の充実を図るとともに、府教育委員会が作成した資料等を活用したいじめの未然防止に向けた取組みを一層推進すること。
- 「いじめ防止対策推進法」のいじめの定義を踏まえ、いじめを認知した際には、「いじめは絶対許さない」との強い決意のもと、いじめられた児童・生徒の立場に立ち、いじめに関する校内組織を活用して迅速かつ適切に対応すること。
- 学校だけでは解決が困難な重篤な事象については、府教育庁と連携し、解決を図ること。

- いじめの実態把握のためのアンケート調査を実施した上で、教職員と児童・生徒との間で日常行われている個別面談や個人ノート、生活ノートを活用するなど、必要な取組みを推進すること。

(3) 問題行動への対応の充実

- 少年非行等の問題行動の解決に向けては、青少年健全育成のための連携マニュアルを活用し、子ども家庭センターや少年サポートセンター、警察等の関係機関との連携に努めること。

(4) 子どもの尊厳を守る取組み

- 「児童の権利に関する条約」及び「大阪府子ども条例」の趣旨を教育内容及び指導に反映させるとともに、幼児・児童・生徒の意見を受け止め、各学校の実情に応じて適切に指導すること。

(5) 児童・生徒の状況に応じた指導の工夫と改善

- 校則は、児童・生徒の意見を受け止め、守るべきもの、努力目標というべきもの、児童・生徒の自主性に任せてよいものなどに整理し、各学校の実情に応じて適切に見直すこと。
- 指導に当たっては、画一的な指導や行き過ぎた指導とならないよう留意し、懲戒規定についても見直すとともに、児童・生徒や保護者の意識の変化に対応した生徒指導の工夫・改善を図ること。

<参考>

○「取組みの重点」に関連した資料

- 「大阪府いじめ防止基本方針」（令和4年4月改訂）
- 「児童生徒の自殺予防に係る取組について」（令和3年6月・文部科学省）
- 「子どもを守る被害者救済システム」（令和元年12月改定）
- 「府立学校におけるいじめ対応について」（令和元年6月27日・教高第2128号）
- 「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」（平成29年3月・文部科学省）

- 「いじめの防止等のための基本的な方針」(平成29年3月改定・文部科学省)
 - 「いじめ防止対策推進法」(平成25年9月28日施行)
 - 「いじめ対応マニュアル(いじめ対応プログラム補助資料)」(平成24年12月)
 - 「いじめ対応プログラムⅡ」(平成19年8月)
 - 「いじめ対応プログラムⅠ」(平成19年6月)
- (2)に関連した資料
- 「大阪府いじめ防止基本方針」(令和4年4月改訂)
 - 「いじめの防止等のための基本的な方針」(平成29年3月改定・文部科学省)
 - 「いじめ防止対策推進法」(平成25年9月28日施行)
 - 「いじめ対応マニュアル(いじめ対応プログラム補助資料)」(平成24年12月)
 - 「いじめ対応プログラムⅡ」(平成19年8月)
 - 「いじめ対応プログラムⅠ」(平成19年6月)
- (3)に関連した資料
- 「心のすくらむ」(平成13年7月)

9

中途退学・不登校の未然防止

府立高校における中途退学・不登校を未然に防止するため、関係機関との連携やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた教育活動を推進する必要がある。

【取組みの重点】

- (ア) 中高連携・人間関係づくり・基礎学力の充実を柱とする学校運営・教育相談体制の充実を図り、キャリア教育を推進すること。
- (イ) とりわけ中途退学の多い学校においては、生徒の実態を的確に把握してその原因を分析し、未然防止の取組みを組織的に推進すること。
- (ウ) 不登校から原級留置や中途退学に至る生徒も多いことを踏まえ、不登校の兆しの早期発見に努めること。その際、家庭・専門人材・福祉等の関係機関と連携し、校内の相談体制の充実を図ること。
- (エ) 中途退学・不登校の未然防止に効果のあった実践例を共有し、各学校の状況に応じた教育活動のさらなる推進を図ること。
- (オ) 不登校の生徒には、本人及び保護者との信頼関係を保ちながら、再び登校できるように支援を行うとともに、今後の社会との関わりという視点を持ちつつ、関係機関等と連携した取組みを進めること。
- (カ) 今般の新型コロナウイルス感染症の影響による不安やストレス、家庭環境の変化などに起因して、個別の支援が必要な生徒が増加していると考えられることから、生徒の実態把握に一層努めること。

【取組み項目】

(1) 中途退学防止に向けた指導体制の確立

- ・ 中途退学の防止に向けて、全教職員による指導体制を確立すること。特に中途退学者数や中途退学率に課題のある高等学校については、その課題解決に向けた取組みを計画的に推進すること。
- ・ 生徒一人ひとりに応じた教育を推進し、生徒の成就感や自尊感情を高めるよう、魅力ある教育活動の工夫に努めるなど、中途退学防止の取組みを推進すること。
- ・ 特に、入学1年めにおいて中途退学する生徒が多いことから、合格発表後できるだけ早期に前籍校や家庭との連携を密にし、入学時に作成した「高校生活支援カード」を日常的に活用するなど生徒指導の充実を図るとともに、生徒の人間関係づくりの取組みを推進すること。
- ・ 授業内容の工夫・改善など学習指導の充実に一層努めること。
- ・ 進級等に関する内規等を見直し、その運用に当たっては、校長が生徒個々の事情を適切に判断し、柔軟な対応に努めること。
- ・ 研修などから得られた他校の教育活動の成果を自校に還元することで、各学校の課題克服を図ること。
- ・ 関係機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門人材を活用した教育相談体制のさらなる充実を図るとともに、入学時点から、キャリア教育によ

て自らの生き方を考えさせるなどの取組みを充実させること。

- ・ 進路変更を希望する生徒に対しては、十分相談に応じられるよう校内体制を整えるとともに、必要に応じて転学等についての情報を提供するなど、適切な進路指導を行うこと。また、その受入れに当たっては、柔軟な対応に努めること。

(2) 不登校児童・生徒の状況把握と教育相談体制の充実

- ・ 不登校の要因は、無気力、あそび・非行、生活習慣、養育環境など多岐にわたることから、児童・生徒一人ひとりの状況を的確に把握するとともに、校内における教育相談体制の充実を図ること。
- ・ 児童・生徒一人ひとりの状況を把握するために、「高校生活支援カード」や「個別の教

育支援計画」等を有効活用し、適切な指導・支援につなげること。

- ・ 前籍校等で不登校であった児童・生徒や、入学後も欠席傾向がある児童・生徒に対しては、当該児童・生徒の前籍校や家庭等と密接に連携を取りながら、効果的な方策を検討すること。
- ・ 研修などから得られた他校の教育活動の成果を自校に還元し、効果的な方策を検討すること。
- ・ 児童・生徒の状況に応じて、大阪府教育センター教育相談室及び大阪府高等学校教育支援センター等と連携し、当該児童・生徒や保護者を支援するとともに、不登校児童・生徒の理解と支援に関する教職員の共通理解を図り、不登校の防止に努めること。

〔関連記載 P19 (6) 不登校児童・生徒の社会的自立に向けた学習保障〕

<参考>

- 「取組みの重点」、(1) に関連した資料
 - ・ 「あなたの将来を支援するリーフレット」(令和4年9月27日・教高第2776号)
 - ・ 「働く前に知っておくべき13項目」(令和4年5月)
 - ・ 「中退の未然防止のために 実践事例集」(平成27年5月)
 - ・ 「中退の未然防止のために」(平成22年3月)

10 情報モラルの育成

SNS上でのいじめやトラブルが多数生じ、深刻な事態に発展している場合があることや、ネットワーク上で有害情報が発信されているといった現状を踏まえ、情報を適切に収集・整理・分析・表現できる力など、情報を発信する際に必要な資質・能力を育成することが重要である。

【取組みの重点】

- (ア) 情報社会における正しい判断や望ましい態度、セキュリティの知識・技術及び健康への意識といった情報モラルを育成する取組みを行うこと。
- (イ) 校内での携帯電話やスマートフォン等の使用については、指導方針の周知の徹底や過度の依存を防止するための総合的な取組みを行うこと。

【取組み項目】

(1) 情報通信ネットワークの適切な活用

- 各教科・科目等の指導に当たっては、児童・生徒が情報モラルを身に付け、コンピュータや情報通信ネットワーク等の情報手段を適切かつ実践的、主体的に活用できるようにするための学習活動を充実すること。

(2) ネットトラブルの防止・指導・対応について

- 情報機器を利用した犯罪が増加していることを踏まえ、府教育委員会の作成した資料等を活用し、情報モラルの指導に努めること。
- 情報を主体的に読み解く力などのメディアリテラシーについて、児童・生徒が身に付けることができるよう指導すること。
- 学校や児童・生徒に関するネット上の書き込み等については、府教育委員会作成の資料等に基づき、適切に対応すること。

(3) 携帯電話等使用に係る指導の充実

- 児童・生徒の携帯電話やスマートフォン等の利用実態を踏まえ、過度の依存からの脱却を図るため、府立学校内での児童・生徒の携帯電話やスマートフォン等の使用については、学校における指導方針の周知を徹底するとともに、併せて家庭との連携を図ること。
- 家庭でのルールづくりなど保護者への啓発に努め、被害・加害から児童・生徒を守るための支援体制を確立するとともに、児童・生徒に携帯電話やスマートフォン等の利用に係る危険性を認識させ、自ら対処できるよう指導に努めること。
- 学校だけで解決することが困難な事象が生じた場合は、府教育庁に報告・相談し、府教育委員会、市町村教育委員会、府警察本部、関係機関等が連携し構築する「大阪の子どもを守るサイバーネットワーク」を活用して解決を図ること。

<参考>

- 「取組みの重点」に関連した資料
 - ・ 「携帯・ネット上のいじめ等への対処方法プログラム 追加資料」(令和4年9月更新)
 - ・ 「携帯・ネット上のいじめ等の防止資料」(平成29年2月)
 - ・ 「携帯・ネット上のいじめ等生徒指導上の課題に関するとりまとめと提言2」(平成24年3月・携帯電話・インター

ネット上のいじめ等対策検討会議)

- 「携帯・ネット上のいじめ等への対処方法プログラム」(平成 21 年 3 月)
 - 「大阪の子どもを守るネット対策事業 事業報告書&適切なネット利用のための事例・教材集」(大阪府 Web ページ)
- (2) に関連した資料
- 「情報モラル指導資料」(平成 19 年 3 月)
 - 「インターネット上において学校や個人名をあげて誹謗中傷したり、差別的内容を含む書き込みを発見・確認した場合の対応について」(平成 17 年 11 月 30 日・教委高校第 2956 号)
- (3) に関連した資料
- 「携帯・ネット上のいじめ等への対処方法プログラム 追加資料」(令和 4 年 9 月更新)
 - 「携帯・ネット上のいじめ等の防止資料」(平成 29 年 2 月)
 - 「携帯・ネット上のいじめ等生徒指導上の課題に関するとりまとめと提言 2」(平成 24 年 3 月・携帯電話・インターネット上のいじめ等対策検討会議)
 - 「携帯・ネット上のいじめ等への対処方法プログラム」(平成 21 年 3 月)

11 学びに向かう環境づくりの充実

貧困、虐待、ヤングケアラー等、大阪の子どもたちをめぐる様々な現状や課題を踏まえ、すべての幼児・児童・生徒の学校生活を支え、安心して学べる環境を整えることにより、子どもたちが自己の存在を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、自己実現を図ろうとする意欲や態度を育むことが重要である。

【取組みの重点】

- (ア) 全教職員により、幼児・児童・生徒との信頼関係に基づく一致協力した指導・支援体制を築くことで、組織的に対応するよう努めること。
- (イ) 日々の学校生活において、幼児・児童・生徒が主体的に取り組む協働的な活動や自己肯定感を高められる取組みを推進すること。
- (ウ) 様々な課題を抱える幼児・児童・生徒の支援に向けて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門人材を活用した校内の支援体制の構築を図るとともに、子ども家庭センターや市町村関係部局等の関係機関と連携すること。
- (エ) 不登校児童・生徒や障がいのある幼児・児童・生徒、日本語指導が必要な児童・生徒に対して、教育的ニーズに応じた支援に努めること。
- (オ) ヤングケアラーについては、本人が家族の状況を知られたくない場合ややりがいを感じている場合、本人や家族が支援を必要と考えていない場合等その状況は様々であり表面化しにくいことから、研修等によりヤングケアラーについて教職員の理解を深めるとともに、早期発見・把握に努め、関係機関や専門家と連携し、適切な支援につなげること。
- (カ) 新型コロナウイルス感染症の影響により、幼児・児童・生徒を取り巻く環境がより厳しいものとなっているため、きめ細かな実態把握と専門人材等との連携を踏まえた支援に努めること。

【取組み項目】

(1) 日本語指導が必要な児童・生徒に対する支援（再掲）

- ・ 日本語指導を必要とする海外から帰国又は渡日した児童・生徒については、教育サポーター及び府教育委員会が作成した資料等を活用し、学習言語能力の習得を踏まえた日本語指導、教科指導を行うこと。
- ・ 府が実施する研修等を通して、担当教員の資質向上を図り、学校における受入・指導体制の一層の充実に努めること。
- ・ 学校生活等のサポート情報を外国語に翻訳したWebページ等を活用し、学校生活や

進路の支援に努めること。

(2) 経済的理由により就学困難な生徒への配慮

- ・ 大阪府育英会奨学金など就学のための援助制度の利用に当たっては、奨学金制度の趣旨や目的について生徒及び保護者に対して、理解を得るよう説明すること。とりわけ生徒に対しては、学業に励み、将来、社会に還元すべき責任と自覚を持つよう指導すること。
- ・ 学校徴収金等についても精査し、高額にならないよう配慮すること。

(3) がんばっている幼児・児童・生徒に対する取組みの奨励

活用しながら学校生活に対する意欲をさらに喚起するなど、励みとなるような取組みを推進すること。

- ・ 学業や課外活動をはじめとした学校生活において、顕著な活躍や成果を上げ、他の模範となった幼児・児童・生徒に対し、表彰等を

<参考>

- 「取組みの重点」に関連した資料
 - ・ 「スクールソーシャルワーカー活動事例集」(令和4年12月23日・教高第3469号)
 - ・ 「ヤングケアラー支援のために」(令和4年7月19日・教高第2374号)
 - ・ 「スクールソーシャルワークとは」(令和4年7月19日・教高第2375号)
 - ・ 「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告」(令和3年5月・文部科学省、厚生労働省)
 - ・ 「学校・教育委員会等向け 虐待対応の手引き」(令和2年6月改正・文部科学省)
 - ・ 「子どもたちの輝く未来のために～児童虐待防止のてびき～【要点編】」(令和元年12月)
 - ・ 「子どもたちの輝く未来のために ～児童虐待防止のてびき～」(平成23年3月改訂)
 - ・ 「大阪府子どもを虐待から守る条例」(平成23年2月1日施行)
 - ・ 「児童虐待の防止等に関する法律」(平成19年6月改正)
- (1)に関連した資料
 - ・ 「外国にルーツをもつ生徒のための進路選択リーフレット」(令和4年5月31日・教高第1756号)
 - ・ 「外国人児童生徒受入れの手引き」(平成31年3月改訂・文部科学省)
 - ・ 「高等学校教科書用語集(8言語対訳)保健体育分野・家庭科分野」(平成23年3月)
 - ・ 「日本語支援アイデア集」(平成23年3月)
 - ・ 「帰国・渡日児童生徒学校生活サポート」(大阪府Webページ)
- (3)に関連した資料
 - ・ 「教育長賞への幼児、児童及び生徒の推薦について」(令和4年6月10日・教高第1932号)

12

保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底及び学校の体育活動中の事故防止等の取組み

学校教育活動全体を通して保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底を図り、食物アレルギー等に係る事故防止や、熱中症、感染症、食中毒等の予防に努めるとともに、万一の場合の対応が適切に行えるよう体制を整えることが必要である。

また、依然として、学校における体育活動中の事故が発生している状況を踏まえ、体育の授業や体育的行事、運動部活動等の体育活動に係る事故防止や熱中症対策に万全を期することが必要である。

【取組みの重点】

(ア)食物アレルギー対応については、府教育委員会が作成した「学校における食物アレルギー対応ガイドライン」に基づき、校長を責任者として関係者で組織する対応委員会等を設置すること。また各校の状況について十分検討したうえで、対応マニュアルをあらかじめ策定しておくとともに、必要に応じて見直し常に点検するなど、日頃から事故防止対策を行うこと。

なお、校長は、マニュアル策定の際に保護者や主治医との連携を図りつつ、幼児・児童・生徒の状況に応じたものとなるよう指導すること。加えて、食物アレルギーの既往症がない幼児・児童・生徒の初発の事故が多く発生していることから、事故は、常に起きるものと想定し、毎年校内研修等を実施するなど、すべての教職員が緊急時に対応できるようにすること。

(イ)熱中症を予防するために、こまめに水分や塩分を補給させ、休息を取らせるとともに、幼児・児童・生徒への健康観察など健康管理を徹底すること。その際、「熱中症予防のための運動指針」や各学校の「熱中症対策ガイドライン」等により、活動の中止や延期、見直し等を含め、適切に対応すること。

(ウ)感染症対策のポイントは、「感染源を絶つ」、「感染経路を絶つ」、「抵抗力を高める」であり、これらを踏まえた取組みの重要性について、教職員が理解するだけでなく、幼児・児童・生徒にも理解させ、誰もが適切に対策を実施できるようにすること。

(エ)学校における体育活動中の事故防止対策等について、必要に応じて見直すとともに、適切な対応がなされるよう、学校全体で指導の徹底を図ること。

【取組み項目】

(1) 学校の体育活動中の事故防止等の徹底

- ・各活動場所においては、体育活動に適した環境の整備を図るとともに、活動内容、児童・生徒の人数を踏まえ、安全に活動できるよう、十分な広さを確保すること。
- ・技術指導においては、段階を踏んで具体的に説明し、安全を確認しながら行うこと。
- ・授業等で使用する機材・用具などは、危険を

予測し、日常的に安全点検を行うこと。特にゴールやテント等については、確実に固定すること。

- ・児童・生徒に対し、体育活動に伴う危険性について理解させるとともに、安全のためのルールやきまりを遵守するよう、指導を徹底すること。
- ・熱中症予防に向けては、こまめに水分や塩分を補給し、休息を取るとともに、生徒への

健康観察など健康管理を徹底すること。その際、「熱中症予防のための運動指針」等により、活動の中止や延期、見直し等を含め、適切に対応すること。

- ・屋外での体育活動においては、天候の急変等に十分注意するとともに、落雷等が予測される時はためらうことなく計画の変更・中止等の適切な措置を講ずること。
- ・万一に備え、迅速な救急処置や関係者への連絡ができる体制を整備すること。

(2) 学校給食における衛生管理の徹底

- ・学校給食実施においては、学校給食法第九条で定める「学校給食衛生管理基準」に基づき、適切な衛生管理を行い、食中毒発生の防止に努めること。
また、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」に基づき、新型コロナウイルス感染症の感染及び拡大予防に努めること。

(3) 食育の推進

- ・幼児・児童・生徒の望ましい食習慣の形成を図るとともに食物を大事にする心を育むなど、学校における食育を推進すること。
- ・学校給食を実施する支援学校及び中学校においては、食に関する指導の全体計画を児童・生徒の実態を踏まえたものとなるよう、指導の内容、方法、指標等を必要に応じて見直し、学校教育活動全体を通じた食に関する指導を実施するとともに、家庭と連携した取組みを推進すること。とりわけ、栄養教諭配置校においては、栄養教諭を中心とした組織的な取組みを推進すること。
- ・学校給食を実施する支援学校及び中学校においては、食育の評価を学校教育自己診断等を活用して行い、食育の推進体制や指導内容の改善を図るとともに、栄養教諭等の指導を通して、幼児・児童・生徒の食に関する課題改善に取り組むこと。

(4) 学校保健計画の策定

- ・「学校保健安全法」に基づき、学校保健計画を策定すること。
- ・策定に当たっては、学校の状況や前年度の学校保健の取組状況等を踏まえ、具体的な実施計画とすること。

(5) 健康教育の充実・体力づくりの推進

- ・幼児・児童・生徒が自ら健康増進を図るとともに、心身両面にわたる健康課題を解決する資質や能力を身に付け、生涯を通じて健康で安全な活力ある生活を送ることができるよう、健康教育の充実や体力づくりの推進を図ること。
- ・幼児・児童・生徒の実態に即して、家庭や地域と連携を図りつつ校内指導体制を整備し、学校教育活動全体を通じて組織的・計画的に取り組むこと。

(6) 性に関する指導の充実

- ・性に関する指導を通じて、子どもたちが性に関する課題に適切に対応できるよう、正しい知識を身に付けさせるだけでなく、自ら考え適切な意思決定と行動選択ができる力や、自己や他者を認め尊重する態度を育成するため府教育委員会が作成した資料等を積極的に活用するなどし、指導の充実を図ること。
- ・性に関する指導及びエイズ教育を推進する際には、幼児・児童・生徒の発達段階を踏まえ、ジェンダー平等の視点や「性の多様性」について教職員が理解し、実態に応じた指導が必要であることから、全教職員の共通理解のもと校内体制を整えるとともに、保護者の理解を得て集団指導と個別指導を効果的に組み合わせ、指導の充実を図ること。

(7) 健康相談体制の充実

- ・健康相談は、養護教諭をはじめとしたすべての教職員で組織的に対応するとともに、学校三師(学校医、学校歯科医、学校薬剤師)

と連携すること。また、必要に応じて地域の医療機関その他の関係機関との連携を図るよう努めること。

(8) 学校保健委員会の開催

- ・ 幼児・児童・生徒の健康管理等について、保護者・学校三師・地域の関係機関等と十分な連携を図るとともに、健康の保持増進に必要な資質や能力を幼児・児童・生徒に育成することができるよう、年に1回以上、委員に保護者を含む学校保健委員会を開催し、その活用を図ること。

(9) 安全・快適な教育環境の確保

- ・ 「学校環境衛生基準」に基づき、幼児・児童・生徒にとって安全で快適な教育環境が確保されるよう適切な維持管理を図るとともに、検査結果の保管を行うこと。

(10) 国民健康保険法を踏まえた適切な支援

- ・ 「国民健康保険法」を踏まえ、無保険により児童・生徒が医療を受けることができなく

なることのないよう、関係機関とも連携して適切に対応すること。

(11) 養護教諭複数配置校における取組みの充実

- ・ 養護教諭の複数配置校（高等学校）は、各学校の課題解決について、その効果を客観的に測定する方策を検討し、評価を行うこと。
- ・ さらに、生徒の心身の健康課題に係る対応を充実させるために、養護教諭の保健教育への積極的な参画など学校保健活動の活性化に向けた取組みを一層進めること。

(12) AEDを含む心肺蘇生実習の実施

- ・ すべての教職員が、AEDの使用を含めた心肺蘇生法を実施できる体制を整えるため、講習等を毎年実施するよう努めること。講習等では、「死戦期呼吸」についても周知すること。
- ・ 保健の授業等において生徒対象の実習を計画すること。

<参考>

○「取組みの重点」に関連した資料

- ・ 「府立学校における今後の教育活動等について（通知）」（最新版を参照すること）
- ・ 「熱中症事故の防止の徹底について」（令和4年6月2日・教保第1472号）
- ・ 「学校水泳プールの安全管理及び水泳等の事故防止について」（令和4年6月2日・教保第1472号）
- ・ 「水泳等の事故防止について」（令和4年5月7日・教保第1365号）
- ・ 「学校における体育活動中の事故防止及び体罰・ハラスメントの根絶について」（令和4年3月1日・教保第2789号）
- ・ 「学校における食物アレルギー対応ガイドライン「令和3年度改訂」」（令和4年3月）
- ・ 「『学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き』の活用について」（令和3年6月15日・教保第1501号）
- ・ 「熱中症対策アラートの活用及び周知について」（令和3年6月11日・教保第1494号）
- ・ 「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン「令和元年度改訂」」（令和2年3月・日本学校保健会）
- ・ 「運動会・体育大会等における組体操について」（令和元年6月11日・教保第1420号）
- ・ 「『熱中症予防のための運動指針』の見直し及び熱中症予防のための『暑さ指数計』の配付について」（令和元年5月29日・教保第1316号）
- ・ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」（平成31年2月）
- ・ 「落雷事故の防止について」（平成30年7月31日・教保第1679号）
- ・ 「運動部活動等における熱中症事故の防止等について」（平成30年7月23日・教保第1645号）
- ・ 「学校水泳プールの安全管理及び水泳等の事故防止について」（平成30年5月8日・教保第1229号）
- ・ 「学校において予防すべき感染症の解説」（平成30年3月・日本学校保健会）
- ・ 「ハンドボール等のゴールの転倒による事故防止について」（平成29年1月16日・教保第2425号）
- ・ 「スポーツ事故防止対策映像資料（DVD）『スポーツ活動中の歯・口のけがの防止と応急処置』」（平成28年9月30日・独立行政法人日本スポーツセンター）
- ・ 「スポーツ事故防止対策映像資料（DVD）『運命の5分間 その時あなたは ～突然死を防ぐために～』」（平成27年

3月13日・独立行政法人日本スポーツセンター)

- ・「人権教育リーフレット6『食物アレルギーのある子どもへの配慮』(平成27年3月)
 - ・「学校給食における食物アレルギー対応指針」(平成27年3月・文部科学省)
 - ・「学校における体育活動中の事故防止についての映像資料」(平成26年4月4日・文部科学省)
 - ・「今後の学校給食における食物アレルギー対応について」(平成26年3月28日・教委保第2889号)
 - ・「サッカーゴール等のゴールポストの転倒による事故防止について」(平成25年9月4日・文部科学省)
 - ・「体育授業中の事故防止について」(平成19年10月3日・教委保第1921号)
- (1)に関連した資料)
- ・「学校水泳プールの安全管理及び水泳等の事故防止について」(令和4年6月2日・教保第1472号)
 - ・「熱中症事故防止について」(令和4年6月2日・教保第1472号)
 - ・「学校における体育活動中の事故防止及び体罰・ハラスメントの根絶について」(令和4年3月1日・教保第2789号)
 - ・「運動会・体育大会等における組体操について」(令和元年6月11日・教保第1420号)
 - ・「熱中症予防のための運動指針」の見直し及び熱中症予防のための「暑さ指数計」の配付について」(令和元年5月29日・教保第1316号)
 - ・「大阪府部活動の在り方に関する方針」(平成31年2月)
 - ・「落雷事故の防止について」(平成30年7月31日・教保第1679号)
 - ・「運動部活動等における熱中症事故の防止等について」(平成30年7月23日・教保第1645号)
 - ・「学校水泳プールの安全管理及び水泳等の事故防止について」(平成30年5月8日・教保第1229号)
 - ・「ハンドボール等のゴールの転倒による事故防止について」(平成29年1月16日・教保第2425号)
 - ・「スポーツ事故防止対策映像資料(DVD)『スポーツ活動中の歯・口のけがの防止と応急処置』(平成28年9月30日・独立行政法人日本スポーツセンター)
 - ・「スポーツ事故防止対策映像資料(DVD)『運命の5分間 その時あなたは ～突然死を防ぐために～』(平成27年3月13日・独立行政法人日本スポーツセンター)
 - ・「学校における体育活動中の事故防止についての映像資料」(平成26年4月4日・文部科学省)
 - ・「サッカーゴール等のゴールポストの転倒による事故防止について」(平成25年9月4日・文部科学省)
 - ・「体育授業中の事故防止について」(平成19年10月3日・教委保第1921号)
- (2)に関連した資料)
- ・「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～』(文部科学省・(最新版を参照すること))
 - ・「学校給食衛生管理基準の取扱いについて」(平成29年8月・文部科学省)
 - ・「学校給食施設・設備の改善事例集」(平成25年3月・文部科学省)
 - ・「学校給食調理従事者研修マニュアル」(平成24年3月・文部科学省)
 - ・「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」(平成23年3月・文部科学省)
 - ・「調理場における洗浄・消毒マニュアルⅡ」(平成22年3月・文部科学省)
 - ・「学校給食衛生管理基準の施行について」(平成21年4月・文部科学省)
 - ・「学校給食における食中毒防止Q&A」(平成21年3月・独立行政法人日本スポーツ振興センター)
 - ・「調理場における洗浄・消毒マニュアルⅠ」(平成21年3月・文部科学省)
 - ・「学校給食調理場における手洗いマニュアル」(平成20年3月・文部科学省)
- (3)に関連した資料)
- ・中学生用食育教材『「食」の探究と社会への広がり』(令和3年3月・文部科学省)
 - ・「食に関する指導の手引ー第二次改訂版ー」(平成31年3月・文部科学省)
 - ・「第3次大阪府食育推進計画『おおさか・元気な食』プラン」(平成30年3月)
 - ・「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育～チーム学校で取り組む食育推進のPDC A～」(平成29年3月・文部科学省)
 - ・「小学生用食育教材『たのしい食事 つながる食育』(平成28年2月・文部科学省)
 - ・「おおさか食育ハンドブック」(平成22年3月・大阪府スポーツ・教育振興財団)
- (4)に関連した資料)
- ・学校保健安全法(平成27年6月改正)
- (6)に関連した資料)
- ・「一人ひとりの生と性 ～「性に関する指導」について～」(平成31年2月)
 - ・「性教育指導事例集」(平成15年3月)

○ (12) に関連した資料

- 『『救急蘇生法の指針 2020（市民用）』の有効活用及び周知等について』（令和4年6月16日・教保第1565号）
- 「ショックボタンを有さない自動体外式除細動器（オートショック AED）使用時の注意点に関する情報提供等の徹底について」（令和3年8月16日・教保第1910号）
- 「自動体外式除細動器（AED）の適正配置に関するガイドラインの補訂について」（令和2年6月4日・教保第1340号）
- 「スポーツ事故防止対策映像資料（DVD）『運命の5分間 その時あなたは ～突然死を防ぐために～』（平成27年3月13日・独立行政法人日本スポーツ振興センター）

13 薬物乱用防止等の取組み

大麻・覚醒剤等の薬物乱用防止教育については、学校保健計画の中に位置付け、喫煙・飲酒とともに、指導計画を策定し、保護者への啓発を含め、学校教育活動全体を通じて取り組む必要がある。

【取組みの重点】

(ア) 学校薬剤師や警察官等の専門家等による薬物乱用防止教室を年1回以上開催すること。
とりわけ、府内における未成年者の大麻乱用が急速に拡大し、極めて深刻な事態となっていることから、正しい知識の普及、啓発を図ること。また、「大阪府薬物の濫用の防止に関する条例」(平成24年12月1日施行)を踏まえ、「危険ドラッグ」の危険性についても理解させること。

【取組み項目】

(1) ギャンブル等依存症に関する教育の推進

- ・ ゲームやギャンブル等への過剰な参加は習慣化すると依存症となる危険性がある

ことから、保健体育の授業等において、薬物への依存症に加えてギャンブル等依存症に関する正しい知識の普及と、その予防に向けた啓発に取り組むこと。

<参考>

○ 「取組みの重点」に関連した資料

- ・ 「大麻乱用防止に向けた啓発資料(チラシ)の活用について」(令和4年7月19日・教保第1784号)
- ・ 「薬物乱用防止教育のために一指導参考事例集一(高等学校版)」の保健体育課ホームページ掲載について(令和4年3月31日・教保第3023号)
- ・ 「大麻乱用防止に向けた更なる取組等について」(令和4年3月17日・教保第2949号)
- ・ 「大麻等薬物乱用防止教育の更なる充実について」(令和4年3月3日・教保第2828号)
- ・ 「大麻等薬物乱用防止教育の更なる充実について」(令和3年11月10日・教保第2262号)
- ・ 「大麻等薬物乱用防止教育の充実について」(令和3年10月18日・教保第2183号)
- ・ 「大麻乱用防止に向けた」啓発資料(チラシ)の配付について(令和3年8月30日・教保第1971号)
- ・ 「大麻等薬物乱用防止教育の充実及び大麻乱用防止に向けた啓発資料(チラシ)の配付について」(令和3年8月18日・教保第1919号)
- ・ 「緊急大麻対策としての学校訪問への協力依頼について」(平成30年9月27日・教高第2799号)
- ・ 「薬物乱用防止教育の推進について」(平成28年2月5日・教委保第2448号)
- ・ 「大阪府薬物の濫用の防止に関する条例」(平成24年12月1日施行)

○ (1)に関連した資料

- ・ 「ギャンブル等依存症指導参考資料について」(平成31年3月・文部科学省)

第2章の関連事項

(1) 文化財の活用

- ・ 「大阪府文化財保存活用大綱」の基本方針に示した教育の観点を踏まえ、学校における文化財の活用を推進すること。
- ・ 体験学習の実施に当たっては、身近な社会教育施設等の施設及び機能を有効に活用するなど、一層の創意工夫に努めること。
- ・ 各教科・科目、総合的な探究（学習）の時間及び特別活動等において、文楽・能楽等の鑑賞機会の充実や、地元で継承されている伝統的な民俗芸能等に親しむ機会を積極的に創出すること。
- ・ 発掘調査により出土した土器等の文化財についても、各学校において展示を行い、直接触れる機会をつくるなど、地域の歴史を知る教材として積極的に活用すること。
- ・ 世界遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群について取り上げることや、文化財資料の貸し出し、学校に対する出前授業（「出かける博物館」事業）等の活用についても配慮すること。

<参考>

○ (1) に関連した資料

- ・ 「大阪府文化財保存活用大綱」（令和2年3月）

<身近な社会教育施設等>

少年自然の家、弥生文化博物館、近つ飛鳥博物館、近つ飛鳥風土記の丘、花の文化園、狭山池博物館、箕面公園昆虫館、大阪人権博物館（リパティおおさか）、大阪国際平和センター（ピースおおさか）、上方演芸資料館、都市緑化植物園、中之島図書館、中央図書館

14 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進

幼児・児童・生徒が夢や志を持って自己の可能性を広げ、粘り強くチャレンジする姿勢を育むとともに、自らの人生や新しい社会を切り拓く力の育成に努めることが重要である。また、児童・生徒が望ましい勤労観・職業観を身に付け、働くことについて意欲をもって主体的に進路を選択し、将来、社会人・職業人としての自立を通じて、自己実現を図ることができるよう、キャリア教育を学校の教育計画に位置付ける必要がある。

【取組みの重点】

(ア) 地域や福祉・労働等関係機関、専修学校等と連携して、実践的なキャリア教育を推進し、児童・生徒が自己の職業適性や将来設計、自己実現について考えることができるよう努めること。

【取組み項目】

(1) 希望進路の実現

- ・ 社会的・職業的自立に向けた基礎的・基本的な知識・技能を育成するために、基礎学力の確実な定着に努めること。
- ・ 規範意識やコミュニケーション能力等、幅広い能力の育成を図るなど、入学時から教育活動全体を通じて組織的・計画的な指導を行うこと。
- ・ 児童・生徒一人ひとりの進路や生き方に関する悩みを受け止め、児童・生徒が主体的に進路を選択することができるよう、カウンセリング機能の充実に努めること。
- ・ 進路に関する適切な情報を提供するなど、ガイダンス機能の充実に努めるとともに、進学・就職試験の受験に際して必要となる要件等について、生徒へのあらかじめの周知に努めること。また、就職を希望する生徒に対しては、一部の公開求人について、選考開始日から複数社への応募・推薦が可能であることなどを含め、手続きやルール等の周知徹底を図ること。
- ・ 就職した生徒が定着するよう、企業訪問等の支援を行うこと。

(2) 学習活動への専門人材の活用や大学等との連携の充実について

- ・ 学びの接続を意識し、各教科・科目や総合的な探究(学習)の時間等の学習活動を充実させるために、各校の特色や実態に応じて、専門的知識・技能を有する多様な人材の活用や、大学や企業等の外部機関との連携に努めること。

(3) 進路に係る問題事象への対応

- ・ 就職指導に当たっては、ハローワーク等との連携を図るとともに、府教育委員会、関係労働行政機関、OSAKAしごとフィールド等が実施している就職支援施策等を積極的に活用し、就職を希望する生徒の支援に努めること。
- ・ 近畿高等学校統一用紙の趣旨や経緯を生徒に十分理解させるとともに、就職受験報告書を活用し、違背事象が生じた場合には、適切かつ速やかに対応すること。
- ・ 進学指導に際しては、進学問題事象報告書を活用すること。

(4) 障がいのある幼児・児童・生徒へのキャリア教育の充実

- ・ 障がいのある幼児・児童・生徒が、将来の進路を主体的に選択することができるよう、幼児・児童・生徒一人ひとりの状況や進路希望等を的確に把握し、早期からの進路指導・支援の充実を図り、自己実現や社会参加を促進するため、指導方法の工夫や適切な指導・支援を行うこと。
 - ・ 小中学部においても、多様な進路先に関する適切な情報を提供するなど、ガイダンス機能の充実を図ること。
 - ・ 府立支援学校においては、福祉や労働等の関係機関、企業等との連携をさらに密にし、関係機関等による学校見学の機会拡充等により、障がいや障がいのある児童・生徒についての理解啓発を行うとともに、就学前から将来の社会的自立に向けてキャリア教育や職業教育の充実を図ること。
- さらに、早期からの就業体験等の機会を増やすとともに、職域の拡大を図り、就職率の向上に努め、生徒が就労する際には、「最低賃金法」の趣旨を踏まえ、適切な進路指導に

努めること。

なお、在学時から卒業後の進路を見据えて、福祉や労働等の関係機関と連携すること。

- ・ 進路先への定着を図るため、個別の教育支援計画等の活用や進路先の訪問等の支援を行い、卒業生や進路先の企業等が相談できる福祉や労働等の関係機関とのネットワークづくりに努めること。また、進学した生徒についても高校・高等部から大学等への円滑な接続が図られるよう、大学等との連携に努めること。

(5) 進学に係る奨学金等の指導

- ・ 大阪府育英会奨学金など就学のための援助制度の利用に当たっては、奨学金制度の趣旨や目的について生徒及び保護者に対して、理解を得るよう説明すること。とりわけ生徒に対しては、学業に励み、将来、社会に還元すべき責任と自覚を持つよう指導すること。
- ・ 学校徴収金等についても精査し、高額にならないよう配慮すること。

<参考>

- 「取組みの重点」に関連した資料
 - ・ 「働く前に知っておくべき13項目」(令和4年5月)
 - ・ 「16才からの“シューカツ”教本」(平成23年3月)
 - ・ 「キャリア教育を推進するために」(平成17年4月)
- (4)に関連した資料
 - ・ 『障害者の雇用を支える連携体制の構築・強化について』の改正について(平成30年4月2日・厚生労働省)
 - ・ 「就労系障害福祉サービスにおける教育と福祉の連携の一層の推進について」(平成29年4月25日・文部科学省、厚生労働省)
- (5)に関連した資料
 - ・ 「奨学金等指導資料」(令和5年4月更新予定)

15

進学等の際の学校間・学部間の連携によるキャリア教育の推進

社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成するうえで、進学等の際の小学校・中学校・高等学校・支援学校間の連携や支援学校における学部間の連携を一層深めるとともに、幼児・児童・生徒の発達段階に応じた系統的なキャリア教育を実施する必要がある。

【取組みの重点】

(ア) キャリア教育の実施に当たっては、学校間・学部間の連携を一層深めるとともに、児童・生徒が自らの学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材（「キャリア・パスポート」）等を活用すること。

【取組み項目】

(1) 異なる校種間での連携の推進

- 異なる校種間において、個人情報の保護等の観点に留意しつつ、生徒指導等の充実につながるよう連携を深めるとともに、教職員等関係者による連絡会を定期的に開催するよう配慮すること。
- 地域の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・

支援学校等、異なる校種間での学校園行事や幼児・児童・生徒間の交流、学習内容や指導方法の工夫・改善に係る研修等について教職員の連携・交流を図ること。

- 学習活動を効果的に展開するため、相互交流を進めるなど、地域における校種間連携の推進に努めること。

<参考>

○ 「取組みの重点」に関連した資料

- 「働く前に知っておくべき13項目」（令和4年5月）
- 「【大阪版】キャリア・パスポート例示資料等」（令和2年1月23日）
- 「16才からの“シューカツ”教本」（平成23年3月）
- 「キャリア教育を推進するために」（平成17年4月）

16

部活動の取組み

各学校において生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、生徒や指導する教員にとって望ましい環境を構築するという観点に立ち、生徒のバランスのとれた心身の成長や社会性、自主性・自立性の育成を促すよう、地域、学校、分野、活動目的や競技種目等に応じた多様な形で最適に実施されることが必要である。

【取組みの重点】

- (ア) 「大阪府部活動の在り方に関する方針」(平成31年2月)に則り、各学校が策定する「学校の部活動に係る活動方針」に基づき、合理的でかつ効率的・効果的に取り組むこと。
- (イ) 学校運営協議会等の意見を参考にしながら、学校全体として部活動の指導・運営に係る体制を構築すること。

【取組み項目】

(1) 部活動の在り方

- ・ 生徒が、スポーツや芸術文化等の活動を楽しむことで、生涯にわたって心身の健康を保持増進しスポーツや芸術文化等に親しむことのできる資質・能力の育成を図ること。また、バランスのとれた心身の成長を促すとともに、教育課程内の活動、部活動、学校外の活動等のバランスにも十分に配慮すること。
- ・ 部活動の在り方については、部活動指導員や外部指導者の活用、複数校の生徒による合同部活動の取組みも含めて、生徒や教員にとって望ましい環境を構築するという観点から検

討すること。

- ・ 「部活動大阪モデル」でペアリングの指定を受けた学校においては、制度の趣旨を踏まえて積極的に取り組むこと。

(2) 支援学校における放課後等の諸活動の充実

- ・ 地域の関係機関との連携強化により、部活動等による放課後の学校教育活動の充実を図り、障がい者スポーツ・文化芸術活動への参加促進を図ること。
- ・ 夏季休業日をはじめとする長期休業期間等における学校内外の施設を活用した諸活動の充実に努めること。

<参考>

- 「取組みの重点」に関連した資料
 - ・ 「部活動の適切な運営について」(令和元年12月2日・教保第2211号)
 - ・ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」(平成31年2月)
 - ・ 「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(平成30年12月・文化庁)
 - ・ 「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(平成30年3月・スポーツ庁)
 - ・ 「全校一斉退庁日及びノークラブデー(部活動休養日)の実施について」(平成28年12月7日・教職企第1838号)
 - ・ 「運動部活動での指導のガイドラインについて」(平成25年6月・文部科学省)
 - ・ 「部活動の位置づけ及び教職員の服務上の取扱いの改訂について」(平成24年7月31日・教委高第2149号)
- (1)に関連した資料
 - ・ 『部活動大阪モデル』に係るガイドライン(令和5年2月通知予定)
 - ・ 『部活動大阪モデル』の推進について(令和5年1月18日・教高第2710号)
- (2)に関連した資料
 - ・ 「第3次大阪府スポーツ推進計画」(令和4年3月)
 - ・ 「オリンピック・パラリンピックレガシー創出に向けた文部科学省の考えと取組について」(平成27年4月10日・文部科学省)

17 専門人材の活用や、地域・大学・企業等との連携の充実

府立学校における児童・生徒のニーズや社会の変化に対応した教育内容の充実に向け、地域の資源を活用するなど、特色化・魅力化に取り組むため、多様な経験や専門性を持った人材の活用や、地域・大学・企業等との連携の充実を図る必要がある。

【取組みの重点】

(ア) 地域住民や小・中学校、企業、大学、行政等の外部機関の専門的な知見やフィールド等を活かした連携を通じて、さらなる教育内容の充実に努めること。

【取組み項目】

(1) 学習活動への専門人材の活用や大学等との連携の充実について（再掲）

- ・ 学びの接続を意識し、各教科・科目や総合的な探究(学習)の時間等の学習活動を充実させるために、各校の特色や実態に応じて、専門的知識・技能を有する多様な人材の活用や、大学や企業等の外部機関との連携に努めること。

(2) 幼児・児童・生徒支援に向けた専門人材の活用（再掲）

- ・ 様々な課題を抱える幼児・児童・生徒の支援に向けては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門人材を活用し、校内の支援体制の構築を図るとともに、子ども家庭センターや市町村関係部局等の関係機関と連携すること。

(3) 異なる校種間での連携の推進（再掲）

- ・ 異なる校種間において、個人情報の保護等の観点に留意しつつ、生徒指導等の充実につながるよう連携を深めるとともに、教職員等関係者による連絡会を定期的に開催するよう配慮すること。
- ・ 地域の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・支援学校等、異なる校種間での学校園行事や幼児・児童・生徒間の交流、学習内容や指

導方法の工夫・改善に係る研修等について教職員の連携・交流を図ること。

- ・ 学習活動を効果的に展開するため、相互交流を進めるなど、地域における校種間連携の推進に努めること。

(4) 教育コミュニティづくりへの参画・協力

- ・ 教育コミュニティづくりを推進するため、近隣地域の学校支援地域本部や地域教育協議会(すこやかネット)等の地域学校協働本部の活動に積極的に参画・協力すること。
- ・ 支援学校においては、教育コミュニティづくり推進事業の活用等により、地域社会の様々な人々による学校教育への支援活動が活性化するよう努めること。

(5) PTA活動のあり方

- ・ 地域、保護者、学校の連携を推進するにあたっては、当事者の実情、特性、協働等の状況を踏まえ、教職員と保護者がPTA活動のあり方や運営の効率化について話し合いを深めるよう努めること。

(6) PTAの人権意識の高揚

- ・ PTAの中に人権啓発委員会等を組織し、人権学習に取り組むよう働きかけるなど、人権意識の高揚に努めること。その際、大阪

府視聴覚ライブラリー所蔵の視聴覚教材や人権啓発学習教材を活用するとともに、府教育庁主催研修等への積極的な参加を促すこと。

<参考>

- 「取組みの重点」に関連した資料
 - ・ 「今後の府立高校のあり方等について」（令和4年1月大阪府学校教育審議会答申）
- (2)に関連した資料
 - ・ 「スクールソーシャルワーカー活動事例集」（令和4年12月）
 - ・ 「スクールソーシャルワークとは」（令和4年7月19日・教高第2375号）
- (4)に関連した資料
 - ・ 「社会教育法」（令和元年6月改正）
- (6)に関連した資料
 - ・ 「人権啓発学習教材『動詞からひろがる人権学習』（平成30年12月改訂）

18 家庭教育支援の充実

多様化する家庭環境に対し、児童・生徒の健やかな成長を支えるため、「子どもの学び・育ちの原点」である家庭教育の充実に向けた取組みが必要である。

【取組みの重点】

(ア) 様々な機会を通じた親学習の実施や充実に努め、保護者や児童・生徒が家庭教育について考えたり相談したりできるよう、取組みを推進すること。

【取組み項目】

(1) 親学習の実施促進

- ・ 児童・生徒が自分の将来を見据え、家庭や家族について考えることのできる親学習を推進するとともに、教職員に対しては、府教育庁が実施する親学習をはじめとした家庭教育支援に関する研修への積極的な参加を促すこと。
- ・ 保護者が主体的に学べるよう、保護者向けの研修等を活用して親学習の実施に努めること。
- ・ 親学習の実施に際しては、大阪府教育庁作成の親学習教材等を活用するとともに、必要に応じ親学習リーダーをはじめとする地域人材等との効果的な連携を図ること。

<参考>

- 「取組みの重点」に関連した資料
 - ・ 『『親』をまなぶ・『親』をつたえる』（令和2年3月増補）
 - ・ 『『親』をまなぶ・『親』をつたえる 親学習 指導事例』（令和2年3月増補）
 - ・ 「特色ある家庭教育支援の取組み一覧」（大阪府Webページ）

19 働き方改革

府立学校において、各学校の特色や状況を踏まえつつ長時間勤務の縮減に向けた取組みを進め、教職員の在校等時間管理及び健康管理を徹底するとともに、教職員一人ひとりの意識改革を推進するなど、教職員の「働き方改革」に取り組むことが重要である。

【取組みの重点】

- (ア) 「府立学校における働き方改革に係る取組みについて(平成30年3月)」などをもとに、着実に取組みを進めること。
- (イ) 教職員の時間外在校等時間については、関係法令、規則及び要綱に基づき定められた上限(月45時間、年360時間)の範囲内とすること。このため、時間外在校等時間が30時間以上となっている教員及びその管理職に対し、当月の10日、20日を目途に注意喚起を行う「アラミングメール」を送信する仕組みを活用するなどして、長時間化を防ぐための業務の分担の見直しや適正化等を行い、在校等時間の縮減を図ること。特に、在校等時間の適正な把握を通じて、1か月の時間外在校等時間が80時間を超えた教職員には、ヒアリングを実施し、ヒアリング等実施シートにより業務内容を把握するとともに、必要に応じ業務処理方法に関する指導・助言を行い、教職員の健康の保持、増進に努めること。
- (ウ) 定時に全員退庁するものとする「全校一斉定時退庁日」を、原則として毎週水曜日に設定すること。
- (エ) グループウェア等を活用し、「校務運営の効率化」を進めること。
- (オ) 教員の長時間勤務の要因の一つになっている部活動については、「大阪府部活動の在り方に関する方針」(平成31年2月)に基づき、ノークラブデー(適切な休養日)を設定(年間104日)し、部活動における長時間勤務の縮減に向けて、学校全体として取り組むこと。また合同部活動の実施に当たっては、教員の負担が軽減されるよう、学校間・教員間で十分に連携を図ること。

【取組み項目】

(1) 在校等時間管理について

- ・ 教職員に時間外又は休日に勤務を命じる場合には、法令その他の規則や要綱等に基づき、適切に行うこと。
- ・ 全校一斉定時退庁日及びノークラブデー(適切な休養日)の実施に加え、各学校の特色や状況を踏まえつつ長時間勤務の縮減に向けた取組みを行うこと。
- ・ 学校閉庁日を設定し、原則として幼児・児童・生徒の登校及び部活動を禁止すると

もに、学習指導、進路指導、証明書発行等校務全般を休止することで、教職員の休暇取得を促すこと。夏季休業中には8月10日から16日の間に連続5日間以上、冬季休業中には12月28日から1月4日の間に連続6日間以上設定すること。

(2) 休憩時間について

- ・ 休憩時間を明示し、当該時間に取得できない場合には他の時間帯に与えるなど、適切な対応を取ること。また、取得しやすい環境

づくりに努めること。

- ・職種ごと、教員集団ごとに異なる時間帯に休憩時間を与える場合には、休憩時間の一斉付与適用除外に係る府教育委員会の承認等の手続きが必要であるため、所要の手続きをとること。ただし、休憩時間を分割し、所属単位で一斉に休憩を与える場合には、休憩時間の一斉付与適用除外に係る承認等の手続きは要しない。

(3) 労働安全衛生体制の充実

- ・関係規則及び大阪府立学校職員安全衛生管理規程に基づき、毎月の安全衛生委員会の開催をはじめ労働安全衛生活動の活性化に努めること。
- ・安全衛生委員会では、教職員の勤務時間に関する状況を共有し、時間外勤務の縮減方策の取組状況について調査審議するとともに、安全衛生管理者は、時間外在校等時間が月**80**時間を超えた教職員の情報について、毎月、本人及び産業医へ情報提供すること。また、長時間労働者への医師による面接指導を実施し、教職員の健康管理に努めること。
- ・ストレスチェックを適切に実施するために、その趣旨である「メンタルヘルス不調の一次予防の強化」と「集団分析による職場環境改善」について職員に周知し、ストレスチェックの受検勧奨に努めるとともに、受検者の個人情報については管理及び保護を徹底すること。また、集団分析結果を各学校の安全衛生委員会で活用し、職場環境の改善を図ること。
- ・教職員の心身の健康増進・メンタルヘルスの予防のために、公立学校共済組合大阪支部が設置している「大阪メンタルヘルス総合センター」が実施する相談事業(セルフケア・ラインケア)、研修事業及び復職支援事業を積極的に活用すること。

(4) 週休日の教育活動

- ・学校説明会、学習活動(補習・講習等)や生徒指導等、週休日における多様な教育活動の実施等については、関係通知等を踏まえて適切に行うこと。

(5) 土曜授業

- ・土曜授業を実施する場合には、各学校において、学校や地域の実情、幼児・児童・生徒の負担を踏まえながら、土曜授業を実施する教育的意義、土曜授業を実施した場合の教育的効果を検討したうえで、計画を立てること。
- ・土曜授業の実施に当たっては、実施目的や内容、頻度について幼児・児童・生徒、保護者への周知を図るとともに、十分な理解を得るよう努めること。
- ・教職員が土曜授業に係る業務に従事する場合は、法令の定めによる週休日の振替〔※1〕又は勤務時間の割振り変更〔※2〕を確実にすること。
- ・土曜授業の申請に当たっては、定められた期日を厳守し、終了後は、実施報告書を速やかに提出すること。
〔※1〕週休日に勤務することを命ずる必要があるときに、その週休日と他の勤務日とを振り替えること。
〔※2〕勤務日の勤務時間のうちの4時間(3時間**45**分)だけを週休日に割り振り、勤務させること。

(6) 校務におけるICT活用の推進

- ・幼児・児童・生徒と向き合う時間を確保するため、ICTを活用し、校務の効率化を図ること。
- ・統合ICTネットワークを活用し、校務の情報化を進めること。
- ・校務処理システムを活用し、生徒情報の各種管理事務の効率化を図ること。
〔関連記載 **P69** (3) 情報機器からの情報漏洩の防止〕

<参考>

- 「取組みの重点」に関連した資料
 - ・ 「令和5年度以降の学校閉庁日の実施について(通知)」(令和4年12月21日・教高第3520号)
 - ・ 「府立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則」(令和2年3月30日・教職企第2659号)
 - ・ 「府立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する要綱」(令和2年3月30日・教職企第2659号)
 - ・ 「在校等時間の適正な把握のための手続等に関する要綱」(令和2年3月30日・教職企第2672号)
 - ・ 「勤務時間の適正な把握のための手続等に関する要綱」(令和2年3月改正)
 - ・ 「部活動の適切な運営について」(令和元年12月2日・教保第2211号)
 - ・ 「三六協定締結の手引き(府立学校版)」(令和元年7月改定)
 - ・ 「大阪府立学校における時間外勤務に関する要綱」(平成31年3月29日・教職企第2576号)
 - ・ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」(平成31年2月)
 - ・ 「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」(平成30年3月28日・教総第3447号)
 - ・ 「全庁一斉退庁日及びノークラブデー(部活動休養日)の実施について」(平成28年12月7日・教職企第1838号)
 - ・ 「府立学校における長時間労働健康障がい防止への取組について」(平成27年9月4日・教委福第1171号)
 - ・ 「労働基準法第36条第1項の規定による時間外労働及び休日労働に関する協定(三六協定)締結の手引き(府立学校版)」(平成27年7月)
 - ・ 「職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例・同規則」(平成7年3月17日)
 - ・ 「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」(昭和46年法律第77号)
 - ・ 「府立高等学校等の職員の勤務時間、休日、休暇等に関する規則」(いわゆる超勤4項目、勤務時間の割振り、休暇制度等)(昭和41年1月17日)
 - ・ 「働き方改革ポータルサイト」(教育庁教職員室室内Webページ)
- (1)に関連した資料
 - ・ 「令和5年度以降の学校閉庁日の実施について(通知)」(令和4年12月21日・教高第3520号)
- (2)に関連した資料
 - ・ 「労働基準法第36条第1項の規定による時間外労働及び休日労働に関する協定(三六協定)締結の手引き(府立学校版)」(平成27年7月)
- (3)に関連した資料
 - ・ 「労働安全衛生に係る報告等について」(令和5年4月通知予定)
 - ・ 「府立学校における長時間労働者への医師による面接指導実施要綱」(令和4年4月1日改訂)
 - ・ 「府立学校におけるストレスチェック制度実施要綱」(令和4年4月1日改訂)
 - ・ 「学校における働き方改革に関する取組の徹底について」(平成31年3月・文部科学省)
 - ・ 「大阪府立学校安全衛生管理規程」(教育長訓保第1051号)
 - ・ 「労働安全衛生規則」(昭和47年9月30日・労働省令第32号)
 - ・ 本冊子巻末資料P. 79 I-6 公立学校共済組合大阪支部 大阪メンタルヘルス総合センター
- (4)に関連した資料
 - ・ 「週休日における教職員の教育活動等に係るサービスの取扱い」(平成16年9月21日・教委学事第1930号)
- (5)に関連した資料
 - ・ 「土曜授業の実施にあたってのガイドライン」(平成26年8月21日)

20 校長のリーダーシップによる学校経営の確立

学校経営に当たり校長の権限と責任のもと、適切なリーダーシップを発揮し、「学校組織運営に関する指針」に基づく学校経営を行うことが必要である。

また、学校教育法施行規則の一部改正により、府立高校においてはスクール・ミッションやスクール・ポリシーの策定・公表が必要となっていることから、策定に向けた検討を速やかに進める必要がある。

【取組みの重点】

- (ア) すべての教職員が相互に資質を高め合う同僚性の高い職場環境づくりに努め、教職員の組織力の向上を図ること。
- (イ) いじめ・虐待等の生徒指導事象はもとより、感染症や災害への対応等あらゆる危機管理事案に対して、適切に対応できる組織となっているか、常に見直しを図ること。
- (ウ) 府立高校においては、各学校に期待される社会的役割等（スクール・ミッション）やそれに基づく三つの方針（スクール・ポリシー）の策定に向けて、自校の教育活動が体系的かつ継続的なものとなるよう、学校を取り巻く課題等の検討を図ること。

【取組み項目】

（１）PDCAサイクルによる学校経営の推進

- ・ 「学校経営計画及び学校評価」（以下「学校経営計画」という。）の策定に当たっては、前年度の学校評価を踏まえるとともに、可能な限り数値目標を掲げるなど、具体的な内容を記載すること。
- ・ 各学校が策定した学校経営計画に基づきPDCAサイクルによる学校経営を推進すること。その際、めざす学校像の実現に向けて教職員が一丸となる組織的な取組みを推進すること。
- ・ 学校経営計画の進捗状況を定期的に点検するとともに、年度末にはそれぞれの教育活動について具体的な根拠に基づいて着実に自己評価を行い、次年度の取組みの改善につなげること。
- ・ 学校経営計画に基づき策定される、当該年度の教育活動の具体的な方針を示した「学校教育計画」に従い教育活動を推進すること。

（２）学校評価における学校関係者評価の活用

- ・ 学校評価の実施に当たっては、学校教育自己診断と学校運営協議会からの意見を活用するとともに、評価結果を踏まえて学校運営の改善に努めること。
- ・ 学校運営協議会においては、委員による授業その他の教育活動の参観を実施するなど、委員が学校の状況を的確に把握できるような取組みを進めること。

（３）組織的・効率的な学校運営

- ・ 教職員の幼児・児童・生徒に対する指導の時間等をより一層確保する観点から、校長がリーダーシップを発揮し、機能的な学校運営に努めること。
- ・ 校内人事決定の際には、通知に基づき、アンケートの実施を含め、適任者を推薦させることは方法の如何を問わず行わないこと。
- ・ 地域連携や情報公開、情報管理、危機管理等の様々な課題に対応できるよう、担当者の

役割を校務分掌に明確に位置付けるなど、校内組織体制の見直しを図ること。

- ・ 課題に対し適切かつ迅速に対処できる機動的な学校運営体制の構築に際しては、校務の要である首席を活用すること。

(4) 支援チームの活用

- ・ 学校運営に当たり、必要に応じて高等学校課の育成支援チームの活用を図ること。
- ・ 府教育委員会作成の関係資料を校内研修等で積極的に活用すること。

(5) 職員会議の適切な運営

- ・ 職員会議は、関係法令・関係通知に基づき、その適切な運営に努めること。
- ・ 会議録は、公文書として必要な項目と内容を適切に記録し、保管すること。

(6) 加配教員の適切な活用

- ・ 加配教員は、配置の趣旨を踏まえて適切に活用するとともに、その効果を測定するよう努めること。

(7) 人権教育の校内推進体制の確立と関係研究組織との連携

- ・ 人権教育の推進に当たっては、女性、子ども、障がい者、同和問題（部落差別）、在日外国人、性的マイノリティ、感染症等に係る様々な人権問題の解決に向け、課題別に担当者の明確化を図るなど、校内推進体制を確立するとともに、関係研究組織と連携し、人権尊重の理念を学校運営に反映すること。

(8) 教育相談体制の充実

- ・ 教育相談の推進組織を校務分掌に位置付けること。
- ・ 養護教諭や学級担任等が行う健康相談についても、全校的な相談体制との連携を図ること。

(9) 保護者・地域ニーズの学校運営への反映

- ・ 児童・生徒や保護者、地域の住民の声を学校

運営に反映させていくため、さらに開かれた学校づくりへ向けた取組みを進めること。

- ・ 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の趣旨を踏まえ、学校運営協議会を活用し、保護者や地域住民のニーズを学校運営に反映させること。
- ・ 学校教育自己診断結果の分析及び考察を学校評価に反映するとともに、その内容をWebページ等を活用して保護者等に公表すること。
- ・ 様々な教育活動に関する情報をWebページ等を活用して保護者等へ発信するなど、学校情報の公表を進めること。

(10) 学校運営協議会を通じた学校運営

- ・ 「学校運営協議会の設置等に関する規則」「大阪府学校運営協議会の運営に関する要綱」及び各学校が定める実施要項に基づき学校運営協議会を運営すること。
- ・ 学校運営に関する基本的な方針（学校経営計画の「めざす学校像」及び「中期的目標」）の承認を得るとともに、学校経営計画や学校評価について必要な意見聴取を行い、学校運営の改善に努めること。

(11) 保護者等への授業公開

- ・ 開かれた学校づくりを進めるため、保護者等の理解と協力を得て教育活動を展開する観点から、保護者等に対して一定の期間を設定して授業を公開する取組みを行うこと。
- ・ 授業公開の実施に当たっては、幼児・児童・生徒の人権に対する配慮や個人情報の保護、安全確保等についても十分配慮すること。

(12) 学校Webページの活用

- ・ 学校のWebページについては、学校の活動が鮮明に伝わるよう創意工夫に努めること。
- ・ 開かれた学校づくりの観点から、「学校経営

計画及び学校評価」や教育方針、教育課程、とりわけ特色ある教科・科目や総合的な探究(学習)の時間等を含む年間授業計画(シラバス)、進路状況、学校いじめ防止基本方針、学校教育自己診断、学校運営協議会に係る情報など教育情報の公開に努めること。

- ・情報の公開に当たっては、最新の情報を発信するよう適宜更新を行うとともに、個人情報情報の取扱いについて配慮すること。

(13) 入学者選抜の厳正な実施

- ・「入学者選抜事務点検マニュアル(第6版)」等を厳に遵守し、2系統による採点方法やその他点検の手順等を十分に理解した上で、選抜事務を行うこと。
- ・特に、指示系統をあらかじめ決定し、役割分担、作業系統を明確にし、原則として決定している分担以外の作業は行わないこと、電子データやパソコンの厳重な管理体制を確立すること、すべての作業について複数名

で行い、必ず二度以上の点検を行うことを厳守するなど、選抜事務における点検体制を確立すること。

- ・休憩時間を確保するなど、採点者が集中して作業できる体制を確立すること。

(14) 転入学の受入対応

- ・一家転住等、本人の責任によらない、やむを得ない事情による転入学については、柔軟で円滑な受入れを図ること。
- ・平成23年9月当初より設けた府内の高等学校間の転入学に当たっては、希望者に対し、在籍校において十分に指導を行うとともに、転学希望の申し出があった場合は、定員の範囲内において転学の機会を設けること。

<参考>

- 「取組みの重点」に関連した資料
 - ・「スクール・ポリシー案の作成と提出について(依頼)」(令和5年2月通知予定)
 - ・「スクール・ミッション案の作成と提出について(依頼)」(令和4年6月7日・教高第1863号)
 - ・「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等の公布について(通知)」(令和3年3月31日・文部科学省)
 - ・「学校組織運営に関する指針」(平成31年1月16日改訂)
- (1)に関連した資料
 - ・「学校組織運営に関する指針」(平成31年1月16日改訂)
 - ・「大阪府立学校条例」(平成24年4月1日施行)
- (2)に関連した資料
 - ・「学校運営協議会の運営に関する要綱」(令和4年4月1日改定)
 - ・「学校運営協議会の設置等に関する規則」(平成30年4月1日施行)
- (3)に関連した資料
 - ・「学校現場における業務改善のためのガイドライン」(平成27年7月27日・文部科学省)
 - ・「校内人事の決定について」(平成27年5月20日・教委高第1559号)
- (4)に関連した資料
 - ・「ミドルリーダー育成プログラム」(平成22年より毎年度発行、令和5年3月発行予定)
 - ・「保護者等連携の手引き」(平成22年3月)
- (5)に関連した資料
 - ・「大阪府立学校の管理運営に関する規則」(令和4年4月1日)
 - ・「学校組織運営に関する指針」(平成31年1月16日改訂)
 - ・「学校教育法施行規則」(昭和22年5月23日・文部省令第11号)
- (9)に関連した資料
 - ・「『学校教育自己診断』の実施について」(令和4年6月30日・教高第2204号)
 - ・「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(昭和31年6月30日)

- (10) に関連した資料
 - ・「大阪府学校運営協議会の運営に関する要綱」（令和4年4月1日施行）
 - ・「学校運営協議会の設置等に関する規則」（平成30年4月1日施行）
 - ・「義務教育諸学校等の体制の充実及び運営の改善を図るための公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律等の一部を改正する法律の概要」（平成29年4月・文部科学省）
- (13) に関連した資料
 - ・「入学者選抜事務点検マニュアル（第6版）」（平成30年12月）
 - ・「入学者選抜事務点検マニュアル【知的障がい高等支援学校職業学科（本校）】」（平成30年12月）
- (14) に関連した資料
 - ・「転入学受入れに係るQA」（令和4年4月26日・教高第1436号）
 - ・「大阪府立高等学校編入学、転入学、留学、海外からの留学生の受入れ並びに休学及び復学取扱要領」（令和4年4月26日・教高第1436号）
 - ・「大阪府立高等学校編入学、転入学等の取扱い上の留意事項」（令和4年4月26日・教高第1436号）
 - ・「府立高校・私立高校間の新たな転学機会等について」（平成23年7月26日・教委高第1990号）

21 教職員の資質・能力の向上

グローバル化や情報化の進展により、教育を巡る状況の変化も速度を増している中で、「大阪府教員等研修計画」に基づき、高度な専門職として新たな知識・技能の習得に継続的に取り組んでいく必要が高まっている。特に、教職員の人権研修を充実させ、すべての教職員に、より確かな人権意識を身に付けさせることが重要である。また、児童・生徒の情報活用能力の育成や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICTの効果的な活用に係る研修等により、すべての教職員のICT活用指導力を向上させる必要がある。加えて、管理職自らが自身の資質・能力の向上を図りながら、次代の管理職・ミドルリーダーの育成を進めることが必要である。

【取組みの重点】

- (ア) 「大阪府教員等研修計画」の周知と活用を進め、初任期からミドルリーダー・次代の管理職に至るまで、系統的に育成すること。その際、校内研修はもとより、あらゆる機会を活用し、教職員に求められる基礎的素養である人権感覚や人権意識の育成に努めること。
- (イ) 生徒指導、授業づくりなど校外研修で学んだ理論を校内で実践することをはじめ、首席や指導教諭等を活用した、日常的なOJTの推進に努めること。
- (ウ) 府教育センター実施のICT活用に係る研修等を活用し、校内において好事例を共有するなど、すべての教職員のICT活用指導力の向上を図ること。
- (エ) 「府立学校リーダー養成研修」等の府教育センターの研修を活用し、校内において学校組織マネジメントの経験を積ませるなど、次代の管理職の養成に努めること。

【取組み項目】

(1) 社会の変化やニーズに対応した資質・能力の向上

- ・ 教職員が教育に携わる公務員としての責務を自覚し、府民の信頼に応えられるよう、幼児・児童・生徒に敬愛される豊かな人間性を培うとともに、社会の変化に対応するための知識・技能や国際社会で必要とされる資質・能力等の向上を図ること。
- ・ 教職員は研修等を通じて自らの人権感覚を高め、人権問題を正しく理解するとともに、差別を許さない姿勢を身に付けること。

(2) 教職員相互に高め合う職場環境づくり

- ・ すべての教職員が、法令等の遵守など教育に携わる公務員としての自覚を一層高めるよう校内研修等の充実を図ること。

- ・ 教職員は日々の研究と修養に努めるとともに、相互に資質を高め合う職場環境づくりに努め、指導力の向上を図ること。

(3) 校内外の研修を効果的に活用した人材育成

- ・ 研修等を効果的に活用し、継続的な人材育成に取り組むこと。
- ・ 府教育センター等で行う校外研修については、「大阪府教員等研修計画」等を活用し、教職員のライフステージや学校の教育課題を踏まえ計画的に受講できるよう努めること。
- ・ 校外研修を受講した教職員が、研修成果を積極的に校内での実践に活かしたり、校内研修の講師を務めたりすることにより、学校の教育力の向上に資するよう努めること。

- ・ 校内研修については、社会の変化、国や府における新たな動き、各学校の課題等を踏まえ、具体的な目標を設定し、計画的に実施することにより、その充実を図ること。
- ・ 年間計画は、校内外の研修の関連性を踏まえて策定すること。その際には、指導教諭や社会人講師等の活用、参加・体験型の研修の導入等、実施内容・形態を工夫すること。

(4) 評価基準を踏まえた適正な評価と教職員の育成

- ・ 「教職員の評価・育成システム」の円滑な実施により教職員の意欲、資質・能力の向上と学校の活性化に努めること。
- ・ 育成（評価）者は、日頃から全教職員の職務遂行状況の的確な把握・記録と日々の指導助言に努めるとともに、評価に当たっては、寛大化・中心化等に留意し、評価基準に照らして適正に行うこと。また、授業を行う教員の評価は、生徒又は保護者による授業アンケートの結果を踏まえるとともに、教員の授業観察を行うなど、より客観性を確保した評価を行うこと。
- ・ 育成（評価）者は、日常から教職員との意思疎通を図るとともに、適切な指導助言を行い、教職員の育成に努めること。また、評価結果については、年度内に開示して次年度に向けた動機づけを行うこと。

(5) その他各種研修成果の還元

- ・ 長期自主研修支援制度等を利用した自主的な研修や独立行政法人教職員支援機構が実施する「中央研修」等については、その目的を踏まえ、研修成果を学校の教育活動に十分還元すること。

(6) 教職員全体の指導力向上

- ・ 計画的な研修の実施等に加えて、日常的なOJTを推進することにより、教職員全体の指導力向上に努めること。その際、教職経験年数の少ない教員の育成については、メンタリングを活用するなど学校全体でチー

ムとして取り組むこと。

- ・ 教職員の指導力向上の取組みを進めるに当たっては、府教育委員会作成の資料、府教育センターのカリキュラムNAV i プラザによる学校支援等を積極的かつ効果的に活用すること。

(7) 支援学校における教員の専門性の向上

- ・ 在籍する幼児・児童・生徒の障がいの重度・重複化、多様化に対応するため、教員の専門性の向上を図る研修を計画的に実施するとともに、認定講習等への参加を促進させ、早期に特別支援学校教諭等免許状をおおむねすべての教員に所持させること。教員は認定講習等受講により必要単位の修得に努めるとともに、単位修得後には速やかに免許状の申請を行うこと。
- ・ 教員にあっては、積極的により専門性の高い研修を受講したり、自ら最新の情報を収集したりするなどして、継続的に専門性の向上に努めること。

(8) 教職員のカウンセリングスキルの向上

- ・ 幼児・児童・生徒の問題事象の未然防止等を図るため、臨床心理士等を活用した校内研修の充実に努め、教職員一人ひとりのカウンセリングスキルの向上を図ること。

(9) 教職員人権研修ハンドブックの活用

- ・ 校内研修等の実施に際しては、教職経験年数の少ない教職員がこれまでの人権教育の成果を継承するとともに、すべての教職員がさらなる人権教育の取組みを充実・発展することができるよう、「教職員人権研修ハンドブック」を活用すること。

(10) 人権侵害事象等に対する対応

- ・ 校長を中心とした、人権侵害を許さない学校体制づくりに努めること。
- ・ 教職員が差別事象等の人権侵害を見逃さない感覚を高めるとともに、人権侵害が生じた場合には、府教育庁及び関係機関と連

携を図り、迅速かつ組織的に対応すること。

- ・ 差別等を受けた幼児・児童・生徒の人権を擁護することを基本とし、併せて、関係した幼児・児童・生徒の背景をはじめ事実関係を的確に把握・分析し、明らかとなった教育課題の解決に努めること。
- ・ 教職員が、自らの言動により幼児・児童・生徒の人権を侵害することのないよう、幼児・児童・生徒の背景の理解に努めるとともに、常に自らの人権感覚、人権意識を見つめ直すこと。

(11) 優秀教職員等表彰について

- ・ 府内の公立学校において模範となる実践活動や優れた提言、提案を行った教職員等のうち、特に顕著な業績をあげたものが多く表彰されるよう、府教育委員会が行う優秀教職員等表彰において、勤務年数に関わらず、積極的に推薦をすること。

(12) 承認研修について

- ・ 教育公務員特例法第 22 条第 2 項に基づく「勤務場所を離れて行う研修」(いわゆる承認研修)は、法の趣旨を踏まえ、研修としてふさわしい内容、意義を有することはもとより、府民から十分理解が得られるよう適切な運用を行うこと。
- ・ 承認手続の不備が多いことから、いかなる内容の承認研修であっても、文書による事前の研修計画書の提出及び校長承認並びに研修終了後の報告書提出を徹底すること。

(13) 次世代育成について

- ・ 次世代育成支援対策推進法に基づき策定された「大阪府教育委員会特定事業主行動計画」の趣旨を踏まえ、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現に向けた支援、男性を含めた働き方の見直し等を推進するために、年次休暇や子育てのための休暇・休業等の取得促進や育児休業からの復帰支援など適切な対応を行うこと。
- ・ 母性保護及び育児に係る休暇制度等については、全教職員への周知を図るとともに、父親となる教職員が配偶者の出産や育児に積極的に関わるための休暇・休業等取得促進に努めること。特に、「配偶者の育児参加休暇」については、対象となる全男性職員が取得できるよう配慮すること。また、「育児休業」についても、男性職員が取得しやすい環境づくりに努めること。

(14) 女性活躍の推進について

- ・ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づき策定された「公立学校における特定事業主行動計画(2021)」の趣旨を踏まえ、継続就業及び仕事とプライベートの両立支援、教職員の働き方改革を推進するため、育児や介護のための休暇・休業等や年次休暇を取得しやすい環境づくりに努めること。
- ・ 教職員の能力育成と資質向上のため、性別に関わらず多様な職務に従事する機会の付与に努めるとともに、育児休業からの復帰支援や研修への参加促進等、女性教職員の意欲向上に努めること。

<参考>

○ 「取組みの重点」に関連した資料

- ・ 「大阪府教員等研修計画」(令和5年3月改訂予定)
- ・ 「初任者等育成プログラム」(令和5年3月改訂予定)
- ・ 「ミドルリーダー育成プログラム」(平成22年より毎年度発行、令和5年3月発行予定)
- ・ 「教職員人権研修ハンドブック」(令和5年3月改訂予定)
- ・ 「次世代の教職員を育てる OJTのすすめ」(令和3年3月改訂)

- (3) に関連した資料
 - ・「大阪府教員等研修計画」(令和5年3月改訂予定)
- (4) に関連した資料
 - ・「教職員の評価・育成システム 手引き」(令和3年3月改定)
 - ・「授業アンケートの手引き ～『教職員の評価・育成システム』で活用するために～」(令和2年3月)
- (6) に関連した資料
 - ・「次世代の教職員を育てる OJTのすすめ」(令和3年3月改訂)
 - ・「メンタリング・ハンドブック」(令和2年3月改訂)
- (9) に関連した資料
 - ・「教職員人権研修ハンドブック」(令和5年3月改訂予定)
- (10) に関連した資料
 - ・「教職員による人権侵害事象の防止徹底のために」(令和2年9月・教人第1087号)
 - ・「学校における人権教育推進のための資料集」(平成29年4月)
 - ・「教職員による人権侵害事象の防止徹底のために」(平成28年12月・教人第1171号)
- (12) に関連した資料
 - ・「教育公務員特例法」(令和5年4月改正)
- (13) に関連した資料
 - ・「大阪府教育委員会特定事業主行動計画(府立学校編)～みんなでサポート！子育てしやすい環境づくり～」(令和2年10月)
 - ・「次世代育成支援対策推進法」(平成15年4月施行)
- (14) に関連した資料
 - ・「公立学校における特定事業主行動計画(2021)」(令和3年4月)
 - ・「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年9月施行)

22 不祥事の防止

公立学校の教職員は、公教育の場において、個人の尊厳を尊重する精神や、規範意識を持って、直接、幼児・児童・生徒を指導するという職責に鑑み、日頃から自重自戒し、厳正な服務規律を保たなければならない。しかしながら、教職員による不祥事が後を絶たず、教職員全体に対する社会の信頼を揺るがしかねない事態となっている。このため、管理職はもとより教職員の服務規律の徹底を図るべく、あらゆる機会を活用し、不祥事の防止・根絶に向けて取り組むことが必要である。

【取組みの重点】

- (ア) 不祥事の発生を予防し、未然防止を図るため、「不祥事防止に向けたワークシート集」その他の関係資料を校内研修等において活用するなど、教職員が不祥事予防について、自ら考える機会を積極的に設けるとともに、関係指針をもとに教職員の指導監督を適切に行い、一層の服務規律の確保を図ること。
- (イ) 事案が生起した場合には、校長が事実関係を的確に把握し、速やかに担当課へ報告するとともに、校内の指導体制を点検し、再発防止に取り組むよう指導すること。
- (ウ) 幼児・児童・生徒に対する体罰、性的な言動（わいせつな発言、性的な内容の電話、手紙又は電子メール等の送付、身体的接触、つきまとい等）、また、痴漢、盗撮、窃盗行為、麻薬・覚醒剤の所持や使用等を含めた不祥事を発生させた教職員に対しては、「職員の懲戒に関する条例」に基づき厳しい処分が行われる旨を周知すること。

【取組み項目】

(1) 飲酒運転について

- ・ 教育に携わる公務員としての自覚のもと、飲酒運転は絶対に行わないこと。
- ・ 飲酒運転を行った教職員に対して、「職員の懲戒に関する条例」に基づき懲戒免職又は停職とするほか、飲酒運転をすることを知らずながら飲酒を勧めた教職員や飲酒運転の車に同乗した教職員に対しても、懲戒免職、停職又は減給等の処分が行われる旨を周知すること。
- ・ 飲酒運転を容認・黙認した教職員についても、厳しい処分が行われる旨を周知すること。

(2) 服務監督について

- ・ 教職員が条例・規則に定められた勤務時間を遵守し、教育に携わる公務員として、保護

者・府民から誤解を招くことのないよう職務に専念させること。

- ・ 休暇等の承認に当たっては、取得要件はもとより、制度の趣旨・意義を踏まえるとともに、適正な事務手続をとること。特に短期介護休暇、子の看護休暇、配偶者の出産休暇及び配偶者の育児参加休暇についても適正な運用を行うこと。また、病気休暇については、関係通知を踏まえ、より一層厳正な運用を行うこと。
- ・ 部活動指導等に従事した場合の教員特殊業務手当の支給に当たっては、支給要件を踏まえ、適正な運用を行うこと。
- ・ 職務専念義務に違反した者、休暇等を不正に取得した者及び教員特殊業務手当を不正に受給した者に対しては、「職員の懲戒に関する条例」に基づき、厳しい処分が行われる

旨を周知すること。

(3) 自家用自動車等を使用しての通勤認定について

- ・ 自家用自動車等を使用しての通勤認定については、校内における事故及び交通事故の防止、環境保全等の観点から自粛すること。
- ・ 職員の健康状態等の理由で自家用自動車等を使用しての通勤認定をする場合には、関係通知を厳格に適用するとともに特別な事情が生じた場合には、教職員企画課長あて協議すること。

(4) 通勤について

- ・ 通勤届出以外の方法による通勤は、通勤手当の不正受給に当たる場合もあることから、厳に慎むよう教職員を指導すること。
- ・ 通勤手当が支給されている職員に対する事後確認は、関係通知に基づき、適正な確認を行うこと。
- ・ 通勤手当の不正受給をした者に対しては、「職員の懲戒に関する条例」に基づき、厳しい処分が行われる旨を周知すること。

(5) 兼職・兼業について

- ・ 教職員はその職務の重要性を自覚し、兼職・兼業は自粛すること。
- ・ 例外的に兼職・兼業を行う場合にあっては、地方公務員法、教育公務員特例法の定めを遵守し、事前に所要の手続きを経ること。

- ・ 兼職・兼業に関する法令に違反した者に対しては、「職員の懲戒に関する条例」に基づき、厳しい処分が行われる旨を周知すること。

(6) 教科書等の執筆、編修、意見聴取等の依頼を受ける場合について

- ・ 教科書発行者からの依頼により、教員が教科書等の執筆、編修、意見聴取等を受ける場合には、対価の支払いの有無に関わらず、教科書発行者に対して依頼文書の提出を求めた上で、校長・准校長による承認を得ること。また、校長・准校長は教科書発行者からの依頼文書を教育庁に送付し、承認した内容について報告すること。
- ・ 教科書発行者から教科書等の執筆、編修、意見聴取等の対価として報酬を得る場合には、必ず、「営利企業の従事等について」許可の申請を行い、承認を得ること。
- ・ 教科書発行者から教科書等の執筆、編修、意見聴取等の依頼を受けた教員は、その教科書発行者が関わる教科書の選定事務に関与しないこと。

(7) 旅費について

- ・ 教職員の旅費に関する条例の規定による「旅行」については、「旅行命令」の趣旨を十分認識し、事前に所定の手続きを執るとともに、承認された旅行手段により旅行を行うこと。

<参考>

○ 「取組みの重点」に関連した資料

- ・ 「教職員の綱紀の保持について（通達）」（令和4年11月30日・教職人第3488号）
- ・ 「児童・生徒に対するわいせつ行為等の防止に係る指導の徹底について（通知）」（令和4年9月16日・教職人第2730号）
- ・ 「児童・生徒に対するセクシャル・ハラスメントの防止について（通知）」（令和4年1月24日・教職人第3847号）
- ・ 「児童・生徒に対するわいせつ行為の禁止の徹底について（通達）」（令和2年12月24日・教職人第3776号）
- ・ 「児童・生徒とのSNS等による私的なやり取りの禁止について（通達）」（令和2年12月24日・教職人第3777号）
- ・ 「不祥事予防に向けて 自己点検《チェックリスト・例》（改訂版）」（令和2年3月改訂）
- ・ 「不祥事防止に向けたワークシート集」（令和2年2月）
- ・ 「大阪府教育委員会服務指導指針」（平成24年11月26日改正）
- ・ 「大阪府教育委員会綱紀保持指針」（平成23年10月4日改正）

○ (2)に関連した資料

- ・ 「病気休暇の承認手続きの見直しについて」（平成25年3月29日・教委職企第2282号）

- (3) に関連した資料
 - ・ 「交通用具の使用による通勤認定事務等の適正化に係る取扱いについて」(平成13年11月16日・令和4年3月31日最終改正・教職企第2885号)
 - ・ 「働き方改革に資する自動車等通勤認定要件の一部緩和について」(平成29年9月7日・教職企第1623号)
 - ・ 「自家用自動車等の使用による通勤認定事務等の適正化について」(平成13年11月16日・平成31年4月24日最終改正・教委職企第1130号)
- (4) に関連した資料
 - ・ 「通勤手当不正受給防止の徹底について」(令和3年8月16日・教職人第2067号)
 - ・ 「通勤手当の事後の確認について」(平成27年3月30日・令和3年3月31日最終改正・教職企第2768号)
 - ・ 「通勤手当の支給方法について」(平成27年3月30日・令和2年2月26日最終改正・教職企第2331号)
 - ・ 「通勤認定の取扱いについて」(平成27年3月19日・教委職企第2054号)
- (5) に関連した資料
 - ・ 「営利企業等の従事制限の許可に関する取扱いについて」(平成24年3月30日・平成28年3月31日最終改正・教委職人第4328号)
- (6) に関連した資料
 - ・ 「教科書発行者による教科書等の執筆、編修、意見聴取等の依頼を受ける場合の遵守事項について」(平成28年7月20日・教高第2150号)

23 体罰・セクハラ防止の取組み

体罰、セクシュアル・ハラスメントは子どもに対する重大な人権侵害であるにもかかわらず、根絶されていない現状を重く受け止め、体罰、セクシュアル・ハラスメントは絶対に許さないということを一人ひとりの教職員が改めて理解・認識するとともに、学校全体として防止・根絶に取り組む必要がある。事象が生じた場合は被害者保護を最優先に組織的に対応する必要がある。

【取組みの重点】

- (ア) 校内研修を実施するなど、教職員に対して指導の徹底を図り、体罰、セクシュアル・ハラスメントを許さない意識を醸成すること。
- (イ) 校内に相談窓口を設置し、幼児・児童・生徒、保護者への周知を徹底するとともに、アンケート調査の活用等あらゆる機会をとらえて実態把握に努めること。
- (ウ) 万一、事象が生じた場合に備えて、迅速かつ的確に対応できる校内体制を整えること。

【取組み項目】

(1) 体罰の防止

- ・ 体罰が、依然として生起している現状がある。体罰は法的に禁じられているばかりでなく、幼児・児童・生徒の人権を著しく侵害する行為であり、いかなる場合においても絶対に許されないことについて、府教育委員会が作成した資料等を活用して研修を行うなど、教職員に周知・徹底を図ること。
- ・ 特に障がいのある幼児・児童・生徒については、全教職員が幼児・児童・生徒の障がいの特性を理解すること。
- ・ 体罰事象の根絶に向けた取組みを実施の上、幼児・児童・生徒の人権に配慮した生徒指導体制を確立すること。

(2) セクシュアル・ハラスメントの防止

- ・ 幼児・児童・生徒に対するセクシュアル・ハラスメントは、断じて許すことのできない重大な人権侵害であるとの認識のもと、関係指針の趣旨を踏まえ、府教育委員会が作成した資料等を活用した研修を実施するなど、その未然防止のための学校体制を確立すること。

- ・ 不必要な身体的接触や性的な内容の発言等、幼児・児童・生徒を不快にさせるような言動はセクシュアル・ハラスメントとなることを教職員に十分認識させること。
- ・ 幼児・児童・生徒に対するセクシュアル・ハラスメントやわいせつ行為はもとより、教職員と児童・生徒との不適切な交際についても、「職員の懲戒に関する条例」に基づき厳しい処分が行われる旨を周知すること。
- ・ 障がいのある幼児・児童・生徒の指導や介助に当たっては、府教育委員会が作成した資料を参考に指導方法の点検を行うこと。
- ・ 定期健康診断の実施に当たっては、関係通知を参考に実施方法等の評価点検を行うこと。

(3) 相談窓口・被害者救済システムの周知と事象への対応

- ・ 体罰、セクシュアル・ハラスメント事象に対して、各学校の相談窓口が機能するように努めること。
- ・ 府教育委員会が作成したリーフレットを活用し、府教育センターの「LINE相談」、「すこやか教育相談 24」等や民間支援機関と連

携した「被害者救済システム」を、児童・生徒、保護者及び教職員に周知すること。

- ・ 万一、体罰、セクシュアル・ハラスメント事象が生じた場合には、被害者の人権を尊重するとともに二次被害の発生防止に努め

ること。同時に府教育庁と速やかに連携を図り、事象の解決と被害者の心のケアに努めること。そのために迅速かつ的確に対応できる校内体制を整えること。

<参考>

○ 「取組みの重点」に関連した資料

- ・ 「教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」（令和3年6月）
- ・ 「児童・生徒に対するわいせつな行為の禁止の徹底について（通達）」（令和2年12月24日・教職人第3776号）
- ・ 「児童・生徒とのSNS等による私的なやり取りの禁止について（通達）」（令和2年12月24日・教職人第3777号）
- ・ 「令和2年度セクシュアル・ハラスメントに関するアンケートの実施について」（令和2年7月6日・教高第1938号）
- ・ 「子どもを守る被害者救済システム」（令和元年12月改定）
- ・ 「児童生徒健康診断の実施におけるセクシュアル・ハラスメント等の防止について」（平成29年12月8日改正）
- ・ 「教職員による児童生徒に対するセクシュアル・ハラスメント防止のために ～未然防止・子どもの立場にたった適切な対応の指針～」（平成29年5月改訂）
- ・ 「体罰根絶に向けた取組の徹底について」（平成25年8月20日・教委高第2328号）
- ・ 「体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底について」（平成25年3月21日・教委高第3966号）
- ・ 「セクシュアル・ハラスメント防止のために－障がいのある幼児・児童・生徒の指導や介助方法における留意点－」（平成22年11月）
- ・ 「セクシュアル・ハラスメントを許さない学校に」（平成21年4月）
- ・ 「セクシュアル・ハラスメント・ガイドライン」（平成20年3月改訂）
- ・ 「体罰防止マニュアル（改訂版）」（平成19年11月）
- ・ 「教職員による児童・生徒に対するセクシュアル・ハラスメントを防止するために Q A集」（平成15年3月）

○ (1) に関連した資料

- ・ 『不適切な指導・介助等に関する自己チェックシート』の活用について」（令和2年5月22日・教支第1275号）
- ・ 「体罰根絶に向けた取組の徹底について」（平成25年8月20日・教委高第2328号）
- ・ 「体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底について」（平成25年3月21日・教委高第3966号）
- ・ 「体罰防止マニュアル（改訂版）」（平成19年11月）

○ (2) に関連した資料

- ・ 「児童・生徒に対するわいせつ行為等の防止に係る指導の徹底について（通達）」（令和4年9月16日・教職人第2730号）
- ・ 「児童・生徒に対するセクシュアル・ハラスメントの防止について（通達）」（令和4年1月24日・教職人第3847号）
- ・ 「教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」（令和3年6月）
- ・ 「児童・生徒に対するわいせつな行為の禁止の徹底について（通達）」（令和2年12月24日・教職人第3776号）
- ・ 「児童・生徒とのSNS等による私的なやり取りの禁止について（通達）」（令和2年12月24日・教職人第3777号）
- ・ 「児童生徒健康診断の実施におけるセクシュアル・ハラスメント等の防止について」（平成29年12月8日改正）
- ・ 「教職員による児童・生徒に対するセクシュアル・ハラスメント防止のために」（平成29年5月改訂）
- ・ 「セクシュアル・ハラスメント防止のために－障がいのある幼児・児童・生徒の指導や介助方法における留意点－」（平成22年11月）
- ・ 「セクシュアル・ハラスメントを許さない学校に」（平成21年4月）
- ・ 「セクシュアル・ハラスメント・ガイドライン」（平成20年3月改訂）
- ・ 「教職員による児童・生徒に対するセクシュアル・ハラスメントを防止するために Q A集」（平成15年3月）

○ (3) に関連した資料

- ・ 「令和2年度セクシュアル・ハラスメントに関するアンケートの実施について」（令和2年7月6日・教高第1938号）
- ・ 「子どもを守る被害者救済システム」（令和元年12月改定）
- ・ 「セクシュアル・ハラスメントを許さない学校に」（平成21年4月）

24 個人情報の適正な管理

府立学校において、個人情報の紛失や流出等の事象が度重なり生起していることを踏まえ、何よりもまず、個人情報の取扱いに対する教職員の意識を高めることが必要である。そのためには、教職員一人ひとりが個人情報の適正な取扱いができるよう、定められた手順を守ることをはじめ、個人情報の管理のためのルールの徹底を図る必要がある。

また、ICTを利用したアンケートによる個人情報の流出も生起しており、適切な運用に向けたルール等の作成、徹底が必要である。

【取組みの重点】

- (ア) 「大阪府教育委員会における個人情報の安全管理に関する基本方針」及び「大阪府教育委員会における個人情報の取扱い及び管理に関する要綱」（平成27年12月4日決定）に基づき、個人情報の適正な取扱いに努めること。
- (イ) 個人情報の誤送付や紛失が相次いでいる現状を踏まえ、「個人情報の適正管理のために」（平成30年9月）等を用いて、教職員に対し研修を行うとともに一人ひとりに個人情報を取り扱う者としての責任の重さを改めて強く意識させること。
- (ウ) 個人情報を収集する際は、その必要性、妥当性及び収集方法を十分に検討したうえで行うこと。特に、ICTを利用して個人情報を収集する際には、用いるアンケート等の様式の設定等を必ず複数名で確認し、動作検証を行ったうえで実施すること。
- (エ) 万一事象が生じた場合には、速やかな連絡・報告が必要となるため、あらかじめその方法を全教職員に周知徹底するとともに、事後の対応が迅速かつ的確にできる体制についても整えておくこと。

【取組み項目】

（1）情報管理規定の策定

- ・ 「個人情報保護法」「個人情報保護条例」「情報公開条例」及び「大阪府教育委員会における情報セキュリティに関する基本要綱」等の趣旨に基づき、個人情報の収集、利用、提供、適正管理については、電子情報も含め、校内で情報管理規定を定め、適切に対応すること。
- ・ 特に特定個人情報（個人番号（マイナンバー）が記載された個人情報）や要配慮個人情報（信条や病歴等、本人に対する不当な差別、偏見が生じないように特に配慮を要するもの）の取扱いに当たっては、関係法令や内閣府特定個人情報保護委員会の「特定個

個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン」を踏まえて策定した「大阪府教育委員会における個人情報の安全管理に関する基本方針」、「大阪府教育委員会における個人情報の取扱い及び管理に関する要綱」及び個別業務における要領等を踏まえ、安全管理措置等を講じるなど、特定個人情報や要配慮個人情報の保護、管理を徹底すること。

（2）行政文書や個人情報の適切な取扱い

- ・ 定期考査の答案用紙、通知票、成績を記録した表簿等の個人情報を含む文書（個人情報を記録した電子媒体を含む。）の取扱い、管理・保管を厳正なものとするため、万全の管理体制を確立すること。

- ・特に、個人情報は原則として、外部記録媒体に保存せず、統合ICTネットワーク上(セキュリティモード)の学校共有フォルダ(Sドライブ)又は個人用フォルダ(Tドライブ)に保存すること。
- ・校内における行政文書等の管理を一層適切に行うとともに、不要な書類については廃棄すること。また、府民からの情報公開等の請求に対しては的確に対応すること。

(3) 情報機器からの情報漏洩の防止

- ・コンピュータで情報の処理を行う際には、ネットワーク等を通じて情報の漏洩が生じないように、校内で作成した取扱規定を全教職員に周知・徹底し、電子情報や記憶媒体の特質に応じた万全の対策を講じること。
〔関連記載 P53:(6) 校務におけるICT活用の推進〕

<参考>

○「取組みの重点」に関連した資料

- ・「令和4年度 教育庁個人情報の適正管理等に関する研修資料」(令和4年9月)
- ・「大阪府教育委員会における情報セキュリティに関する基本要綱」(令和4年8月29日・教総第2052号)
- ・「社会的養護の児童における個人情報の取扱いについて」(令和3年8月25日・教高2515号)
- ・『大阪府教育委員会における個人情報の取扱い及び管理に関する要綱』及び『大阪府教育委員会における個人情報の安全管理に関する基本方針』の一部改正について」(令和2年1月9日・教総第2635号)
- ・「個人情報の適正管理のために」(平成30年9月12日・教高第2583号)
- ・「個人情報の適正な管理について」(平成27年6月3日・教委高第1653号)
- ・「統合ICTネットワークへの個人情報データ移行について」(平成26年7月1日・教委高第1910号)
- ・「個人情報の適正な管理等について」(平成24年6月20日・教委高第1776号／教委施財第1809号)
- ・「個人情報の適正な管理・保管について」(平成16年6月9日・教委学事第1427号)

○(1)に関連した資料

- ・「大阪府教育委員会における情報セキュリティに関する基本要綱」(令和4年8月29日・教総第2052号)
- ・「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン」(令和2年5月改正・内閣府)
- ・「大阪府教育委員会における個人情報の取扱い及び管理に関する要綱」(令和2年1月改正)
- ・「大阪府教育委員会における個人情報の安全管理に関する基本方針」(令和2年1月改正)

○(2)に関連した資料

- ・「令和4年度 教育庁個人情報の適正管理等に関する研修資料」(令和4年9月)
- ・「社会的養護の児童における個人情報の取扱いについて」(令和3年8月25日・教高第2515号)
- ・「USBメモリの使用状況の調査について」(令和元年6月26日・教高第2058号)
- ・「個人情報の適正管理のために」(平成30年9月12日・教高第2583号)
- ・「文書の適正な管理について」(平成28年3月31日・教委高第4126号)
- ・「個人情報の適正な管理について」(平成27年6月3日・教委高第1653号)
- ・「統合ICTネットワークへの個人情報データ移行について」(平成26年7月1日・教委高第1910号)
- ・「個人情報の適正な管理等について」(平成24年6月20日・教委高第1776号／教委施財第1809号)
- ・「個人情報の適正な管理・保管について」(平成16年6月9日・教委学事第1427号)

25 職場におけるハラスメントの防止

職場におけるハラスメント行為は、働く人が能力を十分に発揮することの妨げになることはもちろん、個人の人格や尊厳を侵害するとともに、職場環境を悪化させる許されない行為であることをすべての教職員が認識しなければならない。性別、年齢、国籍、障がいの有無等に関わらず、すべての教職員にとって快適で働きやすい職場環境づくりを進めるためには、ハラスメントを根絶する必要がある。

【取組みの重点】

- (ア) 職場におけるハラスメントの防止及び再発防止に向けて、指針の周知徹底を図るとともに、校内研修の実施や「パワハラ セルフチェック」シートの活用等を通じて教職員の意識啓発を一層図ること。
- (イ) 校内の相談体制の整備に努め、教職員に相談窓口の周知を図ること。また、窓口の担当者を中心に、普段から相談しやすい体制を整えること。
- (ウ) ハラスメントのない、快適な働きやすい職場環境づくりを進めること。その際、性的指向及び性自認の多様性に関する理解の増進に努めること。
- (エ) まず管理職自身がハラスメントに対する感覚を養い、職場におけるハラスメント防止により一層努めること。万一事象が生起した場合には、速やかに事実関係を把握するとともに、被害者に寄り添いながら丁寧に対応すること。

<参考>

- 「取組みの重点」に関連した資料
 - ・ 「職場における教職員間のハラスメント相談員の手引き」（令和4年10月）
 - ・ 「職場におけるパワー・ハラスメントの防止及び対応に関する指針」（令和4年4月1日改正）
 - ・ 「職場におけるセクシュアル・ハラスメントの防止及び対応に関する指針」（令和4年4月1日改正）
 - ・ 「職場における妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントの防止及び対応に関する指針」（令和4年4月1日改正）
 - ・ 「ハラスメント『0（ゼロ）』に向けて」教育長メッセージ（令和4年4月1日・教職人第1863号）

26 「指導が不適切である」教員への対応

「指導が不適切である」と思われる教員の指導力向上のために、「教員評価支援チーム」と学校が連携を強化し、適切に対応することが必要である。

【取組みの重点】

- (ア) 校長は、授業観察あるいは生徒や保護者等からの意見・苦情等により「指導が不適切である」と思われる教員の状況把握を的確に行うとともに、当該教員への適切な指導・助言、校内研修の実施等、校内におけるサポート体制を整備し、その充実を図ること。
- (イ) 「教員評価支援チーム」及び府教育センターの相談・支援機能を積極的に活用し、早期改善に努めること。
- (ウ) 校長は、指導改善研修が必要であると判断した場合は、府教育庁に申請し、十分連携して対応すること。
- (エ) 新規採用教職員については、指導・育成を図るとともに、条件付採用の趣旨を踏まえて厳格に対応すること。

<参考>

- 「取組みの重点」に関連した資料
 - ・ 「教員の資質向上をめざして－『指導が不適切である』教員への支援及び指導の手引き－」（平成31年4月改訂）

第5章の関連事項

(1) 学校会計事務の適正化

- ・ 学校における契約事務、とりわけ2者以上から見積書を徴取して業者を決定する手続きについて、「随意契約ガイドライン」や「随意契約見積心得」を遵守し、契約手続きの公平性、透明性の確保を図るとともに、毎年度、担当職員への聞き取り等により実施状況の確認を行うこと。
- ・ 学校徴収金の預り金会計については、事業終了後速やかに保護者等に対し精算報告を行い、返還又は保護者等に周知したうえで、次年度学年費に充当、繰越等の処理手続きをすること。
- ・ 学校指定物品、卒業アルバムの支払いについては、代金引換や後払い方式を徹底すること。
- ・ 修学旅行の支払いは概算払いとするが、支払いは旅行出発日の30日前から前日までに行うこととし、支出の際は、契約局の入札参加資格の停止の有無等を確認すること。

(2) 廃棄物処理等事務の適正化

- ・ 関係法令・要領・手引きに基づき、産業廃棄物の保管及び処分、並びに特別管理産業廃棄物〔※1〕の保管及び管理又は処分について、適正に事務を行うこと。
〔※1〕特別管理産業廃棄物とは、廃油(揮発油類)、廃酸、廃アルカリ、感染性産業廃棄物、特定有害産業廃棄物(廃ポリ塩化ビフェニル(PCB)、ポリ塩化ビフェニル(PCB)汚染物、廃水銀等)をいう。

(3) 非常勤職員の効果的な配置と活用

- ・ 学校教育に求められている課題に積極的に対応するため、非常勤職員の効果的な配置と活用に努めること。
- ・ 内申等の手続きに当たっては、「講師希望者

登録のお知らせと講師制度の概要」等によって、勤務条件を明示するなど、適正に行うこと。

また、発令に当たっては、「勤務条件明示書」の交付を徹底するとともに、勤務回数等を変更する必要がある場合には、必ず変更後の勤務条件を明示すること。あわせて、勤務状況等を常に把握するとともに、適切な管理及び指導に当たること。

(4) 就学支援金制度等の周知と授業料等の未納防止対策

- ・ 就学支援金制度と、奨学のための給付金制度については、生徒や保護者等が十分に制度を理解し、必要な手続きを行うように周知に努めること。
- ・ 授業料等の未納者に対しては、事務取扱要領の別紙「授業料等の納入指導事務の流れ」に基づき、家庭訪問等による面談等、積極的な納入指導に取り組むとともに、「債権の回収及び整理に関する条例」、「財務規則」及び「債権回収・整理マニュアル」に基づき適正な債権管理を行うこと。なお、通常の納入指導では徴収することが困難な場合は、府教育庁に徴収事務を引き継ぐこと。
- ・ 入学料は入学前納付としている趣旨及び修学支援の制度等について十分説明し、未納防止に努めること。入学許可の取消しについては、「聴聞手続」など適正な手続きを経た後、実施すること。
- ・ 授業料や入学料に未収がある場合は、「大阪府税外収入延滞金徴収条例」の適用を受け延滞金を徴収することになる可能性があることに留意すること。

(5) 行政の福祉化

- ・ 府立学校における校舎等の建物清掃や除草業務等の実施に当たっては、本府の全庁的

取組みを踏まえ、知的障がい者の清掃訓練の場の確保・拡大を支援するよう努めること。

(6) 備品の適正管理

・ 備品の管理に当たっては、物品管理者（校

長）、物品取扱責任者（事務(部)長・課長補佐・主査）が定期的に現物調査し、照合確認等すること。

・ 物品取扱者（教職員）は、その担当する備品について、責任を持って保管・利用・照合確認等を行うこと。

<参考>

- (1) に関連した資料
 - ・ 「学校徴収金等の会計処理基準」(令和3年4月1日一部改正・教施財第5405号)
 - ・ 「学校徴収金等取扱マニュアル」(令和3年4月一部改正)
- (2) に関連した資料
 - ・ 「大阪府PCB廃棄物適正管理の手引き」(令和3年5月25日改正)
 - ・ 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」(令和元年法律第37号改正)
 - ・ 「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」(平成28年法律第34号改正)
- (3) に関連した資料
 - ・ 「大阪府公立学校一般職非常勤職員就業等規則」(令和4年4月1日) 注) 教職所管分の例規
 - ・ 「会計年度任用職員事務マニュアル」(令和4年4月) ※各室発出
 - ・ 「人事事務処理要領」(教育庁教職員室庁内Webページ)
 - ・ 「教職 Q救箱(様式集)」(教育庁教職員室庁内Webページ)
 - ・ 「非常勤職員雇用事務について」(教育庁学校総務サービス課庁内Webページ)
- (4) に関連した資料
 - ・ 「大阪府立学校授業料等徴収事務取扱要領」(令和3年3月31日改正・教施財第5488号)
 - ・ 「大阪府税外収入延滞金徴収条例」(平成22年11月4日条例第60号)
- (6) に関連した資料
 - ・ 「備品管理の適正化について」(平成23年7月13日・教委施財第1661号)

27

防災教育をはじめとする災害時に迅速に対応するための備えの充実と安全・安心な教育環境の確保

東日本大震災や大阪府北部を震源とする地震、また、台風をはじめとする自然災害等の教訓を踏まえるとともに、南海トラフ地震等の今後発生が予想される自然災害等に備え、学校の実態に応じ、自然災害から幼児・児童・生徒の命を守るため地域と連携した取り組みが必要である。

大規模災害の発生時には、避難所が開設されるまでの間、各学校が地域住民の避難先となることもあるため、地域と連携し、学校の組織体制を整えておく必要がある。

【取組みの重点】

- (ア) 火災のみならず、様々な自然災害等を想定した実践的な避難訓練を地域と連携して行うことなどにより、幼児・児童・生徒に自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度」を育成するとともに、自らが支援者となる観点を踏まえ、「共助」に関する意識の向上を図ること。なお、避難経路等に物が置かれていないかなどの確認を定期的実施すること。
- (イ) 防災計画を策定し、日頃から教職員への連絡方法や配備体制及び参集について周知徹底すること。併せて、ハザードマップや近隣の避難場所などの情報も収集して、万一の場合の自校の避難場所を想定し、危機管理マニュアルや大規模災害時初期対応マニュアルに明記するとともに、実効性のあるマニュアルとなるよう点検・見直しを行い、災害に備えた危機管理体制の確立を図ること。
- (ウ) 教職員には「教職員防災必携」を常に携帯させ、非常配備が発令された場合は、それに従って行動するよう指導を徹底しておくこと。
- (エ) 学校事故等の未然防止のために、各校において定める安全点検を定期的に行うこと。また、学校管理下において事故等が発生した場合には、幼児・児童・生徒の安全の確保を最優先に、危機管理マニュアル等に基づき、迅速かつ適切な対応を行うとともに、事後においては、再発防止の対策を講じること。

【取組み項目】

(1) 学校安全計画の策定

- ・ 「学校保健安全法」に基づき学校安全計画を策定すること。策定に当たっては、学校の状況や前年度の学校安全の取組状況等を踏まえ、「生活安全」「交通安全」「災害安全」の3領域すべての観点から、具体的な実施計画とすること。
- ・ 学校安全活動においては、すべての教職員が役割を分担するとともに、中核となる学校安全担当者を明確にし、学校安全の推進体制を整備すること。

(2) 緊急事態への対処

- ・ 万一の事件・事故の発生をはじめ、あらゆる緊急事態に対処できるよう防犯計画を策定し、救急体制及び防犯訓練等の危機管理体制を確立すること。また、実効性のある計画となるよう、適宜点検・見直しを行うこと。
- ・ 教職員の連絡・配備体制について日頃から周知徹底を図ること。

(3) 安全確保及び学校の安全管理

- ・ 子どもの安全を脅かす事象に対しては、学

校及び子どもの安全を守るための諸通知に基づき、授業中はもとより、登下校時、放課後、長期休業期間中の登校日等における必要な措置を講じること。

- ・ 学校内外における幼児・児童・生徒の安全確保及び学校の安全管理に努めるとともに危機管理マニュアルを作成し、様々な事態を想定した実践的な訓練を行うなど、安全教育の一層の充実を図ること。とりわけ、幼稚部、小・中学部を設置する支援学校及び中学校の登下校時については、「登下校時の幼児・児童・生徒の集合場所等の点検」の結果を踏まえ、学校・家庭・地域住民・警察・自治体の関係部局等の関係機関と連携し、学校や地域の実情に応じた安全対策に取り組むこと。その際には「登下校防犯プラン」の趣旨を踏まえたものとする。
- ・ 6月を「子どもの安全確保推進月間」、6月8日を「学校の安全確保・安全管理の日」として、幼児・児童・生徒の安全確保に向けた

取組みを点検し、その強化を図ること。

- ・ 改正道路交通法及び大阪府自転車条例を踏まえ、交通安全教室を開催し、交通安全に関する指導を充実すること。とりわけ登下校時の自転車利用について、ルールやマナー等を徹底すること。また、幼児・児童・生徒及び保護者に対し、大阪府自転車条例で、自転車を利用する者に保険への加入が義務付けられたこと及び、道路交通法の一部改正に伴い、自転車乗用時にヘルメット着用が努力義務化されたこと等を警察やPTAと連携するなどして周知すること。

(4) 安全対策の推進

- ・ 警察等の関係機関の職員、保護者、地域における犯罪の防止に関する自主的な活動を行う府民等の参加を求めて、「学校等安全対策推進会議」の設置を図るなど、安全対策を推進するための体制の整備・充実に努めること。

<参考>

- 「取組みの重点」に関連した資料
 - ・ 「令和4年度府立学校の防犯及び防災計画等の作成及び提出並びに非常変災時の報告について」(令和4年6月8日・教高第1589号)
 - ・ 「学校における避難確保計画作成の徹底及び避難の実効性確保について」(令和3年6月30日・教保第1616号)
 - ・ 「『学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン』の活用について」(令和3年6月17日・教保第1507号)
 - ・ 「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応について」(令和2年7月6日・教高第1905号)
 - ・ 「学校における防災教育の手引き(改訂2版 補訂版)」(令和元年6月改訂、令和3年3月補訂)
 - ・ 「『教職員防災必携』について」(平成30年9月12日・教高第2583号)
 - ・ 「学校の危機管理マニュアル作成の手引き」(平成30年2月・文部科学省)
 - ・ 「大規模災害時初期対応マニュアル」の作成について(平成29年3月31日・教高第4137号)
 - ・ 「『大阪府津波浸水想定』の設定について」(平成25年8月27日・教委保第1831号)
 - ・ 「学校防災のための参考資料『生きる力』を育む防災教育の展開」(平成25年3月・文部科学省)
 - ・ 「学校防災マニュアル(地震・津波災害)作成の手引き」(平成24年3月・文部科学省)
- (1)に関連した資料
 - ・ 学校保健安全法(平成27年6月改正)
- (2)に関連した資料
 - ・ 「令和4年度府立学校の防犯及び防災計画等の作成及び提出並びに非常変災時の報告について」(令和4年6月8日・教高第1589号)
 - ・ 「『学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン』の活用について」(令和3年6月17日・教保第1507号)
 - ・ 「学校の危機管理マニュアル ー子どもを犯罪から守るためにー」(平成19年11月・文部科学省)
 - ・ 「不審者侵入防止、侵入時の迅速かつ的確な対応のために」(平成17年3月)
 - ・ 「子どもの安全確保に関する取組事例集『があと』」(平成16年3月)
 - ・ 「不審者侵入防止・侵入時の危機管理マニュアル(参考例)」(平成15年12月)
- (3)に関連した資料
 - ・ 自転車等の安全利用促進に向けた警察との更なる連携強化について(依頼)(令和4年9月9日・教保第2035号)
 - ・ 「登下校時の児童生徒の集合場所等の点検について」(令和元年8月23日・教保第1806号)

- 「学校安全参考資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」(平成31年3月・文部科学省)
 - 『『登下校防犯プラン』について』(平成30年7月3日・教保第1527号)
 - 「大阪府自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」の施行について(平成28年3月25日・教委保第2747号)
 - 「交通安全教材DVD『安全な通学を考える～加害者にもならない～』(平成24年3月・文部科学省)
 - 「こどもエンパワメント支援指導事例集」(平成19年3月改訂)
 - 「学校安全緊急アピール –子どもの安全を守るために–」(平成16年1月・文部科学省)
 - 「学校の安全管理に関する取組事例集」(平成15年6月・文部科学省)
 - 「安全教育教材ビデオ『きけん いろいろ たまむしハカセの安全教室』(平成15年3月)
 - 「公立の学校における幼児、児童及び生徒の安全の確保に関する指針」(平成14年10月)
 - 「学校における児童生徒等の安全を確保するために」(平成13年7月)
- (4)に関連した資料
- 「地域ぐるみの学校安全体制整備事例集」(平成23年3月・文部科学省)
 - 「学校の危機管理マニュアル –子どもを犯罪から守るために–」(平成19年11月・文部科学省)
 - 「不審者侵入防止、侵入時の迅速かつ的確な対応のために」(平成17年3月)
 - 「子どもの安全確保に関する取組事例集『があど』」(平成16年3月)
 - 「不審者侵入防止・侵入時の危機管理マニュアル(参考例)」(平成15年12月)

資料

I 大阪府の教育相談

I 大阪府教育センター

名 称 すこやか教育相談

内 容 府内の児童・生徒、保護者、教職員に対し、教育上の様々な問題や悩みについて、電話、メール、面接、LINEによる教育相談（学校教育相談、家庭教育相談、教職員相談、支援教育相談）を実施する。（相談は無料、秘密は厳守する。）

- ・ 児童・生徒へのセクシュアル・ハラスメントに関する相談は、相談者が希望する性の相談員が応じる。
- ・ 相談員は、精神科医、臨床心理士、相談担当職員など

電話番号 子どもからの相談（すこやかホットライン）

電話 **06-6607-7361** 電子メール sukoyaka@edu.osaka-c.ed.jp

保護者からの相談（さわやかホットライン）

電話 **06-6607-7362** 電子メール sawayaka@edu.osaka-c.ed.jp

教職員からの相談（しなやかホットライン）

電話 **06-6607-7363** 電子メール sinayaka@edu.osaka-c.ed.jp

高校中途退学に関する相談（学びふたたびホットライン）

電話 **06-6607-7353**

24時間対応「すこやか教育相談24」

（平日の相談時間以外や、土、日、祝日の電話相談も受け付けている。）

電話 **0120-0-78310** FAX **06-6607-9826**（教育相談室直通）

受付 月曜日～金曜日 午前9時30分～午後5時30分（祝日、年末年始は休み）

ただし、電子メール・FAX受付24時間、回答は後日

面接相談は学校を通しての予約が必要

LINE相談は児童・生徒のみ毎週月曜日および特設日の17時から21時

場 所 大阪府教育センター 教育相談室（本館5階）

〒558-0011 大阪市住吉区苅田4-13-23

交通機関 **Osaka Metro** 御堂筋線 「あびこ」駅下車 東北東へ約700m

JR阪和線 「我孫子町」駅下車 東へ約1400m

近鉄南大阪線 「矢田」駅下車 西南西へ約1700m

※ 『すこやか教育相談』のホームページは、

<https://www.osaka-c.ed.jp/matters/consultation/sukoyaka/index.htm>

2 大阪府高等学校教育支援センター（大阪府教育センター所管）

名 称 大阪府高等学校教育支援センター

内 容 心理的又は情緒的な原因などによって、登校の意志があるにもかかわらず登校できない状態にある高校生（府立中学生を含む。）を対象に学校復帰を支援し、社会自立をめざして学習支援や心理支援を行う。

場 所 〒558-0011 大阪市住吉区苅田4-13-23 大阪府教育センター本館5階

問合せ先 大阪府高等学校教育支援センター 電話：**06-6607-7366**

午前9時～午後4時（土・日・祝日を除く）

3 大阪府警察本部生活安全部少年課少年育成室

名 称 グリーンライン（電話相談）

電話番号 **06-6944-7867**

電話受付 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時 **45分**

主な相談取扱内容

子どもの非行問題やしつけ等、未成年に関する困りごとや、いじめや友達付き合い等での悩みの相談を本人や保護者等から電話で受ける。

名 称 青少年クリニック（面接相談）

電話番号 **06-6773-4970**

電話受付 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時 **45分**

主な相談取扱内容

問題行動の原因を探り、その子どもや問題に合った指導方法を一緒に考えたり、被害を受けた子どもへの心のケアを行う。また、心理判定員が子どもに対して心理テストを行い、保護者には少年補導職員等が、面接とともに親子関係を測るテストなどを行い、テスト結果も合わせて総合的に判断して指導・助言をする。面接を受けるためには、直接電話するか、最寄りの警察署（少年係）に連絡し、予約をする。

4 大阪府こころの健康総合センター

電話番号 **06-6691-2818**（相談支援・依存症対策課 直通）

電話受付 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時 **45分**（祝日・年末年始は休み）

第2・第4土曜日 午前9時～午後5時 **30分**（依存症の相談）

主な相談取扱内容（予約制）

専門相談として、アルコール・薬物・ギャンブル等依存症でお悩みの本人や家族からの相談をお受けしています。また、大切な人を自死で亡くされた方の相談もお受けしています。

その他、下記の電話相談を実施しています。

名 称 こころの電話相談

電話番号 **06-6607-8814**

電話受付 月曜日～金曜日 午前9時 **30分**～午後5時（祝日・年末年始は休み）

※ 毎週水曜日は、若者専用の電話相談（わかぼちダイヤル）を行っています。

名 称 こころの健康相談統一ダイヤル（電話相談）

電話番号 **0570-064-556**

電話受付 月曜日～金曜日 午前9時 **30分**～午後5時（祝日・年末年始は休み）

5 子ども家庭センター（面接相談可能）

名 称	電話番号	区 分
中央子ども家庭センター	072-828-0161	守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市に住んでいる方
池田子ども家庭センター	072-751-2858	豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町に住んでいる方
吹田子ども家庭センター	06-6389-3526	吹田市、高槻市、茨木市、摂津市、島本町に住んでいる方
東大阪子ども家庭センター	06-6721-1966	東大阪市、八尾市、柏原市に住んでいる方

富田林子ども家庭センター	0721-25-1131	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村に住んでいる方
岸和田子ども家庭センター (生活福祉課以外)	072-445-3977	泉大津市、和泉市、高石市、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町に住んでいる方
岸和田子ども家庭センター (生活福祉課※)	072-430-4321	忠岡町、熊取町、田尻町、岬町に住んでいる方

※ 生活困窮者に係る相談等を担当。

- ・ いずれも月曜日～金曜日の午前9時～午後5時45分（祝日、年末年始を除く）
- ・ 各府民センタービル内に設置していた青少年相談コーナーは、平成29年3月末をもって廃止され、同年4月1日以降、子ども家庭センターにおいて、青少年相談に対応しています。
- ・ 上記時間帯以外は、072-295-8737（夜間休日虐待通告専用電話※大阪市・堺市を除く）
- ・ 子ども専用「子どもの悩み相談フリーダイヤル」0120-7285-25（24時間365日対応）

「児童相談所虐待対応ダイヤル」189（いちはやく）について

令和元年12月より、児童相談所虐待対応ダイヤル「189」（いちはやく）が無料化されました。

「189」にかけると、お住まいの地域の児童相談所につながります。

※ 一部のIP電話からはつながりません。

6 公立学校共済組合大阪支部 大阪メンタルヘルス総合センター

組合員等の心身の健康増進のため、公認心理師等の専門家が様々なこころの相談に応じるほか、教育委員会や学校等所属所単位等で開催するメンタルヘルスに関する研修会等に講師を派遣している。

所在地 〒664-8533 兵庫県伊丹市車塚3丁目1番地 公立学校共済組合近畿中央病院

※ 土曜日（毎週）及び水曜日（月2回）、以下で出張相談を実施

〒543-0031 大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12 ホテルアウィーナ大阪

電話 0120-556-879

URL <https://www.kich.itami.hyogo.jp/osaka-mh/>

（下記についての詳細はホームページをご確認ください。）



【相談事業】

- ① 対象 組合員と被扶養者
- ② 相談内容 ご自身のこころの健康に関する相談
管理職からの職場環境・教職員のメンタルヘルス等に関する相談

※ 相談内容は秘密厳守で実施

- ③ 相談形式 対面及びオンラインによる相談
- ④ 費用 無料
- ⑤ 相談スタッフ 公認心理師等（必要に応じて医師が対応）
- ⑥ ご利用方法

■相談予約

【電話番号】 0120-556-879 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時15分

【インターネット予約】 ホームページ内予約フォームにて24時間受付

■開設日、開設時間等

月曜日～土曜日午前9時～午後5時1回50分以内

※ 年末年始（12月29日～1月3日）ならびに「国民の祝日に関する法律」に規定された休日を除く
【研修事業】

- ① 研修会等
職場環境改善、メンタルヘルス不調のある教職員への対応方法等をテーマとする管理職研修、
また教職員のメンタルヘルスに焦点を当てた一般研修を実施
- ② 研修会等への講師派遣事業
学校等の所属所単位等で開催するメンタルヘルスに関する研修会等に講師を派遣
※ 組合員 10人以上の参加を条件
※ 派遣に要する費用は無料

【復職支援事業】

- ① 休業中の支援「こころのホッとステップ講座」
精神疾患で休業中の組合員を対象に、療養中の過ごし方や復職に向けての気持ちの持ち方をテーマとする講座
- ② 復職後の支援「復職後支援講座」
精神疾患による休業から復職し、概ね1年以内の組合員を対象に、復職後の過ごし方や再発・再休業を防止する働き方をテーマとする講座

II カリキュラムNAV i プラザ（カリナビ）

教員の授業力向上のための支援などを目的とし、大阪府教育センター内にカリナビを開設し、①カリキュラムに関する相談・情報発信、②学びを深めるための研究・研修支援、③学校づくりや授業づくりに関する資料収集・発信等を行っている。

場 所 大阪府教育センター内（本館2階）
〒558-0011 大阪市住吉区苅田4-13-23
連絡先 電話 06-6692-1657（直通） FAX 06-6692-1224
電子メール navi@edu.osaka-c.ed.jp
交通機関 Osaka Metro 御堂筋線 「あびこ」駅下車 東北東へ約700m
JR 阪和線 「我孫子町」駅下車 東へ約1400m
近鉄南大阪線 「矢田」駅下車 西南西へ約1700m

III 大阪府自立支援通訳派遣事業

永住帰国後3年以内で大阪府に定着する中国残留邦人等の家族（二世）等、一定の要件に該当する中国帰国者が小学校、中学校及び高等学校に通学する子（三世）について学校に相談する場合や医療機関での適切な受診等、関係行政機関等からの助言、指導及び援助を容易に得られるよう、中国語と日本語の通訳を行う自立支援通訳を派遣し、中国帰国者の自立の促進を図っている。

問い合わせ先 府福祉部地域福祉推進室社会援護課(恩給援護グループ) TEL 06-6944-6662

IV 大阪府少年サポートセンター

大阪府内には、10ヶ所の少年サポートセンターがあり、青少年の健全育成のために関係諸機関との連携を保ちつつ、街頭補導や少年相談業務に当たっている。各センターの担当区域等の概要は以下のとおりである。

名称	所在地	電話番号	担当区域
中央	大阪市天王寺区伶人町2-7 大阪府夕陽丘庁舎4階	少年育成室 06-6772-4000 育成支援室 06-6772-6662	大阪市域のうち、都島区、天王寺区、 中央区の一部（旧東区）、東成区、 城東区、旭区、生野区、鶴見区、 平野区、阿倍野区、東住吉区

梅田	大阪市北区末広町 3-21 扇町センタービル6階 605 号	少年育成室 06-6362-2225 育成支援室 06-6311-0660	大阪市域のうち、北区、福島区、此花区、淀川区、東淀川区、西淀川区
難波	大阪市中央区東心斎橋 2-1-3 日垂ビル2階	少年育成室 06-6211-3400 育成支援室 06-6211-0141	大阪市域のうち、中央区の一部（旧南区）、浪速区、西成区、住吉区、西区、港区、大正区、住之江区
八尾	八尾市荘内町 2-1-36 中河内府民センタービル4階	少年育成室 072-992-3256 育成支援室 072-992-3301	東大阪市、八尾市、柏原市
堺	堺市西区鳳東町 4-390-1 泉北府民センタービル3階	少年育成室 072-274-2355 育成支援室 072-274-2152	堺市、泉大津市、和泉市、高石市、泉北郡
池田	池田市城南 1-1-1 豊能府民センタービル4階	少年育成室 072-710-3617 育成支援室 072-710-3570	豊中市、池田市、箕面市、豊能郡
枚方	枚方市大垣内町 2-15-1 北河内府民センタービル4階	少年育成室 072-843-2000 育成支援室 072-843-1999	守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市
富田林	富田林市寿町 2-6-1 南河内府民センタービル2階	少年育成室 0721-25-4922 育成支援室 0721-24-5510	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、南河内郡
岸和田	岸和田市野田町 3-13-2 泉南府民センタービル4階	少年育成室 072-423-2486 育成支援室 072-438-7735	岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、泉南郡
茨木	茨木市中穂積 1-3-43 三島府民センタービル4階	少年育成室 072-625-6677 育成支援室 072-621-4114	吹田市、高槻市、茨木市、摂津市、三島郡
① 受付期間 午前9時～午後5時 45 分 土曜日、日曜日、祝日は休み		② 相談申込 電話か直接来所 ③ 相談担当者 警察職員	
<p>リンク集：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大阪府警察 http://www.police.pref.osaka.jp/（トップページから「少年サポートセンター」を検索） ○ 大阪府青少年課 https://www.pref.osaka.lg.jp/koseishonen/syounensupportcenter/index.html 			

V 社会教育施設等

施設名	住所	電話番号	交通手段
弥生文化博物館	〒594-0083 和泉市池上町4丁目8-27	0725-46-2162	JR 阪和線「信太山」駅 下車 西へ600m
近つ飛鳥博物館 近つ飛鳥風土記の丘	〒585-0001 南河内郡河南町大字東山 299	0721-93-8321	近鉄長野線「喜志」駅から 金剛バス「近つ飛鳥博物館前」 下車 東へ600m
花の文化園 (フルルガーデン)	〒586-0036 河内長野市高向 2292-1	0721-63-8739	南海高野線・近鉄長野線 「河内長野」駅から南海バス「上 高向」下車 南東へ800m
箕面公園昆虫館	〒562-0002 箕面市箕面公園 1-18	072-721-7967	阪急箕面線「箕面」駅 下車 北へ1km
都市緑化植物園	〒561-0872 豊中市寺内 1-13-2	06-6866-3621	北大阪急行「緑地公園」駅 下車 南西へ620m
狭山池博物館	〒589-0007 大阪狭山市池尻中 2	072-367-8891	南海高野線「大阪狭山市」駅 下車 西へ700m
大阪人権博物館 (リハティおおさか)	〒552-0001 大阪市港区波除 4-1-37 HRCビル5階	06-4301-7783	Osaka Metro 中央線「弁天町」 駅 下車 4番出口 北へ700m JR 環状線「弁天町」駅 下車 北口 北東へ600m
大阪国際平和センター (ピースおおさか)	〒540-0002 大阪市中央区大阪城 2-1	06-6947-7208	Osaka Metro 中央線 JR 環状線「森ノ宮」駅 下車 西へ400m
少年自然の家	〒597-0102 貝塚市木積秋山長尾3350	072-478-8331	水間鉄道「水間観音」駅から 福祉型コミュニティバス (はーもにーばす) 「少年自然の家」下車400m
中之島図書館	〒530-0005 大阪市北区中之島 1-2-10	06-6203-0474	Osaka Metro 御堂筋線 又は 京阪本線「淀屋橋」駅 下車 1号出口北東へ300m
中央図書館	〒577-0011 東大阪市荒本北 1-2-1	06-6745-0170	近鉄けいはんな線「荒本」駅 下車 1番出口北西へ400m
上方演芸資料館 (ワッハ上方)	〒542-0075 大阪市中央区難波千日前 12-7 YES・NAMBAビル7階	06-6631-0884	Osaka Metro 「なんば」駅 南海「難波」駅 近鉄・阪神「大阪難波」駅 下車 500m JR 大和路線「JR 難波」駅 下車 900m

学校組織運営に関する指針

平成 18・12・7
改訂 平成 22・12・22
改訂 平成 26・4・25
改訂 平成 26・6・3
改訂 平成 31・1・16

1 目的

- (1) 校長・准校長のリーダーシップのもとでの組織運営の原則を確認し、学校組織の一体性を確立する。
- (2) 学校教育をめぐるさまざまな課題と急速な社会の変化に対応できるように、迅速な意思決定により、学校組織の機動力を高めるとともに、絶えず効率的な業務運営を追求する。

2 組織運営に当たって

(1) 中期的目標と学校経営計画

<中期的目標と組織運営>

- ア 校長・准校長は、自らの権限と責任のもと、学校の現状と実態を踏まえて、めざす学校像の実現に向けて中期的目標（3か年）を確立し学校経営計画を策定する。
- イ 組織運営においては、PDCAサイクルを導入し、目標管理を徹底する。
- ウ 教育活動や業務は、特定の個人の力量に負うことがないように、業務のシステム化・ICT化などによって、組織全体で取り組む。
- エ 年間の業務実態や個々の教職員の業務実態を把握し、可能な限り、業務の平準化を図る。
- オ 校長・准校長は校内組織について常に業務を見直し、必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。

<学校経営計画と学校教育計画>

- ア 学校経営計画では、中期的目標を踏まえた当該年度の重点目標、取組内容、評価指標を示す。学校教育計画は、学校経営計画に基づき、当該年度の教育活動について具体的な方針を示す。
- イ 学校経営計画の策定に当たっては、可能な限り目標を数値化するなど、教職員が目標達成に向け一丸となって取り組むことができる内容になるよう努めるとともに、めざす学校像及び中期的目標については、学校運営協議会の承認を得るものとする。
- ウ 学校経営計画及び学校教育計画の策定に当たっては、前年度の総括と改善計画および学校運営協議会の提言を踏まえる。
- エ 学校教育計画の策定と総括には、全ての教職員がそれぞれの係っている分野で参画し、学校教育目標と計画・方針の共有化を図る。
- オ 校長・准校長は学校経営計画を年度当初に教職員に周知し、教職員はそのもとに各学年・分掌・教科等及び各個人の目標と方策を策定する。
- カ 各学年・分掌・教科等及び各個人の目標や計画の策定に当たっては、目標を数値化するなど、その到達度が客観的に評価可能な内容になるよう努める。
- キ 目標の達成度や計画の進捗状況については、適宜、具体的に評価を行うこと。なお、その際学校運営協議会の意見や学校教育自己診断等を参考にし、必要に応じて計画と方策を修正する。
- ク 年度末には、各学年・分掌・教科等および教職員個人において年度の取組みを総括し、成果と残された課題を明らかにし、次年度に向けて改善計画を策定する。

(2) 校内組織と会議

校務に関する決定は校長・准校長の権限と責任のもとに行う。

<首席等>

- ア 首席及び学年・分掌等の長は、学校経営計画の円滑な達成のために指導力を発揮する。
- イ 首席及び学年・分掌等の長は、所管する分野における業務の遂行に責任を持ち、必要に応じて、校長・准校長及び教頭・事務(部)長・首席に報告・連絡・相談する。

<運営委員会等>

- ア 校長・准校長は学校運営の核となる組織として、教頭、事務(部)長、首席及び学年・分掌等の長からなる運営委員会等を設置する。
- イ 首席及び学年・分掌の長は、校長・准校長に対し、所管する分野における業務の遂行について運営委員会等で報告する。
- ウ 運営委員会等において、首席及び学年・分掌等の長は、それぞれの所管する組織の立場にこだわらず、常に学校全体の立場から意見交換を行い、もって校長・准校長が自校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。

<職員会議>

- ア 校長・准校長は職務の円滑な執行に資するため、職員会議を置くことができる。
- イ 職員会議は校長・准校長が招集し主宰する。
- ウ 職員会議においては、校長・准校長が必要と認める校務に関する事項について、教職員間の意思疎通、共通理解の促進、教職員の意見交換等を行う。

- エ 円滑な会議運営のために校長・准校長の判断のもとで司会を置く場合も、校長・准校長の権限を制限することがあってはならない。
- オ 校長・准校長が特に必要と認める場合、挙手・投票により教職員の意見を聴取することができる。ただし、教職員による挙手・投票の実施を原則としたり、教職員の意見が校長・准校長の権限を実質的に制限することがあってはならない。
- カ 職員会議の記録はあらかじめ校長・准校長が定めた記録者によって作成し、発言者の確認のもと、校長・准校長の決裁を経て確定する。
- キ 職員会議の案件についてはあらかじめ運営委員会等で論点を整理しておくなど、時間の短縮化を図り、効率的に運営するために、あらかじめ時間を定め、必要な資料等を事前に配付するなどの工夫をする。

<会議運営>

- ア 課題に迅速に対応しつつ、児童生徒と向き合う時間を確保するため、会議は極力効率的に短時間で行う。
- イ 会議の開催に当たっては、目的・時間・案件・説明者を明らかにするとともに、事前に議論の整理と資料等を配付するなどして、会議運営の円滑化と効率化を図る。
- ウ 校長・准校長が決定し会議で示した事項は、全員が責任を持って実行する。

(3) 人事

<人材の育成>

- ア 校長・准校長は、中期的な人事計画を作成し、学校目標の達成に向け、中堅・若手教員の育成に努める。
- イ 評価育成システムを活用して、校長・准校長は教職員ひとりひとりの育成課題を認識し、次代を担う人材の育成に努める。
- ウ 人材を育成するに当たっては、日常の業務を組織的に遂行するとともに、校外研修の成果を校内に還元して、組織全体の力量を引き上げることに留意し、学校組織全体の活性化につながるよう努める。
- エ 首席・指導教諭は日常業務でのOJTを通じて教員の育成に努める。
- オ 授業観察・授業公開・研究授業および生徒による授業評価を活用して、教員の授業や生徒指導における資質向上を図る。

<主任等の校内人事>

- ア 学年主任、部主事や校務分掌長、担任、各種委員会委員などの校内人事の決定及び発令は校長・准校長の権限と責任のもとに行う。
- イ その権限の行使に当たって校長・准校長は、必要に応じて教頭、事務(部)長はじめ首席等から十分意見を聴取し、適材適所に人材を配置する。また、教職員の意見を聴取する場合、選挙またはこれに類する方法は取らない。
- ウ 校長・准校長は、自らの指揮監督のもと、必要に応じて校内人事に関する事務を行うための校内組織を置くことができる。ただし、この校内組織は、校長・准校長を補佐するため、教頭や首席等を主たる構成員として置かれるものであり、構成員の決定、運営、意思決定等、いかなる場面においても校長・准校長から独立したものであってはならない。(当該組織が管理職以外の教職員を主たる構成員とし、人事委員会のように実質的に校内人事を決定し、校長・准校長が追認することは認められない。)

(4) 予算

- ア 校長・准校長は、中期的目標のもとでの年次計画を踏まえ、学校経営計画の達成のために必要な備品や教材等の確保の優先順位を明らかにした予算編成の基本方針を定め、教職員に周知する。
- イ その上で、事務(部)長はじめ事務職員、学年・分掌・教科等の意見を十分聴取し、配分の重点化に配慮した予算編成を行う。
- ウ 光熱水費等の節減により生じた余剰金は教育活動に活用する、また、備品については遊休化することがないよう他校とも連携し積極的な活用を図る。
- エ 校長・准校長・教頭・事務(部)長等は、月単位の執行状況や予算残を把握し、計画的執行に努める。
- オ 教頭・首席等のリーダーシップのもと、事務職員と教員の連携を図り、教育活動と予算との関連性についての認識を共有化し、コスト意識の涵養に努める。

(5) 校長・准校長の適切なリーダーシップ発揮のために

- ア 学校経営を行うに当たってPDCAサイクルを有効に機能させるためには、校長・准校長が適切にリーダーシップを発揮することが不可欠である。
- イ 学校経営を行うに当たって校長・准校長は、教頭をはじめ教職員から十分意見を聴取し、教職員の学校経営への参画意欲を喚起する。
- ウ 校長・准校長が適切なリーダーシップを発揮できるよう、府教育委員会としては、組織的に支援していく。



大阪「こころの再生」府民運動
～大阪あったかプロジェクト～



大阪府

教育庁教育振興室高等学校課 令和5年3月発行

〒540-8571 大阪市中央区大手前二丁目 TEL06(6941)0351

ホームページアドレス <https://www.pref.osaka.lg.jp/kyoikusomu/homepage/index.html>

電子メール kyoikushinko-g01@sbox.pref.osaka.lg.jp

令和5年度

市町村教育委員会に対する指導・助言事項

～未来を拓く^{ひら}教育をめざして～

(案)

大阪府教育委員会

未来を拓く^{ひら}教育をめざして

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となっている中、子どもたちには、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力や、多くの情報を見極めて再構成し、新たな価値観につなげていく力などを育成することが求められています。

国は、「令和の日本型学校教育」を推進するため、個別最適な学びと協働的な学びを充実させるという方向性を示しています。各学校では、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、子どもたちに必要な思考力・判断力・表現力等を身につけさせるよう、主体的・対話的で深い学びを実現し、授業改善等を進めることが求められています。

まだ、新型コロナウイルス感染症への対応が続く中ではありますが、子どもたちが自信を持って未来を切り拓く力を育むため取組みを進めなければなりません。

大阪府では、子どもたちが人生を自ら切り拓くとともに、認め合い、尊重し、協議し、世界や地域とつながり、社会に貢献していく人物を育む教育の実現をめざし、『第2次大阪府教育振興基本計画』（以下、「第2次計画」という。）を策定しました。これは、この10年間取り組んできた『大阪府教育振興基本計画』を引き継いだものですが、子どもたち一人ひとりをより一層大切に、一貫した教育の方向性を示すため、小学校・中学校・高校・支援学校等の校種を超えて取り組むべき内容をとりまとめています。

これらの実現に向けては、府教育委員会と市町村教育委員会との連携を今まで以上に深め、それぞれの役割と責任を果たし、取り組んでいく必要があります。

具体的には、学習の基盤となる言語能力や情報活用能力等をすべての教科等で育成するとともに、学校図書館の機能やICT機器等を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一層推進することが必要です。また、実社会とのつながりを意識して多様な人々と協働し、持続可能な社会の創り手となることができるよう、探究的な学習の推進や小中高一貫したキャリア教育の推進も必要です。

生徒指導面においては、様々な支援が必要なすべての子どもたちが、安心して学べる環境を整えることが大切です。いじめ・暴力行為等の問題行動や不登校等、子ども個々の状況に寄り沿って、全教職員が、日頃から一人ひとりの思いや気持ちを丁寧に受け止める中で子どもの状況を把握し、見立てを深め、適切な支援につなぐことが重要です。その際には、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門人材との一層の連携を進め、教職員が一体となって、学校組織マネジメントの中で、校内の体制の充実を図る必要があります。

また、ICT機器等も活用し、引き続き、教職員の長時間勤務の是正、負担軽減等、部活動の地域移行等も含め、教職員の働き方改革の推進も欠かせません。

府教育庁としては、引き続き、一人ひとりのニーズに対応した、すべての子どもの学びと育ちの支援のさらなる充実に取り組むたいと考えております。

この「市町村教育委員会に対する指導・助言事項」（以下、「指導・助言事項」という。）は、「大阪府教育振興基本計画」を踏まえ、市町村に共通する教育の基本方針（大阪府教育行政基本条例第8条の2）を定めたものです。

今回、第2次計画の策定に伴い、令和4年度指導・助言事項で記載していた内容を踏まえて見直し、第2次計画の章立てに沿って再構成しました。また、今回の改訂を機に、ページのレイアウト、構成等も変更しています。

市町村教育委員会には、指導・助言事項の内容を十分理解の上、これまでの取組みの点検・評価を基に、所管の学校園それぞれが持つ学校力をさらに高め、すべての子どもたちが安心・安全に生き生きと学ぶことのできる学校園づくりを進めていただきたいと考えています。

地域性と多様性を大切にしながら進めてきたこれまでの成果を基盤として、今後も大阪の教育が、子どもたちの未来を拓くものとなるよう、首長部局の理解、協力のもと、教育活動の一層の充実に努めていただくことを期待いたします。

令和5年3月

〔教育委員会の活性化〕

1. 教育水準の維持・向上、地域の実情に応じた教育の振興

地域の特性や住民の意思、教育現場の実情を反映させながら、自主的判断と責任において教育行政を展開すること。その際、果たすべき役割を自ら点検・評価し、さらなる機能充実に努めること。

2. 首長との協力による教育の振興

教育の振興に当たっては、社会の変化や住民の多様な学習ニーズ、地域の教育問題に総合的かつ効率的に対応すること。その際、学校教育と社会教育との連携はもとより、首長部局等との一層の協力を図りながら、その運営に関して積極的な改善に努めること。

3. 教育の状況に関する情報の提供

教育委員会の方針や施策、その成果等の教育の状況について説明する責任を果たすこと。その際、広報活動の充実に努めるとともに、住民の意向把握等の広聴活動の充実に努めること。

「指導・助言事項」の構成及び活用にあたって

今回、第2次計画の章立てに沿って再構成したことに伴い、全体の構成やページレイアウトについても見直しを図りました。ページレイアウトは以下のとおりです。

令和4年度までは、「取組みの重点」「本編」の2つに分けて構成していた内容を、重点項目ごとに関連するすべての取組み項目をまとめて配列し、構成しました。これにより、関連する取組みの全体が把握しやすくなると考えています。

なお、必要な箇所に必要な内容をすべて記載する方針で編集したため、再掲となっている取組み項目もあります。

また、これまで関連資料は取組み項目ごとに記載していましたが、別ページにまとめました。ペーパーレス推進の観点から、紙媒体ではなくデータ送付としたことにより、関連資料や関連する項目をリンクさせ、活用しやすくなるようにしました。

○第2次計画に沿った章立て → 第1章 確かな学力の定着と学びの深化

○重点項目 → 1 学習指導要領の確実な実施

○重点項目の趣旨 → 学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力等の育成を図るとともに、予測できない変化に主体的に向き合い、自らの可能性を發揮しようとする態度を養うことが重要である。

○取組みの重点 → 【取組みの重点】
・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。
・ 児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てるとともに、教育課程の実施状況を評価し、その改善を図りながら、組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実を図ること。

○取組み項目 → 【取組み項目】
(1) カリキュラム・マネジメントの充実
・ 学習指導要領及び学校教育法施行規則に定める標準授業時数を踏まえて教育課程を編成すること。その際、児童生徒の負担を軽減するとともに、学校における働き方改革に配慮すること。
・ 地域の実情や学校の実態等を踏まえた具体的な教育目標を設定するとともに、その実現に向けて教科等横断的な視点をもちつつ、学年相互の関連を図りながら、教育内容等を組織的に組み立てること。また、「社会に関わった教育課程」の観点から、教育課程の基本的な方針について、地域や家庭とも共有を図ること。
・ 学習評価やアンケート等を活用し、学校の教育目標や教育課程等が児童・生徒、地域、学校の実態に記したものになっているかを把握し、課題となる事項に対し、改善方針を立案し、実施していくこと。
(2) 主体的・対話的で深い学びの実現
・ 学習指導要領及び学校教育法施行規則に定める標準授業時数を踏まえて教育課程を編成すること。その際、児童生徒の負担を軽減するとともに、学校における働き方改革に配慮すること。
(3) 指導と評価の一体化の充実
・ 学習評価を行うに当たっては、学習指導要領の趣旨を適切に反映し、児童・生徒にどのような力が身についたかを的確にとらえるとともに、指導の改善につなげるため、指導と評価の一体化を充実すること。また、評価方法については、単元の回数や毎時間ノートを取っていることで、主体的に学習に取り組む態度を判断するような誤った評価等、必要性・妥当性が認められないものは見直すこと。
・ 学習評価の妥当性・信頼性を高めるために、府作成の資料等を活用し、組織的な検証改善の取組みを確実に進めること。
(4) 国旗・国歌の指導
・ 入学式・卒業式においては、学習指導要領に基づき、国旗掲揚、国歌斉唱が適切に実施

これまで、所管の学校園に指導・助言していただきたい内容については、文末表現を「〇〇するよう（市町村教育委員会として学校園に対して）指導すること」と示しておりましたが、この表現が何度も繰り返され読みにくくなっていたため、文末を「〇〇すること」に統一しました。内容によっては、市町村教育委員会のみへの指導・助言となる項目もありますのでご注意ください。

・本文中の「小学校」には「義務教育学校前期課程」を、「中学校」には「義務教育学校後期課程」を、それぞれ含めています。

目 次

◆第1章 確かな学力の定着と学びの深化 - 7	
重点1. 学習指導要領の確実な実施 ----- 8	
(1) カリキュラム・マネジメントの充実	(3) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成・活用
(2) 主体的・対話的で深い学びの実現	(4) 通常の学級に在籍する児童・生徒への支援の充実
(3) 指導と評価の一体化の充実	(5) 病弱児や医療的ケアの必要な児童・生徒への支援の充実
(4) 国旗・国歌の指導	(6) 早期からの切れ目ない支援体制の構築
(5) 現代社会の諸課題	(7) 不登校への取組み
重点2. 学力向上の取組みの充実 ----- 10	(8) 日本語指導が必要な子どもへのきめ細やかな支援体制の整備
(1) 一人ひとりの学力を伸ばすための検証・改善	(9) 外国籍の児童・生徒の就学機会の確保
(2) 日常的な授業改善	(10) 中学校夜間学級の取組み
(3) 言語能力の育成	
(4) 情報活用能力の育成	
(5) ICT活用による学びの充実	
重点3. 確かな学力をはぐくむ読書活動の充実 ----- 12	
(1) 読書への興味・関心を高める工夫	◆第2章 豊かな心と健やかな体の育成 -- 22
(2) 学校図書館を活用した学習	重点7. 人権・多様性を尊重する教育及び心を育む教育の充実 ----- 23
(3) 学校図書館活用のための環境整備	(1) 人権教育の充実
(4) 読書活動の支援の充実	(2) 道徳教育の充実
(5) 子ども読書活動推進計画の策定	(3) 人権教育の一環としての同和教育の推進
(6) 視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画の策定	(4) 「ともに学び、ともに育つ」教育の推進
重点4. グローバル社会における英語力の育成 ----- 14	(5) 多文化共生教育の推進
(1) 言語や文化に対する理解	(6) ジェンダー平等教育の推進と性的マイノリティの子どもへの対応
(2) 授業における言語活動の工夫	(7) 平和教育の推進
(3) 児童・生徒の英語力の適切な把握と指導	(8) 福祉・ボランティア教育の推進
(4) 身に付けた英語力を発揮する機会の創出	(9) 人権侵害事象等に対する対応
(5) 組織的な英語教育の推進	(10) 「こころの再生」府民運動
重点5. 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進 ----- 16	(11) 教職員人権研修ハンドブックの活用
(1) 「ともに学び、ともに育つ」授業づくり・集団づくりの推進	(12) 大阪人権博物館の活用
(2) 交流及び共同学習の充実	重点8. 感性を豊かにする読書活動の推進 ----- 26
(3) 教職員の資質向上	(1) 読書への興味・関心を高める工夫
(4) 就学相談・支援の充実	(2) 学校図書館活用のための環境整備
(5) 支援学校のセンター的機能の活用	(3) 読書活動の支援の充実
重点6. 一人ひとりの教育的ニーズに対応した指導・支援の充実 ----- 18	(4) 子ども読書活動推進計画の策定
(1) 合理的配慮についての適切な対応	(5) 視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画の策定
(2) 障がいのある児童・生徒の教育課程の編成	重点9. 不登校、ヤングケアラーやいじめ、暴力行為等への取組みの推進 ----- 28
	(1) 児童・生徒一人ひとりの良さや可能性の伸長を支える取組みの推進
	(2) 不登校への取組み
	(3) いじめへの取組み

(4) インターネット、SNS上のトラブルへの 取組み	(1) 探究的な学習の充実
(5) ヤングケアラーへの取組み	(2) 主体的に社会に参画する力を育む指導の充 実
(6) 暴力行為等への取組み	(3) 体験活動の充実
重点 10. 子どもたちの生命・身体を守る取組 み ----- 31	(4) 「わくわく・ときどきSDGsジュニアプロ ジェクト」の活用
(1) 相談体制の充実、自ら相談する力の育成	(5) 環境教育の充実
(2) 児童虐待への対応	(6) すくすくウォッチ「わくわく問題」の活用
(3) 個人情報の適正な取扱い	重点 16. 幼児期における子どもの資質・能力の育 成 ----- 45
重点 11. 保健・安全・衛生管理に関する指導の 徹底及び学校の体育活動中の事故防止 等の取組み ----- 33	(1) 幼児教育の質の向上
(1) 学校の体育活動中の事故防止等の徹底	(2) 配慮を要する幼児への対応及び支援
(2) 武道における安全指導	(3) 小学校教育との接続
(3) 学校給食における衛生管理の徹底	(4) 家庭・地域との連携
(4) 食育の推進	
(5) 学校保健計画の策定	◆第4章 多様な主体との協働 ----- 46
(6) 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の充実	重点 17. 子どもたちの安全・安心を支えるた めの多職種連携 ----- 47
(7) 性に関する指導の充実	(1) スクールカウンセラーについて
(8) 生活習慣の確立	(2) スクールソーシャルワーカーについて
(9) 学校保健委員会の開催	(3) スクールロイヤーについて
(10) 安全・快適な教育環境の確保	(4) 多職種連携について
(11) 国民健康保険法を踏まえた適切な支援	(5) 関係機関について
(12) AED使用を含めた心肺蘇生実施体制の整 備	重点 18. 教育コミュニティづくりの推進 -- 49
重点 12. 体力づくりの取組み ----- 36	(1) 教育コミュニティづくりの活性化
(1) 体力づくりの推進	(2) 教育コミュニティづくりへの主体的な参画 促進
(2) 地域におけるスポーツ活動の推進	(3) 地域とともにある学校づくりに係る組織の さらなる充実
(3) 健康教育の充実	(4) 放課後等における子どもの様々な体験活動 の場づくりの充実
(4) 体力づくりの推進	(5) 障がいのある子どもなどの地域活動への参 加促進
重点 13. 子どもの自主性を尊重した部活動の 取組み ----- 37	重点 19. 家庭教育支援の充実 ----- 51
(1) 部活動の取組み	(1) 家庭教育支援の体制づくり
第2章の関連項目 ----- 39	(2) 親学習の推進
(1) 文化財の活用	(3) 基本的な生活習慣・学習習慣の確立・自立す る力の育成
◆第3章 将来を見すえた自主性・自立性の育 成 ----- 40	(4) 未来に向かう力（非認知能力）の育成
重点 14. 自主性・自立性を育成するキャリア 教育・進路指導の推進 ----- 41	◆第5章 力と熱意を備えた教員と学校組織 づくり ----- 52
(1) キャリア教育・進路指導の充実	重点 20. 働き方改革 ----- 53
(2) 障がいのある生徒の進路指導の充実	(1) 在校等時間管理について
(3) 日本語指導が必要な児童・生徒の進路指導 の充実	(2) 部活動の取組み
(4) 奨学金制度等の周知・活用	(3) 休憩時間について
重点 15. 社会とつながる学習活動の推進 …43	

(4) 労働安全衛生体制の充実			
重点 21. 教職員の資質・能力の向上 -----	55		
(1) 教職員の豊かな人間性			
(2) 教職員相互に高め合う職場環境づくり			
(3) 人事異動及び人事交流の充実			
(4) 若手教職員の育成			
(5) 研修成果の還元			
(6) 研修の計画的な実施			
(7) 教職員全体の指導力向上			
(8) 女性教職員の登用			
(9) 魅力ある学校づくりの推進			
(10) 評価基準を踏まえた適正な評価と教職員の育成			
(11) 優秀教職員等表彰の実施			
(12) 承認研修について			
(13) 次世代育成について			
(14) 女性活躍の推進について			
重点 22. 学校の組織力の向上 -----	58		
(1) 機能的な学校運営			
(2) 学校評価の充実			
(3) 法定表簿等の適正な記載			
重点 23. 不祥事の防止 -----	59		
(1) 飲酒運転について			
(2) 服務監督について			
(3) 自家用自動車等を使用しての通勤認定について			
(4) 通勤について			
(5) 兼職・兼業について			
(6) 教職員の服務規律の確保について			
重点 24. 体罰・セクハラ防止の取組み ----	61		
(1) 体罰防止の取組み			
(2) セクシュアル・ハラスメントやわいせつ行為等性暴力行為の防止の取組み			
重点 25. 職場におけるハラスメントの防止			
-----	63		
重点 26. 「指導が不適切である」教員への対応			
-----	64		
第 5 章の関連項目 -----	65		
(1) 非常勤職員の効果的な配置と活用			
(2) 調査内容等の精査による学校事務の効率化・集中化			
		◆第 6 章 学びを支える環境整備 -----	66
		重点 27. 防災教育をはじめとする災害時に迅速に対応するための備えの充実と安全・安心な教育環境の確保 -----	67
		(1) 学校安全計画の策定	
		(2) 緊急事態への対応	
		(3) 安全確保・安全管理の徹底	
		(4) 地域関係機関と連携した安全確保及び安全管理	
		(5) 安全教育の推進及び安全確保の取組みの点検・強化	
		第 6 章の関連項目 -----	69
		(1) 耐震対策の推進等	
		(2) アスベスト対策の推進	
		(3) 施設のバリアフリー化	
		(4) 学校施設の長寿命化計画の推進	
		◆第 7 章 社会教育の推進 -----	70
		(1) 住民の学習活動の促進	
		(2) 社会教育関係職員の研修機会の充実	
		(3) 住民・団体による地域活動の推進	
		(4) 図書館の計画的な整備	
		(5) 子どもたちの体験活動の推進	
		(6) P T A 活動のあり方	
		(7) 人権学習の推進	
		(8) 識字・日本語学習活動への支援	
		◆第 8 章 文化財の保存と活用 -----	73
		(1) 条例制定の推進	
		(2) 保存活用体制の整備	
		(3) 展示公開の推進	
		(4) 世界遺産など地域を代表する文化遺産を活用した取組みの推進	
		■各章の参考資料 -----	75
		■資料 -----	90

第1章 確かな学力の定着と学びの深化

1

学習指導要領の確実な実施

学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力等の育成を図るとともに、予測できない変化に主体的に向き合い、自らの可能性を發揮しようとする態度を養うことが重要である。

【取組みの重点】

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。
- ・ 児童・生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てるとともに、教育課程の実施状況を評価し、その改善を図りながら、組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実を図ること。

【取組み項目】

(1) カリキュラム・マネジメントの充実

- ・ 学習指導要領及び学校教育法施行規則に定める標準授業時数を踏まえて教育課程を編成すること。その際、児童・生徒の負担を踏まえるとともに、学校における働き方改革に配慮すること。
- ・ 地域の実情や学校の実態等を踏まえた具体的な教育目標を設定するとともに、その実現に向けて教科等横断的な視点をもちつつ、学年相互の関連を図りながら、教育内容等を組織的に組み立てること。また、「社会に開かれた教育課程」の観点から、教育課程の基本的な方針について、地域や家庭とも共有を図ること。
- ・ 学校評価やアンケート等を活用し、学校の教育目標や教育課程等が児童・生徒、地域、学校の実態に応じたものになっているかを把握し、課題となる事項に対し、改善方針を立案し、実施していくこと。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現

- ・ 学習指導要領に示されている「知識及び技能の習得」、「思考力、判断力、表現力等の育成」、「学びに向かう力、人間性等の涵養」が偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的

な充実を図ること。その際、児童・生徒が自己調整しながら学習を進めていくことや多様な他者と協働することなどを発達段階に配慮しながら指導を行うこと。

(3) 指導と評価の一体化の充実

- ・ 学習評価を行うに当たっては、学習指導要領の趣旨を適切に反映し、児童・生徒にどのような力が身についたかを的確にとらえるとともに、指導の改善につなげるため、指導と評価の一体化を充実すること。また、評価方法については、挙手の回数や毎時間ノートを取っていることで、主体的に学習に取り組む態度を判断するような誤った評価等、必要性・妥当性が認められないものは見直すこと。
- ・ 学習評価の妥当性・信頼性を高めるために、府作成の資料等を活用し、組織的な検証改善の取組みを確実に進めること。

(4) 国旗・国歌の指導

- ・ 入学式・卒業式においては、学習指導要領に基づき、国旗掲揚、国歌斉唱が適切に実施されるよう指導の徹底を図ること。なお、教員は教育公務員として府民の信頼に応える責務を自覚し、国歌斉唱に当たっては起立し斉唱すること。
- ・ 国歌「君が代」の指導については、小学校学習指導要領において、「いずれの学年においても歌えるよう指導すること」と定められていることを踏まえ、児童の発達段階に則し

た指導計画を作成し、適切に取り扱うとともに、必要に応じて各学校の指導状況を把握すること。

(5) 現代社会の諸課題

- ・ 社会科を学習する際、自然災害からの復興、少子高齢化の問題、環境問題、日本人拉致問題、領土問題など、国内外に残されている諸課題等にも触れ、現代の課題を考え続ける姿勢をもてるようにすること。日本人拉致問題

の学習の際には、アニメ「めぐみ」等を活用すること。

- ・ 各教科等において補助教材を使用する際には、教育基本法、学校教育法、学習指導要領等の趣旨に従ったうえで、児童・生徒の心身の発達段階に即し、特定の見方や考え方に偏った取り扱いとならないこと。
- ・ SDGs（持続可能な開発目標）について知るとともに、児童・生徒の発達段階に応じた内容を各教科等で取り扱うこと。

2

学力向上の取組みの充実

各学校においては、ICTの活用も含めた授業改善を行うとともに、客観的なデータに基づき、一人ひとりの学力を伸ばすことや、学校全体の取組みの検証・改善を行うことが重要である。

【取組みの重点】

- ・ すべての教科等で、学習の基盤となる言語能力及び情報活用能力を学校全体で育成すること。
- ・ 必要な情報を読み取り、論理的に自分の考えを構築し、表現する等の活動を各教科等で計画的に行い、思考力・判断力・表現力を育成すること。
- ・ 1人1台端末・ICTを日常的かつ効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を図ること。
- ・ 児童・生徒の学習の状況を詳細に把握、分析し、課題に正対した取組みを組織的かつ計画的に進めるとともに、児童・生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解し学習意欲を高めるため、「全国学力・学習状況調査」「小学生すくすくウォッチ」「中学生チャレンジテスト」等を活用すること。

【取組み項目】

(1) 一人ひとりの学力を伸ばすための検証・改善

- ・ 確かな学力を育むために、学校の組織的な取組みを一層進めること。その際、テスト等も有効に用いて子どもたちの学習状況を把握し、取組みの検証・改善を行うこと。
- ・ 子ども一人ひとりの学習内容の定着に向け、つきたい力を明確にした授業を行うこと。また、日々の授業での子どもたちの発言や行動、ふりかえり等から、目標の達成状況を把握し、日常的に自らの授業を振り返り、改善すること。

(2) 日常的な授業改善

- ・ 各教科の授業では、単元指導計画等をもとに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うこと。
- ・ 思考力・判断力・表現力の育成に当たっては、児童・生徒が各教科等の学習内容を、日常生活や社会と関連づけながら、論理的に考え、表現することができるよう、指導の充実を図ること。
- ・ 児童・生徒の実態に応じた習熟度別指導及び、小学校高学年における専科指導等に取り組みに当たっては、児童・生徒の学習達成度

を把握し、効果検証に努めるとともに、その結果を生かし、より効果的な指導方法の工夫改善を図ること。

(3) 言語能力の育成

- ・ 言語能力の育成に当たっては、基礎的・基本的な言葉等の知識・理解を深めるとともに、文章や表、グラフ等を読み取り、論理的に自分の考えを書くなどの言語活動を行うこと。
- ・ 国語科では、系統的に言語能力の育成を図ること。また、各教科等においても、それぞれの目標を達成させるとともに、言語活動を充実させ、言語能力の育成に努めること。
- ・ 言語能力の育成にあたっては「国語の授業づくりモデル小学校」「学校図書館を充実・活用するためのモデル校」の実践事例を参考にすること。

(4) 情報活用能力の育成

- ・ 目的に応じて情報手段を適切に活用するなどして、必要な情報を収集・判断・処理する能力を高める授業や、情報手段の特性を理解し、自らの情報活用を評価・改善する力をつけるための授業を展開すること。
- ・ 小学校におけるプログラミング教育では、体験を通して「プログラミング的思考」を育み、1人1台端末等を必要に応じて活用しな

がら問題を解決しようとする態度を育むこと。

- ・ 自他の権利を尊重し、自分の行動に責任を持つことや、情報を正しく安全に利用できること、ICT機器の使用による健康との関わりを理解することなど、児童・生徒の実態や発達段階に応じて、情報モラルの育成に努めること。

(5) ICT活用による学びの充実

- ・ ICTの活用に当たっては、1人1台端末が鉛筆やノート等の文房具と同様に教育現場において不可欠なものとして捉え、すべての教員が日常的、効果的に授業で活用すること。

- ・ 児童・生徒一人ひとりが個別最適な学びを実現できるよう、1人1台端末を効果的に活用すること。その際、児童・生徒が自身の成長やつまづきなど、自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう支援すること。
- ・ 協働的な学びを実現するために、授業においては日常的に1人1台端末を活用し、問題発見・解決に挑む資質・能力を育成すること。
- ・ 家庭学習の充実に向けて、日常的に1人1台端末を積極的に活用すること。
- ・ ICT活用による学びの充実に際しては、「スマートスクール実現モデル校」の実践事例を参考にすること。

3

確かな学力をはぐくむ読書活動の充実

(関連項目→P.28「⑧感性を豊かにする読書活動の推進」)

各教科や教科横断的な学習等において、学校図書館の機能を計画的かつ体系的に利活用し、児童・生徒の言語能力や情報活用能力及び、生涯にわたり主体的に学習する態度を育成すること。また、日常的に読書活動を進め、子どもたちの読書への興味・関心を高めること。

【取組みの重点】

- ・ 子どもが読書への興味・関心を高め、自ら読書を行い、豊かな語彙を獲得できるよう、すべての学校で読書活動を推進すること。
- ・ 各教科等における学習や教科横断的・探究的な学習が充実するよう学校図書館の活用計画を策定し、年間を通じて学校図書館を活用すること。
- ・ 各学年の学習計画や児童生徒の興味・関心等に応じて、自発的・主体的に読書や学習を行うことができるよう、学校全体で学校図書館の環境整備を行うこと。

【取組み項目】

(1) 読書への興味・関心を高める工夫

- ・ 児童・生徒が読書の楽しさを実感し、読書習慣と豊かな語彙力を身に付けられるよう読書に対する興味・関心を高める工夫を行うこと。
- ・ 朝の全校一斉の読書タイムや国語科における並行読書、ブックトークやビブリオバトル等を通じて、読書活動の充実を図ること。その際、府のオーサージット事業等も積極的に活用すること。

(2) 学校図書館を活用した学習

- ・ 各教科等での学習活動に学校図書館の活用を計画的に位置付け、言語能力・情報活用能力等の育成を図ること。
- ・ 問題発見・解決能力等の育成のため、授業中ではもとより、授業以外の場面でも、主体的に児童・生徒が学校図書館を活用し、調べ読みや探究的な学習に取り組むことができるよう支援すること。
- ・ 学校図書館を活用した学習については、「学校図書館を充実・活用するためのモデル校」の実践事例を参考にすること。

(3) 学校図書館活用のための環境整備

- ・ 「読書センター」として、児童・生徒が本を読みたくなるような読書環境を計画的に

整備すること。また、配架の仕方や読書スペースの工夫などを行うこと。

- ・ 「学習センター」「情報センター」として、年間指導計画に基づき、各教科等の学習において活用しやすい環境を整え、授業で役立つ資料を準備すること。
- ・ 取組みの充実に当たっては、公立図書館と連携を図り、団体貸し出し等のサービスも積極的に活用すること。
- ・ 「学校図書館法」及び文部科学省通知「学校図書館司書教諭の発令について」に基づき、司書教諭の配置及び発令を行うこと。司書教諭(学校司書)を中心に、すべての教職員による学校図書館の運営体制を確立すること。

(4) 読書活動の支援の充実

- ・ 子どもが読書への興味・関心を高め、自ら読書を行うことができるよう、すべての学校で公立図書館やボランティアとの連携を促進し、学校での読書環境づくりを進めること。その際、府立中央図書館ホームページの「学校支援のページ」を活用すること。
- ・ 乳幼児期の読書機会が増えるよう、すべての公立幼稚園・保育所・認定こども園における読み聞かせ等や保護者への啓発が行われるよう努めること。
- ・ 公立図書館司書や学校司書、司書教諭、保護者、読書ボランティア等子どもの読書に関

わる人材のスキル向上に努めるとともに、支援人材のネットワーク化を図り、地域での読書環境づくりを進めること。また、子どもに読書の楽しさを伝える機会の提供や、読書活動の重要性の啓発に取り組むこと。

(5) 子ども読書活動推進計画の策定

- ・ 子ども読書活動推進計画未策定及び計画期間が過ぎた市町村については早期に策定すること。また、円滑な推進のために、学校、教育保育施設、民間団体等の関係機関との連

携を推進すること。

(6) 視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画の策定

- ・ 市町村における視覚障がい者等の読書環境の整備の状況等を踏まえ、視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する法律第8条に規定する計画を策定すること。また、計画を策定するにあたっては、障がい福祉、公立図書館、学校図書館、支援教育等の関連部署との連携を推進すること。

4 グローバル社会における英語力の育成

児童・生徒が言語や文化に対する理解を深めながら、主体的にコミュニケーションをとろうとする意欲や態度を育み、英語を使って自分の考えを伝え合うことができるよう、4技能5領域をバランスよく育成する英語教育を推進することが重要である。

【取組みの重点】

- ・ 授業において「コミュニケーションを行う目的や場面、状況」の設定を工夫し、英語で表現し伝え合う力を育成するための学習を充実させることにより、児童・生徒が実際のコミュニケーションにおいて活用できる英語力を身に付けられるようにすること。

【取組み項目】

(1) 言語や文化に対する理解

- ・ 外国語（英語）の基本的な表現、音声・文字、異なる国や文化に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努めること。
- ・ ALTや英語の専門性を有する地域人材等と児童・生徒とが交流して、伝え合う体験や、異なる国の文化を知る体験を充実させるよう努めること。

(2) 授業における言語活動の工夫

- ・ 言語活動を行う際には、小学校においては「身近で簡単な事柄」を、中学校においては「日常的な話題や社会的な話題」を取り上げるなど、コミュニケーションを行う目的や場面、状況の設定について工夫すること。
- ・ 小学校においては、英語を使って伝え合う体験や活動を通して、自分の思いを伝えたり、相手に対する理解を深めたりして、満足感や達成感を味わうことができるようにすること。また、「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現」を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養うこと。
- ・ 中学校においては、英語を使って情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝え合う活動の充実を図るとともに、即興でやり取りする活動を重視すること。

(3) 児童・生徒の英語力の適切な把握と指導

- ・ 教員が授業における学習到達目標を設定したり、児童・生徒が自身の英語のできるようになったことをふりかえったりする際に、CAN-DO リストを効果的に活用すること。
- ・ 年間の指導計画を見通して、適切な場面でパフォーマンステストを実施し、指導に生かす評価を行うこと。その際、英語でコミュニケーションを行う目的や場面・状況の設定を工夫して、言語活動を通して身に付けたコミュニケーション能力の的確な把握に努めること。
- ・ 評価を行う際にはインタビュー（面接）、スピーチ、簡単な語句や文を書くこと、活動の観察、ペーパーテスト等、多様な評価方法から、的確に評価できる方法を選択すること。
- ・ デジタル教科書や1人1台端末を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させること。その際、学習ツールとして、府作成の「STEPS in OSAKA」も、授業や家庭学習等に活用すること。

(4) 身に付けた英語力を発揮する機会の創出

- ・ 児童・生徒が学んだことを活用し、英語を学習することの意義を実感できる機会の創出に努めること。ネイティブスピーカー

とのコミュニケーションを行う場として、例えば、府が主催する英語村などを活用したり、オンラインを活用した交流や英語によるプレゼンテーションなど活動を工夫すること。

(5) 組織的な英語教育の推進

- ・ 中学校区で学習到達目標に基づいた一貫性のある指導や評価を行うとともに、学校

間の交流や研修等を通して、小学校と中学校の英語教育の円滑な接続に留意すること。

- ・ 英語コーディネーターや小学校英語教育実践リーダー研修受講者等を中心に、研修や授業研究の成果の共有を通してさらなる指導の充実を図るとともに、ALTや英語の専門性を有する地域人材等と連携し、市町村全体の英語教育の推進に努めること。

5 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進

障がいの有無にかかわらず、すべての幼児・児童・生徒が、地域社会で豊かに生きるために、すべての学校園において、多様な学びの場を保障するとともに、相互理解を深め、すべての子どもが安心して学校生活を送ることができる集団づくりをより一層推進することが必要である。

【取組みの重点】

- ・ インクルーシブ教育システムの理念を踏まえた取組みを進めるとともに、「ともに学び、ともに育つ」という観点からの学校づくりをより一層進めること。
- ・ 地域における共生社会の実現をめざし、すべての幼児・児童・生徒、教職員、保護者、地域に対する支援教育への理解啓発を一層推進すること。

【取組み項目】

(1) 「ともに学び、ともに育つ」授業づくり・集団づくりの推進

- ・ 障がいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに的確に応える指導を提供できるよう、通常の学級や通級による指導、支援学級という、連続性のある多様な学びの場の充実を図るとともに、個に応じた指導と集団における指導をバランスよく行い、障がいのある子どもの学びの充実をめざすこと。
- ・ 障がいのある子どもに必要な支援は、すべての子どもたちにとっても効果的な支援となりうることから、ユニバーサルデザインの観点を取り入れた「授業づくり」や自尊感情や自己有用感を高める「集団づくり」を進めること。

(2) 交流及び共同学習の充実

- ・ 「ともに学び、ともに育つ」を基本に、交流及び共同学習がさらに充実し、相互理解がより一層進むよう、学校における支援学級の位置付け及び教室配置について、不断の点検・見直しを行うとともに、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導内容等の工夫改善に努めること。
- ・ 交流及び共同学習の実施に当たっては、必要となる合理的配慮の検討、提供とあわせ、教育課程上の位置づけや児童・生徒の指導目標の明確化と適切な評価の実施、組織的な指導体制の構築等に取り組むこと。

- ・ 支援学校との交流及び共同学習についてもより一層の充実を図ること。

(3) 教職員の資質向上

- ・ 障がいのある幼児・児童・生徒の指導・支援等に関する様々な課題に対応できるよう、学校園と連携しながら研修内容を充実させ、すべての教職員の資質向上を図ること。
- ・ 支援教育の視点を踏まえた子ども理解をすべての教職員に浸透するよう取組みを進めるとともに、支援学級や通級による指導を受ける児童・生徒に対し、個々の障がいの状況や教育的ニーズに応じた適切な指導・支援が行われるよう、すべての教職員の専門性向上を図ること。

(4) 就学相談・支援の充実

- ・ 就学相談・支援に当たっては、「障がいの状態等」、「特別な指導内容」、「合理的配慮を含む必要な支援の内容」の三つの観点を踏まえて、幼児・児童・生徒の教育的ニーズの整理に努めるとともに、保護者からの意見を聴取し、関係機関と連携しながら、できるだけ早期に就学に関する適切な説明及び情報提供を行うこと。
- ・ 就学先となる学校や多様な学びの場について、本人及び保護者が正確な情報を得ることができるよう十分な説明を行ったうえで、本人及び保護者の意見を最大限尊重しつつ、教育的ニーズと必要な支援について合意形

成を図り、幼児・児童・生徒の状況に応じた適切な就学先の決定に努めること。

- ・ 障がいの有無にかかわらず誰もが安心して過ごせる学校づくりに向け、関係部局とも連携し、教育環境の整備に努めるとともに、障がいのある子ども一人ひとりの状況に応じた配慮・支援に努めること。

(5) 支援学校のセンター的機能の活用

- ・ 支援学校のセンター的機能に基づく相談・支援や、支援教育地域支援整備事業地域ブロック会議等を効果的に活用して、地域支援ネットワークのさらなる充実を図ること。
- ・ 支援学校リーディングスタッフ及び市町村リーディングチーム等を活用して、すべての教職員への支援教育に対する理解・啓発や専門性向上に努めること。

6 一人ひとりの教育的ニーズに対応した指導・支援の充実

障がいのある子どもや日本語指導が必要な子どもをはじめ、一人ひとりの子どもの自立に向けた効果的な指導・支援の充実を図ることが必要である。

【取組みの重点】

- ・ 支援学級における特別の教育課程の編成及び、通級による指導で実施する特別の指導について、一人ひとりの障がいの状況や教育的ニーズに応じた適切なものとなるよう努めること。
- ・ 児童・生徒の障がいの状況に応じた指導・支援の工夫や、支援学級及び通級による指導における自立活動を取り入れた教育課程の編成について、一層の充実を図ること。
- ・ 全教職員が、障がいのある児童・生徒、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導・支援について共通理解を図るとともに、支援教育に対する専門性を高め、学校園全体の取組みを充実していくこと。
- ・ 不登校の早期発見・早期対応のために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家も含めたチームによる教育相談体制を整えること。また、児童・生徒のニーズに応じた支援を進めるために、ICT等の活用や校内の教室以外の居場所設置等の工夫や外部機関との連携を図ること。
- ・ 日本語指導が必要なすべての児童・生徒に対して適切な指導・支援をするために、学校体制を構築するとともに、当該児童・生徒への日本語指導の内容の充実を図ること。その際、必要に応じて府の「オンライン日本語指導」を活用すること。

【取組み項目】

(1) 合理的配慮についての適切な対応

- ・ 「ともに学び、ともに育つ」を基本に、一人ひとりの障がいの状況や教育的ニーズに応じた合理的配慮が行われるよう努めること。あわせて、合理的配慮の基礎となる教育環境の整備・充実に努めること。
- ・ 合理的配慮の検討・決定に当たっては、幼児・児童・生徒の発達段階等を踏まえ、現在必要とされているものは何か、優先して提供する必要があるものは何か等について、学校園と保護者・本人とが十分に話し合い、合意形成を図ること。

(2) 障がいのある児童・生徒の教育課程の編成

- ・ 支援学級在籍児童・生徒の特別の教育課程の編成にあたっては、一人ひとりの教育的ニーズをふまえて、児童・生徒の障がいの状況や心身の発達等を考慮の上、必要に応じて、各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり、知的障がい支援学校の各教科の内容に替えたりするなど、実態に応じた教育課程を編成すること。また、自立活動の

指導を行い、その充実に努めること。

- ・ 通級による指導を行い、特別の教育課程を編成する場合には、自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うこと。
- ・ 障がいのある児童・生徒については、支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の児童・生徒の障がいの状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うこと。

(3) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成・活用

- ・ すべての学校園において、障がいのある幼児・児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や、乳幼児期から学校卒業後までを見通した一貫した支援が計画的、組織的に行われるよう、「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を作成し、効果的に活用すること。
- ・ 支援学級に在籍する児童・生徒や通級による指導を受ける児童・生徒の全員について、「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を作成すること。通級による指導を受け

第1章 確かな学力の定着と学びの深化

ていない通常の学級に在籍する発達障がい等のある児童・生徒の指導に当たっても、必要に応じて作成・活用に努めること。

- ・ 「個別の教育支援計画」の作成に当たっては、本人や保護者参画のもと、支援内容を検討するうえで必要な情報を記載すること。また、本人や保護者の意向を踏まえつつ、校内や医療・福祉・保健・労働等の関係機関で共有を図るとともに、定期的に評価・点検・見直しを行い、効果的な活用のために内容の充実を図ること。
- ・ 「個別の指導計画」の作成・活用に当たっては、「個別の教育支援計画」との関連を図りつつ、一人ひとりの障がいの状況や心身の発達段階等に応じた指導目標、指導内容及び指導方法を明確化し、きめ細やかな指導の工夫に努めるとともに、実施状況を適宜評価し、改善を図りながら、児童・生徒の指導に関わる教職員で共有すること。
- ・ 幼児・児童・生徒の発達段階の連続性を踏まえた指導・支援が適切に引き継がれるよう、日頃から校種間や関係機関における連携を深め、「個別の教育支援計画」の引継ぎが確実に行われるよう努めること。

(4) 通常の学級に在籍する児童・生徒への支援の充実

- ・ 通級指導教室での指導・支援をより一層充実させるとともに、通級指導教室における学びを通常の学級で十分に発揮することができるよう、通級指導教室担当と担任の連携はもとより、校内における支援体制の充実に努めること。
- ・ 通級指導教室については、巡回指導等、各学校や地域の実態をふまえた効果的な実施形態の選択及び運用を行うこと。
- ・ 通常の学級には発達障がい等支援を必要とする児童・生徒が在籍していることを前提に、すべての教科等において、児童・生徒一人ひとりの学習上の困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を行い、意図や手立てを明確にした指導・支援の充実を図ること。

その際、支援教育コーディネーターや巡回相談等を効果的に活用すること。

(5) 病弱児や医療的ケアの必要な児童・生徒への支援の充実

- ・ 院内学級在籍を含む病弱児については、学校間、家庭、病院等との連携を密にし、継続した学習指導に配慮すること。
- ・ 合理的配慮の観点の踏まえ、医療的ケアを必要とする児童・生徒が安全・安心に学校生活を送ることができるよう、校内体制を整えるとともに、看護師の配置を進め、学校医を含む医療、福祉等との連携をより一層図るなど、充実した医療的ケア実施体制構築に努めること。
- ・ 医療的ケアについての一般的な知識や医療的ケアが必要な子どもへの理解、緊急時の対応等の研修を実施し、医療的ケアについての理解を深めること。

(6) 早期からの切れ目ない支援体制の構築

- ・ 障がいのある幼児・児童・生徒とその保護者が、就学前から社会参加に至るまで、ライフステージに応じた適切な支援を受けることができるよう、医療・福祉・保健・労働等の関係機関と連携しながら、早期からの切れ目ない支援体制の構築に努めること。
- ・ 早期支援の重要性に鑑み、療育施設・保育所・幼稚園等就学前機関との連携において、「個別の教育支援計画」を作成・活用し、早期から適切な支援を引き継いでいくことができるよう努めること。

(7) 不登校への取組み

- ・ すべての児童・生徒が安心して過ごせるよう、自己肯定感や自己有用感を高めることや居場所づくり、子どもどうしの絆づくりを行うなどし、魅力ある学校づくりを推進すること。
- ・ 欠席しがちになる等の兆候を把握した場合は、機を逸することなく家庭訪問等を通じて保護者との協力体制を築き、きめ細やかで

適切な対応を図ること。

- ・ 小学校低学年時より不登校児童が増加する状況を踏まえ、不登校やその兆しがある児童に対して、初期段階からの支援体制を構築すること。また、中学校1年時においても不登校生徒が増加する傾向が続いていることから、小学校との連携を進め、円滑な中学校生活への接続に努めること。
- ・ 各校及び地域の状況、児童・生徒の支援ニーズに応じて、1人1台端末を活用し、教室と別室や自宅をオンラインでつなぎ、授業や学級の様子を視聴できるようにして、教育機会を増やしていくことや、学校に行きづらい児童・生徒の健康状況や気持ちの変化を確認するなど、児童・生徒の支援に努めること。
- ・ 教育支援センター（適応指導教室）等と連携し、教育の機会の確保を図るよう努めること。また、中学校3年時に長期にわたり不登校状態にある生徒に対し、卒業後の主体的な進路選択への支援に努めること。
- ・ 不登校児童・生徒の状況や背景が多様・複雑であることを踏まえ、児童・生徒が自らの進路を主体的に選択し、社会的に自立することをめざせるよう、民間の団体等との連携を含め、実状に応じて適切に支援を行うこと。

(P. 28 ⑨ (2))にも掲載

(8) 日本語指導が必要な子どもへのきめ細やかな支援体制の整備

- ・ 当該児童・生徒がどの学校に在籍しても等しく日本語指導が受けられるよう、市町村教育委員会は所管の学校全体の状況をふまえ、体制の整備に努めるとともに、各学校は、日本語指導担当教員を中心とした指導体制を充実させること。
- ・ 当該児童・生徒の入国歴や家庭での使用言語などの生活背景を把握するとともに、DLA等により測定した日本語能力に応じて個別の指導計画を作成し、「特別の教育課程」を実施すること。
- ・ 学校全体で国際理解・多文化共生の取組みを進めること。その際、「OSAKA多文化

共生フォーラム」や「オンライン国際クラブ」など、府の取組みを活用すること。

- ・ 日本語指導担当教員が研修で得た知識や指導方法等を共有し、学校全体の指導の充実に努めること。
- ・ 当該児童・生徒及び保護者に対して、学習や進路等に関する適切な情報提供に努めること。その際、府教育庁Webページ「帰国・渡日児童生徒学校生活サポート」の「学校生活サポート」や「多言語版家庭学習教材」「進路選択のために」等を活用すること。
- ・ 高等学校等への進学に関して、入学者選抜制度や受験上の配慮事項、申請手続き等、丁寧な説明をすること。その際、各地区の「多言語進路ガイダンス」を周知するとともに、参加を働きかけること。
- ・ 当該児童・生徒の高等学校等中途退学率が全体より高いことをふまえ、よりいっそうキャリア教育を充実させるとともに、高等学校等や関係機関と連携し、追指導に努めること。

(9) 外国籍の児童・生徒の就学機会の確保

- ・ すべての外国籍の児童・生徒の就学機会が適切に確保されるよう、就学案内の徹底や保護者への情報提供の実施など、就学促進のための措置を講じること。
- ・ 学齢簿の編製に当たっては、すべての外国籍の児童・生徒についても就学状況を管理・把握すること。就学状況が確認できない場合は、個別に保護者に連絡したり、出入国記録の照会等の手段を活用するなど、外国人学校等も含めた就学状況を把握すること。

(10) 中学校夜間学級の取組み

- ・ 様々な理由により、義務教育を修了できなかった人や、十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した人など、義務教育の機会の提供を必要とする人がいることを踏まえ、中学校夜間学級の広報に努めること。また、入学希望者の対応に当たっては、設置市と居住市町村とで十分連携すること。その際、必要に応じて、府教育庁とも連携すること。

第1章 確かな学力の定着と学びの深化

- 中学校夜間学級設置市においては、生徒の実態や習熟の程度に応じた指導を一層推進すること。また、設置市以外の市町村についても、多くの生徒が通学していることを踏まえ、学齢生徒等との交流行事を企画するなど、夜間学級生徒と共に学ぶ機会を設け、広く夜間学級の意義や現状について理解が深まるよう努めること。
- 夜間学級生徒の在籍については、設置市と生徒居住市町村とで連携し、適正に管理すること。

第2章 豊かな心と健やかな体の育成

7 人権・多様性を尊重する教育及び心を育む教育の充実

様々な人権問題を解決し、人権尊重の社会づくりを進めるために、人権3法や府人権関係3条例をはじめ、人権教育に係る国及び府の関係法令等に基づき、「生きる力」を育む教育活動の基盤として、あらゆる教育活動において、人権教育を一層計画的・総合的に推進することが必要である。その際、SNS等インターネット上の差別やいじめ等が生起していることにも留意する必要がある。

また、児童・生徒の豊かな人間性を育むため、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進するとともに、多様な体験活動等の充実を図ることも必要である。

【取組みの重点】

- ・ インターネット上の様々な人権侵害や偏見、差別について、児童・生徒が被害者にも加害者にも傍観者にもならないよう、人権教育や情報モラル教育を通して、人権に関する知的理解を深めるとともに、人権感覚を身に付け、自他の人権を守るよう行動する力を系統的に育成すること。その際府作成の「ネット上の偏見・差別について考える学習活動体系」を活用すること。
- ・ すべての教職員が研修等を通じて自らの人権感覚を高めるとともに、あらゆる場面で人権意識を絶えず見つめ直しつつ教育活動を行うこと。とりわけ、個別的な人権課題に関わる研究授業に取り組むこと。
- ・ 道徳科の授業においては、児童・生徒が道徳的価値を自分事とし、多面的・多角的に考えたり、議論したりすることにより、自己や人間としての生き方について考えを深められるよう、子どもたちの実態に即しながら指導を工夫すること。

【取組み項目】

(1) 人権教育の充実

- ・ 人権教育の推進に当たっては、女性、子ども、障がい者、同和問題（部落差別）、在日外国人、性的マイノリティ、感染症等に係る人権問題をはじめ、様々な人権問題に関する正しい理解を深め、解決をめざした教育を総合的に推進すること。
- ・ 人権教育推進計画の作成に当たっては、幼児・児童・生徒の実態を踏まえ、発達段階に即した体系的なものとなるよう留意し、日常的に人権感覚の醸成に資する取組みを行うこと。
- ・ 校内体制の構築に当たっては、人権課題別担当者の明確化を図るなど、校内推進体制を確立し、人権尊重の理念を学校運営に反映すること。
- ・ 幼児・児童・生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという基本的姿勢の形成をめざすこと。
- ・ 幼少期から生命の尊さに気づかせ、互いを

大切にできる態度や人格の育成等をめざす人権基礎教育に取り組むこと。

- ・ すべての教職員が、「児童の権利に関する条約」及び「大阪府子ども条例」の趣旨を踏まえ、児童・生徒の意見を受け止め、各学校の実情に応じた適切な指導を行うこと。
- ・ 人権に関する知的理解を深め、人権感覚を身に付けるための研修や児童・生徒の変容をもとに人権教育の指導力を向上させる研究授業等の実施を組織的・計画的に進めること。その際、関係資料や府主催の人権教育実践研究協議会及び人権教育フォーラム等の機会を積極的に活用すること。
- ・ 関係研究組織との連携の充実を図ること。

(2) 道徳教育の充実

- ・ 道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体で行うこと。また、学校が一体となって道徳教育を進めるため、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を構築すること。
- ・ 道徳教育の全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては、児童・生徒や地域の実態、

学校の特色等を考慮し、重点事項を定めた上で、各教科等における道德教育に関わる指導の内容及び時期を整理したものを別葉にして加えて関連付けるなどして、年間を通して活用しやすいものとする。

- ・ 道德科の授業においては、道德的価値について教材や体験等から考えたことを、議論を通して多面的・多角的に考えを深め、自分との関わりで考察できるよう、教材提示や発問、話し合いの形態や板書等の指導方法を工夫し「考え、議論する道德」に向けた授業改善に努めること。
- ・ 地域の人々の参画等によって、家庭や地域社会と一体となった取組みを推進すること。

(3) 人権教育の一環としての同和教育の推進

- ・ 関係法令及び答申等の趣旨を踏まえ、課題のある子どもたちに対する人権尊重の視点に立ち、同和問題（部落差別）の早期解決に向けて、人権教育の一環としての同和教育の推進に努めること。
- ・ これまでの同和教育の経験や成果を生かし、同和問題（部落差別）をはじめとする様々な人権問題の解決に向けて、人権教育を推進すること。

(4) 「ともに学び、ともに育つ」教育の推進

- ・ 関係法令等を踏まえ、共生社会の実現をめざし、障がい者に対する無理解や偏見等を取り除き、障がい者の人権が尊重される教育を推進するため、各学校においては、障がいについての理解を深める教育を系統的に実施すること。その際には、関係資料等の活用を図ること。
- ・ 障がいのある幼児・児童・生徒が自尊感情や自己肯定感を育み、自らを取り巻く人間関係を豊かに構築していけるよう、関係機関や専門家とも連携し、組織的な対応に努めること。
- ・ 障がいの有無に関わらず、すべての子ども

が、日常的な関わりの中で、お互いについての理解を深め、一人ひとりを尊重し、違いを認め合う態度を育む集団づくりを、学校全体で進めること。

(5) 多文化共生教育の推進

- ・ 関係法令及び指針の趣旨を踏まえ、互いの違いを認め合い、共に生きる教育を系統的に実施すること。その際には、関係資料等の活用を図り、指導内容、指導方法等の工夫・改善及び教材、資料の研究開発に努めること。
- ・ 自国の歴史や文化・伝統に誇りを持ち、諸外国の文化や習慣等について理解を深め、互いに違いを認め合い、共に生きていく力や自分の意思を表現できる力を育成すること。
- ・ 韓国や中国など、近隣アジア諸国との継続的な友好・文化交流活動の推進を図るなど、相互理解や相互信頼を深める取組みを進めること。
- ・ 課外の自主活動等も含め、在日韓国・朝鮮人をはじめとする在日外国人幼児・児童・生徒が、自らの誇りと自覚を高め、本名を使用できる環境の醸成に努めること。

(6) ジェンダー平等教育の推進と性的マイノリティの子どもへの対応

- ・ 府条例の趣旨を踏まえ、研修等を通じて、教職員が性的指向及び性自認の多様性に関する理解を一層深めるとともに、幼児・児童・生徒が性的指向及び性自認の多様性について、正しく理解できる取組みを推進すること。
- ・ 性的指向・性自認について、幼児・児童・生徒の心情に配慮した環境をつくるとともに、相談しやすい体制を整えること。
- ・ 性別に関係なく個々の能力を生かして安心・安全に過ごせるためのジェンダー平等教育を推進すること。その際、大阪府府民文化部男女参画・府民協働課が作成したジェンダー平等教育啓発教材「男女共同参画について考えよう」を活用すること。
- ・ 幼児・児童・生徒が固定的な性別役割分担意識にとらわれないように、名簿や並び方、

第2章 豊かな心と健やかな体の育成

各種調査など、すべての教育活動において、必要のない男女別の指導は行わないこと。

- ・ ジェンダー平等の観点から、学校からの配付物や掲示物をはじめ、学校環境を日常的に点検すること。

(7) 平和教育の推進

- ・ 生命の尊さ、戦争の惨禍、平和の尊さについて適切に指導し、国際社会に貢献できる資質と態度を身に付けられるよう、平和教育を推進すること。その際「平和教育基本方針」を踏まえるとともに、府が作成した事例集や大阪国際平和センター（ピースおおさか）等の施設を活用すること。

(8) 福祉・ボランティア教育の推進

- ・ 児童・生徒が福祉の意味や役割についての理解を深めるために、障がい者や高齢者との出会いや体験活動等を通じて、身近にいる障がいのある仲間や高齢者への思いやりにつなげるなどの福祉教育の推進を図ること。

(9) 人権侵害事象等に対する対応

- ・ 校長を中心とした、人権侵害を許さない学校体制づくりに努めること。
- ・ 教職員が差別事象等の人権侵害を見逃さない感覚を高めるとともに、人権侵害が生じた場合には、府教育庁及び関係機関と連携を図り、迅速かつ組織的に対応すること。
- ・ 事象が生じた際は、差別等を受けた幼児・児童・生徒の人権を擁護することを基本とし、併せて、関係した幼児・児童・生徒の背景をはじめ事実関係を的確に把握・分析し、明らかとなった教育課題の解決に最大の努

力を払うこと。

(10) 「こころの再生」府民運動

- ・ 日々の生活の中で改めて「こころ」について見つめ直し、できることから実践する「こころの再生」府民運動の趣旨を踏まえ、学校教育活動全体で『「大切なこころ」を見つめ直して～「こころの再生」府民運動～』の活用等により、「生命（いのち）を大切にする」「思いやる」「感謝する」「努力する」「ルールやマナーを守る」など、子どもたち一人ひとりの豊かな心を育む取組みを実践すること。また、各学校や地域において、あいさつ運動や交流活動等を積極的に進めること。

「こころの再生」
府民運動のロゴマーク

愛さつOSAKAの
ロゴマーク



(11) 教職員人権研修ハンドブックの活用

- ・ 教職経験年数の少ない教職員に人権教育の実践や成果を継承できるよう、研修の実施に際しては「教職員人権研修ハンドブック」の活用に努めること。

(12) 大阪人権博物館の活用

- ・ 生命の尊さに気づき、思いやりの心や将来への志・夢を育み、自他の人権を守ろうとする意識・態度と豊かな人間性や社会性を身に付けるため、大阪人権博物館（リバティおおさか）の移動人権展・企画展等の行事等や、資料の活用に努めること。

8

感性を豊かにする読書活動の推進

(関連項目→P.12「[③確かな学力をはぐくむ読書活動の充実](#)」)

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにする等、欠くことのできないものであることから、その推進が必要である。

【取組みの重点】

- ・ 「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」(令和3年3月)の趣旨を踏まえ、発達段階に応じて、すべての子どもが読書への興味・関心を高め、必要な知識を得るとともに、自ら楽しみながら読書活動を行うことができる環境の整備を図ること。
- ・ ビブリオバトルやオーサービジットをはじめとした読書イベント等を活用し、読書活動ができていない子どもが少しでも本に興味・関心を持つよう、読書活動の普及啓発・推進を図ること。

【取組み項目】

(1) 読書への興味・関心を高める工夫

- ・ 児童・生徒が読書の楽しさを実感し、読書習慣と豊かな語彙力を身に付けられるよう読書活動に対する興味・関心を高める工夫を行うこと。
- ・ 朝の全校一斉の読書タイムや国語科における並行読書、ブックトークやビブリオバトル等を通じて、読書活動の充実を図ること。その際、府のオーサービジット事業等も積極的に活用すること。

(2) 学校図書館活用のための環境整備

- ・ 「読書センター」として、児童・生徒が本を読みたくなるような読書環境を計画的に整備すること。また、配架の仕方や読書スペースの工夫などを行うこと。
- ・ 「学習センター」「情報センター」として、年間指導計画に基づき、各教科等の学習において活用しやすい環境を整え、授業で役立つ資料を準備すること。
- ・ 取組みの充実にあたっては、公立図書館と連携を図り、団体貸し出し等のサービスも積極的に活用すること。
- ・ 「学校図書館法」及び文部科学省通知「学校図書館司書教諭の発令について」に基づき、司書教諭の配置及び発令を行うこと。司書教諭(学校司書)を中心に、すべての教職員による学校図書館の運営体制を確立すること。

(3) 読書活動の支援の充実

- ・ 子どもが読書への興味・関心を高め、自ら読書活動を行うことができるよう、すべての学校で公立図書館やボランティアとの連携を促進し、学校での読書環境づくりを進めること。その際、府立中央図書館ホームページの「学校支援のページ」の活用すること。
- ・ 乳幼児期の読書機会が増えるよう、すべての公立幼稚園・保育所・認定こども園における読み聞かせ等や保護者への啓発が行われるよう努めること。
- ・ 公立図書館司書や学校司書、司書教諭、保護者、読書ボランティア等子どもの読書に関わる人材のスキル向上に努めるとともに、支援人材のネットワーク化を図り、地域での読書環境づくりを進めること。また、子どもに読書の楽しさを伝える機会の提供や、読書活動の重要性の啓発に取り組むこと。

(4) 子ども読書活動推進計画の策定

- ・ 子ども読書活動推進計画未策定及び計画期間が過ぎた市町村については早期に策定すること。また、円滑な推進のために、学校、教育保育施設、民間団体等の関係機関との連携を推進すること。

(5) 視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画の策定

- ・ 市町村における視覚障がい者等の読書環境の整備の状況等を踏まえ、視覚障がい者等

の読書環境の整備の推進に関する法律第8条に規定する計画を策定すること。また、計画を策定するにあたっては、障がい福祉、公立図書館、学校図書館、支援教育等の関連部署との連携を推進すること。

9

不登校、ヤングケアラーやいじめ、暴力行為等への
取組みの推進

不登校、ヤングケアラーや、いじめ・暴力行為等の問題行動等に対して、各学校においては、児童・生徒理解に基づいて組織的な対応を行い、すべての児童・生徒の主体的な成長を支える指導を推進することが重要である。また、市町村教育委員会は専門人材からなるチーム支援体制を構築するとともに、その機能を充実させ、深刻な事案に対してチームを派遣して、迅速に課題解決を図ることが必要である。

【取組みの重点】

- ・ 児童・生徒一人ひとりの良さや可能性を伸ばさせる取組みを進めるにあたっては、児童・生徒が自発的・主体的に自らを発達させていく過程を教職員が支えるという観点に立ち、学習指導と生徒指導を相互に関連付けるよう留意すること。
- ・ 不登校の早期発見・早期対応のために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家も含めたチームによる教育相談体制を整えること。また、児童・生徒のニーズに応じた支援を進めるために、ICT等の活用や校内の教室以外の居場所設置等の工夫や外部機関との連携を図ること。
- ・ いじめを認知した場合には、速やかに学校いじめ対策組織に当該いじめに係る情報を報告し、組織的な対応につなげること。また、認知したいじめについては、学校いじめ対策組織を中心に解消に向けて計画的に実行すること。
- ・ ヤングケアラーについては、本人や家族の意識が様々で、表面化しにくいことから、ヤングケアラーについて教職員の理解を深めるとともに、早期把握と本人の気持ちに寄り添った支援につなげること。

【取組み項目】

(1) 児童生徒一人ひとりの良さや可能性の
伸長を支える取組みの推進

- ・ すべての児童・生徒を対象にコミュニケーション力、他者理解力、人間関係形成力、目標達成力等の社会的資質・能力の育成をめざした取組みを、意図的に各教科や総合的な学習の時間、特別活動等も関連させて行うこと。
- ・ 学校生活のあらゆる場面で、児童・生徒が自分の思いを伝え、互いのよさや違いを認め合うことができる共感的な人間関係、学級づくり、安心して授業や学校生活を送れる風土を教職員の支援のもと、児童・生徒が自らつくりあげるよう配慮すること。
- ・ 生徒指導の諸課題にかかる未然防止をねらいとした非行防止教室や、いじめ防止教育、SOSの出し方教育を含む自殺予防教育、薬物乱用防止教育等の教育プログラムを計画的に実施すること。

(2) 不登校への取組み

- ・ すべての児童・生徒が安心して過ごせるよう、自己肯定感や自己有用感を高めることや居場所づくり、子どもどうしの絆づくりを行うなどし、魅力ある学校づくりを推進すること。
- ・ 欠席しがちになる等の兆候を把握した場合は、機を逸することなく家庭訪問等を通じて保護者との協力体制を築き、きめ細やかで適切な対応を図ること。
- ・ 小学校低学年時より不登校児童が増加する状況を踏まえ、不登校やその兆しがある児童に対して、初期段階からの支援体制を構築すること。また、中学校1年時においても不登校生徒が増加する傾向が続いていることから、小学校との連携を進め、円滑な中学校生活への接続に努めること。
- ・ 各校及び地域の状況、児童・生徒の支援ニーズに応じて、1人1台端末を活用し、教室と別室や自宅をオンラインでつなぎ、授業や

学級の様子を視聴できるようにして、教育機会を増やしていくことや、学校に行きづらい児童・生徒の健康状況や気持ちの変化を確認するなど、児童・生徒の支援に努めること。

- ・ 教育支援センター（適応指導教室）等と連携し、教育の機会の確保を図るよう努めること。また、中学校3年時に長期にわたり不登校状態にある生徒に対し、卒業後の主体的な進路選択への支援に努めること。
- ・ 不登校児童・生徒の状況や背景が多様・複雑であることを踏まえ、児童・生徒が自らの進路を主体的に選択し、社会的に自立することをめざせるよう、民間の団体等との連携を含め、実状に応じて適切に支援を行うこと。

(P.19 ⑥ (7))にも掲載

(3) いじめへの取組み

- ・ いじめへの対応については、「[いじめ防止対策推進法](#)」や国の「[いじめの防止等のための基本的な方針](#)」を踏まえた対応が為されるよう留意すること。
- ・ 各学校において「学校いじめ防止基本方針」を作成するとともに、毎年度、実効性が高いものとなっているか見直しを図ること。
- ・ 「いじめは絶対に許されない」との人権感覚を日頃より醸成し、異なる感性や感覚、異なった言動を受容できるいじめに向かわない集団づくりに努めること。また、いじめが生まれる構造やいじめの加害者の心理を明らかにしたうえで、いじめに向かわない態度や力を身に付ける未然防止教育を計画的に実施すること。
- ・ 各学校においては、「[いじめ対応セルフチェックシート](#)」等を活用し、いじめの早期発見や対処の在り方等について、管理職及び教職員の理解を深めるとともに、日常より子ども理解に努め、子どもの不安や多様な悩みを受け止めること。その際、複数回のアンケート調査やスクリーニング等を実施するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー等の専門家を活用し、日頃から教育相談体制の充実を

図ること。

- ・ 相談窓口の設置等、児童・生徒・保護者が相談しやすい体制を構築し、その周知を図ること。あわせて、府が設置する「LINE相談」「すこやか教育相談24」等の相談窓口の周知を図ること。
- ・ いじめに対して組織的な対応を行う際、関係児童・生徒への聞き取りや支援体制等の構築、保護者との連携等について迅速に方針を決定すること。
- ・ いじめへの対応にあたっては、事態の深刻化を防ぐため、必要に応じて市町村教育委員会の学校支援チームや府の緊急支援チームの活用を図ること。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染者や濃厚接触者等となった児童・生徒や障がいのある児童・生徒、外国にルーツのある児童・生徒、性的マイノリティ等に係る児童・生徒等に対して、いじめが行われることのないよう、適切な支援を行うとともに、保護者との連携、周囲の児童・生徒に対する必要な指導を組織的に行うこと。

(4) インターネット、SNS上のトラブルへの取組み

- ・ インターネット・SNSを介したいじめについては、児童・生徒の端末や携帯電話等の利用実態に応じた指導を年間計画に位置付けるとともに、研修等により教職員が正しい理解を深め、保護者への啓発にも努めること。
- ・ 児童・生徒の端末や携帯電話等の利用に当たっては、その有用性・危険性を理解させるとともに、正しくネットを使い、適切な使用時間を守るなど、自ら対処できる力を育成すること。
- ・ 端末や携帯電話等でのSNSや無料通話アプリ等を介したネット上のトラブルや誹謗中傷の書き込み、ネット依存等の課題に対しては、児童・生徒への指導に加え、保護者への啓発活動等を行うとともに、必要に応じて「大阪の子どもを守るサイバーネットワーク」と連携し対応すること。

- 学校での端末や携帯電話等の取扱いについては、大阪府「[小中学校における携帯電話の取扱いに関するガイドライン](#)」も参考にルールや方針を定めること。

(5) ヤングケアラーへの取組み

- ヤングケアラーについては、本人が家庭の状況を知られたくない場合、また、やりがいを感じている場合や本人や家族が支援を必要と考えていない場合等、状況が様々であり、日頃からの子どもの状況把握に加え、生活等についてのアンケートを工夫する等、教職員が早期発見に努めること。
- ヤングケアラーを把握した際には、スクールカウンセラー等と協働し、まず本人から丁寧に話を聞き取ること。支援にあたっては、スクールソーシャルワーカーと協働し、リスクに配慮しながら、子どもや家庭にそった支援につなげること。また、必要に応じて福祉等関係機関や地域のNPO等の支援機関との連携を図ること。

(6) 暴力行為等への取組み

- 日々の取組みにおいて、公正公平な態度や法やきまりの意義を理解し順守する等の規範意識等、社会的資質を高めるよう働きかける取組みを学習指導と関連付けて推進すること。
- 暴力行為に対しては、毅然とした指導を行うとともに、責任の所在を明確にし、加害者への早期の指導や被害の拡大防止等の対応を図ること。その際、「[5つのレベルに応じた問題行動への対応チャート](#)」についても積極的に活用すること。また、児童・生徒を取り巻く環境の改善に向け、子ども家庭センターや警察、少年サポートセンター、市町村の福祉部局等、関係機関との連携を図ること。
- 学級がうまく機能しない等生徒指導上の課題については、機能的にチーム対応できるよう日頃より教職員が相談しやすい関係や雰囲気醸成し、教職員同士が支え合い、学び合う同僚性を高めておくこと。また、児童・生徒の健全育成を地域で担うという観点から家庭・地域社会との連携を日常的に進めておくこと。

10 子どもたちの生命・身体を守る取組み

子どもたちが被害者・加害者となる事件・事故、自死などの未然防止に向けた適切な対策や、新型コロナウイルス感染症に係る子どもたちの不安やストレスの高まりに対するサポートを行うとともに、自他の生命を大切にする心を育むための総合的な取組みが重要である。

【取組みの重点】

- ・ 児童・生徒が不安やストレスを自ら発信できるよう相談窓口の周知の徹底や、心のケア等適切に対応できるスクールカウンセラー等と連携した相談体制等を整えること。
- ・ 児童虐待を受けた、またはその疑いがあると思われる子どもを発見した場合には、確証がなくても速やかに子ども家庭センター又は市町村児童虐待担当課等へ通告すること。また、市町村教育委員会は関係機関と連携して継続的な支援を行うこと。

【取組み項目】

(1) 相談体制の充実、自ら相談する力の育成

- ・ 子どもが相談しやすい体制を構築するとともに、アンケートや1人1台端末の活用、スクリーニング等を実施し、気になる子どもに対しては家庭訪問を積極的に行うなどして、子どもや保護者の状況の把握に努めること。
- ・ 児童・生徒に、発達段階に合わせて、自ら自分の身を守る力やSOSを発信する力を育成すること。その際、スクールカウンセラー等を活用した授業等について検討すること。

(2) 児童虐待への対応

- ・ 教職員は児童虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、児童虐待に対する認識を深めること。
- ・ 早期発見の観点から、欠席が継続している幼児・児童・生徒に対して、定期的な安全確認を行うこと。また、休業日を除き引き続き7日欠席した場合は、学校は速やかに市町村の教育委員会や福祉部局に情報提供又は通告すること。
- ・ 通告後に、保護者からの威圧的な要求等がある場合には、組織的に対応するとともに、速やかに市町村教育委員会に連絡のうえ、ケースに応じて警察等の関係機関やスクールロイヤー等の専門家と連携して対応するこ

と。

- ・ 児童虐待により一時保護後解除された、もしくは在宅で支援となった子どもについて、教職員間で日常的に情報共有を行うとともに、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の専門家や福祉機関と連携して、継続的な支援に努めること。
- ・ 要保護児童対策地域協議会において、虐待ケースとして進行管理台帳に登録されている、もしくは児童相談所が必要と認める幼児・児童・生徒について、1か月に1回以上、書面にて情報提供を行うこと。
- ・ 進学・転学の際の学校間の情報の引継ぎについては、市町村虐待対応担当課や児童相談所と情報共有し、伝達する内容に漏れないよう学校間での引継ぎをすること。その際、引き継ぐ情報については、個人情報保護の観点から各市町村の個人情報保護条例等に基づき判断すること。

(3) 個人情報の適正な取扱い

- ・ 個人情報漏洩には、児童・生徒の生命・身体を脅かす危険性もあることを認識したうえで、個人情報を含む文書や記録媒体の取扱いについて、各市町村の個人情報保護条例を踏まえて作成されている指針や取扱い規定等に基づき、適正に行うこと。
- ・ 個人情報を含む文書や記録媒体の管理・保管に当たっては、管理責任を明確にし、適切な管理及び保護に組織的に取り組むように

するとともに、各学校の状況を踏まえた実効性のある個人情報漏洩防止策を講じること。

- 行政文書や個人情報の適切な取扱い、管理・保管についての研修を深め、個人情報保護の重要性について教職員一人ひとりの意識の向上を図ること。
- 特に特定個人情報（個人番号（マイナンバー）が記載された個人情報）の取扱いについては、関係法令や内閣府特定個人情報保護委員会の「[特定個人情報の適正な取扱いに関する](#)

[ガイドライン](#)」を踏まえ、基本方針や要綱等を策定し、安全管理措置等を講じるなど、特定個人情報の保護、管理の徹底を行うこと。

- 情報通信機器による処理を行うに当たっては、校内で取扱規定を作成し、ネットワーク等を通じての情報の漏洩が生じないように、全教職員に周知・徹底するとともに、パスワード等により情報を保護するなど、万全のセキュリティ対策を講じること。

11

保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底及び学校の
体育活動中の事故防止等の取組み

学校教育活動全体を通して保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底を図り、食物アレルギー等に係る事故防止や、熱中症、感染症、食中毒等の予防に努めるとともに、万一の場合の対応が適切に行える体制を整える必要がある。

また、依然として、学校における体育活動中の事故が発生している状況を踏まえ、体育の授業や体育的行事、運動部活動等の体育活動に係る事故防止や熱中症対策に万全を期することが必要である。

【取組みの重点】

- ・ 学校における体育活動中の事故防止対策等について、必要に応じて見直すとともに、適切な対応がなされるよう、学校全体で指導の徹底を図ること。
- ・ 食物アレルギー対応については、府教育委員会が作成した「[学校における食物アレルギー対応ガイドライン](#)」に基づき、校長を責任者として関係者で組織する対応委員会等を設置すること。また各校の状況について十分検討したうえで、対応マニュアルをあらかじめ策定しておくとともに、常に点検し必要に応じて見直すなど、日頃から事故防止対策を行うこと。
なお、マニュアル策定の際には、保護者や主治医との連携を図りつつ、児童・生徒等の状況に応じたものとするよう指導すること。加えて、食物アレルギーの既往症がない幼児・児童・生徒の初発の事故が多く発生していることから、事故は、いつ、どこでも起きるものだと想定し、すべての教職員が緊急時に対応できるよう、毎年校内研修等を実施すること。
- ・ 幼児・児童・生徒の熱中症を予防するため、健康観察をはじめ、こまめな水分・塩分補給や、休息を促すなど、健康管理を徹底すること。その際、「熱中症予防のための運動指針」や「熱中症対策ガイドライン」等により、活動の中止や延期、見直し等も含め、適切に対応すること。
- ・ 感染症対策のポイントは、「感染源を絶つ」、「感染経路を絶つ」、「抵抗力を高める」であり、これらを踏まえた取組みの重要性について、教職員が理解するだけでなく、幼児・児童・生徒にも理解させ、誰もが適切に対策を実施できるようにすること。

【取組み項目】

(1) 学校の体育活動中の事故防止等の徹底

- ・ 各活動場所については、体育活動に適した環境の整備を図るとともに、活動内容、幼児・児童・生徒の人数を踏まえ、安全に活動できるよう、十分な広さを確保すること。
- ・ 技術指導においては、段階を踏んで具体的に説明し、安全を確認しながら行うこと。
- ・ 授業等で使用する機材・用具などは、危険を予測し、日常的に安全点検を行うこと。特にゴールやテント等については、確実に固定すること。
- ・ 幼児・児童・生徒に対し、体育活動に伴う危険性について理解させるとともに、安全のためのルールやきまりを順守するよう、徹底すること。
- ・ 熱中症を予防するために、こまめに水分

や塩分を補給させ、休息を取らせるとともに、幼児・児童・生徒への健康観察など健康管理を徹底すること。その際、「熱中症予防のための運動指針」等により、活動の中止や延期、見直し等も含め、適切に対応すること。

- ・ 屋外での体育活動においては、天候の急変などによる落雷等に十分注意し、ためらうことなく計画の変更・中止等の適切な措置を講ずること。
- ・ 万一に備え、迅速な救急処置や関係者への連絡ができる体制を整備すること。

(2) 武道における安全指導

- ・ 中学校の保健体育における体育分野について、特に「武道」の指導に当たっては、生徒の技能の段階に応じて行うとともに、施設や用具等の安全点検を行うなど練習環境

第2章 豊かな心と健やかな体の育成

に配慮すること。特に、柔道において、受け身を安全にできるよう十分な指導を行い、また、安全な活動を確保するためのルールやきまり等が確実に励行されるようにすること。

(3) 学校給食における衛生管理の徹底

- 学校給食の実施においては、学校給食法第9条で定める「学校給食衛生管理基準」に基づき、適切な衛生管理を行い、食中毒の発生を防止すること。

また、「[学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～](#)」に基づき、新型コロナウイルス感染症の感染及び拡大予防に努めること。

(4) 食育の推進

- 食に関する指導に当たっては、児童・生徒の実態を踏まえて指導の内容、方法、指標等を決定し実施していくこと。そのためには、すべての学校で食に関する指導の全体計画及び推進するための校内体制を必要に応じて見直し、学校教育活動全体を通じて実施すること。とりわけ、栄養教諭配置校においては、栄養教諭を中心とした組織的な取組みを推進すること。
- 学校・家庭・地域が連携した取組みを推進するとともに、全教職員が連携・協力し、望ましい食習慣の形成に結びつく実践的な態度や食物を大事にする心などの育成を図ること。
- 食育の評価を、学校教育自己診断等を活用して行い、食育の推進体制や指導内容の改善を図ること。加えて、栄養教諭等が関わる食に関する指導を通して、児童・生徒の食に関する課題改善に取り組むこと。

(5) 学校保健計画の策定

- 「[学校保健安全法](#)」に基づき、学校保健計画を策定すること。策定に当たっては、学校の状況や前年度の学校保健の取組み状況等

を踏まえ、具体的な実施計画とすること。

(6) 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の充実

- 大麻・覚醒剤等の薬物乱用防止教育については、学校保健計画の中に位置付け、喫煙・飲酒とともに、指導計画を策定し、保護者への啓発を含め、学校教育活動全体を通じて取り組むこと。
- 中学校においては、学校薬剤師や警察官等の専門家等による薬物乱用防止教室を年1回以上開催するとともに、「[大阪府薬物の濫用の防止に関する条例](#)」を踏まえ、「危険ドラッグ」の危険性についても理解させること。
- 「医薬品等の正しい使い方」についても取り扱うこと。

(7) 性に関する指導の充実

- 性に関する指導を通じて、子どもたちが性に関する課題に適切に対応できるよう、正しい知識を身に付けるだけでなく、自ら考え適切な意思決定と行動選択ができる力や、自己や他者を認め尊重する態度の育成が重要であることから、府教育委員会が作成した資料等を積極的に活用するなどし、指導の充実に図ること。
- 性に関する指導及びエイズ教育を推進する際には、幼児・児童・生徒の発達段階を踏まえ、ジェンダー平等の視点や「性の多様性」について教職員が理解し、実態に応じた指導が必要であることから、全教職員の共通理解のもと校内体制を整えるとともに、保護者の理解を得て集団指導と個別指導を効果的に組み合わせ、指導の充実に図ること。

(8) 生活習慣の確立

- 望ましい食習慣の形成をはじめ、就寝・起床時間等、子どもたちの生活リズムの確立・向上に向けた取組みの推進が必要なことから、学校園・家庭・地域及び関係機関が連携して、幼児・児童・生徒の生活習慣の確立に向け取り組むこと。

(9) 学校保健委員会の開催

- ・ 幼児・児童・生徒の健康管理等については、保護者・学校三師（学校医、学校歯科医、学校薬剤師）・地域の関係機関等と十分な連携を図るとともに、健康の保持増進に必要な資質や能力を幼児・児童・生徒に育成することができるよう、年に1回以上、委員に保護者を含む学校保健委員会を開催し、その活用を図ること。

(10) 安全・快適な教育環境の確保

- ・ 「[学校環境衛生基準](#)」に基づき、幼児・児童・生徒にとって安全で快適な教育環境が確保されるよう適切な維持管理を図るとともに、適切に検査結果を保管すること。

(11) 国民健康保険法を踏まえた適切な支援

- ・ 「[国民健康保険法](#)」を踏まえ、無保険により児童・生徒が医療を受けることができなくなることをないよう、関係機関とも連携して適切に対応すること。

(12) AED使用を含めた心肺蘇生実施体制の整備

- ・ 万一の心肺停止に備え、すべての教職員がAEDの使用を含めた心肺蘇生法を実施できる体制を整えるとともに、その際、「死戦期呼吸」についても周知すること。
- ・ 中学校においては、学習指導要領に基づき、心肺蘇生法などの実習を行うこと。

12

体力づくりの取組み

子どもの体力・運動能力は改善傾向にあるものの、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、依然として下位段階にある児童・生徒の割合が高い状況にあることから、引き続き子どもの体力・運動能力、運動習慣等の実態を分析し、その結果を踏まえて、学校全体で授業等の工夫・改善を推進するなど体力向上に向けた取組みを進める必要がある。

【取組みの重点】

- ・ 学校における体育活動を活性化する取組みや地域・家庭でスポーツ活動に親しむ機会を増やすことにより、児童・生徒の運動習慣を育み、体力づくりを図ること。
- ・ すべての児童・生徒の体力状況を正確に把握・分析するとともに、学校全体で授業等の工夫・改善を行い、体力づくりを推進すること。

【取組み項目】

(1) 体力づくりの推進

- ・ 策定した「体力づくり推進計画」を基に、PDCAサイクルに基づく体力づくりをより一層進めること。
- ・ 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を踏まえて、体力向上に向けた取組みを検証し、改善を図ること。
- ・ 府教育委員会が作成した小学校教員向け動画教材や「体育の授業がかわる！簡単プログラム」「[めっちゃぐんぐん体力アップハンドブック](#)」などの資料、「元気アッププロジェクト事業」を積極的に活用し、学校全体で体育活動の活性化をめざすとともに、児童・生徒の運動習慣の確立に努めること。

(2) 地域におけるスポーツ活動の推進

- ・ 地域におけるスポーツ活動を支援するため関係団体との連携のもと、特定の小・中学校や施設等を拠点とし、地域の特性に応じた地域スポーツクラブの育成を図るとともに、

自主的・主体的に活動できる組織づくり・システムづくりの推進に努めること。

(3) 健康教育の充実

- ・ 基本的な生活習慣の乱れ、生活習慣病の兆候、感染症や心の健康問題、また、アレルギー疾患等による幼児・児童・生徒の健康に関わる課題解決を図るため、調和の取れた食事、適切な運動、十分な休養・睡眠といった「健康3原則」の理念に基づき、幼児・児童・生徒が自ら健康を保持増進していくことができる実践力を身に付けるための健康教育の充実を図ること。

(4) 体力づくりの推進

- ・ 健康教育及び体力づくりの全体計画、年間指導計画の作成に当たっては、体育・保健体育の学習を中心として、生活科、総合的な学習の時間や特別活動との関連を図るなど学校教育全体で推進するとともに、家庭や地域との連携を図ること。

13 子どもの自主性を尊重した部活動の取組み

各校において生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、生徒にとって望ましい環境の構築や心身の成長を促すという観点に立ち、地域、学校、分野・活動目的等に応じた地域との連携・協働、地域移行等、多様な形で実施されることが必要である。

【取組みの重点】

- ・ 生徒が自主的にスポーツ・文化活動に取り組み、体力や技能の向上をめざす活動機会を保障する観点から、休日における地域のスポーツ・文化活動の環境を整えること。その際、生徒への指導等に意欲を有する地域人材の協力の下で、生徒にとって望ましいスポーツ・文化活動を地域が支える環境の構築を図ること。

【取組み項目】

(1) 部活動の取組み

- ・ 指導に当たっては、府教育委員会の通知及び中学校学習指導要領の内容を踏まえ、学校教育活動の一環として教育課程との連携を図ること。
- ・ 各市町村の「部活動の方針」等に則り、合理的かつ効率的に取り組むこと。また、令和

4年12月、国から示された「[学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン](#)」において、示されている休日の学校部活動の段階的な地域連携・地域以降について、今後見直される予定の中学校学習指導要領の動向を踏まえつつ、計画的に進めること。

(P.53 ㊸ (2) にも掲載)

【参考】

「中学校学習指導要領総則」(現行)より

生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすること。

「中学校学習指導要領解説総則編」(現行)より

特に、学校教育の一環として行われる部活動は、異年齢との交流の中で、生徒同士や教員と生徒等の人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、その教育的意義が高いことも指摘されている。

そうした教育的意義が部活動の充実の中のみで図られるのではなく、例えば、運動部の活動において保健体育科の指導との関連を図り、競技を「すること」のみならず、「みる、支える、知る」といった視点からスポーツに関する科学的知見やスポーツとの多様な関わり方及びスポーツがもつ様々な良さを実感しながら、自己の適性等に応じて、生涯にわたるスポーツとの豊かな関わり方を学ぶなど、教育課程外で行われる部活動と教育課程内の活動との関連を図る中で、その教育効果が発揮されることが重要である。

このため、本項では生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動について、

- ① スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養、互いに協力し合って友情を深めるといった好ましい人間関係の形成等に資するものであるとの意義があること、
- ② 部活動は、教育課程において学習したことなども踏まえ、自らの適性や興味・関心等をより深く追求していく機会であることから、第2章以下に示す各教科等の目標及び内容との関係にも配慮しつつ、生徒自身が教育課程において学習する内容について改めてその大切さを認識するよう促すなど、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること、
- ③ 一定規模の地域単位で運営を支える体制を構築していくことが長期的には不可欠であることから、設置者等と連携しながら、学校や地域の実態に応じ、教員の勤務負担軽減の観点も考慮しつつ、部活動指導員等のスポーツや文化及び科学等にわたる指導者や地域の人々の協力、体育館や公民館などの社会教育施設や地域のスポーツクラブといった社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うこと、をそれぞれ規定している。各学校が部活動を実施するに当たっては、本項や、中央教育審議会での学校における働き方改革に関する議論及び運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン(平成30年3月スポーツ庁)も参考に、生徒が参加しやすいよう実施形態などを工夫するとともに、生徒の生活全体を見渡して休養日や活動時間を適切に設定するなど生徒のバランスのとれた生活や成長に配慮することが必要である。

その際、生徒の心身の健康管理、事故防止及び体罰・ハラスメントの防止に留意すること。

※『「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」の策定及び学校部活動の地域連携・地域以降に関する関連制度の運用について(通知)』では、今後見直しがなされると記載されている。

【第2章関連事項】

(1) 文化財の活用

- ・ 体験学習の実施に当たっては、身近な社会教育施設等を有効に活用するなど、一層の創意工夫に努めること。
- ・ 各教科、総合的な学習の時間及び特別活動等において、文楽・能楽等の鑑賞機会の充実や、地元で継承されている伝統的な民俗芸能等に親しむ機会を積極的に創出すること。
- ・ 発掘調査により出土した土器等の文化財についても、各学校において展示を行い直接触れる機会を作るなど、地域の歴史を知る教材として積極的に活用すること。
- ・ 世界遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群について取り上げることや文化財資料の貸し出し、学校に対する出前授業（「出かける博物館」事業）等の活用についても配慮すること。

第3章 将来を見すえた自主性・自立性の育成

14 自主性・自立性を育成するキャリア教育・進路指導の推進

急激に変化する時代の中で、一人ひとりの児童・生徒が、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、実社会とのつながりを意識した小中高一貫したキャリア教育を推進することが重要である。

【取組みの重点】

- ・ 校種間の引継ぎにあたっては、キャリア・パスポートを有効に活用し、中学校区で子どもの変容を共有すること。
- ・ 府主催「わくわく・どきどきSDGsジュニアプロジェクト」を有効に活用し、関連する行事に参加するなど、キャリア教育の取組みの工夫を図ること。
- ・ 調査書等進路指導に関する書類の作成にあたっては、組織的な体制のもと適切に行うこと。その際、府教育庁作成の「調査書記載内容チェックリスト」等を活用すること。

【取組み項目】

(1) キャリア教育・進路指導の充実

- ・ 児童・生徒が目標を持ち、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、主体的に進路を選択・決定できるようにすること。
- ・ 「わくわく・どきどきSDGsジュニアプロジェクト」の「アイデアミーティング」や「SDGsジュニアフォーラム」などの取組みを参考に、企業やNPO等地域で働く方々と連携し、ともに地域の課題解決に向かう取組みや、職業講話、職場体験等、実社会とのつながりを感じられる体験的活動を通じて、児童・生徒が働くことの意義や目的を理解できるように創意工夫を図ること。
- ・ 一人ひとりの生徒の夢や目標等を丁寧に把握し、進学や就職に関する情報や資料を収集・提供し、適切なアドバイスや支援に努めること。
- ・ 進路未定者の減少に向けた取組みを進めること。また、キャリア教育を通して難しいことにも挑戦することや、粘り強く取り組むことの大切さを伝えるとともに、高等学校等や関係機関と連携し、中途退学を防ぐために、追指導に努めること。
- ・ 進路指導事務に関する書類の作成に当たっては、組織的な校内進路指導体制のもと、すべての教職員が相互に緊密な連携を図り、適正な事務処理を行うこと。

(2) 障がいのある生徒の進路指導の充実

- ・ 障がいのある生徒の卒業後の進路については、高等学校や支援学校で「ともに学び、ともに育つ」教育を推進しており、さらには、「高等学校における通級指導教室」「知的障がい生徒自立支援コース」「共生推進教室」及び「職業学科を設置する知的障がい高等支援学校」等の多様な選択肢があることが生徒・保護者に十分に伝わるよう、できるだけ早期に様々な機会を通じて、情報提供を行うこと。
- ・ 障がいのある生徒の進路指導については、管理職を中心とする校内体制の中で、進路指導担当者と学級担任等が十分に連携し、学校全体で対応すること。

(3) 日本語指導が必要な児童・生徒の進路指導の充実

- ・ 当該児童・生徒の入国歴や家庭での使用言語などの生活背景を把握するとともに、DLA等により測定した日本語能力に応じて個別の指導計画を作成し、「特別の教育課程」を実施すること。
- ・ 当該児童・生徒及び保護者に対して、学習や進路等に関する適切な情報提供に努めること。その際、府教育庁Webページ「帰国・渡日児童生徒学校生活サポート」の「学校生活サポート」や「多言語版家庭学習教材」「進

路選択のために」等を活用すること。

- ・ 高等学校等への進学に関して、入学者選抜制度や受験上の配慮事項、申請手続き等、丁寧な説明をすること。その際、各地区の「多言語進路ガイダンス」を周知するとともに、参加を働きかけること。
- ・ 当該生徒の在留資格が「家族滞在」の場合、奨学金の受給や就職、週 28 時間を超えたアルバイトができない等の制限がある旨を教職員に十分認識させること。
- ・ 高等学校卒業後、日本で就職を希望する外国籍の生徒のうち、在留資格が「家族滞在」である者が「定住者」または「特定活動」へ変更が認められることについて、「[高等学校等卒業後に本邦で就職を希望する外国籍を有する者の在留資格の取扱いの変更につい](#)

[て](#)」等を参考にするなど、国の動きを踏まえ、適切に最新の情報を提供すること。

(4) 奨学金制度等の周知・活用

- ・ 生徒が経済的理由により高校・大学進学等を断念することなく、自らの能力や適性等に合った進路を主体的に選択できるよう、教職員自らが奨学金制度等の理解に努めるよう指導すること。
- ・ 奨学金等の活用や進路に関する情報交流等について、市町村の奨学金相談窓口・関係機関との連携に努めるよう指導すること。生徒及び保護者に対して、奨学金制度の趣旨や目的等について十分理解させるとともに、将来返還する意義と責任等についても自覚させるよう指導すること。

15

社会とつながる学習活動の推進

予測困難な社会の変化に主体的に関わり、課題をみつけ、解決していこうとする力を育むため、探究的な学習の推進に取り組むことが必要である。

【取組みの重点】

- ・ 子どもたちが、生活や社会における課題を見出し、自分たちにできることを多様な人々とつながりながら考え、行動する力を養うことができるよう、学習活動を工夫すること。
- ・ 「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとしてSDGsの実現に向けて探究的に学習する、「[2025年日本国際博覧会協会教育プログラム](#)」を活用すること。

【取組み項目】

(1) 探究的な学習の充実

- ・ 生活や社会における課題等を追究・解決する活動においては、見学や調査等、人々や社会と関わる体験活動を積極的に取り入れ、社会の一員であることを実感できるよう活動を工夫すること。
- ・ 探究的な学習活動においては、児童・生徒が多様な情報を活用し、異なる視点で意見を交流して互いの考えを深めるなど、協働して取り組む学習活動となるよう工夫して指導すること。

(2) 主体的に社会に参画する力を育む指導の充実

- ・ 主体的に社会に参画する意識を醸成するために、児童・生徒が学級や学校の課題を見だし、よりよく解決するため話し合って合意形成を図るような活動を充実させること。また主体的に組織をつくり役割分担して協力し合うなど、学級活動や、児童会・生徒会・委員会活動等を通じて子どもの自主活動を推進すること。
- ・ 子どもたちがよりよい社会をめざし、身近な家族から、学校、地域へと、自分と社会との関わりを広げながら学習や経験を積み重ね、主体的に社会に参画する力の基盤が身につけられるよう、主権者教育の充実を図ること。その際、府が作成した「[民主主義など社会のしくみについての教育](#)」の活用を努めること。

(3) 体験活動の充実

- ・ 生活科や総合的な学習の時間、特別活動をはじめ、各教科等、学校の教育活動全体を通して体験活動の充実を図ること。
- ・ 体験活動にあたっては、子どもたちが主体的に取り組むことのできる活動を工夫すること。また地域の教材を積極的に活用するとともに、地域の課題に取り組んでいるNPO法人や企業等と連携し、体験を通じての学びに努めること。
- ・ 学校で動物を飼育している場合は、日本初等理科教育研究会発行「[学校における望ましい動物飼育のあり方](#)」等を活用し、獣医師と連携して適切な飼育を行うこと。

(4) 「わくわく・どきどきSDGsジュニアプロジェクト」の活用

- ・ 府の「わくわく・どきどきSDGsジュニアプロジェクト」を参考にして、社会や地域の課題の解決に向けてアイデアを考え、企業等からアドバイスをもらう「アイデアミーティング」や企業等による出前授業、また、企業等からの課題提示により、他者と協働して解決案を考えるなど、課題解決型の学習を充実させること。

(5) 環境教育の充実

- ・ 各教科や総合的な学習の時間、特別活動を通じて、環境教育を推進すること。その際、地球規模で生じている環境問題や持続可能

な社会の実現について、子どもたち一人ひとりが自分事として捉え、主体的に行動するための意欲や態度を育むこと。そのために、身近な地域の課題について考えることができるよう、地域や関係機関と連携し、環境教育の充実を図ること。

(6) すくすくウォッチ「わくわく問題」の活用

- ・ すくすくウォッチにおける教科横断型問題「わくわく問題」を活用し、児童・生徒に学びが社会とつながる実感や、探究したことを実際の生活に役立てる意識をもたせること。その際、「すくすくウォッチ指導参考資料」等も参考に、課題に対する具体的な解決方法を話し合ったり考えたりするなど、身近な問題から現代社会の諸問題について、探究的な学習を行うこと。

16 幼児期における子どもの資質・能力の育成

幼児期における教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培うものであり、幼稚園教育要領等を踏まえ、小学校以降の教育などを見通しながら取り組むことが重要である。

【取組みの重点】

- ・ 幼稚園教育要領等に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考慮しながら活動内容を工夫し、指導の充実に努めること。
- ・ 幼保こ小の教員が連携し、子どもたちに育みたい資質・能力を中心に据えた研修等を行い、相互理解と実践を深めるよう努めること。
- ・ 研修等において、教職員の資質向上を図るため、府が認定した幼児教育アドバイザーを活用すること。

【取組み項目】

(1) 幼児教育の質の向上

- ・ 幼児期の教育は、その特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とすること。
- ・ 幼児期の教育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うこと。
- ・ 「幼児教育に関わる教職員の育成指標」を活用し、教職員の資質向上に努めること。

(2) 配慮を要する幼児への対応及び支援

- ・ 障がいのある幼児について、集団の中で生活することを通して全体的な発達を促すこと。また、個々の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画を作成し活用するよう努めるとともに、一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな支援の充実に努めるため、適切な合理的配慮を提供すること。
- ・ 海外から帰国した幼児及び生活に必要な日本語の習得に困難のある幼児や外国にルーツのある幼児について、安心して自己を発揮できるよう配慮するなど、個々の幼児の実態に応じ、指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うこと。

(3) 小学校教育との接続

- ・ 幼稚園等や小学校において育まれる資質・能力を踏まえながら、校種間の発達段階に応じた教育活動の充実に努めること。
- ・ 幼児と児童の交流だけにとどまらず、幼保こ小合同研修会等、授業参観等を実施し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や小学校の教育課程等を共有するなど連携し、小学校教育との円滑な接続を図るよう努めること。

(4) 家庭・地域との連携

- ・ 教育や保育についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めること。
- ・ 幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであることに留意し、家庭との連携を十分に図るなど、幼稚園等における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにすること。
- ・ 地域学校協働本部や子育てグループ等の地域の教育力を活用し、子育て支援のネットワークを構築するなど、地域における幼児教育の振興に積極的に取り組むこと。

第4章 多様な主体との協働

17

子どもたちの安全・安心を支えるための多職種連携

大阪の子どもたちをめぐる様々な現状に対する支援については、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー等の専門家や福祉機関、地域関係機関等との連携を図ることが重要である。

【取組みの重点】

- ・ 児童・生徒の状況把握にあたっては、アンケートや1人1台端末の活用、スクリーニング等を実施するなどし、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等、専門家との協働により、きめ細かな実態把握に努めること。
- ・ 具体的な支援に取り組むにあたっては、ケース会議等において専門家と共に多角的に見立てを深めること。そのうえで、校内組織において役割分担を明確にして、支援に向けた方針を立てるとともに、必要に応じて支援計画の見直しを図ること。
- ・ 児童・生徒の支援にあたっては、子どもや保護者のニーズを含めた見立てに基づき、必要に応じて福祉等関係機関や地域のNPO等の支援機関との連携を行い、定期的に状況把握に基づいた支援方法の見直しを図ること。
- ・ 児童・生徒のニーズに応じた支援につなげるため、スクールソーシャルワーカー等を活用し、日常的に地域リソースを把握し、各機関との連絡方法等を確認するなど支援体制の構築を行うこと。

【取組み項目】

(1) スクールカウンセラーについて

- ・ 相談室での個別面談のみならず、ケース会議におけるコンサルテーションやスクリーニング等の早期対応への関わり、児童・生徒へのいじめ防止教育やSOSの出し方教育を含む自殺などの予防教育等の支援をスクールカウンセラーが行うよう各校での連携を進めること。また、生徒指導委員会やいじめ不登校対策委員会への出席、校内や校区のケース会議への参加や、専門性を活かした教職員への助言等についてスクールカウンセラーが担うよう各校での連携を進めること。

(2) スクールソーシャルワーカーについて

- ・ ケース会議等における事前の情報整理や、福祉的視点による見立てや支援をスクールソーシャルワーカーが行うよう各校での連携を進めること。その際、必要に応じて、スクールソーシャルワーカーと協力しながら関係機関との調整や働き掛け等を行うこと。また、日頃より地域リソースの開拓等支援ネットワークの構築についてスクールソーシャルワーカーとの協業を図ること。

(3) スクールロイヤーについて

- ・ 市町村教育委員会や学校が直面している事案に対し、子どもの最善の利益を踏まえた法的な見地からの助言や、深刻化防止に関わる法的な相談をスクールロイヤーが担うよう連携を進めること。また、教職員対象の研修、児童・生徒を対象とした法的な観点でのいじめ防止教室を実施したりする場合等に活用すること。

(4) 多職種連携について

- ・ 各学校においては、スクリーニングなどにより収集した情報や生徒指導上の課題について、早期の段階からスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等専門家による見立てを深め、多様なプランニングにつなげること。また、深刻化する前に市町村教育委員会に報告し、連携して対応にあたること。
- ・ 市町村教育委員会においては、引き続きスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー等、多職種の専門家で構成する「学校支援チーム」の構築やそ

の機能充実を図ること。また、学校からケース情報を迅速に収集し、チーフスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スーパーバイザー等の専門家とケース会議等で検討する仕組みを日頃より構築しておくこと。深刻化の恐れのあるケースについては、必要に応じて府の緊急支援チームを活用すること。

- ・ 地域リソースの情報を研修等の機会を通じて各学校と共有するとともに、地域リソースとの連携が必要となる支援の場面や方法等について専門家との連絡会等において深めるよう努めること。

(5) 関係機関について

- ・ 警察との連携にあたっては、学校・警察相互連絡制度等を活用し、必要に応じて情報交

換や相談等を行い、児童・生徒の非行の未然防止や生徒指導事案における深刻化を防ぐこと。

- ・ 医療との連携が必要な場合は、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等、専門家と協力しながら、児童・生徒の健康・安全面に配慮しながら支援を進めること。
- ・ 各自治体における要保護児童対策連絡協議会との連携にあたっては、市町村教育委員会が中心となり、スクールソーシャルワーカー等の専門家を活用し、児童・生徒支援のための連携を図ること。
- ・ 子どもの支援のための連絡先として把握したNPOや子ども食堂等の支援機関については、地域で子どもの見守りが進むよう連携を図ること。

18 教育コミュニティづくりの推進

子どもたちの学びや成長を支えるため、地域と学校園が連携・協働して行う「教育コミュニティづくり」をより一層推進することが必要である。

【取組みの重点】

- ・ 教育コミュニティづくりの推進に当たっては、学校園や地域の実態等に応じた取組みの継続と充実を図るとともに、地域学校協働活動推進員の委嘱に努めること。
- ・ 社会に開かれた教育課程の実現に向けて、学校運営協議会の設置も視野に地域とともにある学校運営体制のさらなる充実を図ること。

【取組み項目】

(1) 教育コミュニティづくりの活性化

- ・ これまでの成果を踏まえ、学校支援活動やおおさか元気広場、家庭教育支援など、地域の実態に応じた取組みの継続と充実を図り、活性化に努めること。
- ・ 地域と学校が連携・協働する体制づくりをより一層推進し、地域学校協働本部の整備に努めること。

(2) 教育コミュニティづくりへの主体的な参画促進

- ・ 市町村教育委員会をはじめとする行政機関、学校園、PTA、地域の住民や地域で活動する団体等が、主体的に教育コミュニティづくりに参画することができるよう努めること。
- ・ 地域の持続的な活動を支えるため、地域活動の核となるコーディネーター・ボランティア等の定着や新たな人材の参画を図り、育成に努めるとともに、地域の既存組織やNPO、企業、大学等の多様な活動主体との連携によるネットワークづくりを一層推進すること。
- ・ すべての学校区で、地域学校協働本部などの学校支援ボランティアの仕組みを利用して、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれる環境づくりを促進し、地域とともにある学校づくりを進めること。

(3) 地域とともにある学校づくりに係る組織のさらなる充実

- ・ 「地域とともにある学校づくり」の視点から、学校協議会等既存組織の成果と課題を整理し、今後の学校運営に係る組織のさらなる充実について検討すること。
- ・ 適切かつ多様な委員の人選や委員の当事者意識を高める工夫等を行い、当該組織の活性化に努めること。

(4) 放課後等における子どもの様々な体験活動の場づくりの充実

- ・ すべての小学校区でのおおさか元気広場の実施とさらなる活性化に向けて、必要な支援に努めること。
- ・ おおさか元気広場の実施に際しては、学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流など、活動プログラムの充実を図るとともに、放課後児童クラブ関係者と協議し、子どもたちがともに参加できる一体型をめざすよう努めること。
- ・ 子どもの居場所（福祉機関が実施する学習・生活支援の場など）や学校生活・家庭生活に関する相談窓口について、関係諸機関や地域のNPO等と連携し、保護者や地域で子どもに関わる人等へ情報提供に努めること。

(5) 障がいのある子どもなどの地域活動への参加促進

- ・ 地域の活動においては、障がいのある子どもなど、地域活動から疎遠になりがちな子ども

もたちや、その家庭への支援が積極的に展開されるよう助言すること。

- ・ 府立支援学校等に在籍する子どもたちにも、地域活動の情報が届くように指導すること。

19

家庭教育支援の充実

多様化する家庭環境に対し、地域全体で家庭教育を支えることができるよう、すべての保護者や児童・生徒が家庭教育に関する学習や相談ができる体制を整えることが必要である。

【取組みの重点】

- ・ 家庭教育に関する啓発や学習機会の提供、孤立しがちな保護者への支援の実施や充実に努めること。

【取組み項目】

(1) 家庭教育支援の体制づくり

- ・ 家庭教育が充実するよう、学校の教育機能の活用や部局間の連携を推進するなど、家庭教育を支える総合的な体制づくりに取り組むこと。
- ・ とりわけ子育てに悩みを持つ保護者等、個別の支援が必要な家庭への相談・支援体制（訪問型家庭教育支援）の整備に努めること。

(2) 親学習の推進

- ・ すべての市町村において、関係機関等との連携により、多様な場、機会での保護者の親学習を実施するとともに、その周知に努めること。
- ・ とりわけ、親学習の機会に参加しない・しにくい保護者の参加促進に十分配慮すること。
- ・ 児童・生徒に対して、学校の授業等を活用した親学習の推進を図るとともに、教職員研修を実施するなど親学習のさらなる周知に努めること。
- ・ 親学習の実施に際しては、府教育庁作成の親学習教材等を活用するとともに、親学習リーダーをはじめとする地域人材等との効果

的な連携・協働を行うこと。

(3) 基本的な生活習慣・学習習慣の確立・自立する力の育成

- ・ P T A総会や保護者会等で、保護者・地域との共通理解を深め子どもの基本的な生活習慣の確立や自らを律する力の育成に努めるよう指導すること。その際、府教育庁が作成した資料を積極的に活用すること。

(4) 未来に向かう力（非認知能力）の育成

- ・ 子どもたちの未来に向かう力（非認知能力）を伸ばすため、学校・家庭・地域と連携した取組みの充実に努めること。その際、「乳幼児期に育みたい！未来に向かう力」等の資料を参考にすること。また、部局間や関係機関の連携により、家庭教育に関わる支援者向けの研修や親学習の実施など、取組みを推進すること。
- ・ 子どもたち一人ひとりのよさや強みについても丁寧に把握し、保護者と連携すること。その際、「すくすくウォッチ」の児童アンケート結果を参考にすること。

第5章 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり

20

働き方改革

市町村教育委員会において、各学校の特色や状況を踏まえつつ長時間勤務の縮減に向けた取り組みを進め、教職員の在校等時間管理及び健康管理を徹底するとともに、教職員一人ひとりの意識改革を推進するなど、教職員の「働き方改革」に取り組むことが重要である。

【取組みの重点】

- ・ 「府立学校における働き方改革に係る取組みについて（平成30年3月）」に記載している府教育庁における取組みなどを参考に、適切に対応すること。

<ポイント>

- 所管の学校に対する業務改善方針や計画の策定
- 適正な在校等時間管理の徹底
- 教育委員会主催の会議・研修等の縮減等
- 調査、通知文書等の精査・工夫改善
- 校長等のマネジメント
- 外部人材の活用等人的措置
- 「全校一斉退庁」「ノークラブデー」等の制度構築
- グループウェア等を活用した校務運営の効率化
- 外部機関等への協力依頼・要望
- ・ 給特法指針（令和2年1月17日付 元文科初第1335号等）を踏まえた制度の適切な運用のため、教職員向けの相談窓口を設置するなど、制度周知及び相談体制の整備を図ること。

【取組み項目】

(1) 在校等時間管理について

- ・ 教職員の在校等時間管理については、関係法令及び規則に基づき、適切に行うこと。
- ・ 在校等時間の適正な把握について、府立学校で実施している趣旨を踏まえ、同様の措置を取る。
- ・ 教職員に時間外又は休日勤務を命じる場合には、法令その他の規則等（特に教育職員にあっては給特法第7条に基づく業務量の適切な管理等に関する指針、事務職員にあっては労働基準法第36条）に基づき、適切に行うこと。
- ・ 各校の特色や状況に応じた長時間勤務の縮減に向けた取組みについて適切に対応すること。

(2) 部活動の取組み

- ・ 休日に教員が部活動の指導に携わる必要がない環境を整備することや、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備すること。

(P.37 ⑬ (1))にも掲載

(3) 休憩時間について

- ・ 休憩時間を取得しやすい環境づくりに努めること。また、校長は休憩時間を明示し当該時間に取得できない場合には、他の時間帯に与えるなど、適切な対応をとること。
- ・ 職種ごと、教員集団ごとに異なる時間帯に休憩時間を与える場合には、休憩時間の一斉付与適用除外に係る市町村教育委員会の承認等の手続が必要であるため、所要の手続をとるよう指導すること。ただし、休憩時間を分割し、所属単位で一斉に休憩を与える場合には、休憩時間の一斉付与適用除外に係る承認等の手続は要しない。

(4) 労働安全衛生体制の充実

- ・ 労働安全衛生法令に基づき、教職員の健康の保持増進と快適な職場環境形成の観点から、学校の規模（職員数）に応じ、安全衛生委員会等の活性化のほか、職員の意見を聴くための機会を設けるなど、労働安全衛生管理体制をより充実させること。
- ・ 労働安全衛生法及び労働安全衛生規則に

基づき、教職員の勤務時間を客観的な方法等により把握し、時間外在校等時間が月 80 時間を超えた職員については、本人及び産業医への情報提供や面接指導等を適切に行うこと。

- ・ ストレスチェックを適切に実施するために、その趣旨である「メンタルヘルス不調の一次予防の強化」と「集団分析による職場環境改善」（実施する場合）について職員に周

知し、ストレスチェックの受検推奨に努めるとともに、受験者の個人情報については管理及び保護を徹底すること。

- ・ 教職員の心身の健康増進・メンタルヘルスの予防のために、公立学校共済組合大阪支部が設置している「大阪メンタルヘルス総合センター」における相談事業（セルフケア・ラインケア）、研修事業及び復職支援事業を積極的に活用すること。

【参考】「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」（令和2年9月 スポーツ庁）

これまでの部活動は教師による献身的な勤務の下で成り立っており、持続可能な部活動と学校の働き方改革の両方を実現するためには、特に休日の部活動における教師の負担軽減を図る必要がある。

部活動は、学校教育の一環として行われる活動であるが、必ずしも教師が担う必要のないものであることを踏まえ、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築すべきである。一方で、休日の部活動に対する生徒の希望に応えるため、休日において部活動を地域の活動として実施できる環境を整えることが重要である。

部活動に代わり、生徒が自主的にスポーツ・文化活動に取り組み、体力や技能の向上を目指す活動機会を保障する観点から、教師の勤務を要する日（平日）において学校の活動として行われる部活動（学校部活動）と教師の勤務を要しない日（休日）において地域の活動として行われる部活動（地域部活動）との連携を図りながら、地方自治体等において、地域部活動の実施のために必要な取組を行うことが求められる。

21

教職員の資質・能力の向上

グローバル化や情報化の進展により、教育を巡る状況の変化も速度を増している中で、「大阪府教員等研修計画」に基づき、高度な専門職として新たな知識・技能の習得に継続的に取り組んでいく必要が高まっている。特に、教職員の人権研修を充実させ、すべての教職員に、より確かな人権意識を身に付けさせることが重要である。また、児童・生徒の情報活用能力の育成や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICTの効果的な活用に係る研修等により、すべての教職員のICT活用指導力を向上させる必要がある。加えて、管理職自らが自身の資質・能力の向上を図りながら、次代の管理職・ミドルリーダーの育成を進めることが必要である。

【取組みの重点】

- ・ 「大阪府教員等研修計画」の周知と活用を進め、初任期からミドルリーダー・次代の管理職に至るまで、系統的に育成すること。その際、校内研修はもとより、あらゆる機会を活用し、教職員に求められる基礎的素養である人権感覚や人権意識の育成に努めること。
- ・ 生徒指導、授業づくりなど校外研修で学んだ理論を校内で実践することをはじめ、首席や指導教諭等を活用した、日常的なOJTの推進に努めること。
- ・ 府教育センター実施のICT活用に係る研修等を活用し、校内において好事例を共有するなど、すべての教職員のICT活用指導力の向上を図ること。
- ・ 首席・指導教諭等については、学校や地域の実情に応じた配置の拡充に努めるとともに、その有効活用を図ること。
- ・ 「小・中学校リーディング・ティーチャー養成研修」等の府教育センターの研修を活用し、校内において学校組織マネジメントの経験を積ませるなど、次代の管理職の養成に努めること。

【取組み項目】

(1) 教職員の豊かな人間性

- ・ 教職員が教育に携わる公務員としての責務を自覚し、府民の信頼に応えられるよう、児童・生徒に敬愛される豊かな人間性を培うこと。
- ・ 社会の変化に対応するための知識・技能や国際社会で必要とされる資質・能力等の向上を図るよう努めること。
- ・ 教職員が研修等を通じて自らの人権感覚を高め、人権問題を正しく理解するとともに、差別を許さない姿勢を身に付けること。

(2) 教職員相互に高め合う職場環境づくり

- ・ すべての教職員が、法令等の遵守など教育公務員としての自覚を一層高めるため、校内研修等の充実を図ること。
- ・ 教職員が日々の研究と修養に努めるとともに、相互に資質を高め合う職場環境づくりに努め、指導力の向上を図ること。

(3) 人事異動及び人事交流の充実

- ・ 教職員一人ひとりの資質向上や学校の活性化を図るため、人事異動及び人事交流の充実に努めること。特に、様々な人事交流制度を活用し、異動によるキャリア形成、能力向上に努めること。

(4) 若手教職員の育成

- ・ 若手教職員の学校運営への参画を促進し、首席・指導教諭等・将来の管理職やミドルリーダーとなる教職員の養成に努めること。

(5) 研修成果の還元

- ・ 府教育センターの研修や校内研修等を効果的に活用し、継続的な人材育成に取り組むこと。
- ・ 校内研修においては、府教育センター等で実施する研修等を受講した教職員に、その内容を実践させたり、積極的に研修会の講師と

して活用すること等により、学校全体の教育活動に還元するよう努めること。また、指導教諭や社会人講師等を有効に活用すること。

- ・ 長期自主研修支援制度等を利用した自主的な研修においても、その目的と、研修後の成果が教育活動に還元されていることが保護者・府民に理解されるように工夫すること。

(6) 研修の計画的な実施

- ・ 国や府における新たな動きや学習指導要領の趣旨、各学校の課題等を踏まえ、明確な研修目標を設定し、計画的に実施することにより、研修の充実を図ること。
- ・ 初任者をはじめとする教職経験年数の少ない教員の育成に当たっては、「[大阪府教員等研修計画](#)」や「初任者等育成プログラム」を踏まえて、学校との連携を十分に図りながらその体制づくりを行い、組織的・継続的な育成に努めること。
- ・ 教職経験年数の少ない教員については、それぞれの課題に応じ、適切な個別支援を行うとともに、「自己評価シート」等を活用して計画的に研修を実施すること。また、子どもに寄り添い向き合う学習指導や生徒指導等ができるなど、公教育に携わる者としての資質向上を図ること。

(7) 教職員全体の指導力向上

- ・ 計画的な研修の実施等に加えて、日常的なOJTを推進することにより、教職員全体の指導力向上に努めること。その際、教職経験年数の少ない教員の育成については、メンタリングを活用するなど学校全体でチームとして取り組むこと。
- ・ 教職員の指導力向上の取組みを進めるに当たっては、府教育委員会作成の資料、府教育センターのカリキュラムNAV i プラザによる学校支援等を積極的かつ効果的に活用すること。

(8) 女性教職員の登用

- ・ 女性教職員が校務の要や首席・指導教諭等、

将来の管理職等を担えるよう計画的な人材育成・登用に努めること。

(9) 魅力ある学校づくりの推進

- ・ 民間企業等の経験者または教諭や行政職等から、リーダーシップを発揮し、柔軟な発想や企画力を生かして、学校の課題解決及び学校運営を行うことができる優れた人材を登用できるよう、計画的な人事に努めること。

(10) 評価基準を踏まえた適正な評価と教職員の育成

- ・ 「教職員の評価・育成システム」の円滑な実施により教職員の意欲・資質・能力の向上と学校の活性化に努めること。
- ・ 校長は、日頃から全教職員の職務遂行状況の的確な把握・記録と日々の指導助言に努めるとともに、評価に当たっては、寛大化・中心化等に留意し、評価基準に照らして適正に行うこと。また、授業を行う教員の評価は、生徒又は保護者による授業アンケートの結果を踏まえるとともに、教員の授業観察を行うなど、より客観性を確保した評価を行うこと。
- ・ 校長は、日常から教職員との意思疎通を図るとともに、適切な指導助言を行い、教職員の育成に努めること。また、評価結果については、年度内に開示して次年度に向けた動機づけを行うこと。

(11) 優秀教職員等表彰の実施

- ・ 府内の公立学校において模範となる実践活動や優れた提言、提案を行った教職員等のうち、特に顕著な業績をあげたものが多く表彰されるよう、府教育委員会が行う優秀教職員等表彰において、勤務年数に関わらず、積極的に推薦をすること。

(12) 承認研修について

- ・ 教育公務員特例法第22条第2項に基づく「勤務場所を離れて行う研修(いわゆる承認研修)」については、法の趣旨を踏まえ、研

修としてふさわしい内容、意義を有することはもとより、府民から十分理解が得られるよう適切な運用を行うこと。

- ・ 特に、承認に当たっては、関係通知を参考に、適正な事務手続きをとること。

(13) 次世代育成について

- ・ 次世代育成支援対策推進法に基づき策定される「大阪府教育委員会特定事業主行動計画」の趣旨も踏まえ、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現に向けた支援、男性を含めた働き方の見直し等について、年次休暇や子育てのための休暇・休業等の取得促進や育児休業からの復帰支援など適切な対応を行うこと。
- ・ 母性保護及び育児に係る休暇制度等については、全教職員への周知を図るとともに、父親となる教職員が配偶者の出産や育児に積極的に関わるための休暇・休業等取得促進に努めること。特に、「配偶者の育児参加休

暇」については、対象となる全男性職員が取得できるよう配慮すること。また、「育児休業」についても、男性職員が取得しやすい環境づくりに努めること。

(14) 女性活躍の推進について

- ・ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づき策定された「[公立学校における特定事業主行動計画\(2021\)](#)」の趣旨を踏まえ、継続就業及び仕事とプライベートの両立支援、教職員の働き方改革等を推進するため、育児や介護のための休暇・休業等や年次休暇の取得しやすい環境づくりに努めること。
- ・ 教職員の能力育成と資質向上のため、性別に関わらず多様な職務に従事する機会の付与に努めるとともに、育児休業からの復帰支援や研修への参加促進等、女性教職員の意欲向上に努めること。

22

学校の組織力の向上

校長のリーダーシップのもと、教職員等が互いに学びあい育ち合う同僚性を高めつつ一体となって、学校組織のマネジメントを進めていくことが重要である。

【取組みの重点】

- ・ 学校運営にあたって、学校経営方針や教育目標等を教職員に周知し共有化を図るとともに、今日的な課題への対応を視野に入れ、様々な職種の専門性が発揮できる校内組織体制となるよう見直しを図ること。
- ・ マネジメントを進めるにあたっては、目標を明確にし、教職員の心理的安全性を確保するとともに、教職員の経歴・背景の多様性を考慮すること。

(関連する校内組織体制)

- ⇒○[学校教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実](#) (P. 8～9)
- [不登校、ヤングケアラーやいじめ・暴力行為等の対応](#) (P. 28～30)
- [子どもたちの生命、身体を守るための相談体制](#) (P. 31～32)
- [災害、感染症等への対応](#) (P. 67～68)

【取組み項目】

(1) 機能的な学校運営

- ・ 教職員、それぞれの分野や組織運営等に専門性を有する多様な外部人材や専門スタッフ等がチームとなり、組織的・協働的に取り組むように努めること。
- ・ 機能的な学校運営を進めるために、校務分掌の見直しや教職員の事務負担軽減等の取組みを推進すること。また、学校事務を効果的に執行する観点から、事務の共同実施や共同学校事務室の設置、学校間連携等の実施に向けた検討を進めること。

(2) 学校評価の充実

- ・ 学校運営の改善にあたっては、学校教育自己診断を活用した自己評価を実施し、目標の達成度や計画の進捗状況について自ら点検・評価を行うとともに、学校関係者評価等により、保護者や地域住民等の意見を生かすよう

努めること。

- ・ 児童・生徒の実態等を踏まえた実効性の高い計画に基づく教育実践を行うために、PDCAサイクルに基づいた学校経営を推進すること。
- ・ 学校評価の実施にあたっては、評価項目を見直したり、ICTを活用し効率化を図るなど、その実効性を高めるよう努めること。
- ・ 評価結果等については、学校のWebページでの公表等、保護者等に対して周知を図る方策を講ずるよう努めること。

(3) 法定表簿等の適正な記載

- ・ 法定表簿等(指導要録抄本、調査書を含む)に関する事務及び証明書交付事務を適切に行うこと。
- ・ 法定表簿及び学校が交付する証明書等において、幼児・児童・生徒の名前等は原則として指導要録に基づき記載すること。

23

不祥事の防止

公立学校の教職員は、公教育の場であって、個人の尊厳を尊重する精神や、規範意識を持って、直接、児童・生徒を指導するという職責に鑑み、日頃から自重自戒し、厳正な服務規律を保たなければならない。しかしながら、教職員による不祥事が後を絶たず、教職員全体に対する社会の信頼を揺るがしかねない事態となっている。このため、管理職はもとより教職員の服務規律の徹底を図るべく、あらゆる機会を活用し、不祥事の防止・根絶に向けて、取り組むことが必要である。

【取組みの重点】

- ・ 不祥事の発生を予防し、未然防止を図るため、「不祥事防止に向けたワークシート集」等を活用するなど、一層の服務規律の確保を図ること。
- ・ 特に、教育職員等による児童生徒性暴力等については、法律や国の指針に基づき防止に向けた取組みを行うこと。
- ・ 事案が生じた場合には、校長が事実関係を的確に把握し、速やかに市町村教育委員会へ報告するとともに、校内の指導体制を点検し、再発防止に取り組むこと。
- ・ 幼児・児童・生徒に対する体罰、性的な言動（わいせつな発言、性的な内容の電話、性的な内容の手紙又は電子メールの送付、身体的接触、つきまとい等）、また、痴漢、盗撮、窃盗行為、麻薬・覚醒剤の所持や使用等を含めた不祥事を発生させた教職員に対しては、「職員の懲戒に関する条例」に基づき厳しい処分が行われる旨を周知すること。

【取組み項目】

(1) 飲酒運転について

- ・ 教育に携わる公務員としての自覚のもと、飲酒運転は絶対に行わないよう、指導の徹底に努めること。
- ・ 飲酒運転を行った教職員に対しては、「職員の懲戒に関する条例」に基づき、懲戒免職又は停職とするほか、飲酒運転をすることを知りながら飲酒を勧めた教職員に対しても、懲戒免職、停職又は減給とされる旨を周知すること。
- ・ 飲酒運転を容認・黙認した教職員についても、厳しい処分が行われる旨を周知すること。

(2) 服務監督について

- ・ 教職員に、条例、規則で定められた勤務時間を遵守させるとともに、教育に携わる公務員として、保護者・府民から誤解を招くことのないよう職務に専念させること。
- ・ 休暇等の承認に当たっては、取得要件はもとより、制度の趣旨・意義を踏まえるとともに、適正な事務手続きをとるよう指導

すること。特に短期介護休暇、子の看護休暇、配偶者の出産休暇及び配偶者の育児参加休暇についても適正な運用を行うよう指導すること。また、病気休暇については、関係通知等を参考に、より一層厳正な運用を行うこと。

- ・ 部活動指導等に従事した場合の教員特殊業務手当の支給に当たっては、支給要件を踏まえ、適正な運用を行うこと。
- ・ 職務専念義務に違反した者、休暇等を不正に取得した者及び教員特殊業務手当を不正に受給した者に対しては、「職員の懲戒に関する条例」に基づき、厳しい処分が行われる旨を周知すること。

(3) 自家用自動車等を使用しての通勤認定について

- ・ 府立学校での自家用自動車等を使用しての通勤認定については、校内における事故及び交通事故の防止、環境保全等の観点から自粛することとしているところである。職員の健康状態等の理由で自家用自動車等を使用しての通勤認定をする場合には、関

係通知を参考にし、適正な認定事務を行うこと。

(4) 通勤について

- ・ 通勤届出以外の通勤方法による通勤については、通勤手当の不正受給にあたる場合もあることから、厳に慎むこと。
- ・ 通勤手当が支給されている職員に対する事後確認については、関係通知を参考にし、適正な確認を行うこと。
- ・ 通勤手当の不正受給をした者に対しては、「職員の懲戒に関する条例」に基づき、厳しい処分が行われる旨を周知すること。

(5) 兼職・兼業について

- ・ 教職員はその職務の重要性を自覚し、兼

職・兼業は自粛すること。

- ・ 例外的に兼職・兼業を行う場合にあっても、地方公務員法、教育公務員特例法の定めを遵守し、事前に所要の手続きを経ること。
- ・ 兼職・兼業に定める法令に違反した者に対しては、「職員の懲戒に関する条例」に基づき、厳しい処分が行われる旨を周知すること。

(6) 教職員の服務規律の確保について

- ・ 教職員の服務規律の確保については平素から指導の徹底を図るとともに、万一、教職員の服務義務違反が生じた場合は、速やかに、かつ的確に、事実関係を把握し、府教育委員会に報告すること。

24

体罰・セクハラ防止の取組み

体罰、セクシュアル・ハラスメントは、幼児・児童・生徒の人権を著しく侵害し、生涯にわたって重大な影響を与える行為であり、絶対に許されないことであると改めて理解・認識するとともに、学校園及び市町村教育委員会でその防止・根絶に向けて実態把握や相談体制の充実等組織的に取り組む必要がある。

【取組みの重点】

- ・ 防止及び早期発見のため、児童・生徒や教職員へのアンケートを実施する等、積極的に実態を把握するよう努めること。
- ・ 幼児・児童・生徒を精神的に追い詰めることにつながる必要のない注意や過度の叱責を繰り返さないこと。
- ・ 児童・生徒や保護者に、確実に校内及び校外の相談窓口の情報が伝わるよう工夫すること。
- ・ 体罰やセクシュアル・ハラスメント、わいせつ行為等が生じた際には、被害幼児・児童・生徒の救済と心のケアを最優先し、速やかに市町村教育委員会及び関係機関と連携を図り、組織的かつ厳正に対応すること。市町村教育委員会は、学校から報告があった際、速やかに府教育庁に報告し、連携して対応すること。

【取組み項目】

(1) 体罰防止の取組み

- ・ 幼児・児童・生徒に体罰を加えることは、幼児・児童・生徒の人権を侵害する行為であり、教員としての指導力の不足を表していることを十分に認識させること。
- ・ 体罰は、学校教育法第11条において禁止されているだけでなく、傷害、暴行等の刑法犯罪であり絶対に許されないことであることを認識させること。
- ・ 各校園において、幼児・児童・生徒理解に基づく指導のあり方等について理解を深めるための研修を実施する等し、幼児・児童・生徒の問題行動に対して体罰に頼らない適切な指導に努めること。
- ・ 指導が困難な幼児・児童・生徒の指導を特定の教員だけに任せきりにしないようチームによる支援体制を構築すること。
- ・ 先入観や憶測による指導、また自分本位の指導観や画一的な指導に陥ることなく、他の教職員と連携して指導に当たること。
- ・ 指導等を行う際には、できるだけ密室となるような場所を避けるとともに、可能な限り複数の教員で行うよう努めること。

(2) セクシュアル・ハラスメントやわいせつ行為等性暴力行為の防止の取組み

- ・ 幼児・児童・生徒に対するセクシュアル・ハラスメントやわいせつ行為は、重大な人権侵害であり性暴力であること、また、相手がセクシュアル・ハラスメントを受けたと捉えた時点でセクシュアル・ハラスメントになることを教職員に十分認識させること。
- ・ 教職員と児童・生徒との関係においては、対等ではなく指導する立場であり、その影響力は強いものであることを自覚し、児童・生徒とのメールやSNS等の使用、または直接2人きりで会うなど、指導に関係のない私的なやりとりは行わないこと。
- ・ 「性的指向・性自認」をからかったり、いじめの対象にしたり、不必要な身体接触をしたりすることもセクシュアル・ハラスメントであることを教職員に十分認識させるとともに、教育活動における自らの行動を常に振り返らせること。
また、児童・生徒間で「性的指向・性自認」をからかったり、いじめの対象にしたりすることなどがあるときは、適切に指導すること。
- ・ 定期健康診断等の実施に当たっては、「[児](#)

[童生徒健康診断の実施におけるセクシュアル・ハラスメント等の防止について](#)」を参考に実施方法等の評価・点検を行うこと。とりわけ、障がいのある幼児・児童・生徒においては、指導や介助方法における留意点の再点検を行うこと。

- ・ セクシュアル・ハラスメントやわいせつ行為が生じた場合には、二次被害を起こさないよう配慮しながら事実確認を丁寧に行い、被害者の立場に立った事象の解決を図ること。

と。また、背景・要因を分析し、校内研修や組織体制の見直し等、再発防止につなげること。併せて、児童・生徒に対しては、「生命（いのち）の安全教育」（文部科学省）の資料等を活用するなどにより、自身の身体や心を大切にする教育を充実させること。

- ・ 教職員と児童・生徒との不適切な交際については、「職員の懲戒に関する条例」に基づき厳しい処分が行われる旨周知すること。

25 職場におけるハラスメントの防止

職場におけるハラスメント行為は、働く人が能力を十分に発揮することの妨げになることはもちろん、個人の人格や尊厳を侵害するとともに、職場環境を悪化させる許されない行為であることをすべての教職員が認識しなければならない。性別、年齢、国籍、障がいの有無等に関わらず、すべての教職員にとって快適で働きやすい職場環境づくりを進めるためには、ハラスメントを根絶する必要がある。

【取組みの重点】

- ・ 職場におけるハラスメントの防止に向けて、教職員の研修の充実、相談窓口の周知及び対応マニュアルの整備を図ること。
- ・ 校内の相談体制の整備に努め、教職員の相談窓口の周知を図ること。また、窓口の担当者を中心に、普段から話しやすい体制を整えること。
- ・ 職場におけるハラスメントの防止については、管理職の役割が大きいことから、校長及び教頭に対する研修を実施するなど充実を図ること。
- ・ ハラスメントのない、快適な働きやすい職場環境づくりを進めること。その際、性的指向及び性自認の多様性に関する理解の増進に努めること。
- ・ 管理職自身がハラスメントに対する感覚を養い、職場におけるハラスメント防止により一層努めること。
- ・ 万一事象が生起した場合には、速やかに事実関係を把握するとともに、被害者に寄り添いながら丁寧に対応すること。

26 「指導が不適切である」教員への対応

「指導が不適切である」と思われる教員の指導力向上のために、「教員評価支援チーム」と市町村教育委員会が連携を強化し、適切に対応することが必要である。

【取組みの重点】

- ・ 校長等の授業観察あるいは児童・生徒等や保護者からの意見・苦情等により「指導が不適切である」と思われる教員の的確な状況把握を行い、校長に対する適切な指導・助言、校外研修の実施等、実効性のあるシステムの運用に努めること。
- ・ 「教員評価支援チーム」及び府教育センターの相談・支援機能を積極的に活用し、早期改善に努めること。
- ・ 指導改善研修の必要があると判断した場合は、府教育庁に申請し、十分連携して対応すること。
- ・ 新規採用教職員については、指導・育成を図るとともに、条件付採用の趣旨を踏まえ厳格に対応すること。

【第5章関連事項】

(1) 非常勤職員の効果的な配置と活用

- ・ 内申等の手続きに当たっては、「講師希望者登録のお知らせと講師制度の概要」等によって、勤務条件を明示するなど、適正に行うこと。
- ・ 非常勤職員への発令に当たっては、「勤務条件明示書」の交付を徹底するとともに、勤務回数等を変更する必要がある場合には、必

ず変更後の勤務条件を明示すること。

あわせて、勤務状況等を常に把握するとともに、適切な管理及び指導に当たること。

(2) 調査内容等の精査による学校事務の効率化・集中化

- ・ 教員が子どもたちと向き合う時間を確保する観点から、各学校に対する調査や通知文の精選に努めること。

第6章 学びを支える環境整備

27

防災教育をはじめとする災害時に迅速に対応するための備えの充実と安全・安心な教育環境の確保

東日本大震災や大阪府北部を震源とする地震、また、台風をはじめとする自然災害などの教訓を踏まえるとともに、南海トラフ地震等の今後発生が予想される自然災害等に備え、学校の実態に応じ、幼児・児童・生徒の命を守るため地域と連携した取組みが必要である。

大規模災害の発生時には、避難所が開設されるまでの間、各学校園が地域住民の避難先となることもあるため、地域と連携し、学校の組織体制を整えておく必要がある。

【取組みの重点】

- ・ 火災のみならず、様々な自然災害等を想定した実践的な避難訓練を地域と連携して行うことなどにより、幼児・児童・生徒に自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度」を育成する防災教育の充実を図ること。
- ・ 防災計画を策定し、日頃から教職員への連絡方法や配備体制及び参集について周知徹底すること。併せて、ハザードマップや近隣の避難場所などの情報も収集して、万一の場合の幼児・児童・生徒の避難場所を想定し、危機管理マニュアル等に明記するとともに、実効性のあるマニュアルとなるよう点検・見直しを行うなど、災害に備えた危機管理体制の確立を図ること。

【取組み項目】

(1) 学校安全計画の策定

- ・ 「[学校保健安全法](#)」に基づき学校安全計画を策定すること。策定に当たっては、学校の状況や前年度の学校安全の取組み状況等を踏まえ、「生活安全」「交通安全」「災害安全」の3領域すべての観点から、具体的な実施計画とすること。
- ・ 学校安全活動においては、すべての教職員が役割を分担するとともに、中核となる学校安全担当者を明確にし、学校安全の推進体制を整備すること。

(2) 緊急事態への対応

- ・ 万一の事件・事故等の緊急事態に対処できるよう、学校独自の危機管理マニュアルを作成し、様々な事態を想定した実践的な訓練を実施するなど、危機管理体制を整えること。また、実効性のあるマニュアルとなるよう、適宜点検・見直しを行うこと。

(3) 安全確保・安全管理の徹底

- ・ 子どもの命が脅かされる事象が生起していることを踏まえ、学校園内外において授業中はもとより、登下校時、放課後、長期休業

中の登校日等における必要な措置を講じ、幼児・児童・生徒の安全確保及び学校の安全管理に努めること。

- ・ 各学校園において作成された学校安全計画に基づく、安全教育や実践的訓練が的確に実施されるようにすること。

(4) 地域関係機関と連携した安全確保及び安全管理

- ・ 幼児・児童・生徒の安全確保を図るため、施設・設備の整備・充実に努めること。加えて、警察等関係機関の職員、保護者、地域における犯罪防止に関する自主的な活動を行う府民等の参加を求め、「学校等安全対策推進会議」を設置するなど、安全対策を推進する体制の整備・充実に努めること。
- ・ 学校園内外を問わず、子どもの安全を確保するため、学校園の安全管理体制の充実をはじめ、保護者や学校支援のボランティア、地域の関係団体等の協力を得て、地域と一体となった幼児・児童・生徒の安全確保のための方策を講じること。とりわけ、幼児・児童の登下校時については、平成30年6月に関係閣僚会議において取りまとめられた「登下校防犯プラン」の趣旨を踏まえ、学校・家庭・

地域住民・警察・自治体の関係部局等の関係機関と連携し、学校や地域の実情に応じた対策を講じること。

- ・ 登下校時における児童・生徒の携帯電話等の所持は非常時の連絡や所在の把握等安全等の観点から有効性が認められるため、その取扱いについて配慮するよう努めること。その際、「[小中学校における携帯電話の取扱いに関するガイドライン](#)」を踏まえ、保護者との連携を図り、教育活動に支障が出ないよう進めること。

(5) 安全教育の推進及び安全確保の取組みの点検・強化

- ・ 幼児・児童・生徒が生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培う安全教育の一層の推進を図ること。特に、幼児・児童・生徒が自他の安全を確保するため、犯罪の被害に遭わないための知識を実践的に理解するとともに、日常生活全般における様々な危険に適切に対応できる能力を育むようにすること。その際、府教育委員会が作成した資料を活用するなど、取組みの充実に努めること。
- ・ 6月を「子どもの安全確保推進月間」、6

月8日を「学校の安全確保・安全管理の日」として、幼児・児童・生徒の安全確保に向けた取組みを点検し、その強化を図ること。

- ・ 改正道路交通法及び大阪府自転車条例を踏まえ、交通安全教室を開催し、自転車利用を含む交通安全に関する指導の充実に努めること。
- ・ 児童・生徒及び保護者に対し、大阪府自転車条例で、自転車を利用する者に保険への加入が義務付けられたこと及び、道路交通法の一部改正に伴い、自転車乗用時にヘルメット着用が努力義務化されたこと等を周知するとともに、PTAと連携するなどし、全児童・生徒の保険加入を促進すること。
- ・ 送迎バスにおける置き去り事象が生起していることを踏まえ、「子どものバス送迎・安全徹底マニュアル」を活用し、幼児の安全・確実な登園・降園のための安全管理が徹底できる体制を整えること。また、学校において、幼児・児童・生徒の通学や校外学習等で自動車やバス等を運用する際にも、上記のマニュアルを参考とするとともに、国の動向や通知を踏まえた安全管理の徹底に努めること。

【第6章関連事項】

（1）耐震対策の推進等

- ・ 学校施設は、児童・生徒等が一日の大半を過ごす活動の場であり、非常災害時には地域住民の応急避難場所としての役割を果たすことから、「[公立の義務教育諸学校等施設の整備に関する施設整備基本方針](#)」に基づき、耐震性が確保されていない施設については早急に耐震化を図るとともに、非構造部材の耐震対策、老朽化した施設の安全確保、防災機能の強化も推進すること。
- ・ 地震災害における被害を踏まえたうえで、ブロック塀の安全対策を早期に完了するよう努めること。
- ・ 学校においては、設備等について日常的な点検を行い、環境の安全の確保を図らなければならない。倒壊や落下等により重大な事故につながる恐れのある工作物及び機器等について、点検すべき対象を今一度把握し、通常の使い方に加え児童・生徒等の目線や多様な行動も考慮して安全点検を行うこと。

（2）アスベスト対策の推進

- ・ アスベスト（石綿）6種類の分析調査の結果により、必要な対策を早急に講じるとともに、適正な管理に努めること。

（3）施設のバリアフリー化

- ・ 児童・生徒、教職員、保護者、地域住民等の多様な利用者が安全かつ容易に施設を利用できるよう、「[福祉のまちづくり条例](#)」等に基づく学校施設整備に努めること。また、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」の改正に応じ、国が設定した令和7年度までの整備目標を反映した整備計画を策定し、バリアフリー化の整備を計画的に進めること。

（4）学校施設の長寿命化計画の推進

- ・ インフラの維持管理・更新等を着実に推進するための中期的な取組みの方向性を明らかにする個別施設ごとの長寿命化計画（個別施設計画）に基づく学校施設整備に努めること。
- ・ 近年の厳しい気象条件に対応するため、熱中症対策として、空調設備の設置を推進すること。
- ・ 公立小中学校施設は、建築後25年以上を経過した施設が保有面積の8割を占めるなど、老朽化が深刻な状況であることを鑑み、施設の維持管理、長寿命化等に適切に取り組むこと。

第7章 社会教育の推進

社会教育の推進

(1) 住民の学習活動の促進

- ・ 個人の要望や社会の要請を踏まえ、住民の自発的・主体的な学習活動や社会参加の促進に努めること。
- ・ 多様化する学習ニーズや現代的課題及び地域課題に対応するため、学校、首長部局、NPO、企業、大学等と連携しながら、学習機会の提供、学習情報の収集・提供、学習相談、学習成果の活用等の拡充に努めること。その際、障がいのある人や様々な事情のある人の参加について十分配慮すること。

(2) 社会教育関係職員の研修機会の充実

- ・ 社会教育関係職員の専門性の向上を図るため、研修機会の充実に努めるとともに、府教育庁主催研修等へ積極的に参加すること。
- ・ 部局間の連携により、専門的知識や技能を有する人材と協働し、研修の充実に努めること。

(3) 住民・団体による地域活動の推進

- ・ 地域課題に応じた取組みが主体的に展開されるよう地域人材の参画を促すとともに、ネットワークづくりに努めること。
- ・ 住民が組織する実行委員会や団体・グループが活用できる事業について、情報の収集・提供を積極的に行うこと。

(4) 図書館の計画的な整備

- ・ 「[文字・活字文化振興法](#)」の趣旨を踏まえ、市町村の実情に応じて、図書館の計画的な整備等に努めること。
- ・ 「[視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律](#)」の趣旨を踏まえ、市町村の実情に応じて、視覚障がい者等の読書環境整備等に努めること。

(5) 子どもたちの体験活動の推進

- ・ 子どもたちの生きる力を育むため、学校教育との連携を図りながら、自然体験活動やボランティア活動、ものづくり等、子どもの様々な体験活動を推進すること。その際、府立少年自然の家の活用にも努めること。

(6) PTA活動のあり方

- ・ 地域、保護者、学校の連携を推進するにあたっては、当事者の実情、特性、協働等の状況を踏まえ、教職員と保護者がPTA活動のあり方や運営の効率化について話し合いを深めるよう努めること。

(7) 人権学習の推進

- ・ [「人権教育基本方針」](#)及び[「人権教育推進プラン」](#)の趣旨を踏まえ、社会教育の分野で人権及び人権問題に関する啓発、学習機会の提供、指導者の養成等人権教育の推進に努めること。その際、「[大阪府人権施策推進基本方針](#)」及び「[大阪府人権教育推進計画](#)」の趣旨を踏まえ、府教育庁主催研修等への住民の積極的な参加を促し、住民の主体的な活動の促進に努めること。
- ・ 公民館等の社会教育施設においては、人権啓発担当者を置くなど、住民の人権学習を組織的に進めること。
- ・ PTAの中に人権啓発委員会等を組織し、人権学習に取り組むよう働きかけるなど、人権意識の高揚に努めること。その際、大阪府視聴覚ライブラリー所蔵の視聴覚教材や人権啓発学習教材を活用するとともに、府教育庁主催研修等への積極的な参加を促すこと。

(8) 識字・日本語学習活動への支援

- ・ [「大阪府識字施策推進指針（改訂版）」](#)の趣旨を踏まえ、識字問題の啓発、支援を必要としている人への情報提供、識字推進指針等

の策定に努めるとともに、識字・日本語教室について新たな教室の開設や、学習支援者の育成等、教室活動への支援を充実させること。

- ・ 他の市町村等との交流を進め、情報収集を図るなどにより、学習活動の一層の充実を図ること。

第8章 文化財の保存と活用

文化財の保存と活用

(1) 条例制定の推進

- 文化財保護の基礎である文化財保護条例未制定の市町村は、その早期制定を図ること。

(2) 保存活用体制の整備

- [大阪府文化財保存活用大綱](#)（令和2年3月策定）を勘案した文化財保存活用地域計画を策定し、地域の歴史的特性等を踏まえた多様な文化財の保存・活用施策を推進できるよう、組織・体制の整備を図ること。また、民間団体等を文化財保存活用支援団体として指定するなど協働を図り、地域の財産である文化財を生かす新たな施策の導入を進めること。

(3) 展示公開の推進

- 博物館・資料館、各種公共施設を活用して文化財の展示公開を推進し、生涯学習の活発化等に対応して、文化財に親しむ機会の充実に努め、文化財への理解を広げることとともに、小・中学生や高齢者を対象とした施策に生かすこと。

(4) 世界遺産など地域を代表する文化遺産を活用した取組みの推進

- 世界遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群など地域を代表する文化遺産については、博物館等を活用し、興味・関心と理解を深めるようにするとともに、地域や我が国の歴史の成り立ちを物語る文化財を保護し後世に伝えていく心を養うよう取り組むこと。

各章の参考資料

1. 学習指導要領の確実な実施

- 「[学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料](#)」(令和3年3月) 文部科学省
- 「[カリキュラム・マネジメントの手引き](#)」(令和3年3月)
- 「[感染症や災害等の非常時にやむを得ず学校に登校できない児童生徒の学習指導について](#)」(令和3年2月) 文部科学省
- 「[『令和の日本型教育』の構築を目指して](#)」(令和3年1月) 文部科学省
- 「[学習指導要領\(平成29年告示\)のポイント【評価編】](#)」(令和2年8月)(中学校については解説動画あり): [新学習指導要領に対応した学習評価オンライン講座](#)
- 「[『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料](#)」(令和2年3月) 文部科学省
- 「[学習評価の在り方ハンドブック](#)」(令和元年6月) 文部科学省
- 「[小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について](#)」(平成31年3月) 文部科学省
- 「[小学校のカリキュラム・マネジメントを円滑に進めるための手引き](#)」(平成31年2月)
- 「[新学習指導要領のポイント](#)」(平成31年2月)
- 「[学校教育法施行令の一部改正](#)」(平成29年9月) 文部科学省
- 「[小学校・中学校学習指導要領](#)」及び「[同解説\(総則編・各教科等編\)](#)」(平成29年3月・7月) 文部科学省
- 「[学校における補助教材の適正な取扱いについて](#)」(平成27年3月) 文部科学省
- 「[大阪府の施設における国旗の掲揚及び教職員による国歌の斉唱に関する条例](#)」(平成23年6月)

2. 学力向上の取組みの充実

- 「[すくすくウォッチわくわく問題参考資料及び解答類型について](#)」(令和4年6月)
- 「[すくすくウォッチ わくわく問題を活用した指導案について](#)」(令和4年6月)
- 「[大阪の児童生徒が1人1台端末を活用した実践事例紹介WEBサイト](#)」(令和4年2月)
- 「[すくすくウォッチ結果概要](#)」(令和3年～)
- 「[大阪の児童生徒が1人1台タブレット PC 端末等を活用した実践事例](#)」(令和3年～)
<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/jyouhou/index.html>
- 「[学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料](#)」(令和3年3月) 文部科学省
- 「[G I G Aスクール構想の下で整備された1人1台端末の積極的な利活用等について](#)」(令和3年3月) 文部科学省
- 「[各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料](#)」(令和2年9月) 文部科学省
- 「[G I G Aスクール構想の実現へ\(リーフレット\)](#)」(令和2年7月) 文部科学省
- 「[教育の情報化に関する手引\(追補版\)](#)」(令和2年6月) 文部科学省
- 「[小中学生に向けた家庭学習教材等について](#)」(教材や授業動画)
<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/gakunennbetukatei/index.html>
- 「[算数・数学の授業づくりハンドブック](#)」(令和2年6月)
- 「[小学校理科ハンドブック\(改訂版\)](#)」(令和2年3月)
- 「[国語の授業づくりハンドブックⅡ](#)」(令和2年2月)
- 「[小学校プログラミング教育の手引\(第三版\)](#)」(令和2年2月) 文部科学省
- 「[小学校における『プログラミング教育』](#)」(令和2年1月)
- 「[学校教育の情報化の推進に関する法律](#)」(令和元年6月)
- 「[小学校プログラミング教育に関する研修教材](#)」(平成31年3月) 文部科学省
- 「[ことばのちから活用事例](#)」(平成31年2月)
<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/kotobanoti kara/kotobakatuyouji rei.html>

「[ことばのちから](#)」(平成30年6月)
リーフレット・教材「[ことばの力を確実に育む](#)」(平成29年11月)
「[国語の授業づくりハンドブック](#)」(平成29年11月)
「[大阪府中学生学びチャレンジ事業結果概要](#)」(平成27年～)
「[学びチャレンジ単元確認プリント](#)」(平成26年)
「[校内研究の葉](#)」(平成25年3月)
「[大阪の授業 STANDARD](#)」(平成24年5月)
「[大阪府学力・学習状況調査【小学校】【中学校】調査結果資料](#)」(平成23年)
「[かだめしプリント](#)」(平成22～令和2年)
DVD「[確かな学力をはぐくむ1. 2. 3](#)」(平成21.22.23年)
「[学習指導ツール](#)」(平成20～24.26.27年)
<https://e-entry.osaka-c.ed.jp/education/tool/tool-top/tool-index.html>
リーフレット「[学びを創る10のアイデア](#)」(平成21年3月)
「[学校改善のためのガイドライン](#)」(平成20年)
「[全国学力・学習状況調査結果概要](#)」(平成19年～)

3. 確かな学力を育成するための読書活動の推進

「[学校図書館を活用した授業実践例](#)」(令和4年10月、令和3年3月、令和2年3月、令和元年11月)
<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/gakkoutosyokan/index.html>
第6次「[学校図書館図書整備等5か年計画](#)」(令和4年1月)文部科学省
「[大阪府視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画](#)」(令和3年3月)
「[第4次大阪府子ども読書活動推進計画](#)」(令和3年3月)
[学校図書館ガイドライン](#)(平成28年11月)文部科学省
[学校図書館法](#)(平成26年6月改正)
「[学校図書館司書教諭の発令について](#)」(平成15年1月)文部科学省
[学校図書館図書標準](#)(平成5年3月)文部科学省

4. グローバル社会における英語教育の充実

「[新・大阪版 CAN-DO リスト](#)」(令和5年3月予定)
「[STEPS in OSAKA](#)」(令和5年3月予定)
「[英語教育・日本人の対外発信力の改善に向けて\(アクションプラン\)](#)」(令和4年8月)文部科学省
「[学習者用デジタル教科書実践事例集](#)」(令和4年3月)文部科学省(解説動画あり)
「[外国語の指導におけるICTの活用について](#)」(令和2年9月)(解説動画あり)文部科学省
「[中学校外国語教材『Bridge』](#)」(令和2年1月)文部科学省
「[スピーキング力向上ツール](#)」(令和元年12月、平成31年1月)
「[小学校のカリキュラム・マネジメントを円滑に進めるための手引き](#)」(平成31年2月)
「[中学校英語定着確認プリント](#)」(平成31年1月、平成30年10月)
「[英語によるコミュニケーション力の土台となる力を育む](#)」(平成30年2月)
[「We Can!」「Let's Try!」](#)(平成30年2月)文部科学省
[「小学校・中学校学習指導要領」及び「同解説\(総則編・各教科等編\)」](#)(平成29年3月・7月)文部科学省
「[大阪府公立小学校英語学習6カ年プログラム・DREAM](#)」(平成27年12月)
[「英語を使うなにわっ子」育成プログラム](#)(平成25年8月)

5. 「ともに学び・ともに育つ」教育のさらなる推進

- 「[特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について](#)」(令和4年4月) 文部科学省
- 「[自立活動ハンドブック\(中学校版\)](#)」(令和4年3月)
- 「[特別支援教育を担う教師の養成、採用、研修等に係る方策について](#)」(令和4年3月)
- 「[障害のある子供の教育支援の手引](#)」(令和3年6月) 文部科学省
- 「[自立活動ハンドブック\(小学校版\)](#)」(令和3年3月)
- 「『[ともに学び、ともに育つ](#)』支援教育の視点を踏まえた学校づくり」(平成31年3月)
- 「[発達障がいについて 保護者の理解を促進するために](#)」(平成30年3月改訂)
- 「[障害のある幼児児童生徒と障害のない幼児児童生徒の交流及び共同学習等の推進について](#)」(平成30年2月) 文部科学省
- 「[小学校・中学校学習指導要領](#)」及び「[同解説\(総則編・各教科等編\)](#)」(平成29年3月・7月) 文部科学省
- 「[発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン](#)」(平成29年3月) 文部科学省
- 「[障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律](#)」(平成28年4月)
- 「[障がいのある子どものより良い就学に向けて<市町村教育委員会のための就学相談・支援ハンドブック>](#)」(平成26年3月)
- 「[学校教育法施行令の一部改正について](#)」(平成25年9月)
- 「[障害者基本法](#)」第16条(平成25年6月改正)
- 「『[ともに学び、ともに育つ](#)』支援教育のさらなる充実のために」(平成25年3月改訂)
- 「[共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進\(報告\)](#)」(平成24年7月) 中央教育審議会初等中等教育分科会
- 「[体罰防止マニュアル\(改訂版\)](#)」(平成19年11月)

6. 一人ひとりの教育的ニーズに対応した指導・支援の充実

- 「[学校園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアル\(市町村立学校園版\)](#)」(最新版を参照すること)
- 「[夜間中学の設置・充実に向けた取組の一層の推進について](#)」(令和4年6月) 文部科学省
- 「[外国にルーツをもつ生徒の進路選択リーフレット](#)」(大阪府 Web ページ・令和4年5月)
- 「[特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について](#)」(令和4年4月)
- 「[令和4年度診療報酬改定を踏まえた医療的ケア児に関わる主治医と学校医等との連携等について](#)」(令和4年4月) 文部科学省
- 「[学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の公布について](#)」(令和4年3月) 文部科学省
- 「[自立活動ハンドブック\(中学校版\)](#)」(令和4年3月)
- 「[医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律](#)」(令和3年9月) 文部科学省
- 「[障害のある子供の教育支援の手引](#)」(令和3年6月) 文部科学省
- 「[小学校等における医療的ケア実施支援資料](#)」(令和3年6月) 文部科学省
- 「[自立活動ハンドブック\(小学校版\)](#)」(令和3年3月)
- 「[学校施設バリアフリー化推進指針](#)」(令和2年12月) 文部科学省
- 「[外国人の子供の就学促進及び就学状況の把握等に関する指針の策定について](#)」(令和2年7月) 文部科学省
- 「[医療的ケア児に関わる主治医と学校医等との連携等について](#)」(令和2年3月) 文部科学省
- 「[支援の必要な子どものための『授業づくりガイドブック』](#)」(令和2年3月)
- 「[通級による指導実践事例集\(中学校・高等学校\)](#)」(令和2年3月)
- 「[日本語教育の推進に関する法律](#)」(令和元年6月)
- 「[外国人児童生徒受入れの手引き](#)」(平成31年3月改訂) 文部科学省
- 「[学校における医療的ケアの今後の対応について](#)」(平成31年3月) 文部科学省
- 「『[ともに学び、ともに育つ](#)』支援教育の視点を踏まえた学校づくり」(平成31年3月)
- 「[みつめよう一人ひとりを](#)」(平成31年1月改訂)

[「小・中学校等における病気療養児に対する同時双方向型授業配信を行った場合の指導要録上の出欠の取扱い等について」](#)（平成30年9月）文部科学省
[「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について」](#)（平成30年8月）文部科学省
[「教育と福祉の一層の連携等の推進について」](#)（平成30年5月）文部科学省・厚生労働省
[「発達障がいについて 保護者の理解を促進するために」](#)（平成30年3月改訂）
[「小学校・中学校学習指導要領」](#)及び「[同解説（総則編・各教科等編）](#)」（平成29年3月・7月）文部科学省
[「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」](#)及び「[同解説（自立活動編）](#)」（平成29年3月・平成30年3月）文部科学省
[「学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の施行について」](#)（平成29年3月）文部科学省
[「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」](#)（平成29年3月）文部科学省
[義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律](#)（平成28年12月）
[「発達障害者支援法の一部を改正する法律」](#)（平成28年8月）
[「医療的ケア児の支援に関する保健、医療、福祉、教育等の連携の一層の推進について」](#)（平成28年6月）文部科学省他
[「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」](#)（平成28年4月）
[「ともに学び ともに育つ 一貫した支援のために 支援をつなぐ『個別の教育支援計画』の作成・活用」](#)（平成28年3月）
[「日本語指導実践事例集」](#)（平成28年3月）
[「義務教育修了者が中学校夜間学級への再入学を希望した場合の対応に関する考え方について」](#)（平成27年8月）
[「すべての子どもにとって『わかる・できる』授業づくり（「通常の学級における発達障がい等支援事業」実践研究のまとめ）」](#)（平成27年6月）
[「外国人児童生徒のための就学ガイドブック」](#)（平成27年5月）文部科学省
[「障がいのある子どものより良い就学に向けて〈市町村教育委員会のための就学相談・支援ハンドブック〉」](#)（平成26年3月）
[「学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の施行について」](#)（平成26年1月）文部科学省
[「『ともに学び、ともに育つ』支援教育のさらなる充実のために」](#)（平成25年3月改訂）
[「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」](#)（平成24年7月）中央教育審議会初等中等教育分科会
[「特別支援教育の推進について」](#)（平成19年4月）文部科学省

7. 人権・多様性を尊重する教育及び心を育む教育の充実

○人権3法

[「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」](#)（令和3年6月一部改正）
[「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」](#)（平成28年6月）
[「部落差別の解消の推進に関する法律」](#)（平成28年12月）

○府人権関係3条例

[「大阪府人権尊重の社会づくり条例」](#)（令和元年10月一部改正）
[「大阪府性的指向及び性自認の多様性に関する府民の理解の増進に関する条例」](#)（令和元年10月）
[「大阪府人種又は民族を理由とする不当な差別的言動の解消の推進に関する条例」](#)（令和元年11月）
[「こども基本法」](#)（令和5年4月施行予定）

「大阪府在日外国人施策に関する指針」（令和5年3月改正予定）

大阪府人権白書「ゆまにてなにわ（解説編）ver.37」（令和5年3月発行予定）

「[大阪府人権教育推進計画](#)」（令和4年9月改定）

「[大阪府インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例](#)」（令和4年4月施行）

「[『障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律について』～『ともに学び、ともに育つ』学校づくりをめざして～](#)」（令和4年4月改訂）

「学校・地域・家庭の協働による地域共生社会の実現をめざして社協ができる福祉教育実践」(令和4年3月)大阪府社会福祉協議会

「[人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕補足資料](#)」(令和4年3月改訂)文部科学省

「[ネット上の偏見・差別について考える学習活動体系](#)」(令和4年3月)

リーフレット「[こころ leaf \(リーフ\) 01](#)」(令和4年3月)

「[大阪府人権施策推進基本方針](#)」(令和3年12月改正)

「[ジェンダー平等教育啓発教材 男女共同参画について考えよう](#)」(令和3年10月)(府民文化部)

「[生命\(いのち\)の安全教育教材](#)」(令和3年4月)文部科学省

「[大阪府障がい者差別解消ガイドライン\(第3版\)](#)」(令和3年3月)

「[第5次大阪府障がい者計画\(後期計画\)](#)」(令和3年3月)

「[『ぼんま、おおきに!! ひろげようこころの輪』障がい理解ハンドブック](#)」(令和3年3月)大阪府福祉部

「[教職員による人権侵害事象の防止徹底のために](#)」(令和2年9月)

「[2025年日本国際博覧会協会教育プログラム](#)」(令和2年9月)

「[性の多様性の理解を進めるために](#)」(令和2年4月)

「[ヘイトスピーチの問題を考えるためにー研修用参考資料ー](#)」(令和2年4月改訂)

「[アニメ『めぐみ』の短縮版の作成について](#)」(令和2年1月)政府・拉致問題対策本部([アニメ「めぐみ」](#)(平成20年3月)政府・拉致問題対策本部)

「[学校における防災教育の手引き\(改訂2版\)](#)」(令和元年6月改訂)

「[人権啓発学習教材『動詞からひろがる人権学習』](#)」(平成30年12月改訂)

「[人権教育基本方針](#)」「[人権教育推進プラン](#)」(平成30年3月改訂)

「[『特別の教科 道徳』実践事例集](#)」(平成30年2月)

「[拉致問題に関する理解のために](#)」(平成30年2月)

「[子どもたちが安心して過ごせる学級づくり](#)」(平成29年11月)

「[人権教育実践事例集](#)」(平成29年6月)

「[学校における人権教育推進のための資料集](#)」(平成29年4月改訂)

「[人権教育教材集・資料](#)」(平成28年11月)・「[同教員用手引き](#)」(平成28年11月)

「[性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について\(教職員向け\)](#)」(平成28年4月)(文部科学省)

「[『通常の学級における発達障がい等支援事業』実践研究のまとめ](#)」(平成27年6月)

「[学校における補助教材の適正な取扱いについて](#)」(平成27年3月)文部科学省

「[大切なこころを見つめ直して～「こころの再生」府民運動～](#)」(平成27年3月 小学校1・2年版、3・4年版 平成26年3月 小学校5・6年版、中学校版)

「[学校における人権教育の推進のためにー『人権教育推進の方向性』具体化のポイント集ー](#)」(平成26年7月)

「[人権教育リーフレット](#)」シリーズ(平成26年3月～)

「[障害者基本法](#)」(平成25年6月改正)

「[互いに違いを認め合い、共に学ぶ学校を築いていくためにー本名指導の手引\(資料編\)ー](#)」(平成25年4月一部修正)

「[『ともに学び、ともに育つ』支援教育のさらなる充実のために](#)」(平成25年3月改訂)

「[人権教育・啓発に関する基本計画](#)」(平成23年4月閣議決定)

「[在日外国人教育のための資料集\(DVD\)](#)」(平成22年3月)

「[精神障がいについての理解を深めるために](#)」(平成20年5月改訂)

「[人権教育の指導方法等の在り方について\(第三次とりまとめ\)](#)」(平成20年3月)文部科学省

[大阪府子ども条例](#)(平成19年4月)

「[OSAKA人権教育ABC part 1～5](#)」(平成19年3月～25年3月)

「[人権基礎教育指導事例集](#)」(平成16年3月)

「[小・中学校及び府立学校における男女平等教育指導事例集](#)」(平成15年7月)

「[平和教育に関する事例集](#)」(平成15年3月)

「同和問題の早期解決に向けて」(平成14年10月)
人権教育副読本「にんげん：ひとシリーズ」(平成14年9月～20年)
「[大阪府同和対策審議会答申](#)」(平成13年9月)
「[人権教育及び人権啓発の推進に関する法律](#)」(平成12年12月)
「人権教育のための資料1～9」(平成11年3月～21年)
「[在日韓国・朝鮮人問題に関する指導の指針](#)」(平成10年3月一部改訂)
[児童の権利に関する条約](#) (平成元年11月)

8. 感性を豊かにする読書活動の推進

「[学校図書館を活用した授業実践例](#)」(令和4年10月予定、令和3年3月、令和2年3月、令和元年11月) <https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/gakkoutosyokan/index.html>
[第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」](#)(令和4年1月) 文部科学省
「[大阪府視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画](#)」(令和3年3月)
「[第4次大阪府子ども読書活動推進計画](#)」(令和3年3月)
[学校図書館ガイドライン](#) (平成28年11月) 文部科学省
[学校図書館法](#) (平成26年6月改正)
「[学校図書館司書教諭の発令について](#)」(平成15年1月) 文部科学省
[学校図書館図書標準](#) (平成5年3月) 文部科学省

9. 不登校、ヤングケアラーや、いじめ・暴力行為等の問題行動等への取組みの推進

「[生徒指導提要](#)」(令和4年12月) 文部科学省
「[不登校に関する調査研究協力者会議報告書～今後の不登校児童生徒への学習機会と支援の在り方について～](#)」(令和4年6月) 不登校に関する調査研究協力者会議
[人権教育リーフレット「情報化社会における子どもの人権」](#)(令和4年3月)
「[ヤングケアラーの早期発見・把握と支援に向けた取組み](#)」(令和3年9月)
「[子どもたちの社会的な自立のために～不登校児童生徒への支援と取組み～](#)」(令和2年4月)
「[子どもを守る被害者救済システム](#)」(令和元年12月改定)
「[不登校児童生徒への支援の在り方について](#)」(令和元年10月) 文部科学省
「[いじめ対応セルフチェックシート\(府内小中学校等におけるいじめ対応について\)](#)」(令和元年6月)
「[小中学校における携帯電話の取扱いに関するガイドライン](#)」(平成31年3月)
「[小学校におけるチーム支援SSW活用事例～小学校指導体制支援推進事業の取組みより～](#)」(平成30年2月)
「[不登校児童生徒への支援実践事例集～児童生徒に寄り添った支援のために～](#)」(平成29年8月)
「[学校における人権教育推進のための資料集](#)」(平成29年4月改訂)
「[いじめの防止等のための基本的な方針](#)」(平成29年3月改定) 文部科学省
「[いじめの重大事態の調査に関するガイドライン](#)」(平成29年3月) 文部科学省
「[義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本指針](#)」(平成29年3月) 文部科学省
「[携帯・ネット上のいじめ等の防止資料](#)」(平成27年8月)
人権教育リーフレット1「[いじめ対応のポイント](#)」 8「[いじめの対応②](#)」(平成26年3月)
「[5つのレベルに応じた問題行動への対応チャート](#)」(平成26年2月)
「[いじめ防止対策推進法](#)」(平成25年9月)
「[スクールカウンセラーと教員がともに取り組む問題解決力育成のためのブックレット](#)」(平成25年8月)
「[いじめ対応マニュアル\(いじめ対応プログラム補助資料\)](#)」(平成24年12月)
「[障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律](#)」(平成24年10月)
「[携帯・ネット上のいじめ等生徒指導上の課題に関するとりまとめと提言2](#)」(平成24年3月)
「[いじめ対応プログラム指導案集](#)」(平成23年)
「[携帯・ネット上のいじめ等への対処方法プログラム](#)」(平成21年3月)
「[携帯・ネット上のいじめ等への対処方法プログラム\(追加資料\)](#)」(毎年度)

[「いじめ対応プログラム実践事例集」](#)（平成 20 年 7 月）
[「いじめ対応プログラムⅡ」](#)（平成 19 年 8 月）
[「いじめ対応プログラムⅠ」](#)（平成 19 年 6 月）
[「不登校未然防止－活用ヒント集 50－」](#)（平成 19 年 5 月）
[「いじめ防止指針」](#)（平成 18 年 3 月）
[「不登校の未然防止に向けて～複数の目で見守るシステム～」](#)（平成 17 年 8 月）

10. 子どもたちの生命・身体を守る取組み

[人権教育リーフレット2「子どもの虐待①改訂版」](#)（令和 3 年 3 月）
[「子どもたちの輝く未来のために～児童虐待防止のてびき～要点編」](#)（令和元年 12 月）
[「学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き」](#)（令和元年 5 月）文部科学省
[「学校、保育所、認定こども園及び認可外保育施設から市町村又は児童相談所への定期的な情報提供について」](#)（平成 31 年 2 月）内閣府、文部科学省、厚生労働省
[「児童虐待防止対策に係る学校等及びその設置者と市町村・児童相談所との連携の強化について」](#)（平成 31 年 2 月）内閣府、文部科学省、厚生労働省
[「『児童虐待防止対策の強化に向けた緊急総合対策』の決定について」](#)（平成 30 年 7 月）文部科学省
[「一時保護等が行われている児童生徒の指導要録に係る適切な対応及び児童虐待防止対策に係る対応について」](#)（平成 27 年 7 月）文部科学省
[人権教育リーフレット9「子どもの虐待②」](#)（平成 26 年 3 月）
[「子どもたちの輝く未来のために～児童虐待防止のてびき～」](#)（平成 23 年 3 月改訂）

11. 保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底及び学校の体育活動中の事故防止等の取組み

[「学校園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアル～学校の教育活動を再開するにあたって～（市町村立学校園版）」](#)（最新版を参照すること）
[「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」](#)文部科学省（最新版を参照すること）
[「学校管理下における熱中症事故の防止について」](#)（令和 4 年 8 月）
[「大麻乱用防止に向けた啓発資料（チラシ）の活用について」](#)（令和 4 年 7 月）
[「熱中症対策の更なる強化について」](#)（令和 4 年 7 月）
[「薬害を学ぼう」](#)（令和 4 年 6 月改訂）厚生労働省
[「『救急蘇生法の指針 2020（市民用）』の有効活用及び周知等について」](#)（令和 4 年 6 月）
[「夏季における児童生徒等のマスクの着用について」](#)（令和 4 年 6 月）
[「熱中症事故防止の徹底について」](#)（令和 4 年 6 月）
[「熱中症事故の防止について」](#)（令和 4 年 5 月）
[「水泳等の事故防止について」](#)（令和 4 年 5 月・スポーツ庁）
[「学校における食物アレルギー対応ガイドライン《令和 3 年度改訂》」](#)（令和 4 年 3 月）
[「大麻乱用防止に向けた更なる取組等について」](#)（令和 4 年 3 月）
[「大麻等薬物乱用防止教育の更なる充実について」](#)（令和 4 年 3 月）
[「薬物乱用防止教育のために一指導参考事例集－（高等学校版）」](#)の保健体育課ホームページ掲載について（令和 4 年 3 月）
[「学校における体育活動中の事故防止及び体罰・ハラスメントの根絶について」](#)（令和 4 年 2 月）スポーツ庁
[「大麻等薬物乱用防止教育の更なる充実について」](#)（令和 3 年 11 月）
[「大麻等薬物乱用防止教育の充実について」](#)（令和 3 年 10 月）
[「ショックボタンを有さない自動体外式除細動器（オートショック AED）使用時の注意点に関する情報提供等の徹底について」](#)（令和 3 年 8 月）
[「『学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き』の活用について」](#)（令和 3 年 6 月）
[「熱中症対策アラートの活用及び周知について」](#)（令和 3 年 6 月）
[「国民健康保険法」](#)（令和 3 年 6 月改正）
[中学生用食育教材「食」の探究と社会への広がり](#)（令和 3 年 3 月）文部科学省

「自動体外式除細動器（AED）の適正配置に関するガイドラインの補訂について」（令和2年6月）
「[学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン《令和元年度改訂》](#)」（令和2年3月）日本
学校保健会
「保健体育科における武道の安全管理の徹底について」（令和2年3月）スポーツ庁
「運動会・体育大会等における組体操について」（令和元年6月）
「府立学校における『熱中症予防のための運動指針』の見直し及び熱中症予防のための『暑さ指数計』
の配付について」（令和元年5月）
「[食に関する指導の手引—第二次改訂版—](#)」（平成31年3月）文部科学省
「[一人ひとりの生と性 ～『性に関する指導』について～](#)」（平成31年2月）
「[大阪府部活動の在り方に関する方針](#)」（平成31年2月）
「[運動部活動等における熱中症事故の防止等について](#)」（平成30年7月）スポーツ庁
「[落雷事故の防止について](#)」（平成30年7月）文部科学省
「[学校環境衛生基準の一部改正について（通知）](#)」（平成30年4月）文部科学省
「[学校において予防すべき感染症の解説](#)」（平成30年3月）日本学校保健会
「[第3次大阪府食育推進計画『おおさか・元気な食』プラン](#)」（平成30年3月）
「[学校給食衛生管理基準の取扱いについて](#)」（平成29年8月）文部科学省
「[武道必修化に伴う武道の安全管理の徹底について](#)」（平成29年6月）スポーツ庁
「[栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育～チーム学校で取り組む食育推進のPDCA～](#)」（平
成29年3月）文部科学省
「[ハンドボール等のゴールの転倒による事故防止等について](#)」（平成29年1月）スポーツ庁
「[組体操等による事故の防止について](#)」（平成28年3月）スポーツ庁
「平成27年度武道等指導充実・資質向上支援推進事業 大阪府 実践報告集」（平成28年3月）
[小学生用食育教材「たのしい食事 つながる食育」](#)（平成28年2月）文部科学省
「[薬物乱用防止教育の推進について](#)」（平成28年2月）
[学校保健安全法](#)（平成27年6月改正）
「[アレルギー疾患対応資料の配布について](#)」（平成27年3月）
「[学校給食における食物アレルギー対応指針](#)」（平成27年3月）文部科学省
[人権教育リーフレット6「食物アレルギーのある子どもへの配慮」](#)（平成27年3月）
「[スポーツ事故防止対策映像資料（DVD）『その時あなたは』](#)」（平成27年3月）独立行政法人日本
スポーツ振興センター
「[学校における体育活動中の事故防止についての映像資料](#)」（平成26年3月・文部科学省）
「[今後の学校給食における食物アレルギー対応について](#)」（平成26年3月）文部科学省
「[学校給食施設・設備の改善事例集](#)」（平成25年3月）文部科学省
「[サッカーゴール等のゴールポストの転倒による事故防止について](#)」（平成25年9月）文部科学省
「[学校の体育活動中の事故防止の徹底について](#)」（平成25年8月）
「[学校体育実技指導資料第2集 柔道指導の手引（三訂版）](#)」（平成25年3月）文部科学省
「[大阪府薬物の濫用の防止に関する条例](#)」（平成24年12月）
「[学校給食調理従事者研修マニュアル](#)」（平成24年3月）文部科学省
「[学校給食衛生管理基準の解説](#)」（平成23年3月）独立行政法人日本スポーツ振興センター
「[調理場における衛生管理&調理技術マニュアル](#)」（平成23年3月）文部科学省
「[学校等の柔道における安全指導について](#)」（平成22年7月）文部科学省
「[おおさか食育ハンドブック](#)」（平成22年3月）大阪府スポーツ・教育振興財団
「[調理場における洗浄・消毒マニュアルⅡ](#)」（平成22年3月）文部科学省
「[学校給食衛生管理基準の施行について](#)」（平成21年4月）文部科学省
「[学校給食における食中毒防止Q&A](#)」（平成21年3月）独立行政法人日本スポーツ振興センター
「[調理場における洗浄・消毒マニュアルⅠ](#)」（平成21年3月）文部科学省
「[学校給食調理場における手洗いマニュアル](#)」（平成20年3月）文部科学省
「[体育授業中の事故防止について](#)」（平成19年10月）
「[性教育指導事例集](#)」（平成15年3月）

12. 体力づくりの取組み

- 「[全国体力・運動能力、運動習慣等調査](#)」(最新版を参照すること) スポーツ庁
- 「[スポーツテスト\(新体力テスト\)チェックシートの活用について](#)」(令和4年6月)
- 「[小学生向け新体力テスト用動画教材のWeb配信について](#)」(令和3年3月)
- 「令和2年度小学校『体育』指導力向上研究協議会(実技的演習)の中止に伴う動画教材のWeb配信について」(令和2年10月)
- 「[体育の授業がわかる! 簡単プログラム](#)」(体力向上実践事例集活用プログラム)(令和元年7月)
- 「[新体力テスト測定揭示ポスター](#)」(最新版を参照すること)
- 「[新体力テスト測定マニュアル](#)」(平成29年3月)
- 「[めっちゃぐんぐん体力アップハンドブック](#)」(体力向上実践事例集)(平成29年3月)
- 「[めっちゃスマイル体操](#)」「[めっちゃWAKUWAKUダンス](#)」(平成27年3月)

13. 子どもの自主性を尊重した部活動の取組み

- 「[学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン](#)」(令和4年12月) スポーツ庁
- 「[学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について](#)」(令和2年9月) スポーツ庁
- 「[大阪府部活動の在り方に関する方針](#)」(平成31年2月)
- 「[文化庁部活動の在り方に関する総合的なガイドライン](#)」(平成30年12月) 文化庁
- 「[運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン](#)」(平成30年3月) スポーツ庁
- 「[全校一斉退庁日及びノークラブデー\(部活動休養日\)の実施について](#)」(平成28年12月)
- 「[運動部活動での指導のガイドラインについて](#)」(平成25年5月) 文部科学省
- 「[部活動の位置づけ及び教職員の服務上の取扱いの改訂について](#)」(平成24年8月)

14. 自主性・自立性を育成するキャリア教育・進路指導の推進

- 「[奨学金等指導資料](#)」(令和5年4月更新予定)
- 「[自立活動ハンドブック\(中学校版\)](#)」(令和4年3月)
- 「[進路指導のための資料](#)」(毎年度)
- 「[2025年日本国際博覧会協会教育プログラム](#)」(令和2年9月)
- 「[高等学校等卒業後に本邦で就職を希望する外国籍を有する者の在留資格の取扱いの変更について](#)」(令和2年3月) 文部科学省
- 大阪府公立高等学校支援学校検索ナビ「[咲くナビ](#)」 <https://www.schoolnavi.osaka-c.ed.jp/>
- 「[大阪府版キャリア・パスポート](#)」(令和2年1月)
- 「[大阪府キャリア教育リーフレット②キャリア教育の充実に向けてーキャリア・パスポートの活用②](#)」(令和2年1月)
- 「[大阪府キャリア教育リーフレット①キャリア教育を充実させるために](#)」(平成31年3月)
- 「[学校における進路指導について](#)」(平成30年5月)
- 「[進路選択に向けて](#)」(多言語版、毎年度)
- https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/ki_kokutoni_ti_sapo/index.html
- 「[多言語による学校生活サポート情報](#)」(平成13年3月～)
- https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/ki_kokutoni_ti_sapo/index.html

15. 社会とつながる学習活動の推進

- 「[『主権者として求められる力』を子供たちに育むために](#)」(令和4年9月) 文部科学省
「[今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開\(中学校編\)](#)」(令和4年3月)
文部科学省
「[小・中学校における環境教育の推進事業](#)」(令和4年3月予定)
<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/kankyo-top/>
「[今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開\(小学校編\)](#)」(令和3年3月)
文部科学省
「[2025年日本国際博覧会協会教育プログラム](#)」(令和2年9月)
「[家畜伝染病予防法](#)」(令和2年3月改正)
「[動物の愛護及び管理に関する法律](#)」(令和元年6月改正)
「休日等における総合的な学習の時間の学校外の学習活動の取扱いについて」
(平成31年3月) 文部科学省
「[民主主義など社会のしくみについての教育](#)」(平成27年7月)
<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/minsyusyugi/index.html>
「[学校における望ましい動物飼育のあり方](#)」(平成18年6月改訂) 日本初等理科教育研究会

16. 幼児期における子どもの資質・能力の育成

- 「[幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会―審議経過報告―](#)」(令和4年3月) 中央教育審議会
「[幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き\(初版\)](#)」(令和4年3月) 中央教育審議会
「[幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料\(初版\)](#)」(令和4年3月) 中央教育審議会
「[幼児教育研修体系](#)」(令和4年3月)
「[幼児教育推進指針](#)」(平成31年4月改訂)
「[園内研修のすすめ方 vol.2](#)」(平成31年3月)
「[幼児理解に基づいた評価](#)」(平成31年3月) 文部科学省
「[園内研修のすすめ方 vol.1](#)」(平成30年3月)
「[スタートカリキュラム学びの接続モデルリーフレット](#)」(平成30年3月)
「[発達や学びをつなぐスタートカリキュラム](#)」(平成30年3月) 文部科学省・国立教育政策研究所・教育課程研究センター
「[幼稚園教育要領](#)」「[幼保連携型認定こども園教育・保育要領](#)」「[保育所保育指針](#)」(平成29年3月)
文部科学省・内閣府・厚生労働省
「[スタートカリキュラムスタートブック](#)」(平成27年1月) 文部科学省

17. 子どもたちの安全・安心を支えるための多職種連携

- 「[生徒指導提要](#)」(令和4年12月) 文部科学省
「[ヤングケアラーの早期発見・把握と支援に向けた取組み](#)」(令和3年9月)
[人権教育リーフレット2「子どもの虐待①改訂版」](#)(令和3年3月)
「[大阪府子ども総合計画\(第二次大阪府子どもの貧困対策計画\)](#)」(令和2年3月)
「[子どもたちの輝く未来のために～児童虐待防止のてびき～要点編](#)」(令和元年12月)
「[学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き](#)」(令和元年5月) 文部科学省
「[学校、保育所、認定こども園及び認可外保育施設から市町村又は児童相談所への定期的な情報提供について](#)」(平成31年2月) 内閣府、文部科学省、厚生労働省
「[児童虐待防止対策に係る学校等及びその設置者と市町村・児童相談所との連携の強化について](#)」(平成31年2月) 内閣府、文部科学省、厚生労働省
「[『児童虐待防止対策の強化に向けた緊急総合対策』の決定について](#)」(平成30年7月) 文部科学省
「[一時保護等が行われている児童生徒の指導要録に係る適切な対応及び児童虐待防止対策に係る対応について](#)」(平成27年7月) 文部科学省
[人権教育リーフレット9「子どもの虐待②」](#)(平成26年3月)
「[子どもたちの輝く未来のために～児童虐待防止のてびき～](#)」(平成23年3月改訂)

18. 教育コミュニティづくりの推進

- 「[コミュニティ・スクールのつくり方『学校運営協議会』設置の手引き（令和元年改訂版）](#)」（令和2年10月）文部科学省
- 「[社会教育法](#)」（令和元年6月改正）
- 「[地方教育行政の組織及び運営に関する法律](#)」第47条の5（令和元年6月改正）

19. 家庭教育支援の充実

- 「訪問型家庭教育支援 学校と家庭と地域をつなぎ子育て家庭をチームで応援」（令和4年10月）
- 「[未来に向かう力を育む 家庭教育支援・子育て支援に関わる方々のための手引書](#)」（令和4年3月）
- 「[『親』をまなぶ・『親』をつたえる](#)」（令和2年3月増補）
- 「[『親』をまなぶ・『親』をつたえる 親学習 指導事例](#)」（令和2年3月増補）
- 「[乳幼児期に育みたい！ 未来に向かう力](#)」（令和2年3月）
- 「[保護者・地域とともにはぐくむ大阪の子どもたちの学力 part 1～3](#)」（平成21年1月、平成20年1月）
<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/rifurettuto/>

20. 働き方改革

- 「[令和2年度公立学校教職員の人事行政状況調査結果等に係る留意事項について](#)」（令和4年3月）文部科学省
- 「[三六協定締結の手引き（府立学校版）](#)」（令和4年3月改定）
- 「[労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度実施マニュアル](#)」（令和3年4月改訂）厚生労働省
- 「[公立学校の教育職員の業務量の適切な管理及び『休日のまとめ取り』のための1年単位の变形労働時間制等における不適切な運用に関する相談窓口について](#)」（令和2年10月）文部科学省
- 「[学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について](#)」（令和2年9月）スポーツ庁
- 「[勤務時間の適正な把握のための手続等に関する要綱](#)」（令和2年3月改正）
- 「[府立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則](#)」（令和2年3月）
- 「[府立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する要綱](#)」（令和2年3月）
- 「[学校における働き方改革の推進に向けた夏季等の長期休業期間における学校の業務の適正化等について](#)」（令和元年6月）文部科学省
- 「[学校における労働安全衛生管理体制の整備のために（第3版）～教職員が教育活動に専念できる適切な職場に向けて～](#)」（平成31年4月）文部科学省
- 「[大阪府立学校における時間外勤務に関する要綱](#)」（平成31年3月）
- 「[学校における働き方改革に関する取組の徹底について](#)」（平成31年3月）文部科学省
- 「[平成30年度公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査の結果及び平成31年度以降の教育課程の編成・実施について](#)」（平成31年3月）文部科学省
- 「[大阪府部活動の在り方に関する方針](#)」（平成31年2月）
- 「[府立学校における働き方改革に係る取組みについて](#)」（平成30年3月）
- 「[全庁一斉退庁日及びノークラブデー（部活動休業日）の実施について](#)」（平成28年12月）
- 「[職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例・同規則](#)」（平成7年3月）
- 「[労働安全衛生規則](#)」（昭和47年9月 労働省令第32号）
- 「[労働安全衛生法](#)」（昭和47年6月）
- 「[公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法](#)」（昭和46年法律第77号）
- 「[府立高等学校等の職員の勤務時間、休日、休暇等に関する規則](#)」（昭和41年1月）（いわゆる超勤4項目、勤務時間の割振り、休暇制度など）

本冊子巻末資料 P.92 I-6 公立学校共済組合大阪支部 [大阪メンタルヘルス総合センター](#)

21. 教職員の資質・能力の向上

- 「ミドルリーダー育成プログラム」(毎年度)
 - 「教職員人権研修ハンドブック」(令和5年3月改訂予定)
 - 「初任者等育成プログラム」(令和5年3月改訂予定)
 - 「大阪府教員等研修計画」(令和4年3月改訂)
 - 「公立学校における特定事業主行動計画(2021)」(令和3年4月)
 - 「教職員の評価・育成システム 手引き」(令和3年3月改定)
 - 「次世代の教職員を育てる OJTのすすめ」(令和3年3月改訂)
 - 「大阪府教育委員会特定事業主行動計画(府立学校編)の策定について」(令和2年10月)
 - 「授業アンケートの手引き ～『教職員の評価・育成システム』で活用するために～」(令和2年3月)
 - 「メンタリング・ハンドブック」(令和2年3月改訂)
 - 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律等の一部を改正する法律」(令和元年6月)
 - 「次世代を担う教員の育成のために」(平成18年7月)
- 教育公務員特例法第22条第2項
次世代育成支援対策推進法(平成15年7月)

22. 学校の組織力の向上

- 「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン」(令4年3月一部改正) 個人情報保護委員会
- 「学校評価ガイドライン」[平成28年改訂](平成28年3月) 文部科学省
- 「学校現場における業務改善のためのガイドライン～子供と向き合う時間の確保を目指して～」(平成27年7月) 文部科学省
- 「学校運営改善研究事業実施報告書」(平成21年3月)
- 「学校運営改善促進事業実施報告書」(平成20年3月)

23. 不祥事の防止

- 「教職員の綱紀の保持について(通知)」(令和4年11月)
- 「教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する基本的な指針」(令和4年3月) 文部科学省
- 「交通用具の使用による通勤認定事務等の適正化に係る取扱いについて」(令和4年3月改正)
- 「通勤手当不正受給防止の徹底について」(令和3年8月)
- 「大阪府教育委員会綱紀保持指針」(令和3年3月改正)
- 「通勤手当の事後の確認について」(令和3年3月改正)
- 「児童・生徒に対するわいせつな行為の禁止の徹底について(通知)」(令和2年12月)
- 「児童・生徒とのSNS等による私的なやり取りの禁止について(通知)」(令和2年12月)
- 「不祥事予防に向けて 自己点検<<チェックリスト・例(改訂版)>>」(令和2年3月改訂)
- 「通勤手当の支給方法について」(令和2年2月改正)
- 「不祥事防止に向けたワークシート集」(令和2年2月)
- 「自家用自動車等の使用による通勤認定事務等の適正化について」(平成31年4月改正)
- 「教科書採択における公正確保の徹底等について」(平成28年4月)
- 「営利企業等の従事制限の許可に関する取扱いについて」(平成28年3月改正)
- 「通勤認定の取扱いについて」(平成27年3月)
- 「病欠休暇の承認手続きの見直しについて」(平成25年3月)
- 「大阪府教育委員会サービス指針」(平成24年11月改正)

24. 体罰・セクハラ防止の取組み

- 「児童・生徒に対するわいせつな行為の禁止の徹底について」（令和4年9月）
- 「[教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する基本的な指針の策定について](#)」（令和4年3月）文部科学省
- 「[教育職員等による児童生徒等に対するセクシュアル・ハラスメント等の防止に向けた取組み](#)」（令和3年7月）
- 「[教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律](#)」（令和3年6月）
- 「不祥事予防に向けて 自己点検 《チェックリスト・例》 <改訂版>」（令和2年3月）
- 「不祥事防止に向けたワークシート集」（令和2年2月）
- 「[子どもを守る被害者救済システム](#)」（令和元年12月改定）
- 「[大阪府性的指向及び性自認の多様性に関する府民の理解の増進に関する条例](#)」（令和元年10月）
- 「[児童生徒健康診断の実施におけるセクシュアル・ハラスメント等の防止について](#)」（平成29年12月改正）
- 「[教職員による児童・生徒に対するセクシュアル・ハラスメント防止のために](#)」（平成29年5月改訂）
- 「[性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）](#)」（平成28年4月）文部科学省
- 「[セクシュアル・ハラスメント防止のために一障がいのある幼児・児童・生徒の指導や介助方法における留意点](#)」（平成22年11月）
- 「[体罰防止マニュアル](#)」（改訂版）（平成19年11月）
- 「[教職員による児童・生徒に対するセクシュアル・ハラスメントを防止するために QA集](#)」（平成15年3月）

25. 職場におけるハラスメントの防止

- 職場における教職員間のハラスメント相談員の手引き（令和4年10月）
- 「[職場におけるセクシュアル・ハラスメントの防止及び対応に関する指針](#)」（令和4年4月1日改正）
- 「[職場における妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントの防止及び対応に関する指針](#)」（令和4年4月1日改正）
- 「[職場におけるパワー・ハラスメントの防止及び対応に関する指針](#)」（令和4年4月1日改正）
- 「ハラスメント『0（ゼロ）』に向けて」教育長メッセージ（令和4年4月）

26. 「指導が不適切である」教員への対応

- 「[教員の資質向上をめざしてー『指導が不適切である』教員への支援及び指導の手引きー](#)」（平成31年4月改訂）

27. 防災教育をはじめとする災害時に迅速に対応するための備えの充実と安全・安心な教育環境の確保

- 「[子どものバス送迎・安全徹底マニュアル](#)」（令和4年10月）
- 自転車等の安全利用促進に向けた警察との更なる連携強化について（依頼）（令和4年10月）
- 「[子どもの安全確保推進月間の周知及び広報啓発ポスターの送付について](#)」（令和4年5月）
- 「[学校における避難確保計画作成の徹底及び避難の実効性確保について](#)」（令和3年6月）
- 「[学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドラインの活用について](#)」（令和3年6月）
- 「[学校における防災教育の手引き（改訂2版 補訂版）](#)」（令和元年6月改訂、令和3年3月補訂）
- 「[学校安全参考資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育](#)」（平成31年3月）文部科学省
- 「[小中学校における携帯電話の取扱いに関するガイドライン](#)」（平成31年3月）
- 「[『登下校防犯プラン』について](#)」（平成30年7月）
- 「[学校の危機管理マニュアル作成の手引き](#)」（平成30年2月）文部科学省
- 「[大阪府自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例](#)」の施行について（平成28年3月）
- 「[『大阪府津波浸水想定』の設定について](#)」（平成25年8月）
- 「[学校防災のための参考資料『生きる力』を育む防災教育の展開](#)」（平成25年3月）文部科学省

学校保健安全法（平成 27 年 6 月改正）

- 「学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き」（平成 24 年 3 月）文部科学省
- 「地域ぐるみの学校安全体制整備事例集」（平成 23 年 3 月）文部科学省
- 「学校の危機管理マニュアルー子どもを犯罪から守るためにー」（平成 19 年 11 月）文部科学省
- 「こどもエンパワメント支援指導事例集」（平成 19 年 3 月）
- 「登下校時における幼児児童生徒の安全確保について」（平成 17 年 12 月）
- 「不審者侵入防止、侵入時の迅速かつ的確な対応のために」（平成 17 年 3 月）
- 「子どもの安全確保に関する取組事例集『があど』」（平成 16 年 3 月）
- 「学校安全緊急アピールー子どもの安全を守るためにー」（平成 16 年 1 月）文部科学省
- 「学校の安全管理に関する取組事例集」（平成 15 年 6 月）文部科学省
- 安全教育教材ビデオ「きけん いろいろ たまむしハカセの安全教室」（平成 15 年 3 月）
- 「公立の学校における幼児、児童及び生徒の安全の確保に関する指針」（平成 14 年 10 月）
- 「学校における児童生徒等の安全を確保するために」（平成 13 年 7 月）

第 6 章関連事項

- 「学校環境における工作物及び機器等の安全点検について」（令和 3 年 5 月）文部科学省
- 大阪府福祉のまちづくり条例（令和 3 年 10 月改正）
- 「公立の義務教育諸学校等施設の整備に関する施設整備基本方針」（令和 3 年 4 月改正）文部科学省

第 7 章の参考資料

- 「人権教育基本方針」「人権教育推進プラン」（平成 30 年 3 月改訂）
- 「大阪府人権教育推進計画」（平成 27 年 3 月改定）
- 「大阪府識字施策推進指針（改訂版）」（平成 17 年 10 月策定）
- 「文字・活字文化振興法」（平成 17 年 7 月）
- 「大阪府人権施策推進基本方針」（平成 13 年 3 月）

第 8 章の参考資料

- 「大阪府文化財保存活用大綱」（令和 2 年 3 月）

資 料

I 大阪府の教育相談

1 大阪府教育センター

名 称 すこやか教育相談

内 容 府内の児童・生徒、保護者、教職員に対し、教育上の様々な問題や悩みについて、電話、メール、面接、LINEによる教育相談（学校教育相談、家庭教育相談、教職員相談、支援教育相談）を実施する。

（相談は無料、秘密は厳守する）

・児童・生徒へのセクシュアル・ハラスメントに関する相談は、相談者が希望する性の相談員が応じる

・相談員は、精神科医、臨床心理士、相談担当職員など

電話番号 子どもからの相談（すこやかホットライン）

電話 06-6607-7361 電子メール sukoyaka@edu.osaka-c.ed.jp

保護者からの相談（さわやかホットライン）

電話 06-6607-7362 電子メール sawayaka@edu.osaka-c.ed.jp

教職員からの相談（しなやかホットライン）

電話 06-6607-7363 電子メール sinayaka@edu.osaka-c.ed.jp

高校中途退学に関する相談（学びふたたびホットライン）

電話 06-6607-7353

24時間対応「すこやか教育相談24」

（平日の相談時間以外や、土、日、祝日の電話相談も受け付けている。）

電話 0120-0-78310 F A X 06-6607-9826（教育相談室直通）

受 付 月曜日～金曜日 午前9時30分～午後5時30分（祝日、年末年始は休み）

ただし、電子メール・F A X受付24時間、回答は後日

面接相談は学校を通しての予約が必要

LINE相談は児童・生徒のみ毎週月曜日および特設日の17時から21時

場 所 大阪府教育センター 教育相談室（本館5階）

〒558-0011 大阪市住吉区苅田4-13-23

交通機関 Osaka Metro 御堂筋線「あびこ」駅下車 東北東へ約700m

J R阪和線「我孫子町」駅下車 東へ約1400m

近鉄南大阪線「矢田」駅下車 西南西へ約1700m

※『すこやか教育相談』のホームページは、

<https://www.osaka-c.ed.jp/matters/consultation/sukoyaka/index.htm>

2 大阪府高等学校教育支援センター（大阪府教育センター所管）

名 称 大阪府高等学校教育支援センター

内 容 心理的又は情緒的な原因などによって、登校の意志があるにもかかわらず登校できない状態にある高校生（府立中学生を含む）を対象に学校復帰を支援し、社会自立をめざして学習支援や心理支援を行う。

場 所 〒558-0011 大阪市住吉区苅田4-13-23 大阪府教育センター本館5階

問合せ先 大阪府高等学校教育支援センター 電話：06-6607-7366

午前9時～午後4時（土・日・祝日を除く）

3 大阪府警察本部生活安全部少年課少年育成室

名 称 グリーンライン (電話相談)
 電話番号 06-6944-7867
 電話受付 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時45分
 主な相談取扱内容

子どもの非行問題やしつけ等、未成年に関する困りごとや、いじめや友達付き合い等での悩みの相談を本人や保護者等から電話で受ける。

名 称 青少年クリニック (面接相談)
 電話番号 06-6773-4970
 電話受付 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時45分
 主な相談取扱内容

問題行動の原因を探り、その子どもや問題に合った指導方法を一緒に考えたり、被害を受けた子どもへの心のケアを行う。また、心理判定員が子どもに対して心理テストを行い、保護者には少年補導職員等が、面接とともに親子関係を測るテストなどを行い、テスト結果も合わせて総合的に判断して指導・助言をする。面接を受けるためには、直接電話するか、最寄りの警察署(少年係)に連絡し、予約をする。

4 大阪府こころの健康総合センター

主な相談取扱内容 (予約制)

専門相談として、アルコール・薬物・ギャンブル等依存症でお悩みの本人や家族からの相談をお受けしています。また、大切な人を自死で亡くされた方の相談もお受けしています。

電話番号 06-6691-2818 (相談支援・依存症対策課 直通)
 電話受付 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時45分 (祝日・年末年始は休み)
 第2・第4土曜日 午前9時～午後5時30分 (依存症の相談)

その他、下記の電話相談を実施しています。

名 称 こころの電話相談
 電話番号 06-6607-8814
 電話受付 月曜日～金曜日 午前9時30分～午後5時 (祝日・年末年始は休み)
 ※毎週水曜日は、若者専用の電話相談(わかぼちダイヤル)を行っています。

名 称 こころの健康相談統一ダイヤル (電話相談)
 電話番号 0570-064-556
 電話受付 月曜日～金曜日 午前9時30分～午後5時 (祝日・年末年始は休み)

5 子ども家庭センター (面接相談可能)

名 称	電話番号	区 分
中央子ども家庭センター	072-828-0161	守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市に住んでいる方
池田子ども家庭センター	072-751-2858	豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町に住んでいる方

吹田子ども家庭センター	06-6389-3526	吹田市、高槻市、茨木市、摂津市、島本町に住んでいる方
東大阪子ども家庭センター	06-6721-1966	東大阪市、八尾市、柏原市に住んでいる方
富田林子ども家庭センター	0721-25-1131	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村に住んでいる方
岸和田子ども家庭センター (生活福祉課以外)	072-445-3977	泉大津市、和泉市、高石市、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町に住んでいる方
岸和田子ども家庭センター (生活福祉課※)	072-430-4321	忠岡町、熊取町、田尻町、岬町に住んでいる方

※ 生活困窮者に係る相談等を担当。

いずれも月曜日～金曜日の午前9時～午後5時45分（祝日、年末年始を除く）
各府民センタービル内に設置していた青少年相談コーナーは、平成29年3月末をもって廃止され、同年4月1日以降、子ども家庭センターにおいて、青少年相談に対応しています。

上記時間帯以外は、072-295-8737（夜間休日虐待通告専用電話※大阪市・堺市を除く）
子ども専用「子どもの悩み相談フリーダイヤル」0120-7285-25（24時間365日対応）

「児童相談所虐待対応ダイヤル」189（いちはやく）について
令和元年12月より、児童相談所虐待対応ダイヤル「189」（いちはやく）が無料化されました。
「189」にかけると、お住まいの地域の児童相談所につながります。
※一部のIP電話からはつながりません。

- 6 公立学校共済組合大阪支部 大阪メンタルヘルス総合センター
組合員等の心身の健康増進のため、公認心理師等の専門家が様々なこころの相談に応じるほか、教育委員会や学校等所属所単位等で開催するメンタルヘルスに関する研修会等に講師を派遣している。

所在地 〒664-8533 兵庫県伊丹市車塚3丁目1番地 公立学校共済組合近畿中央病院
※土曜日（毎週）及び水曜日（月2回）、以下で出張相談を実施

〒543-0031 大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12 ホテルアウィーナ大阪

電話 0120-556-879

URL <https://www.kich.itami.hyogo.jp/osaka-mh/>

（下記についての詳細はホームページをご確認ください。）



【相談事業】

- ① 対 象
組合員と被扶養者

② 相談内容

ご自身のこころの健康に関する相談

管理職からの職場環境・教職員のメンタルヘルス等に関する相談

※相談内容は秘密厳守で実施

③ 相談形式

対面及びオンラインによる相談

④ 費用

無料

⑤ 相談スタッフ

公認心理師等（必要に応じて医師が対応）

⑥ ご利用方法

■相談予約

【電話番号】 0120-556-879 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時15分

【インターネット予約】 ホームページ内予約フォームにて24時間受付

■開設日、開設時間等

月曜日～土曜日 午前9時～午後5時 1回50分以内

※年末年始（12月29日～1月3日）ならびに「国民の祝日に関する法律」に規定された休日を除く

【研修事業】

① 研修会等

職場環境改善、メンタルヘルス不調のある教職員への対応方法等をテーマとする管理職研修、また教職員のメンタルヘルスに焦点を当てた一般研修を実施

② 研修会等への講師派遣事業

学校等の所属所単位等で開催するメンタルヘルスに関する研修会等に講師を派遣

※ 組合員10人以上の参加を条件

※ 派遣に要する費用は無料

【復職支援事業】

① 休業中の支援「こころのホッとステップ講座」

精神疾患で休養中の組合員を対象に、療養中の過ごし方や復職に向けての気持ちの持ち方をテーマとする講座

② 復職後の支援「復職後支援講座」

精神疾患による休業から復職し、概ね1年以内の組合員を対象に、復職後の過ごし方や再発・再休業を防止する働き方をテーマとする講座

II カリキュラムNAV i プラザ（カリナビ）

教員の授業力向上のための支援などを目的とし、大阪府教育センター内にカリナビを開設し、①カリキュラムに関する相談・情報発信、②学びを深めるための研究・研修支援、③学校づくりや授業づくりに関する資料収集・発信等を行っている。

場 所 大阪府教育センター内（本館2階）

〒558-0011 大阪市住吉区荻田4-13-23

連絡先 電話 06-6692-1657（直通） F A X 06-6692-1224

電子メール navi@edu.osaka-c.ed.jp

交通機関 Osaka Metro 御堂筋線「あびこ」駅下車 東北東へ約700m

J R阪和線「我孫子町」駅下車 東へ約1400m

近鉄南大阪線「矢田」駅下車 西南西へ約1700m

Ⅲ 大阪府自立支援通訳派遣事業

永住帰国後3年以内で大阪府に定着する中国残留邦人等の家族（二世）等、一定の要件に該当する中国帰国者が小学校、中学校及び高等学校に通学する子（三世）について学校に相談する場合や医療機関での適切な受診等、関係行政機関等からの助言、指導及び援助を容易に得られるよう、中国語と日本語の通訳を行う自立支援通訳を派遣し、中国帰国者の自立の促進を図っている。

問い合わせ先 府福祉部地域福祉推進室社会援護課(恩給援護グループ) TEL 06-6944-6662

Ⅳ 大阪府少年サポートセンター

大阪府内には、10ヶ所の少年サポートセンターがあり、青少年の健全育成のために関係諸機関との連携を保ちつつ、街頭補導や少年相談業務に当たっている。各センターの担当区域等の概要は以下のとおりである。

名 称	所 在 地	電話番号	担 当 区 域
中 央	大阪市天王寺区伶人町 2-7 大阪府夕陽丘庁舎 4階	少年育成室 06-6772-4000 育成支援室 06-6772-6662	大阪市域のうち、都島区、天王寺区、中央区の一部（旧東区）、東成区、城東区、旭区、生野区、鶴見区、平野区、阿倍野区、東住吉区
梅 田	大阪市北区末広町 3-21 扇町センタービル 6階 605号	少年育成室 06-6362-2225 育成支援室 06-6311-0660	大阪市域のうち、北区、福島区、此花区、淀川区、東淀川区、西淀川区
難 波	大阪市中央区東心斎橋 2-1-3 日垂ビル 2階	少年育成室 06-6211-3400 育成支援室 06-6211-0141	大阪市域のうち、中央区の一部（旧南区）、浪速区、西成区、住吉区、西区、港区、大正区、住之江区
八 尾	八尾市荘内町 2-1-36 中河内府民センタービル 4階	少年育成室 072-992-3256 育成支援室 072-992-3301	東大阪市、八尾市、柏原市
堺	堺市西区鳳東町 4-390-1 泉北府民センタービル 3階	少年育成室 072-274-2355 育成支援室 072-274-2152	堺市、泉大津市、和泉市、高石市、泉北郡
<u>池 田</u>	<u>池田市城南 1-1-1</u> 豊能府民センタービル 4階	少年育成室 072-710-3617 育成支援室 072-710-3570	豊中市、池田市、箕面市、豊能郡
枚 方	枚方市大垣内町 2-15-1 北河内府民センタービル 4階	少年育成室 072-843-2000 育成支援室 072-843-1999	守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市

富田林	富田林市寿町 2-6-1 南河内府民センタービル 2 階	少年育成室 0721-25-4922 育成支援室 0721-24-5510	富田林市、河内長野市、松原市、 羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、 南河内郡
岸和田	岸和田市野田町 3-13-2 泉南府民センタービル 4 階	少年育成室 072-423-2486 育成支援室 072-438-7735	岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、 阪南市、泉南郡
茨 木	茨木市中穂積 1-3-43 三島府民センタービル 4 階	少年育成室 072-625-6677 育成支援室 072-621-4114	吹田市、高槻市、茨木市、摂津市、 三島郡
① 受付期間 午前 9 時～午後 5 時 45 分 土曜日、日曜日、祝日は休み		② 相談申込 電話か直接来所 ③ 相談担当者 警察職員	
<p>リンク集：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大阪府警察 http://www.police.pref.osaka.jp/ (トップページから「少年サポートセンター」を検索) ○ 大阪府青少年課 http://www.pref.osaka.lg.jp/koseishonen/syounensupportcenter/index.html 			

V 社会教育施設等

施設名	住所	電話番号	交通手段
弥生文化博物館	〒594-0083 和泉市池上町4丁目8-27	0725-46-2162	JR 阪和線「信太山」駅 下車 西へ600m
近つ飛鳥博物館 近つ飛鳥風土記の丘	〒585-0001 南河内郡河南町大字東山299	0721-93-8321	近鉄長野線「喜志」駅から 金剛バス「近つ飛鳥博物館前」 下車 東へ600m
花の文化園 (フルルガーデン)	〒586-0036 河内長野市高向2292-1	0721-63-8739	南海高野線・近鉄長野線 「河内長野」駅から南海バス 「上高向」下車 南東へ800m
箕面公園昆虫館	〒562-0002 箕面市箕面公園1-18	072-721-7967	阪急箕面線「箕面」駅 下車 北へ1km
都市緑化植物園	〒561-0872 豊中市寺内1-13-2	06-6866-3621	北大阪急行「緑地公園」駅 下車 南西へ620m
狭山池博物館	〒589-0007 大阪狭山市池尻中2	072-367-8891	南海高野線「大阪狭山市」駅 下車 西へ700m
大阪人権博物館 (リバティおおさか)	〒552-0001 大阪市港区波除4-1-37 HRCビル5階	06-4301-7783	Osaka Metro 中央線「弁天町」 駅 下車 4番出口 北へ700m JR 環状線「弁天町」駅 下車 北口 北東へ600m
大阪国際平和センター (ピースおおさか)	〒540-0002 大阪市中央区大阪城2-1	06-6947-7208	Osaka Metro 中央線 JR 環状線「森ノ宮」駅 下車 西へ400m
少年自然の家	〒597-0102 貝塚市木積秋山長尾3350	072-478-8331	水間鉄道「水間観音」駅から 福祉型コミュニティバス (はーもにーばす) 「少年自然の家」下車400m
中之島図書館	〒530-0005 大阪市北区中之島1-2-10	06-6203-0474	Osaka Metro 御堂筋線 又は 京阪本線「淀屋橋」駅 下車 1号出口北東へ300m
中央図書館	〒577-0011 東大阪市荒本北1-2-1	06-6745-0170	近鉄けいはんな線「荒本」駅 下車 1番出口北西へ400m
上方演芸資料館 (ワッハ上方)	〒542-0075 大阪市中央区難波千日前12-7 YES・NAMBABUILDING 7階	06-6631-0884	Osaka Metro 「なんば」駅 南海「難波」駅 近鉄・阪神「大阪難波」駅 下車 500m JR大和路線「JR難波」駅 下車 900m



大阪「こころの再生」府民運動
～大阪あったかプロジェクト～



教育庁市町村教育室小中学校課 令和5年3月発行
〒540-8571 大阪市中央区大手前二丁目 TEL 06(6941)0351
ホームページアドレス <https://www.pref.osaka.lg.jp/kyoikusomu/homepage/index.html>
電子メール shichosonkyoiku@sbox.pref.osaka.lg.jp